



順天堂大学医学部附属静岡病院年報

平成 28 年度版



行事写真



1 ～ 3 : 新入職員オリエンテーション(2016.4.1-5)
5 : 臨床研修医オリエンテーション(2016.4.1-6)
7 : タイ医師研修(2016.4.5)

4 : 新入職員歓迎会(2016.4.5)
6 : 2C病棟開設式典(2016.4.1)
8 : 診療報酬研修会(2016.4.18)

行事写真



9 : 緩和ケア研修会 (2016.6.11-12)

11 : 東部ドクターヘリ運航調整委員会 (2016.9.6)

13, 14 : 院内コンサート (2016.10.22)

10 : がん治療研修会 (2016.6.21)

12 : がん治療研修会 (2016.9.13)

15, 16 : 消防訓練 (2C病棟) (2016.10.25)

行事写真



17



18



19



20



21



22



23



24

17 : 東部周産期研究会 (2016.11.17)

18 : 口腔ケア研修会 (2016.12.13)

19, 20 : 賀詞交歓会 (2017.1.5)

21 : 緩和ケア研修会 (2017.1.14-15)

22 : 東部地区救命救急医学研修会 (2017.2.6)

23 : 静岡県東部地域病院見学会 (2017.3.23)

24 : 東部周産期研究会 (2017.3.23)

市民公開講座

【2016年4月20日開催】

順天堂大学

形成外科を ご存知ですか？

～写真で見る形成外科疾患～

参加費無料
申込不要
(手話通訳付)
定員 100名



講師
古元 将和 先生
順天堂大学医学部附属静岡病院
形成外科 科長

第42
回市民公開講座

歴史の古い形成外科はまだ一般に浸透していない部分もあります。今回の講座では形成外科がどのような疾患を扱いどのような治療しているのかを少しでも理解に努めていただければと思います。形成外科は患者様を種々のみならず形体的にもより正常に、より美しくすることによって生活の質(Quality of life)の向上に貢献していきたいと考えております。

開催日 平成28年4月20日(水)
時間 午後5時30分～午後6時30分
場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

問合せ 順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室
電話 055-948-3111 FAX 055-948-2103
共催：順天堂大学医学部附属静岡病院/順天堂大学医学部/
静岡災害医学研究センター/伊豆の国市/一般社団法人 田方医師会

【2016年5月24日開催】

順天堂大学

放射線治療

～過去・現在・未来～

1895年レントゲン博士によりX線が発見され、1898年キュリー夫妻によりラジウムが発見されました。以降現在に至るまで次々と放射線治療が進化してきました。過去から現在に至る放射線治療を概説し、将来についても話をしたいと思います。

第43
回市民公開講座



講師
水谷 好秀先生
順天堂大学医学部附属静岡病院
放射線科 准教授

開催日 平成28年5月24日(火)
時間 午後5時30分～午後6時30分
場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

問合せ 順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室
電話：055-948-3111 FAX：055-948-2103
※ 参加費無料/申込不要(手話通訳付)
定員100名(定員に達した場合お断りすることもございます)

共催：順天堂大学医学部附属静岡病院/順天堂大学医学部/
静岡災害医学研究センター/伊豆の国市/一般社団法人 田方医師会
地域がん診療連携拠点病院

【2016年6月20日開催】

順天堂大学

夏カゼから 家族を守りましょう

～夏のカゼは冬のカゼとは違います。～

ご家族にとって、特にお子さんや高齢者の方がいらっしゃる場合には夏カゼはけっこう怖い病気です。冬のインフルエンザなどとは対処法が異なることはご存知でしたか？今回は、特にお子さんがもらってくる夏カゼを中心に、家庭内での予防や治療についてお話いたします。

第44
回市民公開講座



講師
寒竹 正人 先生
順天堂大学医学部附属静岡病院
新生児科・小児科 准教授

開催日 平成28年6月20日(月)
時間 午後5時30分～午後6時30分
場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

問合せ 順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室
電話 055-948-3111 FAX 055-948-2103
※ 参加費無料/申込不要(手話通訳付) 定員100名
(定員に達した場合お断りすることもございます)

共催：順天堂大学医学部附属静岡病院/順天堂大学医学部/
静岡災害医学研究センター/伊豆の国市/一般社団法人 田方医師会

【2016年7月30日開催】

第45回 順天堂大学静岡病院市民公開講座 in 葦山時代劇場(手話通訳付き)

骨粗鬆症

OSTEOPOROSIS

骨が弱いと転倒や骨折でまともに歩けない?!

講演①

骨粗鬆症



講師 大林 治 先生准教授
(当院 整形外科)

講演②

骨粗鬆症の予防・改善に
運動をしよう!



講師 小林 敦郎 理学療法士
(当院 リハビリテーション科)

骨粗鬆症の「骨」は「肉」は柔らかいので、骨が「あらく」「やがやが」になった状態を骨粗鬆症と呼び、整形外科領域において、この20年で最も急増が認められた分野です。講演では最近の知見を加えた予防と治療についてお話します。

平成28年7月30日(土)

13:30～16:00(開場13:00)

葦山文化センター(葦山時代劇場)大ホール
伊豆の国市長岡1129番地(伊豆総合病院) 駐車場(より徒歩約5分)

定員/先着350名様



スケジュール

12:00	開場	14:55	講演②
13:30	開会式	15:40	質疑応答
13:35	講演①	15:55	閉会式
14:35	休憩	16:00	終了

(参加費無料)
どなたでも無料で参加いただけます。お申し込みは不要です。お申し込みは不要です。お申し込みは不要です。

お問い合わせ 順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室
TEL: 055-948-3111 FAX: 055-948-2103(直線)

共催：順天堂大学医学部附属静岡病院/順天堂大学医学部/静岡災害医学研究センター/伊豆の国市/一般社団法人 田方医師会

画像クリックで詳細がご覧いただけます。

市民公開講座

【2016年8月23日開催】

順天堂大学
第46回 市民公開講座(手話通訳付き)

うつる皮膚病 うつらない皮膚病

～ かわいい皮膚病・こわくない皮膚病 ～

講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
皮膚科 教授
吉池 高志

水虫はうつる？うつらない？
皮膚がんはこわい？こわくない？
よく知られた皮膚病の本質をお話して
みたいと思います。



日時
平成28年
8月23日(火)
17時30分～18時30分

場所
順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)
参加無料/申込不要
※定員になり次第受付終了致します

お問い合わせ:
順天堂大学医学部附属静岡病院
地域医療連携室
電話: 055-948-3111

共催:
順天堂大学医学部附属静岡病院
順天堂大学医学部 静岡災害医学研究センター
伊豆の国市、一般社団法人田方医師会

【2016年9月26日開催】

順天堂大学
第47回 市民公開講座(手話通訳付き)

リンパ腺がはれたら

～ いろんな病気で
リンパ腺ははれます ～

講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
血液内科 教授
小池 道明

劇的に進んだ悪性リンパ腫の
治療についてお話します。



日時
平成28年
9月26日(月)
17時30分～18時30分

場所
順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室(伊豆の国市長岡1129番地)

**参加無料
申込不要**
※満席次第受付終了致します

お問い合わせ:
順天堂大学医学部附属静岡病院
地域医療連携室
電話: 055-948-3111

共催:
順天堂大学医学部附属静岡病院
順天堂大学医学部 静岡災害医学研究センター
伊豆の国市、一般社団法人田方医師会

【2016年10月18日開催】

順天堂大学
第48回 市民公開講座(手話通訳付き)

大動脈弁狭窄症

～ その症状、診断、治療について ～

講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
心臓血管外科 教授
丹原 圭一

近年、とくに高齢の方に非常に多く見られる
心臓弁膜症が大動脈弁狭窄症です。
症状が出現した後も放置すると数年で命にかかわる病気が、
適切な外科手術でほぼ完治します。
わかりやすく説明いたしますので、お気軽にお越しください。



日時
平成28年 **10月18日(火)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所
順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)
参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します



【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、静岡災害医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111

【2016年11月22日開催】

順天堂大学
第49回 市民公開講座(手話通訳付き)

身近に潜む呼吸器感染症

～ 肺炎、結核、インフルエンザなど ～

講演 その1
講師
順天堂大学医学部附属静岡病院
呼吸器内科 教授 **岩神 真一郎**

身近に潜む呼吸器感染症やワクチンについて、わかりやすく
解説いたします。

講演 その2
肺癌の手術最前線
～ 貴方が肺癌に罹ったら知っておきたいこと ～
順天堂大学医学部附属静岡病院
呼吸器外科 助教 **市之川 英臣**

患者さんからよくある質問について詳しく解説します。



日時
平成28年 **11月22日(火)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所
順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)
参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します



【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、静岡災害医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111

画像クリックで詳細がご覧いただけます。

市民公開講座

【2016年12月14日開催】

順天堂大学
第50回 市民公開講座(手話通訳付き)

糖尿病はなぜこわい？

～ あなたの生活習慣は大丈夫ですか ～

講師 順天堂大学医学部附属静岡病院
糖尿病・内分泌内科 准教授
佐藤 淳子

糖尿病は万病のもとといわれています。予防法や治療法、最新のトピックスなどについてお話しします。

日時 平成28年12月14日(水)
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、静岡次生医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111

【2017年1月23日開催】

順天堂大学医学部附属静岡病院
第51回 市民公開講座(手話通訳付き)

ご存知ですか？ 慢性腎臓病(CKD)

～ 意外に怖い新たな国民病 ～

講師 順天堂大学医学部附属静岡病院
腎臓内科 先任准教授
清水 芳男

慢性腎臓病(CKD)は、これまでとは全く考え方が異なる腎臓病です。CKDをよく知って、手遅れにならないよう気をつけましょう。

日時 平成29年1月23日(月)
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、静岡次生医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

【2017年2月13日開催】

順天堂大学医学部附属静岡病院
第52回 市民公開講座(手話通訳付き)

腹腔鏡下手術の進歩

— 胃がんの手術 —

～ 最新の手術機器について ～

講師 順天堂大学医学部附属静岡病院
外科 准教授
折田 創

近年、手術機器の進歩により、低侵襲な腹腔鏡手術が発達し、その適応も拡大されています。胃がん手術を通して、最新の機器を3Dにてお見せします。

日時 平成29年2月13日(月)
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、静岡次生医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話:055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

【2017年3月4日開催】

第9回 順天堂大学保健看護学部 公開講座
第53回 順天堂大学医学部附属静岡病院 市民公開講座

合同開催 in三島キャンパス

災害に備えよう

第1回 日本における災害医療の現状
講師/柳川 洋一

第2回 東日本大震災の甚大な被害を体験して、伝えたいこと
講師/鶴島 綾子

平成29年3月4日(土) **参加無料 申込不要**
13:30～15:50(開場13:00)
会場/順天堂大学保健看護学部 (三島キャンパス)
〒411-8511 伊豆の国市三島町三島1-1-1
TEL:055-991-3111
E-mail: lecture@hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp

手話通訳あり
託児つき(1歳～就学前児) 平成29年2月6日より受付開始

※定員になり次第受付終了致します。
※お申し込みはホームページにてお申し込みください。
http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/lecture.html

【共催】順天堂大学保健看護学部、順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、静岡次生医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学保健看護学部 電話:055-991-3111

画像クリックで詳細がご覧いただけます。

平成 28 年度年報発刊によせて

院長 三橋 直樹

当院は平成 28 年 7 月に長年の懸案であった紙カルテから電子カルテへの移行を行いました。画像の処理を行う PACS はすでに 2 年前から導入していたのでこれで院内のほとんどの情報が電子化されたこととなります。さかのぼって PACS 導入について考えてみますと、それまではレントゲン、CT、MRI などすべて写真フィルムを使っていました。このフィルムの量は年間 20 万枚以上で重量は 10 トン近くになっていました。まずこれを整理し保管する人手とスペースが膨大なものになっていました。また回診やカンファのときに研修医がフィルムを探し回る姿をよく見かけたものです。フィルムが見つかるまで手術が始められないというような事態もたびたび起こっていました。PACS 導入後はそれらの問題が一気に解決しました。この時も情報管理室がよく頑張ってくれ、手術室などは部屋ごとに術者の希望のモニターを入れることができ大変好評でした。また放射線科の読影や技師の撮影も早くなり、ひいては検査件数の増加にもつながりました。

今回のカルテの電子化は PACS 導入に比べはるかに煩雑でしかも多額の投資を要する案件でした。機種が決まってから医師、看護師、パラメディカル、事務などすべての職種が使いこなせるようにトレーニングし準備を重ねましたが導入後 2 週間はメーカーの手助けも受けかなり混乱もありました。最も問題だったのは外来に通院中の患者さんの今までの情報をいかに要領よく新しい電子カルテに移行するかでしたが、予約患者さんのカルテをあらかじめ作成しておくなどの努力で極めてスムーズに移行することができました。

電子カルテ導入はこれですべて終わったわけではありません。まず当院の最大の問題である患者さんの長い待ち時間の短縮に結びつけなくてはなりません。カルテ出しの時間が無くなった分早くなるはずですが、またほとんど満杯だった外来カルテの保管室はようやく隙間ができました。これらのスペースを薬剤科や事務がいかに有効利用できるかが今後の課題です。ゆったりとしたスペースで働きヒューマンエラーをなくすことも病院サービスの大きな向上といえます。また病院の将来を見据えて様々な患者情報を分析していくこともかなり容易になっていると思います。思いがけないような電子カルテの利用法が提案されてくることを期待しています。

目次

1. 病院概要

1-1	基本理念	1
1-2	基本方針	1
1-3	施設概要	1
1-4	組織機構図	2
1-5	所属長一覧	3
1-6	医師名簿	4
1-7	職員数	5
1-8	各種委員会	6
1-9	活動報告	7
1-10	社会貢献・地域交流	10
1-11	指定・認定・許可事項	11

2. 診療科報告

2-1	膠原病内科・リウマチ科	14
2-2	血液内科	16
2-3	消化器内科	20
2-4	呼吸器内科	24
2-5	腎臓内科	27
2-6	糖尿病・内分泌内科	29
2-7	循環器科	31
2-8	小児科	38
2-9	一般外科	42
2-10	脳神経外科	48
2-11	整形外科	54
2-12	脳神経内科	60
2-13	心臓血管外科	65
2-14	呼吸器外科	68
2-15	形成外科	70
2-16	眼科	71
2-17	耳鼻咽喉科	77
2-18	麻酔科	80
2-19	放射線科	85
2-20	メンタルクリニック	86
2-21	皮膚科・アレルギー科	90
2-22	泌尿器科	92
2-23	産婦人科・総合周産期母子医療センター	95
2-24	救急診療科	101
2-25	病理診断科	109
2-26	リハビリテーション科	112

2-27	臨床検査科.....	114
------	------------	-----

3. 部門報告

3-1	薬剤科.....	116
3-2	栄養科.....	119
3-3	放射線室.....	121
3-4	検査室.....	124
3-5	手術室.....	126
3-6	血液浄化センター.....	128
3-7	臨床工学室.....	130
3-8	輸血室.....	133
3-9	看護部.....	135
3-9 (1)	看護総務課.....	140
3-9 (2)	看護入院業務課.....	142
3-9 (3)	看護外来業務課.....	144
3-9 (4)	看護教育課.....	146
3-9 (5)	看護安全管理課.....	155
3-10	救命救急センター.....	154
3-11	ドクターヘリ運航対策室.....	155
3-12	新生児センター.....	159
3-13	がん治療センター.....	162
3-14	予防医学センター.....	165
3-15	GCPセンター.....	168
3-16	臨床研修センター.....	170
3-17	医療サービス支援センター	
3-17 (1)	地域医療連携室.....	174
3-17 (2)	医療福祉相談室.....	176
3-17 (3)	患者・看護相談室.....	177
3-17 (4)	退院支援看護師.....	179
3-17 (5)	受診相談・総合案内.....	181
3-18	医療安全管理室.....	182
3-19	感染対策室.....	185
3-20	健康管理室.....	187

4. 統計

4-1	病床利用率.....	190
4-2	在院日数.....	190
4-3	診療科別延患者数(外来).....	191
4-4	診療科別延患者数(入院).....	192
4-5	新患者数(外来).....	193
4-6	新患者数(入院).....	194
4-7	退院患者数.....	195

4-8	年齡別延患者数(外来)	196
4-9	年齡別延患者数(入院)	196
4-10	地区別延患者数(外来)	197
4-11	地区別延患者数(入院)	198

1. 病院概要

1-1 基本理念

1. 学是「仁」の精神で人々の生命を尊重する
2. 「不断前進」の理念で創造的な前進と改革を進める
3. 大学医学部附属病院として、診療・教育・研究の充実を計る

1-2 基本方針

1. 患者さん一人一人に、安全で根拠に基づく高い質の医療を提供する
2. 患者さんに満足していただける、きめ細かい手作りの看護をおこなう
3. 快適な療養生活ができる環境を提供する
4. 医療安全対策、病病・病診連携に取り組む
5. 最新の医療情報の提供に努める

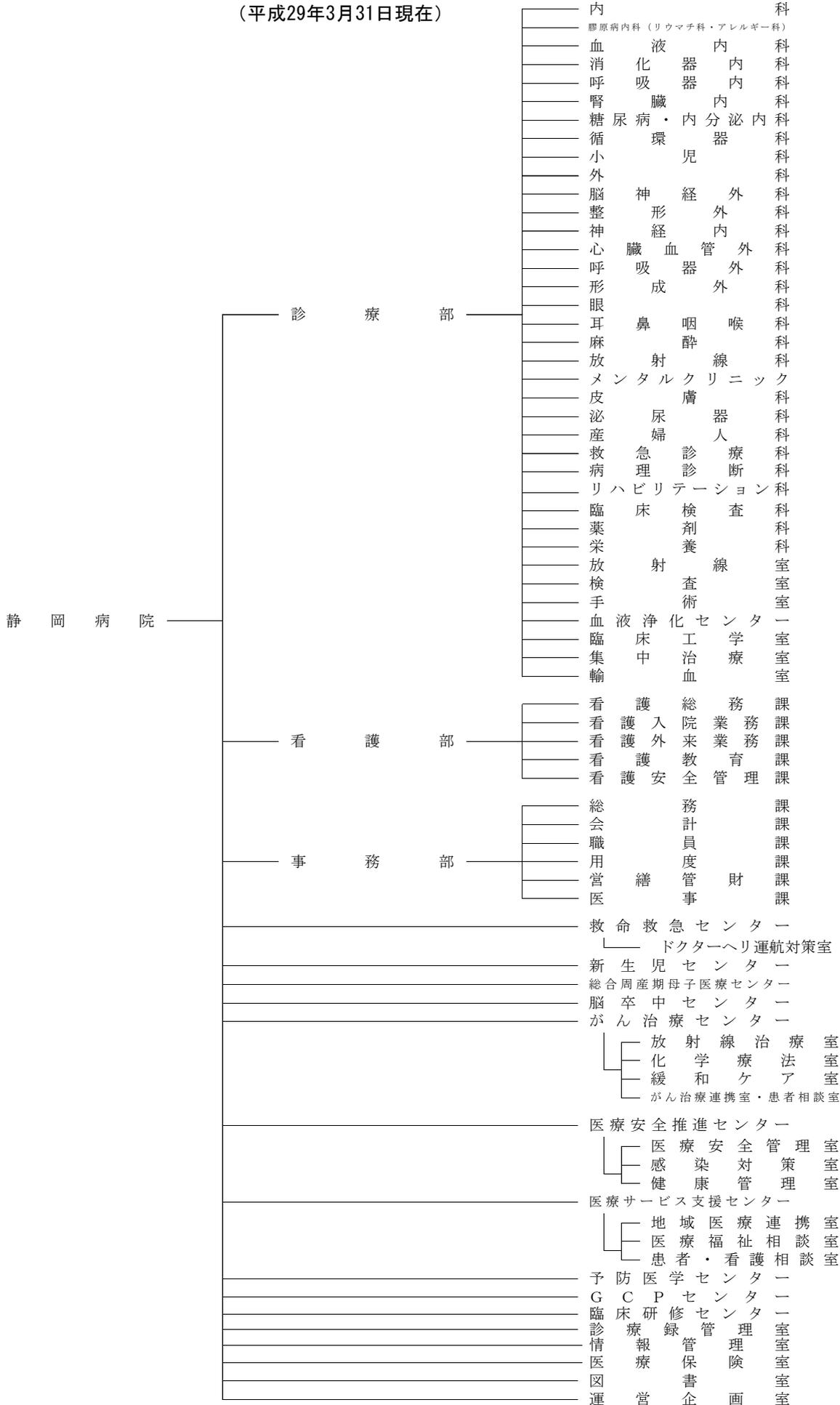
1-3 施設概要

名称	:	順天堂大学医学部附属静岡病院
所在地	:	〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡 1129
電話番号	:	055-948-3111(代表)
FAX	:	055-948-5088
敷地面積	:	27,122.83 平方メートル
病床数	:	577 床

1-4 組織機構図

順天堂大学医学部附属静岡病院組織機構図

(平成29年3月31日現在)



1-5 所属長一覧

平成29年3月31日現在

部 署	責 任 者	部 署	責 任 者
院長	三 橋 直 樹	看護部長	堀江 みどり
副院長	吉 池 高 志	看護総務課	長澤 幸子
副院長	佐 藤 浩 一	看護入院業務課	廣瀬 典子
院長補佐	小 池 道 明	看護外来業務課	矢田 みどり
院長補佐	藤 田 和 彦	看護教育課	堀 込 克 代
診療部長	佐 藤 浩 一	看護安全管理課	堀江 みどり
膠原病内科・リウマチ科	片 桐 彰	事務部 部長事務取扱者	落合 美智子
血液内科	小 池 道 明	総務課	望月 英夫
消化器内科	永 原 章 仁	会計課	落合 美智子
呼吸器内科	岩 神 真 一 郎	職員課	落合 美智子
腎臓内科	清 水 芳 男	用度課	市 川 政 雄
糖尿病・内分泌内科	佐 藤 淳 子	営繕管財課	市 川 政 雄
循環器科	諏 訪 哲	医事課	落合 美智子
小児科	寒 竹 正 人	救命救急センター	柳 川 洋 一
外科	佐 藤 浩 一	新生児センター	寒 竹 正 人
脳神経外科	山 本 拓 史	総合周産期母子医療センター	田 中 利 隆
整形外科	大 林 治	脳卒中センター	山 本 拓 史
脳神経内科	大 熊 泰 之	がん治療センター	飯 島 克 順
心臓血管外科	丹 原 圭 一	予防医学センター	大 熊 泰 之
呼吸器外科	市之川 英臣	GCPセンター	玄 田 拓 哉
形成外科	松 本 茂	臨床研修センター	丹 原 圭 一
眼科	太 田 俊 彦	診療録管理室	小 野 隆 宏
耳鼻咽喉科	楠 威 志	情報管理室	岡 崎 敦
麻酔科	岡 崎 敦	医療安全推進センター	藤 田 和 彦
放射線科	松 波 環	医療安全管理室	藤 田 和 彦
メンタルクリニック	桐 野 衛 二	感染対策室	岩 神 真 一 郎
皮膚科	吉 池 高 志	健康管理室	桐 野 衛 二
泌尿器科	藤 田 和 彦	医療サービス支援センター	吉 池 高 志
産婦人科	田 中 利 隆	地域医療連携室	望 月 英 夫
救急診療科	柳 川 洋 一	医療福祉相談室	大 熊 泰 之
病理診断科	和 田 了	患者・看護相談室	大 熊 泰 之
臨床検査科	田 内 一 民	医療保険室	山 本 拓 史
薬剤科	小 池 道 明	図書室	永 原 章 仁
栄養科	前 川 博	運営企画室	落 合 美 智 子
放射線室	松 波 環		
検査室	和 田 了		
手術室	岡 崎 敦		
リハビリテーション科	大 林 治		
血液浄化センター	清 水 芳 男		
臨床工学室	岡 崎 敦		
集中治療室	清 水 英 史		
輸血室	岩 尾 憲 明		

1-6 医師名簿

☆併任 平成29年3月31日現在

膠原病内科・リウマチ科	小児科	高橋良介	櫻庭園子	病理診断科
片桐彰	☆寒竹正人	田中将	太田正孝	和田了
岡田隆	有井直人	東村潤	櫻谷初奈	臨床検査科
丹治佳菜	馬場洋介	大谷慧	権藤栄蔵	田内一民
牧山彩子	秋本智史	眞島崇史	放射線科	臨床研修医
血液内科	岩崎卓朗	松尾智次	松波環	猪狩紀子
小池道明	河畠恵	根岸義文	水谷好秀	石田翔二
岩尾憲明	江原尚弘	岩崎英二	加藤仁美	賀屋勝太
櫻井弘子	新生児科	脳神経内科	山口奈苗	倉澤勘太
稲野資明	☆寒竹正人	大熊泰之	メンタルクリニック	小泉明博
消化器内科	大川夏紀	野田和幸	桐野衛二	小森翼
永原章仁	山崎晋	大垣光太郎	小日向麻里子	権藤岳
玄田拓哉	齋藤暢知	安藤真矢	三戸高大	鈴木陽
飯島克順	宮林和紀	石黒雄太	皮膚科	高野謹嗣
嶋田裕慈	田所愛弓	加茂晃	吉池高志	高橋大悟
佐藤俊輔	井福真友美	心臓血管外科	稲毛明子	竹内郁人
廿樂裕徳	山田啓迪	丹原圭一	坂本淳	西牧孝泰
成田諭隆	外科	佐藤友一郎	岩永温子	伴田一真
金光芳生	佐藤浩一	齋藤洋輔	神保麻耶	深瀬達也
村田礼人	前川博	宮崎豪	泌尿器科	藤岡紗綾
天野希	折田創	呼吸器外科	藤田和彦	堀越恒
佐藤祥	櫻田睦	市之川英臣	今泉健太郎	宮原怜
呼吸器内科	櫛田知志	尾泉広明	中島晶子	森洋輔
岩神真一郎	清水秀穂	星野浩延	稲本宗	谷口敬
藤井充弘	宗像慎也	形成外科	半田亜希	山本恵理
原宗央	櫻庭駿介	松本茂	産婦人科	穎川博芸
宮脇太一	水口このみ	苧部綾香	三橋直樹	大石万代
山田朋子	内田隆行	佐藤瑠美子	田中利隆	小笠大起
吉田隆司	徳田智史	眼科	山本祐華	小見桃子
腎臓内科	上田脩平	太田俊彦	金田容秀	川口幹裕
清水芳男	加藤永記	土至田宏	菅直子	佐々木洋介
若林啓一	山本陸	桑名亮輔	田中里美	佐藤将盛
林陽子	李智榮	松崎有修	矢田昌太郎	瀧澤裕樹
戸塚絢子	脳神経外科	林雄介	熊谷麻子	鶴上浩規
糖尿病・内分泌内科	山本拓史	古賀暖子	助川幸	堂垂大志
佐藤淳子	中尾保秋	市川浩平	村瀬佳子	富田裕之
青山周平	渡邊瑞也	朝岡聖子	西澤しほり	鳥海俊
古川康彦	上野英明	耳鼻咽喉科	正岡駿	長澤宏樹
伊藤南	池村涼吾	楠威志	救急診療科	中村優飛
櫻井瑛子	上田哲也	本間博友	柳川洋一	新見昂大
循環器科	関口和哉	城所淑信	大坂裕通	新田周作
諏訪哲	藤田修英	矢内彩	大森一彦	牧野健作
荻田学	井口整	小林優子	石川浩平	三好悠斗
坪井秀太	中嶋伸太郎	原聡	磯隆史	芳川瑛久
小西宏和	長谷川浩	麻酔科	吉澤俊彦	
園田健人	整形外科	岡崎敦	加藤英	
海老名秀城	☆大林治	尾前毅	日域佳	
青木映莉子	最上敦彦	長谷川陽子	リハビリテーション科	
國本充洋	神田章男	清水英史	☆大林治	
設樂準	諸橋達	洪景都	前田浩行	
高橋徳仁	二村謙太郎	若林彩子		

1-7 職員数

平成29年3月31日現在

職 種	正規職員		パート		小計	派遣・委託		小計	合計
	男	女	男	女		男	女		
看護師	73	594		6	673			0	673
准看護師		9			9			0	9
介護福祉士	6	14		1	21			0	21
助手	2	16			18		67	67	85
中材・滅菌					0	7	32	39	39
事務員		2			2	2	55	57	59
小計	81	635	0	7	723	9	154	163	886
薬剤師	24	9		2	35			0	35
薬剤科事務員		1			1	1	7	8	9
診療放射線技師	23	6			29			0	29
放射線室助手					0			0	0
放射線室事務員					0		4	4	4
臨床検査技師	8	16		2	26			0	26
検査室看護師		3		1	4			0	4
検査室事務員					0		1	1	1
理学療法士	10	3			13			0	13
作業療法士	2	2			4			0	4
言語聴覚士	1	1			2			0	2
リハビリテーション科事務員					0		1	1	1
管理栄養士	1	6		1	8			0	8
栄養士	1				1			0	1
調理師	11				11			0	11
栄養科助手	4	8			12	1	15	16	28
栄養科事務員				1	1			0	1
視能訓練士	3	3			6			0	6
臨床工学技士	9	3			12			0	12
臨床心理士		1			1			0	1
メンタルクリニック助手				1	1			0	1
小計	97	62	0	8	167	2	28	30	197
事務員	50	30		3	83	12	129	141	224
保育士		4			4		1	1	5
技術・労務・警備・施設	3				3	56	40	96	99
医療安全管理者		1			1			0	1
助手					0		13	13	13
小計	53	35	0	3	91	68	183	251	342
医 師	特任教授	2			2			0	2
	教授	15			15			0	15
	先任准教授	6			6			0	6
	先任准教授(臨床)	3			3			0	3
	准教授(大学院)				0			0	0
	准教授(講座)	5			5			0	5
	准教授(診療)	5	1		6			0	6
	准教授(実習)	2	1		3			0	3
	准教授(教育)	5			5			0	5
	講師	1	1		2			0	2
	助教	27	6		33			0	33
	助手	50	24		74			0	74
	専攻生		4		4			0	4
	大学院生	12	5		17			0	17
シニアレジデント	1	1		2			0	2	
臨床研修医	34	5		39			0	39	
小計	168	48	0	0	216	0	0	0	216
合計	399	780	0	18	1,197	79	365	444	1,641

1-8 各種委員会

委員会名	委員長名	委員会名	委員長名
病院運営委員会	三橋直樹	運営協議会	三橋直樹
診療会議	佐藤浩一	管理会議	落合美智子
看護管理会議	堀江みどり	医療安全・危機管理委員会	藤田和彦
医療情報提供委員会	藤田和彦	診療録管理委員会	佐藤浩一
衛生委員会	桐野衛二	災害対策委員会	柳川洋一
救命救急センター運営 会議	柳川洋一	薬事委員会	楠威志
治験審査委員会	玄田拓哉	倫理審査委員会	玄田拓哉
倫理委員会	吉池高志	資材委員会	太田俊彦
保険担当医会・クリニカルパス 委員会	山本拓史	輸血療法委員会	岩尾憲明
放射線安全委員会	水谷好秀	放射線治療品質管理 委員会	水谷好秀
がん診療委員会	飯島克順	感染対策委員会	岩神真一郎
褥瘡対策委員会	松本茂	医療ガス安全管理委員会	岡崎敦
廃棄物管理委員会	和田了	病棟利用対策委員会・ 外来対策委員会	佐藤浩一
CPC・CRC デスカンファレンス 委員会	和田了	臨床検査適正化委員会	和田了
NST 委員会	前川博	給食委員会	前川博
医療情報システム委員会	岡崎敦	広報委員会	永原章仁
臨床研修センター会議	丹原圭一	礼儀・接遇マナー向上 委員会	三橋直樹
患者さまの満足度調査 委員会	大熊泰之	図書管理委員会	永原章仁
がん治療センター運営 委員会	飯島克順	機種選定委員会	三橋直樹
医療機器保守委員会	佐藤浩一	手術室運営委員会	岡崎敦
施設基準委員会	山本拓史	DPC コーディング委員会	山本拓史
脳死・臓器移植委員会	大熊泰之	児童虐待対策委員会	寒竹正人
勤務環境改善委員会	吉池高志	業務委託委員会	佐藤浩一
予防医学センター運営 委員会	大熊泰之	透析機器安全管理委員会	清水芳男
研修管理委員会	三橋直樹	内視鏡運営委員会	折田創

1-9 活動報告

年月日	会議・行事実施事項
28.4.1	新入職員オリエンテーション(～5日)
4.5	新入職員歓迎会
4.16	保険診療講習会「平成28年度診療報酬改定説明会」
5.23	ドクターヘリ事後検証会
6.11	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(～12日)
6.21	がん治療研修会 第一部「がん化学療法」、第二部「がん放射線治療」
7.1	特別講演会「クリオプレシピテートの基礎と投与意義」 「産科救急領域でのクリオ投与の実際」
7.4	医療安全研修会「苦情・クレームの初期対応について」
8.6	平成28年度政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)
8.10	ドクターヘリ事後検証会
8.25	褥瘡対策研修会「褥瘡の予防について」
8.26	感染対策研修会「手術部位感染対策と手術時手洗い『ラビング法』について」
9.13	がん治療研修会 第一部「婦人科がんの早期診断」 第二部「当院における緩和ケア認定看護師の役割」
10.19	特別講演会「重症外傷の治療のキモは誰でもできる基本的なところにある。止血、 補助換気、体温管理」
10.25	消防訓練
10.26	保険診療講習会「電子カルテ導入に伴う医学管理料算定について」
11.4	第15回初期臨床研修指導医講習会(～5日)
11.8	総合的な機能評価に関する研修会「高齢者のリハビリテーション」
11.30	ドクターヘリ事後検証会
12.1	医療安全研修会「セキュリティ事故から学ぶ対策」
12.2	褥瘡対策研修会「褥瘡の治療について」
12.13	がん患者の周術期口腔ケア研修会 第一部「がん治療における歯科支持療法」 第二部「看護師によるがん治療中の口腔セルフケアサポート」
29.1.14	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(～15日)
2.6	静岡県東部地区救命救急医学研修会
2.15	総合的な機能評価に関する研修会「高齢者の栄養管理」
2.20	ドクターヘリ事後検証会
3.16	医療安全研修会「目からうるこのインスリンの話」
3.21	感染対策研修会「CREについて各職種の立場から」

年 月 日	会 議 ・ 行 事 実 施 事 項
	上記のほか毎月定例として開催される会議
第 1 火曜日	薬事委員会
〃	治験審査委員会
〃	がん診療委員会
第 1 木曜日	管理会議
第 2 月曜日	資材委員会
第 2 木曜日	診療会議
第 3 月曜日	看護管理会議(奇数月)
第 3 火曜日	NST・給食委員会
〃	看護配置に関する定期報告会(偶数月)
第 3 水曜日	業務委託委員会
第 3 金曜日	医療安全危機管理委員会
〃	医療情報提供委員会
第 4 月曜日	運営協議会
〃	施設基準委員会
第 4 水曜日	クリニカルパス委員会
〃	衛生委員会
第 4 木曜日	褥瘡対策委員会
〃	がん治療センター運営委員会(奇数月)
第 4 金曜日	感染対策委員会
最終火曜日	保険担当医会
〃	DPC コーディング委員会
毎月 1 回	病院運営委員会
隔月 1 回	輸血療法委員会
〃	内視鏡運営委員会
〃	救命救急センター運営会議
〃	臨床研修センター会議
〃	災害対策委員会
〃	診療録管理委員会

年 月 日	講 座 名 ・ テ ー マ
28. 4.20	第 42 回市民公開講座 「形成外科をご存知ですか？～写真で見る形成外科疾患～」
5.24	第 43 回市民公開講座 「放射線治療 過去・現在・未来」
6.20	第 44 回市民公開講座 「夏カゼから家族を守りましょう ～夏のカゼは冬のカゼとは違います～」
7.21	第 32 回東部周産期研究会 「妊娠中のストレスが与える周産期予後及び児への影響」 「出生後の NICU 環境による児の DNA 変化」
7.30	第 45 回市民公開講座 「骨粗鬆症」 ①静かなドロボー骨粗鬆症 ～骨が弱いと長生きできないって・・・本当！？～ ②骨粗鬆症の予防・改善に運動をしよう！～健康寿命を伸ばすために～
8.23	第 46 回市民公開講座 「うつる皮膚病・うつらない皮膚病ーこわい皮膚病・こわくない皮膚病ー」
9.26	第 47 回市民公開講座 「リンパ腺がはれたら ～いろんな病気でリンパ腺ははれます～」
10.18	第 48 回市民公開講座 「大動脈弁狭窄症 ～その症状、診断、治療について～」
11.17	第 33 回東部周産期研究会 「興味ある胎児循環症例:重症大動脈狭窄の一例」 「周産期医療者が知っておくべき遺伝知識」
11.22	第 49 回市民公開講座 ①身近に潜む呼吸器感染症 ～肺炎、結核、インフルエンザなど～ ②肺癌の手術最前線 ～貴方が肺癌に罹ったら知っておきたいこと～
12.14	第 50 回市民公開講座 「糖尿病はなぜこわい？～あなたの生活習慣は大丈夫ですか～」
29.1.23	第 51 回市民公開講座 「ご存知ですか？慢性腎臓病(CKD)～意外に怖い新たな国民病～」
2.13	第 52 回市民公開講座 「腹腔鏡下手術の進歩-胃がんの手術- ～最新の手術機器について～」
3.4	第 53 回市民公開講座 「災害に備えよう」 ①日本における災害医療の現状 ②東日本大震災の甚大な被害を体験して、伝えたいこと
3.23	第 34 回東部周産期研究会 「妊娠中の梅毒感染妊婦の管理法」 「周産期に異常指摘を認めなかった梅毒母体児の一例」

1-10 社会貢献・地域交流活動

年 月 日	活 動 名
28. 5.19 ～20	中学生職場体験(伊豆の国市立長岡中学校)
5.23～24	中学生職場体験(伊豆の国市立韮山中学校)
6.6～9	高校生職場体験(田方農業高等学校)
7.26～28	高校生リハビリテーション見学(静岡県東部地区高等学校)
8.2～3	高校生リハビリテーション見学(静岡県東部地区高等学校)
8.3	韮山狩野川まつり 2016 伊豆長岡温泉戦国花火大会 看護師派遣
8.8～9	高校生 1 日体験ナース
9.25	ライド&ライド狩野川 看護師派遣

1-11 指定・認定・許可事項

指 定 事 項	指 定 年 月 日
救命救急センター 40床	昭和 56 年 11 月 1 日
新生児センター 30床	昭和 57 年 4 月 1 日
エイズ拠点病院	平成 8 年 5 月 20 日
災害拠点病院	平成 8 年 11 月 26 日
日本医療機能評価機構認定病院	平成 16 年 3 月 15 日(初回認定日)
静岡県東部ドクターヘリ基地病院	平成 16 年 3 月 17 日
臨床研修指定病院	平成 16 年 4 月 1 日
地域がん診療連携拠点病院	平成 19 年 1 月 31 日
総合周産期母子医療センター	平成 20 年 8 月 1 日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	平成 21 年 3 月 10 日
DPC 対象病院	平成 23 年 4 月 1 日
災害派遣医療チーム静岡 DMAT 指定病院	平成 24 年 3 月 1 日
指定小児慢性特定疾病医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
難病方に係る難病指定医療機関	平成 27 年 1 月 1 日

診療科名	学会認定
内科	日本内科学会教育病院
血液内科	日本血液学会血液研修施設
消化器内科	日本消化器病学会認定施設
	日本肝臓学会認定施設
呼吸器内科	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本感染症学会連携研修施設
糖尿病・内分泌内科	日本糖尿病学会認定教育施設
腎臓内科	日本透析医学会教育関連施設
	日本腎臓学会研修施設
膠原病内科	日本リウマチ学会教育施設
循環器科	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
心臓血管外科	関連 10 学会構成 ステントグラフト実施基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設
	関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設
	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設

診療科名	学会認定
小児科	日本小児科学会小児科専門医研修施設
新生児科	日本周産期・新生児医学会基幹施設
外科	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本乳癌学会関連施設
	日本食道学会全国登録認定施設
脳神経外科	日本脳卒中学会研修教育病院
	日本脳神経外科学会専門医研修連携施設
整形外科	日本整形外科学会研修施設
	日本手外科学会研修施設
脳神経内科	日本神経学会教育施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会関連施設
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
	日本角膜学会羊膜移植実施施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
麻酔科・ペインクリニック	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本ペインクリニック学会指定研修施設
メンタルクリニック	日本精神神経学会精神化専門医制度研修施設
	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
皮膚科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
形成外科	日本形成外科学会認定施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
	日本産婦人科学会専門研修連携施設
	日本周産期・新生児医学会認定施設
救急診療科	日本航空医療学会認定施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本救急医学会指導医指定施設
病理診断科	日本病理学会研修認定施設
栄養科	日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
	日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設
救命救急センター	日本集中治療医学会専門医研修施設
リハビリテーション室	日本リハビリテーション医学会認定施設
がん治療センター	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設

2. 診療科報告

2-1 膠原病内科・リウマチ科

診療活動

静岡県東部地域を中心とした医療機関からのご紹介や初診の患者さんに十分対応できるよう、膠原病・リウマチ専門外来を毎日午前、午後設けている（1診または2診）。入院症例に対しては週一回の回診と週二回のカンファランス、および週一回のリウマチカンファランスを行い、適切で安全な治療を選択している。月一回の院内症例検討会のほかに、日本リウマチ学会教育認定病院として研修医や若手医師の教育に取り組んでいる。当地域のリウマチ診療の向上及び病診連携や病々連携の推進をめざし、年一回の静岡県東部リウマチ膠原病医会（第27回）を含む種々の研究会を主催し、病々連携の多いJA静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院との合同カンファランスを開催している。大学や順天堂医院との連携を密にするため、年一回難治症例の症例検討会を東京で行っている。患者さん向けには小冊子「家庭で出来る運動療法」を作成し診療に役立てている。また日本リウマチ友の会や難病団体連絡協議会主催の相談会、講演会に積極的に医師を派遣し、患者教育に努めている。

診療実績

スタッフ

片桐 彰	准教授
岡田 隆	助手
丹治 佳菜	助手
牧山 彩子	大学院生

外来患者数は1日平均50.4人。疾患別では、関節リウマチ約44%、全身性エリテマトーデス約18%、血管炎症候群約14%、強皮症約8%、シェーグレン症候群（単独）約6%、MCTD約4%、多発性・皮膚筋炎約4%、その他約2%。関節リウマチの約25%に生物学的製剤を外来で導入している。

入院患者数は平均6.6人で平均在院日数は28.2日。疾患別には関節リウマチ30.2%、顕微鏡的多発血管炎16.3%をはじめとした血管炎症候群19.8%、全身性エリテマトーデス19.8%、多発性・皮膚筋炎10.0%、強皮症3.5%、となっており、その他IgG4関連疾患や皮膚疾患合併の関節炎などの入院がある。これら疾患の初期治療はもちろん、感染症を中心とした合併症治療目的が多い。顕微鏡的多発血管炎をはじめとした高齢者の血管炎症候群の入院の増加が引き続き多い。治療が多様化した、副作用治療目的の関節リウマチの入院が増加している。また他科との連携もかかせず併診症例も多い。難治性病態例、習慣性流産歴のある全身性エリテマトーデス/シェーグレン症候群例、抗リン脂質抗体症候群症例および血球貪食症候群や血栓性微小血管障害症合併例などに対して血漿交換療法や吸着療法を積極的に施行している。また、難治性病態に対しては、最新の免疫抑制剤やリツキサシ等生物学的製剤による治療も積極的に導入している。

次年度目標

関節リウマチの治療はこの 10 数年で劇的に変化し、他の膠原病疾患の治療も変化しつつある事をふまえ、最新の治療を安全、安心に遂行するために積極的に学会、研究会や治験、臨床研究等に参加する。外来では、患者さんの不安を取り除くべく、丁寧な説明を心がける一方、待ち時間の短縮をはかり、満足度の向上を目指す。入院では、疾患の特殊性に加え、高齢の患者さんの増加に伴う治療合併症対策を十分に行い、病々連携をすすめる入院日数の長期化の短縮を計る。ガンマグロブリン大量療法や、エンドキサンパルス入院はクリティカルパスを導入し入院の効率化を図る。また地域の要望に出来る限り応えられるよう病診連携をより密にし、ご紹介いただいた患者さんの逆紹介を積極的に増やしていく。研究面では、研修医に症例報告、研究報告などの活発な学会参加の機会を与え、医局員は学会活動のみならず原著や総説の執筆を増やしていく。

研究・教育活動

1. 塚原隆伊、岡田 隆、片桐 彰、山路 健、田村 直人、山田雅人、高崎芳成：眼症状を呈した ANCA 関連中耳炎の一例 第 60 回日本リウマチ学会学術集会（横浜）2016 年 4 月 22 日
2. 岡田 隆、塚原隆伊、片桐 彰、山路 健、田村 直人、山田雅人、高崎芳成：右総頸動脈瘤で発症し右総頸動脈閉塞をきたした大動脈炎症候群の一例 第 60 回日本リウマチ学会学術集会（横浜）2016 年 4 月 23 日
3. 岡田隆：臨床的寛解をきたした RA 患者における画像的評価の意義 静岡県東部 TNF- α 治療セミナー（沼津） 2016 年 7 月 26 日
4. 片桐彰：膠原病の診断と治療について～自己抗体の考え方を中心に～ 伊東市医師会学術講演会（伊東） 2016 年 8 月 24 日
5. 牧山彩子、丹治佳菜、岡田隆、片桐彰：当院における過去 5 年間のニューモシスチス肺炎の発生状況について 静岡リウマチ治療学術講演会（静岡） 2016 年 9 月 17 日
6. 堀越恒、塚原隆伊、岡田 隆、片桐 彰：椎骨動脈狭窄を合併した巨細胞性動脈炎の一例 第 230 回日本内科学会東海地方会（名古屋） 2016 年 10 月 16 日
7. 深瀬達也、岡田 隆、塚原隆伊、小田啓介、片桐 彰、田村直人：全身性エリテマトーデス治療中に発症した播種性ノカルジア症の剖検例 第 230 回日本内科学会東海地方会（名古屋） 2016 年 10 月 16 日
8. 岡田隆：最近のリウマチ診療 静岡県東部リウマチケアナースセミナー（富士） 2016 年 11 月 19 日
9. 塚原 隆伊、岡田 隆、片桐 彰、山田 雅人：右総頸動脈瘤・閉塞で発症後、左総頸動脈瘤で再燃しトシリズマブ療法が奏効した高安動脈炎の一例 第 42 回静岡リウマチ懇話会（静岡）
2017 年 2 月 11 日

2-2 血液内科

診療活動

血液内科は実際に標榜を開始したのは、平成 15 年 7 月からで、それ以前は、内科に属していました。固定した医師が血液内科の活動を始めたのは平成 10 年 9 月からです。

平成 18 年 7 月からは、8 階に無菌室を2床設置して、フル稼動しています。また、平成 23 年 5 月からは医局員が初めて 3 人になり、現在は4人体制になり、血液内科もしだいに充実してきています。現在自家移植を手始めに、末梢血幹細胞移植を施行しています。

特色

末梢血幹細胞移植を積極的に行っています。

静岡県血友病ネットワークの東部基幹病院として、小児の血友病患者が成人した場合にひき続き治療を行えるように体制を整えています。

対象疾患

良性疾患としては、一番多い貧血の原因である、鉄欠乏性貧血、それに同じく貧血で診断される、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、貧血や血小板減少や白血球が減少する、再生不良性貧血(AA)、血小板が増加してしまう、本態性血小板血症(ET)、赤血球が増加してしまう、真性多血症(PV)があります。PV, ET, 骨髄線維症については、現在順天堂関連病院で JAK-2 遺伝子の変異について臨床研究を行っており、病態、治療に役立てています。

悪性疾患としては、悪性リンパ腫(lymphoma)、骨髄異形成症候群(MDS)、急性骨髄性白血病(AML)、多発性骨髄腫(MM)、慢性骨髄性白血病(CML)、成人 T 細胞性白血病(ATL)、急性リンパ性白血病(ALL)、慢性リンパ性白血病(CLL)があります。

出血性疾患としては、血小板が減少して、紫斑ができやすくなる、特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、生まれた頃から関節内出血を繰り返す血友病や、その他の凝固因子欠乏症があります。

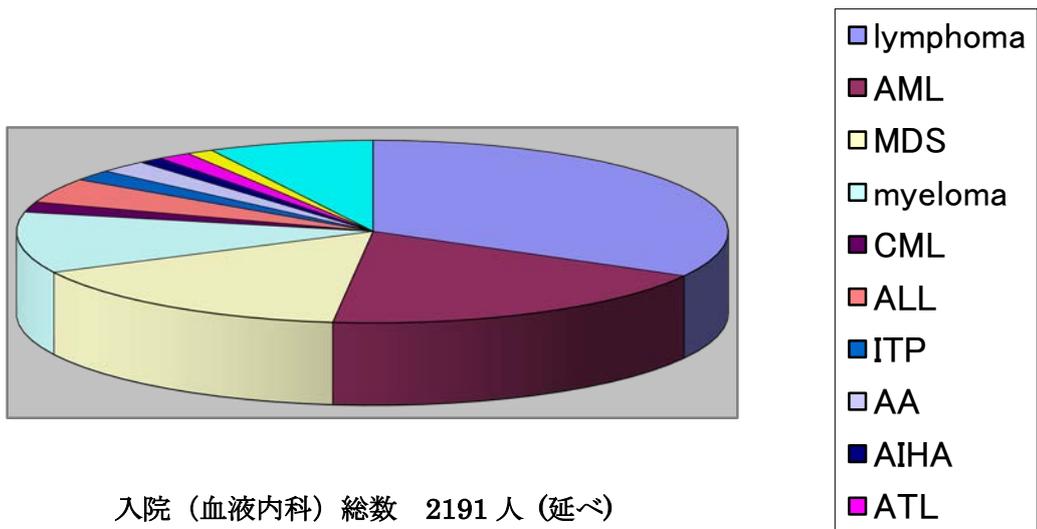
伊豆半島における血液疾患の特徴としては、ATL 患者が比較的多いことと、CLL もやや多い傾向がみられます。

診療実績

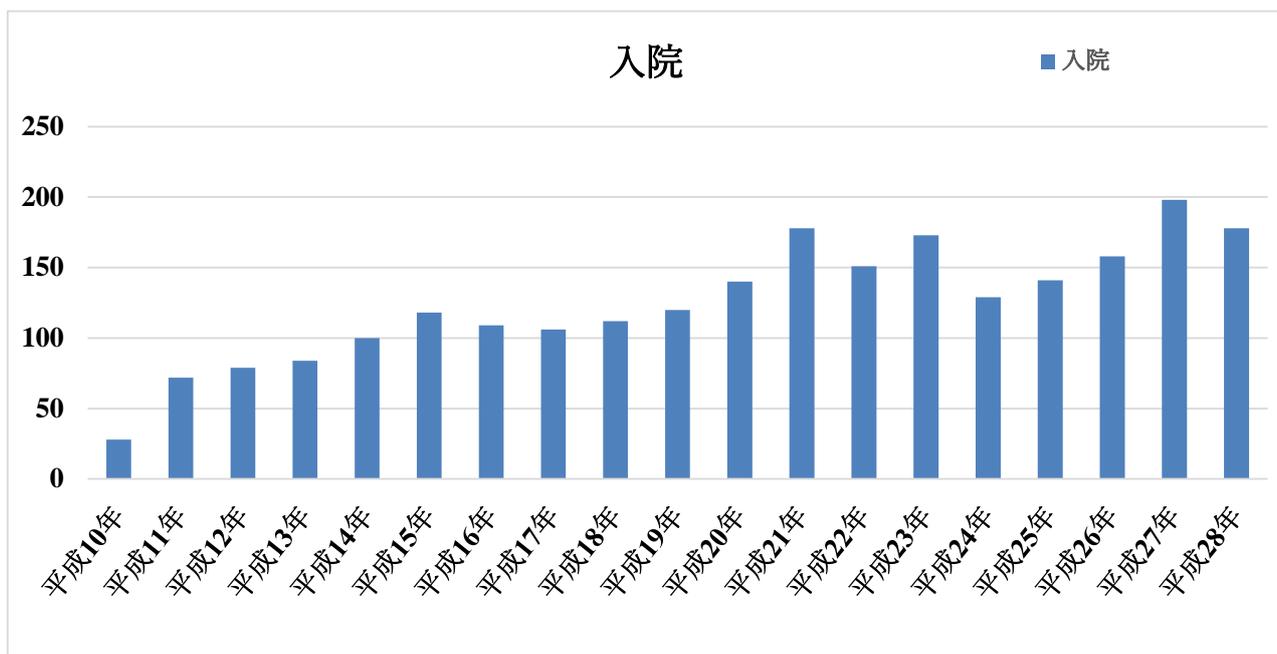
症例数(入院)

平成 10 年 9 月から、平成 28 年末までの主な血液内科の入院患者数はのべ 2369 人で、その内訳は lymphoma 783 人(33.1%)、AML 443 人(18.7%)、MDS 374 人(15.8%)、MM 256 人(10.8%)、ALL 105 人(4.4%)、AA 53 人(2.2%)、CML 44 人(1.8%)、ITP 46 人(1.9%)、AIHA 25 人(1.1%)、ATL 35 人(1.5%)、CLL 28 人(1.2%)、その他(others) 177 人(7.5%)(図1)。

入院患者も年々増加傾向にあります(図 2)。



入院（血液内科）総数 2191 人（延べ）
（平成 10 年 9 月—平成 28 年 12 月まで）（図 1）



入院患者数の変遷（図 2）

次年度目標

- 1) 症例発表、臨床研究を数多く行い、論文化していく。
- 2) 自家末梢血幹細胞輸血を併用した大量化学療法を積極的に行っていく。
- 3) 化学療法を医局内で一本化して、効果判定していく。

研究、研究活動

原著（英文）

1. Edahiro Y, Ichikawa K, Suzuki H, Yasuda H, Koike M, Komatsu N.
Successful perioperative management of Factor XI deficiency with administration of free-frozen plasma in a subdural, *Geriatrics & Gerontology International*, 2016; 16; 143-4.
2. Tsukune Y, Sasaki , Koike M et al:
Incidence and clinical background of hepatitis B virus reactivation in multiple myeloma in novel agent`s era. *Ann Hematol*. 2016 Jun 30.
3. Ichikawa K, Edahiro Y, Gotoh A, Iiduka K, Komatsu N, Koike M.
Co-occurrence of hyperleukocytosis and elevated fibrin-Fibrinogen degradation product levels is a risk for early Intracranial hemorrhage in patients with denovo acyte leukemia. *Int J Hematol* 2016; 104:61-620.

報告その他

1. Ciclosporin が有効であった再発性血管免疫芽球性 T 細胞性リンパ腫の 3 症例
小池 道明
第 20 回静岡県血液免疫研究会 浜松 4 月 9 日
2. 造血幹細胞発生の 3D 解析 IPS 細胞への応用に向けて
飯塚 和秀
第 28 回静岡県東部血液セミナー 6 月 3 日 三島
3. 悪性リンパ腫が肺線維化を促進させたと考えられた「Sarcoidosis Lymphoma Syndrome」
飯塚 和秀
第 20 回東部血液勉強会 6 月 17 日 三島
4. 新規発症の急性白血病における早期脳出血の危険因子に関する後方的検討
小池 道明
静岡県東部地区血液内科 DIC フォーラム 三島市 7 月 22 日
5. 慢性骨髄性白血病加療中に *Streptococcus agalactiae* による劇症型溶連菌感染症を発症した一例
富田裕之、桜井弘子、岩尾憲明、小池道明
第 18 回 東部感染症研究会 沼津リバーサイドホテル 9 月 3 日
6. Ciclosporin が有効であった再発性血管免疫芽球性 T 細胞性リンパ腫の 3 症例
小池 道明
第 78 階日本血液学会学術集会 横浜 10 月 15 日
7. 中枢神経浸潤を合併した多発性骨髄腫に大量メルファラン療法とポマリドマイドが奏功した一例
森洋輔、白根脩一、飯塚和秀、枝廣陽子、飯塚和秀、角南義孝、小池道明
第 78 階日本血液学会学術集会 横浜 10 月 14 日
8. Plasmablastic lymphoma との鑑別に苦慮した plasmablastic myeloma
堂垂大志、桜井弘子、岩尾憲明、小池道明
第 29 回静岡県東部血液セミナー 沼津市 沼津リバーサイドホテル 11 月 18 日
9. 喀血を契機に発見された高齢者先天性第 XII 因子欠乏症
鳥海俊、桜井弘子、岩尾憲明、小池道明

第 14 回 静岡県血友病治療ネットワーク 静岡市 11 月 19 日

10. 慢性骨髄性白血病加療中に *Streptococcus agalactiae* による劇症型溶連菌感染症を発症した一例
福田泰隆、櫻井弘子、岩尾憲明、小池道明

第 26 回静岡県血液疾患研究会 静岡市 11 月 26 日

2-3 消化器内科

診療活動

永原章仁教授以下大学院生2名を含む計11名のスタッフで診療、教育、研究、疾患啓発活動を行いました。平成28年度は、特に地域のかかりつけ医との「病診連携」の向上に努めました。上部消化管領域では、ヘリコバクター・ピロリ菌や機能性ディスペプシアに対する治療、早期胃がんに対するESDに取り組みました。下部消化管領域では、炎症性腸疾患に対する生物学的製剤・血球成分除去療法、早期大腸がんに対するESDに力を注ぎました。肝臓領域では、ウイルス性肝炎や肝硬変合併症に対する新しい治療、肝がんに対する薬剤溶出性ビーズを用いた肝動脈化学塞栓療法を多数実施しました。胆膵領域では、超音波内視鏡を用いたInterventionにも積極的に取り組みました。教育面では、日本消化器病学会、肝臓学会、消化器内視鏡学会の指導医・専門医が学問的あるいは技術的指導を行い、スキルアップをはかりました。また研究面では積極的に国内外の学会発表や論文発表を行い、大学病院の一員として貢献しました。

診療実績

診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
外来患者数	22,648人	22,944人	24,096人	22,909人
入院患者数(延)	11,218人	11,941人	11,559人	11,077人
上部消化管内視鏡検査	2,108例	2,068例	2,170例	2,154例
※内視鏡的粘膜下層剥離術を含む				
下部消化管内視鏡検査	875例	871例	1,167例	1,094例
※内視鏡的粘膜下層剥離術を含む				
超音波内視鏡検査	—	—	32例	26例
※超音波内視鏡ガイド下穿刺術を含む				
食道内圧検査	—	—	—	4例
カプセル内視鏡	—	12例	7例	3例
大腸コロノグラフィー(大腸CT検査)	—	—	6例	8例
内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査				
※内視鏡的乳頭切開術を含む	125例	135例	154例	150例
※胆管・膵管ステント留置術を含む				
腹部超音波検査	3,070例	2,513例	2,169例	2,271例
肝生検	127例	134例	54例	60例
経皮的ラジオ波焼灼療法	26例	42例	35例	22例
腹部血管造影検査	192例	174例	182例	162例
※肝動脈化学塞栓療法・肝動注化学療法を含む				
経皮経肝的胆道・胆嚢ドレナージ術	69例	81例	57例	101例

次年度目標

1. 安全で確実な医療の実践
技術的に高度な検査、治療を取り扱うことから、予測される治療効果や偶発症を事前に十分検討し、安全かつ効果的な医療の実践を目指します。
2. 病診連携の強化
セミナーや講演会を通じて地域の医療機関と「顔の見える病診連携」を推進します。特に上部・下部消化管内視鏡検査においては、以前より要望の多かった「地域医療連携枠」を造設します。
3. 診療の効率化
昨年度より「外来予約制」を導入しましたが、今後は「地域医療連携予約枠」の拡充を行います。また「クリニカルパス」を積極的に運用し、更なる平均在院日数の短縮、病床稼働率の増加を目指します。
4. 途切れないキャリア教育
医学部学生に対する教育、研修医に対する診察や治療手技の指導のほか、若手医局員に対しても上級医が学問的あるいは技術的指導を行います。また各種学会認定医、専門医の取得、国内外での学会発表をサポートします。
5. 疾患啓蒙活動
基幹病院あるいは大学病院に一員として、地域の医療従事者や一般市民などに広く消化器疾患に関わる情報提供を行います。

研究・教育活動

原著

1. Prediction of Hepatocellular Carcinoma Development after Hepatitis C Virus Eradication Using Serum *Wisteria floribunda* Agglutinin-Positive Mac-2-Binding Protein. *Int J Mol Sci*. 2016
2. Pretreatment AKR1B10 expression predicts the risk of hepatocellular carcinoma development after hepatitis C virus eradication. *World J Gastroenterol*. 2016
3. Genome-wide Association Study Identifies TLL1 Variant Associated With Development of Hepatocellular Carcinoma After Eradication of Hepatitis C Virus Infection. *Gastroenterology*. 2017
4. Survival in patients with Child-Pugh class C cirrhosis: Analysis of the liver transplant registry in Japan. *Hepatol Res*. 2016
5. Aldo-keto reductase family 1 member B10 is associated with hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma risk. *Hepatol Res*. 2016
6. Efficacy of alfacalcidol and alendronate on lumbar bone mineral density in osteoporotic patients using proton pump inhibitors. *Biomed Rep*. 2016
7. Association of medications for lifestyle-related diseases with reflux esophagitis. *Ther Clin Risk Manag*. 2016
8. Impact of aldo-keto reductase family 1 member B10 on the risk of hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma. *J Gastroenterol Hepatol*. 2016
9. Ledipasvir and sofosbuvir fixed-dose combination with and without ribavirin for 12 weeks in treatment-naïve and previously treated Japanese patients with genotype 1 hepatitis C: an open-label, randomised, phase 3 trial. *Lancet Infect Dis*. 2015

総説・著書

1. 反復性肝性脳症を呈する巨大門脈大循環短絡路に対して B-RTO を施行した C 型肝硬変の1例. 日本門脈圧亢進症学会雑誌. 2017
2. ボノプラザンを使用した新しい H.pylori 除菌療法. 医学のあゆみ. 2016
3. 器質的疾患と機能性疾患の見分け方-機能性ディスペプシアを中心に-大学病院における機能性疾患の診療. 消化器診療. 2016
4. 胃食道逆流症 (GERD) とその合併症. 消化器疾患の臨床1. 2016
5. 軽症 GERD に対する on demand 療法の適応と処方. Japan Medical Journal. 2016
6. 【Helicobacter pylori 除菌治療-保険診療上の問題点-】 Helicobacter pylori 除菌法の保険適用における留意点. Helicobacter Research. 2016
7. α 1-アンチトリプシン欠乏症. 肝胆膵. 2016
8. ガイドライン 外来診療 2017. 日経メディカル開発. 2016
9. 肝硬変を理解するー分子機構から実臨床に至るまでー. 肝胆膵. 2016
10. 【肝炎ウイルス A to E】 C 型肝炎 HCV 治療後肝発癌の危険因子と予測マーカー. 肝胆膵. 2016
11. 胃潰瘍・十二指腸潰瘍. ガイドライン外来診療 2016. 日経メディカル開発. 2016
12. 左側門脈圧亢進症 –その概念と治療選択- 肝胆膵. 2016

学会発表

1. Significance of atrophic changes of gastric mucosa in patients with gastric mucosal injury in low-dose aspirin users. DDW. 2016
2. Impact of gender differences in prevalence of upper gastrointestinal mucosal injuries. -Esophagus, Stomach, Duodenum-. DDW. 2016
3. Correlation between Symptoms and QOL in GERD patients. APDW. 2016
4. Chronological changes in FIB-4 and hepatocellular carcinoma development in patients with chronic hepatitis C after successful virus eradication. AASLD Liver Meeting. 2016
5. 食道良性疾患の内視鏡診断と治療. 第 26 回日本消化器内視鏡学会. 2016
6. 低用量アスピリンによる上部消化管粘膜障害に胃粘膜萎縮が及ぼす影響. 第 12 回日本消化管学会総会. 2016
7. GERD 患者における症状と QOL についての関連性. 第 102 回日本消化器病学会総会. 2016
8. LDA 内服者における上部消化管粘膜傷害の gender difference の検討. 第 91 回日本消化器内視鏡学会総会. 2016
9. 当院における Helicobacter pylori 除菌治療の現状. 第 22 回日本ヘリコバクター学会. 2016
10. ダクラタスビル・アスナプレビル併用療法の治療成績と肝機能に与えるインパクト. 第 41 回日本肝臓学会東部会. 2016
11. C 型肝炎 SVR 症例における肝線維化評価指数と肝発癌. 第 52 回日本肝臓学会総会. 2016
12. C 型肝炎 SVR 後の肝発癌とそのリスク因子. 第 124 回日本消化器病学会東海支部例会. 2016
13. 管理に難渋した食道運動機能障害を伴うダビガトラン起因性食道粘膜傷害の1例. 第 124 回日本消化器病学会東海支部例会. 2016
14. 経皮的肝腫瘍生検にて診断し得た肝偽リンパ腫 (Pseudolymphoma) の一例. 第 41 回日本肝臓学会東部会. 2016

15. 黒色嘔吐物にて発見された認知症を有する高齢者における急性壊死性食道炎の 1 例. 第 124 回日本消化器病学会東海支部例会. 2016
16. 2 年間で急速に増大した Gastric sarcomatoid carcinoma の 1 例. 第 59 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. 2016
17. ソラフェニブとシスプラチンによる術後補助化学療法中に興味深い腫瘍マーカーの変動を認めた肝細胞癌の 1 例. 第 52 回日本肝癌研究会. 2016
18. 脳死肝移植待機リストからみた本邦における非代償性肝硬変患者の現状. 第 52 回日本肝臓学会総会. 2016
19. C 型肝炎の残された問題点 M2BPGi を用いた SVR 後肝発癌予測. 第 41 回日本肝臓学会東部会. 2016
20. 肝がん治療後のインターフェロン・フリー治療が肝予備能に与えるインパクト. 第 15 回日本肝癌分子標的治療研究会. 2016
21. 食道粘膜障害における gender difference の検討. 第 48 回胃病態機能研究会. 2016

2-4 呼吸器内科

診療活動

静岡県東部、伊豆半島では呼吸器疾患専門医が不足しており、当院呼吸器内科では、大学病院としての役割である高度な検査、治療から市中病院的な役割まで、幅広く対応させていただいています。診療対象疾患は原発性肺癌、肺炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、間質性肺炎などですが、これらの疾患は年々増加傾向にあり重症化すれば生命に関わる疾患です。当科には日本呼吸器学会や日本呼吸器内視鏡学会の専門医、指導医が常勤医師として勤務しており、難易度の高い検査が実施可能で、重症度の高い専門性を必要とする呼吸器疾患を有する患者に対して最善の医療が提供できる体制を整えております。

昨年度は、年間で397人の入院患者を経験させていただきました。1日平均外来患者数は年々増加しており、平成28年度は75.5人と年々増加しています。これも近隣の医療機関から多数の症例を御紹介いただいた結果と感謝いたしております。

診療実績

平成28年度（平成28年4月—平成29年3月）

診療実績

外来患者数	1日平均	75.5人
入院患者数		397例/年
原発性肺癌		124例
悪性胸膜中皮腫		1例
縦隔腫瘍		1例
肺炎（ARDS、気道感染を含む）		112例
非結核性抗酸菌症		8例
結核		5例
胸膜炎、膿胸		17例
間質性肺炎		56例
気管支喘息		12例
慢性閉塞性肺疾患（急性増悪を含む）		7例
慢性呼吸不全急性増悪		7例
自然気胸		9例
気管支拡張症		4例
喀血		7例
原因不明の胸水精査		6例
縦郭リンパ節種大		2例
その他		19例

気管支鏡検査 188件/年（観察21件、病理診断目的119件（内EBUS使用例64件、EBUS-TBNA6件）、気管支肺胞洗浄47件、異物除去1件）

胸部超音波検査 16件/年（観察5件、胸水排液を含む穿刺11件）

次年度目標

1. 診療に関しては、従来通り、患者様の立場を尊重した、質の高い医療を提供したいと考えています。また、近隣医療施設と連携を保ち、協力しながら診療を進めていきます。
2. 研究に関しては、英文論文をより多く掲載させることを第 1 の目標とします。また、学会には積極的に参加し、当院からの研究の発信を積極的に行っていきます。
3. 学生教育は診療参加型実習が中心となっており、附属病院での役割が重要になっています。より良い学生教育ができるよう積極的に取り組んでいきます。

研究・教育活動

英文原著

1. Hara M, Iwakami S, Matsumoto N, Miyawaki T, Wada R*, Takahashi K. Carcinomatous pleuritis and pericarditis accompanied by pulmonary tuberculosis. *Respirology Case Reports*, 4 (6), 2016, e00202 doi: 10.1002/rcr2.202
2. Yoshikawa H, Fujii M*, Iwakami S*, Takeda I, Hayakawa D, Takahashi K. Chylothorax ascribed to chronic heart failure in a woman of very advanced years. *Geriatr Gerontol Int.* in press

和文報告その他

1. 岩神真一郎、鈴木宣史、宮脇太一、松本直久、原宗央、藤井充弘：高齢者に見られた原発性肺癌を合併した自己免疫性肺胞蛋白症の 1 例。田方医師会呼吸器研究会 2016 年 4 月 14 日 田方医師会館
2. 宮脇太一、鈴木宣史、松本直久、原宗央、藤井充弘、岩神真一郎：肺 *Mycobacterium abscessus* 症の一例。第 105 回内科症例検討会 2016 年 4 月 27 日 順天堂大学医学部附属静岡病院 G 棟 4F 研修医実習室 1
3. 岩神直子、中村愛、宮脇太一、松本直久、原宗央、石渡俊次、藤井充弘、岩神真一郎：過誤腫にクリプトコッカスを併発し肺癌との鑑別が困難であった 1 症例。第 109 回日本呼吸器学会東海地方学会 2016 年 5 月 21 日 名古屋市中小企業振興会館
4. 松本直久、中村愛、宮脇太一、原宗央、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎：妊婦に発症した肺炎球菌性膿胸の 1 例。第 109 回日本呼吸器学会東海地方学会 2016 年 5 月 22 日 名古屋市中小企業振興会館
5. 岩神真一郎：COPD の早期発見、早期治療。静岡県保険医協会 東部支部講演会 2016 年 6 月 15 日 三島市民文化会館
6. 松本直久、鈴木宣史、宮脇太一、原宗央、藤井充弘、岩神真一郎：肺炎様症状で発症した ANCA 関連血管炎の 1 例。田方医師会呼吸器研究会 2016 年 7 月 14 日 田方医師会館
7. 鈴木宣史、宮脇太一、松本直久、原宗央、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎：抗 ARS 抗体症候群に伴う間質性肺炎の 1 例。田方医師会呼吸器研究会 2016 年 7 月 14 日 田方医師会館
8. 宮脇太一、柳下薫寛、藤井充弘、中村愛、松本直久、高遼、原宗央、岩神直子、石渡俊次、岩神真一郎、高橋和久：通院距離が EGFR チロシンキナーゼ阻害薬の治療効果に及ぼす影響。日本臨床腫瘍学会学術集会 2016 年 7 月 28 日 神戸国際展示場
9. 鈴木宣史、宮脇太一、松本直久、原宗央、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎：コントロール困難喘息治療。田方呼吸器セミナー 2016 年 9 月 23 日 三島プラザホテル

10. 宮脇太一、鈴木宣史、松本直久、原宗央、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎：非小細胞肺がんの最近の話題（過去、現在～未来へ）。 田方呼吸器セミナー 2016年9月23日 三島プラザホテル
11. 岩神真一郎：ご存知ですか？タバコの手。 青木クリニック講演会 2016年10月18日 青木クリニック
12. 西牧孝奏、松本直久、原宗央、鈴木宣史、宮脇太一、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎：食道狭窄を伴う進行期肺腺癌に対しゲフェチニブの経管投与で症状改善が認められた2症例。 第110回日本呼吸器学会東海地方学会 2016年11月5日 名古屋市中心企業振興会館
13. 松本直久、原宗央、鈴木宣史、宮脇太一、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎：食道狭窄を伴う進行期肺腺癌に対しゲフェチニブの経管投与で症状改善が認められた2症例。 田方医師会呼吸器研究会 2016年11月10日 田方医師会館
14. 山田朋子、宮脇太一、松本直久、原宗央、藤井充弘、岩神真一郎：抗IFN- γ 抗体陽性を示した播種性非結核性抗酸菌症の一例。 第111回内科症例検討会 2016年11月16日 順天堂大学医学部附属静岡病院G棟4F面談カンファレンス室2
15. 岩神真一郎：身近に潜む呼吸器感染症～肺炎、結核、インフルエンザなど～。 第49回順天堂大学静岡病院市民公開講座 2016年11月22日 順天堂大学医学部附属静岡病院第1会議室
16. 宮脇太一、柳下薫寛、藤井充弘、鈴木宣史、松本直久、原宗央、岩神真一郎、高橋和久：外来化学療法において通院距離が治療効果に及ぼす影響。 第57回日本肺癌学会 2016年12月21日 福岡国際会議場
17. 岩神真一郎：CREについて 各職種の立場から。 順天堂大学医学部附属静岡病院、感染対策委員会研修会 2017年3月21日 順天堂大学医学部附属静岡病院第1会議室

2-5 腎臓内科

診療活動

腎臓内科は、腎疾患の終末像である末期腎不全(ESKD)を減少させる目標を掲げ、慢性腎臓病(CKD)(慢性腎炎、ネフローゼ症候群などの一次性腎疾患、糖尿病、血液疾患、自己免疫疾患による二次性腎疾患、多発性嚢胞腎などの遺伝性疾患)、急性腎障害(AKI)(薬剤性、環境因子)、水・電解質の異常や高血圧などを対象とし、診療に従事している。今年度もCKDに対してガイドラインに準拠した治療を行うとともに、疾患特異的な治療を選択するために積極的に腎生検を行った。AKIに対し、可能な限り外来で検査を施行して原因を追究し、迅速な対応を心掛けた結果、重症化を防止することができた。以上の成果として、初めて当科の一日平均外来患者数が40名を超え、紹介患者数も漸増したと考えられる。重症者の全身管理は、輸液や薬剤の選択・量の調整をはじめ、持続血液濾過透析療法(CHDF)をはじめとする血液浄化療法による回復へのサポートを行い、院内でAKIの発生防止とICU在室期間や予後の改善に貢献した。ESKDに対して、維持血液透析開始に必要な内シャント手術を自科で行い、他施設患者の急変時に対してもオンコール体制を整え対応したため、内シャント手術件数が増加した。在院日数の低減・入院病床の効率的運営のため、腎生検・内シャント手術は臨床パスを導入し、スタッフ間の情報共有および研修医教育の一環として、毎日朝・夕にカンファレンスを行っている。高齢化に伴う慢性腎臓病患者の増加に伴い、病床数も10から12に増床された。

診療実績

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
外来患者数(1日平均)	39.8人	39.9人	43.5人
病床稼働率	105.2%	102.7%	107.5%
血液浄化件数	7022件	6482件	7455件
血液浄化センター(10床)稼働率	111.9%	103.3%	118.7%
腎生検	4件	10件	14件
内シャント設置件数	70件	94件	120件

次年度目標

腎生検の件数は増加しているが、未だ放置されている慢性腎炎症候群患者の掘り起こしが必要と考えられる。入院ベッドを効率的に使用することにより、腎生検件数の増加を目指す。外来患者数、紹介患者数も徐々に増加しており、引き続きこの傾向の継続に努めたい。入院については、ベッドの稼働率は比較的良い状況であったが、在院日数の長期化が依然として問題であると考えられる。日数に及ぼす因子を明らかにし、ベッド回転率を上昇させる。内シャント手術件数は、手術室・病棟のご理解もあり、増えているが、さらに手術枠を効率的に使えるよう、手術スキルを改善していく。

研修医・学生教育については、朝・夕のカンファレンスに必ず同席させ、一日の診療の見通しとまとめを必ず行う。研修医については、静岡腎セミナーおよび静岡腎不全カンファレンスにて発表させ、学会活動についても学ぶサポートを行う。

研究活動は、日本腎臓学会・日本透析学会等において発表を行い、論文化を目指す。今年度は、昨年度に比べて、論文数がやや増加したが、引き続き数を増加させるべく活動する。

研究・教育活動

原著(英文)

1. Shimizu Y, Kobayashi T, Suzuki H, Suzuki Y, Horikoshi S, Tomino Y. Chronological change of the serum IgA/C3 ratio indicates the efficacy of tonsillectomy for IgA nephropathy. *J Clin Diagn Res* 2016, 4: 132. Doi: 10.4172/2376-0311.1000132
2. Matsuzaki K, Suzuki H, Kobayashi T, Shimizu Y, Tomino Y. Analysis of predictive factors for deterioration of renal function in chronic kidney disease. *J Nephrol Ther* 2016, 6:2 <http://dx.doi.org/10.4172/2161-0959.1000240>
3. Wakabayashi K, Io H, Nakata J, Nakamoto H, Sato M, Sasaki Y, Shimizu Y, Horikoshi S, Tomino Y, Suzuki Y. Effects of Cardiac Function with Postoperative Arteriovenous Fistula Blood Flow in Patients with Hemodialysis. *Blood Purif.* 2017 Feb 25;44(1):24-29. doi: 10.1159/000458146.

和文(総説)

1. 清水 芳男 腎臓病学の課題と未来—Nephrology Frontier 誌の足跡と貢献—臨床腎臓病学の課題と将来展望(1):腎炎、ネフローゼ症候群などについて *Nephrology Frontier* 15(04): 16-20, 2016
2. 戸塚 絢子、清水 芳男 IgA 腎症における半月体予後予測値に関する多施設共同研究。海外文献紹介 *Nephrology Frontier* 15(04): 86-7, 2016
3. 青山 留未、清水 芳男 急性腎障害(AKI)の再発予測因子 海外文献紹介 *Nephrology Frontier* 15(03): 42-3, 2016
4. 清水 芳男 Inhibitor of NF- κ B キナーゼサブユニット 2 (IKK2) の阻害は、半月体形成性腎炎の発症を抑制するが、進行を増悪させる。海外文献紹介 *Nephrology Frontier* 15(01): 74-5, 2016

学会発表(国内)

1. 清水 芳男、山田 芳、野原 奈緒、松本 真弓、狩野 俊樹、高森 建二、富野 康日己. 血清 BNP 調節による透析患者の痒みの軽減. 日本透析医学会学術集会・総会. 2016年6月11日. 大阪国際会議場
2. 若林 啓一、柳川 宏之、林 陽子、清水 芳男. 亜急性に発症し維持透析へ移行したステロイド抵抗性 IgG4 関連腎臓病の1例. 第46回日本腎臓学会東部学術集会. P-243. 2016年10月8日. 京王プラザホテル
3. 新田 周作、若林 啓一、戸塚 絢子、林 陽子、清水 芳男. 再発防止に苦慮した運動後急性腎障害の1例. 第49回静岡腎不全研究会 2017年3月5日. グランシップ静岡
4. 新見 昂大 若林 啓一 戸塚 絢子 林 陽子 清水 芳男. Proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits が疑われた一例. 第53回静岡腎セミナー. 2017年3月18日. ホテルコンコルド 浜松

2-6 糖尿病・内分泌内科

診療活動

糖尿病・内分泌内科では、現在 4 名の常勤と 1 名の非常勤医師(週 1 回)にて、糖尿病や脂質異常症をはじめとする代謝疾患と、内分泌疾患の診療を行っている。

当院は、日本糖尿病学会認定教育施設でもあり、糖尿病を最も多く診療している。2 週間の糖尿病支援入院を行っており、患者さんに行動変容を起こしてもらえよう、療養指導・行動療法に力を入れている。特に現在、地域医療連携室の協力も得て、病診連携にて紹介された患者さんには、当院外来を受診することなく、直接 2 週間の糖尿病支援入院をしていただけるシステムを運用している。実際に支援入院の 3 割程度はこの医療連携を通じた直接入院となっている。退院後は、地元の病院・クリニックに戻ってもらうことにより、逆紹介率を高め、今後も地域の先生方との連携を密に保っていきたいと考えている

診療実績

主科入院患者数(年間総数)	140 名
外来患者数(月平均)	1,701 名
外来インスリン治療患者数(月平均)	431 名

次年度目標

2 週間の糖尿病支援入院導入後、当科の主科入院患者数が増加し、地域の先生方との医療連携もスムーズになってきた。今後も逆紹介を積極的に行い、その代わりに、インスリン治療を要する専門性の高い症例をさらに多く診られるように努力していきたい。内分泌疾患の紹介も増えてきたため、内分泌疾患のクリニカルパスも作成し、負荷試験などの検査入院も円滑に行えるようにしていく。さらに学会発表や論文発表など、臨床研究についても結果が出せるように力を入れていきたいと考えている。

研究・教育活動

英文原著

1. J.Sato et al: A Randomized Controlled Trial of 130g / Day Low-Carbohydrate Diet in Type 2 Diabetes With Poor Glycemic Control. Clin Nutr 36 (4), 992-1000. 2016 Jul 18.
2. J.Sato et al: Comparison of the therapeutic effects of prednisolone and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in patients with subacute thyroiditis. Endocrine 55(1), 209-214. 2016 Sep 29.

著書

1. 齋藤大祐、杉本大介、河野結衣、佐藤文彦
「インスリン強化療法中の 2 型糖尿病患者における夜間低血糖を起こしにくい血糖降下薬追加投与によるインスリン注射回数減少の有用性の検討」 Diabetes Frontier Vol.27 No.3 2016-6, 1-6p
2. 古川康彦 (分担執筆)

「ベッドサイド型人工膵臓取り扱いマニュアル」診断と治療社、2017年5月15日初版

3. 古川康彦（分担執筆）

「理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識Q&A」医歯薬出版株式会社

2016年10月25日初版

4. 古川康彦

「運動療法が奏功した2型糖尿病患者の症例報告」Diabetes Update Vol.5 No.4 2016-10 28-33p

学会発表

1. 佐藤淳子 「日本人2型糖尿病患者の腸内細菌叢異常」第51回糖尿病学の進歩、シンポジウム5（代謝異常と腸内細菌）、2017年2月18日
2. 早稲田直子、佐藤淳子、飯田 雅、青山周平、若杉理美 「脳出血から高血糖高浸透圧症候群と糖尿病ケトアシドーシスを合併し、消化管壊死に至った1例」日本内科学会第231回東海地方会 津市 2017年2月19日
3. 小澁(和田)真実、川口幹裕、松田浩成、青山周平、古川康彦、佐藤淳子 「上腸間膜静脈血栓症を合併した糖尿病ケトアシドーシスの1例」日本内科学会第231回東海地方会 津市 2017年2月19日
4. 佐藤淳子他 「2型糖尿病患者の腸内細菌叢に対するプロバイオティクスの効果」
5. 第60回日本糖尿病学会年次学術集会 名古屋 2017年5月20日
6. 山崎 望, 新田周作, 富田裕之, 佐藤元律, 青山周平, 古川康彦, 佐藤淳子 「糖尿病ケトアシドーシスによる痙攣重積発作で意識障害が遷延した1例」日本内科学会第232回東海地方会 名古屋 2017年6月11日
7. Junko Sato et al. “Probiotics Reduces Bacterial Translocation in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.” American Diabetes Association 77th Scientific Sessions, San Diego, CA, June 10, 2017, Poster presentation

市民公開講座

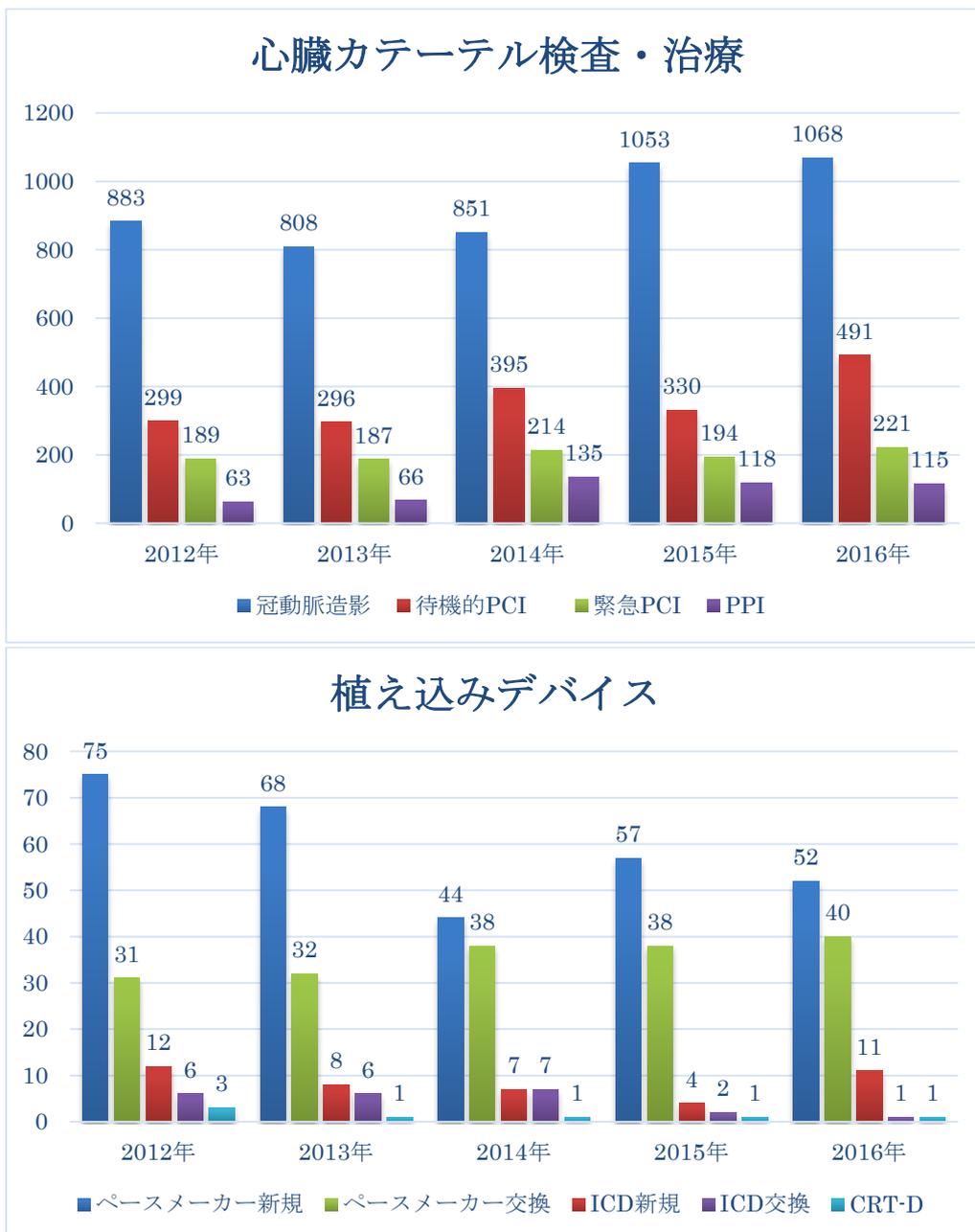
1. 順天堂大学第50回市民公開講座 「糖尿病はなぜこわい? ~あなたの生活習慣は大丈夫ですか~ 佐藤淳子、2017年12月14日、順天堂大学医学部附属静岡病院第一会議室
2. 伊豆の国市市民講座 「糖尿病について」 佐藤淳子、2017年6月29日 伊豆の国市市役所 韮山福祉・保健センター

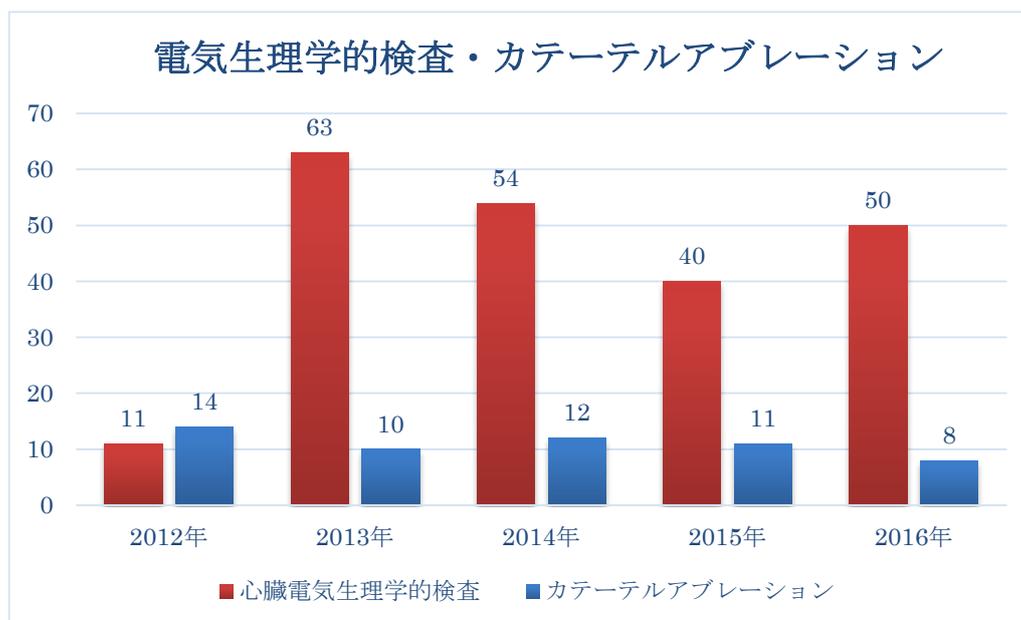
2-7 循環器科

診療活動

順天堂大学医学部附属病院としての先進高度医療への取り組みと静岡県東部地域の第三次救急救命センターとしての機能を更に充実させる。また、伊豆長岡町立病院を引き継いだ歴史的経緯と医療情勢の現況から地元の病院としての任務も果たせるように診療を行っている。世界に信頼される日本の医療として、診療情報を学術的価値の高いものとするに止まらず、国家成長戦略の一環並びに高齢化社会の医療としてより効率のよい診療形態を追及している。

診療実績





次年度目標

診療の質をさらなる充実と効率化を実現し、示唆に富む症例の報告及び現在進行中の臨床試験を完遂させて学術論文として完成させることを次の目標とする。

研究活動

原著(英文)

1. Nakamura M, Muramatsu T, Yokoi H, Okada H, Ochiai M, Suwa S, Hozawa H, Kawai K, Awata M, Mukawa H, Fujita H, Shiode N, Asano R, Tsukamoto Y, Yamada T, Yasumura Y, Ohira H, Miyamoto A, Takashima H, Ogawa T, Ito S, Matsuyama Y, Nanto S; J-DESSERT Investigators : Three-year follow-up outcomes of SES and PES in a randomized controlled study stratified by the presence of diabetes mellitus: J-DEsSERT trial. *Int J Cardiol.* 2016 Apr 1;208:4-12. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.01.023.
2. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Nishizaki Y, Okai I, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H. : Long-term effect of β -blocker in ST-segment elevation myocardial infarction in patients with preserved left ventricular systolic function: a propensity analysis. *Heart Vessels.* 2016 Apr;31(4):441-8. doi: 10.1007/s00380-014-0624-2. Epub 2015 Jan 9.
3. Konishi H, Miyauchi K, Dohi T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H. : Impact of stent length on clinical outcomes of first-generation and new-generation drug-eluting stents. *Cardiovasc Interv Ther.* 2016 Apr;31(2):114-21. doi: 10.1007/s12928-015-0362-0. Epub 2015 Oct 23.
4. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H. : Gender difference in long-term clinical outcomes following percutaneous coronary intervention during 1984-2008. *Atherosclerosis.* 2016 Apr;247:105-10. doi: 10.1016/j.atherosclerosis.2015.10.088. Epub 2015 Oct 24.
5. Ogita M, Daida H. : [Optimal medical therapy in diabetic patients with coronary artery disease]. *Nihon Rinsho.* 2016 Apr;74 Suppl 2:311-8.

6. Sai E, Shimada K, Miyauchi K, Masaki Y, Kojima T, Miyazaki T, Kurata T, Ogita M, Tsuboi S, Yoshihara T, Miyazaki T, Ohsaka A, Daida H. : Increased cystatin C levels as a risk factor of cardiovascular events in patients with preserved estimated glomerular filtration rate after elective percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents. *Heart Vessels*. 2016 May;31(5):694-701. doi: 10.1007/s00380-015-0674-0. Epub 2015 Apr 12.
7. Nakatsuma K, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Yamamoto T, Suwa S, Horie M, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI investigators. : Inter-Facility Transfer vs. Direct Admission of Patients With ST-Segment Elevation Acute Myocardial Infarction Undergoing Primary Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*. 2016 Jul 25;80(8):1764-72. doi: 10.1253/circj.CJ-16-0204. Epub 2016 Jun 28.
8. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Konishi H, Shitara J, Kunimoto M, Sonoda T, Iso T, Ebina H, Aoki E, Kitamura K, Tamura H, Suwa S, Daida H. : Contemporary sex differences among patients with acute coronary syndrome treated by emergency percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Interv Ther*. 2016 Aug 8.
9. Ogita M, Miyauchi K. : C-reactive protein and cardiovascular disease. *J Cardiol*. 2016 Aug;68(2):179. doi: 10.1016/j.jjcc.2015.11.001. Epub 2016 Jun 2.
10. Ogita M, Miyauchi K, Onishi A, Tsuboi S, Wada H, Konishi H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Kojima Y, Schwartz RS, Daida H. : Development of Accelerated Coronary Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-Out Swine with Balloon Injury. *PLoS One*. 2016 Sep 15;11(9):e0163055. doi: 10.1371/journal.pone.0163055. eCollection 2016.
11. Onda T, Inoue K, Suwa S, Nishizaki Y, Kasai T, Kimura Y, Fukuda K, Okai I, Fujiwara Y, Matsuoka J, Sumiyoshi M, Daida H. : Reevaluation of cardiac risk scores and multiple biomarkers for the prediction of first major cardiovascular events and death in the drug-eluting stent era. *Int J Cardiol*. 2016 Sep 15;219:180-5. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.06.014.
12. Iijima R, Nakamura M, Matsuyama Y, Muramatsu T, Yokoi H, Hara H, Okada H, Ochiai M, Suwa S, Hozawa H, Kawai K, Awata M, Mukawa H, Fujita H, Nanto S; J-DESsERT. : Effect of Optimal Medical Therapy Before Procedures on Outcomes in Coronary Patients Treated With Drug-Eluting Stents. *Am J Cardiol*. 2016 Sep 15;118(6):790-6. doi: 10.1016/j.amjcard.2016.06.050.
13. Natsuaki M, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shiomi H, Toyota T, Watanabe H, Ono K, Shizuta S, Tamura T, Inoko M, Inada T, Shirotani M, Matsuda M, Aoyama T, Onodera T, Suwa S, Takeda T, Inoue K, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2 investigators. : Short versus prolonged dual antiplatelet therapy duration after bare-metal stent implantation: 2-month landmark analysis from the CREDO-Kyoto registry cohort-2. *Cardiovasc Interv Ther*. 2016 Sep 19.
14. Hassan A, Dohi T, Miyauchi K, Ogita M, Kurano M, Ohkawa R, Nakamura K, Tamura H, Isoda K, Okazaki S, Yatomi Y, Daida H. : Prognostic impact of homocysteine levels and homocysteine thiolactonase activity on long-term clinical outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention. *J Cardiol*. 2016 Sep 27. pii: S0914-5087(16)30207-6. doi: 10.1016/j.jjcc.2016.08.013.
15. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kajimoto K, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Yamamoto T, Amano A, Daida H. : Comparing mortality between coronary artery bypass grafting and percutaneous coronary intervention with drug-eluting stents in elderly with diabetes and multivessel coronary disease. *Heart Vessels*. 2016 Sep;31(9):1424-9. doi: 10.1007/s00380-015-0746-1. Epub 2015 Sep

28.

16. Naito R, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H. : Temporal Trends in Clinical Outcomes Following Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Renal Insufficiency. *J Atheroscler Thromb*. 2016 Sep 1;23(9):1080-8. doi: 10.5551/jat.34397. Epub 2016 Feb 12.
17. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Tamura H, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Daida H. : Combined Effect of Body Mass Index and Renal Function on Long-Term Clinical Outcomes in Elderly Adults After Percutaneous Coronary Intervention. *J Am Geriatr Soc*. 2016 Sep;64(9):e39-41. doi: 10.1111/jgs.14223. Epub 2016 Aug 26.
18. Takahashi S, Shimada K, Miyauchi K, Miyazaki T, Sai E, Ogita M, Tsuboi S, Tamura H, Okazaki S, Shiozawa T, Ouchi S, Aikawa T, Kadoguchi T, Al Shahi H, Yoshihara T, Hiki M, Isoda K, Daida H. : Low and exacerbated levels of 1,5-anhydroglucitol are associated with cardiovascular events in patients after first-time elective percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Diabetol*. 2016 Oct 11;15(1):145.
19. Fujino M, Ishihara M, Ogawa H, Nakao K, Yasuda S, Noguchi T, Ozaki Y, Kimura K, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Ako J, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y; J-MINUET Investigators. : Impact of symptom presentation on in-hospital outcomes in patients with acute myocardial infarction. *J Cardiol*. 2016 Nov 14. pii: S0914-5087(16)30240-4. doi: 10.1016/j.jjcc.2016.10.002.
20. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Suwa S, Yamano M, Daida H. : Case report: Fulminant myocarditis associated with overwhelming pneumococcal infection. *Int J Cardiol*. 2016 Nov 15;223:706-707. doi: 10.1016/j.ijcard.2016.08.282.
21. Konishi H, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. : Impact of Lipoprotein(a) on Long-term Outcomes in Patients With Diabetes Mellitus Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol*. 2016 Dec 15;118(12):1781-1785. doi: 10.1016/j.amjcard.2016.08.067.
22. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H. : Preprocedural High-Sensitivity C-Reactive Protein Predicts Long-Term Outcome of Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*. 2016 Dec 22;81(1):90-95. doi: 10.1253/circj.CJ-16-0790.
23. Konishi H, Miyauchi K, Kasai T, Tsuboi S, Ogita M, Naito R, Dohi T, Tamura H, Okazaki S, Daida H. : Adequate time in therapeutic INR range using triple antithrombotic therapy is not associated with long-term cardiovascular events and major bleeding complications after drug-eluting stent implantation. *J Cardiol*. 2016 Dec;68(6):517-522. doi: 10.1016/j.jjcc.2015.10.019. Epub 2016 Mar 25
24. Kuramitsu S, Miyauchi K, Yokoi H, Suwa S, Nishizaki Y, Yokoyama T, Nojiri S, Iwabuchi M, Shirai S, Ando K, Okazaki S, Tamura H, Watada H, Daida H. : Effect of sitagliptin on plaque changes in coronary artery following acute coronary syndrome in diabetic patients: The ESPECIAL-ACS study. *J Cardiol*. 2017 Jan;69(1):369-376. doi: 10.1016/j.jjcc.2016.08.011.
25. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H. : Impact of gender difference on long-term outcomes of percutaneous coronary intervention for coronary artery disease in patients under statin

treatment. Heart Vessels. 2017 Jan;32(1):16-21. doi: 10.1007/s00380-016-0835-9. Epub 2016 Apr 23.

26. Kuji S, Kosuge M, Kimura K, Nakao K, Ozaki Y, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET Investigators. : Impact of Acute Kidney Injury on In-Hospital Outcomes of Patients With Acute Myocardial Infarction - Results From the Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET) Substudy. Circ J. 2017 Feb 9. doi: 10.1253/circj.CJ-16-1094.

総説

1. 荻田 学、代田 浩之:『新時代の臨床糖尿病学(下) 一より良い血糖管理をめざして—XI. 糖尿病合併症の病態・診断・治療』2. 慢性合併症 (5) 冠動脈疾患 4)糖尿病に起因する冠動脈疾患の治療 内科的治療、雑誌[日本臨床] 2016年4月増刊号
2. 荻田 学、代田 浩之:特集「進化する糖尿病治療! ~話題の新薬と治療法~」
I -3. 【内服薬】循環器内科から見たSGLT2阻害薬 (EMPA-REG アウトカム試験を受けての期待) 雑誌「月刊糖尿病」 2016年10月号 Vol.8 No.10
3. 荻田 学、代田 浩之:特集/糖尿病治療薬の心血管アウトカム
糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果 3. 糖尿病治療薬の心血管アウトカム抑制効果が求められるようになった背景 雑誌[ホルモンと臨床] 2016 Vol.62 p771-774
4. 荻田 学、代田 浩之:特集:糖尿病を合併した循環器疾患 6. 糖尿病患者の冠動脈疾患に対する血行再建の考え方 月刊新聞[Medical View Point] Vol37, No5 (2016年4月20日発行)

学会発表(国際)

1. Hideki Ebina , Satoru Suwa , Masahiro Mori , Nobuhiro Tanaka , Yohei Hokama , Motoki Fukutomi , Katsutaka Hashiba , Rei Fukuhara , Yasushi Ueki , Hirohide Matsuura , Tetsuya Matoba , Eizo Tachibana , Naohiro Yonemoto , Ken Nagao: Impact of onset to balloon time and short-term mortality in patients with cardiogenic shock complicating acute coronary syndrome treated with primary percutaneous coronary intervention: from JCS Shock Registry. American College of Cardiology 65th Annual Scientific Session, Chicago, USA, April 2-April 4, 2016
2. Shitara J, Ogita M, Miyauchi K, Wada H, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H: Association between sustained increase of c-reactive protein (CRP) and long-term mortality in patients with coronary artery disease treated with percutaneous coronary intervention European Society of Cardiology 2016, Rome Italy, 2016/8/30
3. Jun Shitara, Shuta Tsuboi, Katsumi Miyauchi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Tomotaka Dohi, Hirokazu Konishi, Ryo Naito, Shinichiro Doi, Hideki Wada, Hirohisa Endo, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida, : Impact of red cell distribution width on long-term mortality in patients treated with statin after percutaneous coronary intervention American Heart Association's Scientific Sessions 2016, New Orleans, USA, 2016/11/14
4. Norihito Takahashi, Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Katsumi Miyauchi, Shinichiro Doi, Ryo Naito, Hirokazu Konishi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Hiroyuki Daida: Combined Serum Albumin and C-reactive Protein Levels Predict Long-term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease after a First Percutaneous Coronary Intervention American College

of Cardiology's 66th Annual Scientific Session, March 17-19, 2017, Washington, DC, USA.

5. Taketo Sonoda, Manabu Ogita, Tetsuya Matoba, Masahiro Mohri, Nobuhiro Tanaka, Yohei Hokama, Motoki Fukutomi, Katutaka Hashiba, Rei Fukuhara, Yasushi Ueki, Hirohide Matsuura, Satoru Suwa, Eizo Tachibana, Naohiro Yonemoto, Ken Nagao: Association Between Presentation Time and Short-Term Mortality in Patients With Cardiogenic Shock Complicating Acute Coronary Syndrome :From JCS Shock Registry. American College of Cardiology's 66th Annual Scientific Session, March 17-19, 2017, Washington, DC, USA.

学会発表(国内)

1. 設楽 準、坪井 秀太、喜多村 健一、青木 映莉子、海老名 秀城、園田 健人、磯 隆史、國本 充洋、小西 宏和、荻田 学、諏訪 哲:腹部大動脈狭窄症に対してステント留置術を施行した症例 第 35 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会、2016 年 4 月 8 日、名古屋
2. 園田 健人、荻田 学、喜多村 健一、青木 映莉子、海老名 秀城、磯 隆史、設楽 準、國本 充洋、小西 宏和、坪井 秀太、諏訪 哲:左前下行枝の慢性完全閉塞病変に対し、Reverse wire technique を用いて経皮的冠動脈形成術を施行した症例 第 35 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会、2016 年 4 月 8 日、名古屋
3. 和田 英樹、荻田 学、宮内 克己、坪井 秀太、小西 宏和、設楽 準、國本 充洋、園田 健人、磯 隆史、海老名 秀城、青木 映莉子、喜多村 健一、田村 浩、諏訪 哲、代田 浩之:左主幹動脈に対して PCI を施行した ASC 患者の背景比較と入院中死亡の因子についての検討 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
4. 和田 英樹、荻田 学、宮内 克己、設楽 準、遠藤 裕久、土井 信一郎、小西 宏和、内藤 亮、坪井 秀太、土肥 智貴、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、代田 浩之:インスリン抵抗性と PCI 後の脳血管イベントの関連についての検討 第 25 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会・東京・2016/7/9
5. 設楽 準、坪井 秀太、宮内 克己、荻田 学、葛西 隆敏、土肥 智貴、小西 宏和、内藤 亮、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、代田 浩之:冠動脈形成術後のスタチン内服患者における赤血球容積粒度分布幅 (RDW) の有用性 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
6. 磯 隆史、小西 宏和、宮内 克己、設楽 準、和田 英樹、内藤 亮、坪井 秀太、荻田 学、土肥 智貴、葛西 隆敏、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、代田 浩之:経皮的冠動脈形成術後施行患者の予後と出血事象における ORBIT スコアの意義 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
7. 海老名 秀城、石原 正治、藤野 雅史、西村 邦宏、宮本 恵宏、中尾 浩一、安田 聡、野口 暉夫、尾崎 行男、木村 一雄、藤本 和輝、中間 泰晴、森田 孝、荻田 学、諏訪 哲:急性心筋梗塞患者における来院時間と院内死亡率の検討~Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition (J-MINUET)~第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
8. 園田 健人、荻田 学、宮内 克己、小西 宏和、坪井 秀太、内藤 亮、土肥 智貴、葛西 隆敏、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、代田 浩之:Gender difference of lipoprotein(a) and long-term clinical outcomes in patients with coronary artery disease after percutaneous coronary intervention. 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
9. 磯 隆史、小西 宏和、喜多村 健一、青木 映莉子、海老名 秀城、園田 健人、設楽 準、國本 充洋、坪井 秀太、荻田 学、磯田 菊生、諏訪 哲:保存的治療にて軽快した孤立性上腸間膜動脈解離の一例 第

64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京

10. 喜多村 健一、坪井 秀太、青木 映莉子、海老名 秀城、園田 健人、磯 隆史、設楽 準、國本 充洋、小西 宏和、荻田 学、磯田 菊生、諏訪 哲:心電図変化を伴う胸痛を契機に診断された褐色細胞腫の一例 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
11. 國本 充洋、坪井 秀太、青木 映莉子、喜多村 健一、海老名 秀城、園田 健人、磯 隆史、設楽 準、小西 宏和、荻田 学、磯田 菊生、諏訪 哲:内科的加療に難渋し LVAD 植込みを施行した D-HCM の一例 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
12. 國本 充洋、島田 和典、横山 美帆、星野 祐里子、高橋 秀平、塩澤 知之、相川 達郎、山田みき、本澤 晶雄、深尾 宏祐、代田 浩之:回復期心臓リハビリテーション患者における血管機能指標と運動耐容能との検討 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
13. 和田 英樹、荻田 学、諏訪 哲、代田 浩之:劇症型肺炎球菌感染症に合併した劇症型心筋炎の一例 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
14. 和田 英樹、荻田 学、宮内 克己、設楽 準、遠藤 裕久、土井 信一郎、内藤 亮、小西 宏和、坪井 秀太、土肥 智貴、葛西 隆敏、田村 浩、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、代田 浩之:Gender Differences in Patients with Statin Therapy Following Percutaneous Coronary Intervention 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
15. 恩田 俊仁、井上 健司、塩崎 正幸、木村 友紀、岡井 巖、諏訪 哲、藤原 康昌、住吉 正孝、代田 浩之:薬物溶出性ステント時代における各種心血管リスクスコアとバイオマーカーの心血管死予測効果の再評価 第 64 回日本心臓病学会学術集会、2016 年 9 月 23 日~25 日、東京
16. 磯 隆史:Impact of Body Mass Index on Long-Term Cardiac Outcomes in Patients After Percutaneous Coronary Intervention 第 81 回日本循環器学会学術集会、2017 年 3 月 17 日~19 日、金沢
17. 海老名 秀城:Comparison of radial versus femoral approach for urgent PCI in patients with acute myocardial infarction in Japan: from J-MINUET 第 81 回日本循環器学会学術集会、2017 年 3 月 17 日~19 日、金沢

2-8 小児科

診療活動

小児科は平成 10 年に発足し、以後「多くの common disease に対する日常診療から神経疾患・アレルギー疾患などの慢性疾患、さらにNICUを退院した児のフォローアップといった幅広い診療活動を通して地域医療に貢献すること」を基本理念にあげている。平成 28 年 4 月より新小児病棟(2C 病棟)がスタートし、付き添いなしの入院に対応できるように体制を整えた。当院以南には 24 時間・365 日小児の診療を行っている医療機関はないため、救急患者の受診は院内でも 1, 2 を争うほど多い。

専門外来の充実はここ数年の課題であったが、常勤医によるアレルギー外来・神経外来・発達外来を開設、また、本院や浦安病院よりサポートいただき心臓外来・腎臓外来を開設している。

診療実績

入院患者の疾患別分類

大分類	入院患者数	大分類の割合(%)
01.出生前障害	0	0.00
02.未熟児/新生児	31	4.14
03.免疫、アレルギーおよびその関連疾患	174	23.23
04.感染症	43	5.74
05.栄養障害および水、電解質異常	16	2.14
06.消化器疾患	43	5.74
07.呼吸器疾患	258	34.45
08.心血管系疾患	1	0.13
09.血液疾患	5	0.67
10.新生物および類縁疾患	4	0.53
11.腎尿路系疾患	36	4.81
12.内分泌疾患	49	6.54
13.代謝性疾患および先天性代謝異常	2	0.27
14.神経、筋疾患	62	8.28
15.精神・心身疾患	8	1.07
16.骨、関節疾患	2	0.27
17.皮膚疾患	4	0.53
18.眼疾患	0	0.00
19.耳鼻咽喉科疾患	1	0.13
20.その他	10	1.34
合計	749	100.00

入院実数、外来患者数

	平成28年度
入院延べ人数	4,823
入院実数	749
外来患者数	19,113

次年度目標

当科基本理念に沿った診療を引き続き心がけ、幅広い診療を維持していきたい。

新小児病棟は順調にスタートしており、昨年度を大きく上回る数の患者さんが入院されている。内容は常勤医が専門としている神経疾患・アレルギー疾患・内分泌疾患はもちろんであるが、それ以外にも非常にバラエティーに富んでおり、これは都心の大学病院ではみられない当院小児科の大きな特色といえる。29年度はこの特色を生かして3大目標を掲げたい。

1 点目、これは小川秀興理事長から当院への課題でもあるのだが、学生教育・研修医教育に注力し新戦力獲得につなげたいと考えている。ハード・ソフトとも小児科は充実しており今がそのときと思う。

2 点目は、災害医学研究センターに配備される次世代シーケンサーを用いてアレルギー疾患・精神神経疾患などの成因についてアプローチしていきたい。すでに発達遅滞児における DNA メチル化の解析はスタートしており、29年度中には論文発表までこぎつけたいと考えている。

3 点目。以前より計画していた脳性麻痺児に対する幹細胞投与による治療計画は、細胞ソースを同種他家に変更し新たに認可取得へ向けて動き出している。

研究・教育活動

原著

1. Nishizaki N, Nakagawa M, Hara S, Oda H, Kantake M, Obinata K, Uehara Y, Hiramatsu K, Shimizu, T. Effects of PMX-DHP for sepsis due to ESBL-producing E.coli in an extremely low-birthweight infant. *Pediatr Int.* 58: 411-4.
2. Ikeda N, Shoji H, Suganuma H, Ohkawa N, Kantake M, Murano Y, Shimizu T. Effects of insulin-like growth factor-1 during early postnatal period in intrauterine growth-restricted rats. *Pediatr Int.* 58: 353-8.
3. 馬場洋介、大塚宜一、清水俊明 抗原特異的 IgA 抗体は小児アレルギー患児の粘膜免疫応答において重要な因子である. *日本小児アレルギー学会雑誌* 30(2):237-8
4. 山田啓迪、古川岳史、中村明日香、原田真菜、福永英生、大槻将弘、秋元かつみ、高橋健、稀代雅彦、清水俊明 突然の哺乳力低下を主訴に発見され準緊急的手術にて救命し得た三心房心の 1 乳児例 *小児科臨床* 69(8):1377-1383
5. 河島恵、工藤孝広、藤井徹、細井賢二、遠藤周、池野充、安部信平、鈴木光幸、春名英典、大塚宜一、清水俊明 出血性貧血を来した直腸海綿状血管腫の 9 歳女児例 *小児科臨床* 69(10):1705-1709

総説

1. 馬場洋介、山崎晋、大塚宜一、清水俊明 IL-33 と炎症における免疫応答 アレルギーの臨床
Jan;36(1):57-9

講演

1. 寒竹正人 夏かぜから家族を守りましょう 第44回市民公開講座
2. 寒竹正人 出生後のNICU環境による児のDNA変化 第32回東部周産期研究会
3. 寒竹正人 こんなときどうする？ 幼児期の病気と対処法 順天堂大学保健看護学部
4. 寒竹正人 SGA児のエピゲノム解析 -IGF1とglucocorticoid receptor- 第61回日本新生児成育医学会教育セミナー
5. 有井直人 成長曲線からわかる小児の成長とその障害 第16回静岡県東部こども健康フォーラム
6. 有井直人 ねむりのはなし 知って得する・・・子どもの睡眠不足は何故悪いのか？ 夜更かしっ子大国、日本の実情睡眠不足は学力低下を招くって本当？ 青木クリニック勉強会
7. 有井直人 成長曲線からわかる小児の成長とその障害+新しい成長曲線の解説を少し 養護教諭の先生向け 成長障害勉強会
8. 有井直人 小児のけいれん 済生会川口総合病院 小児の健康教室
9. 馬場洋介、寒竹正人、清水俊明 免疫不全における血清IgG2の役割 第1回静岡県小児IgG研究会

学会発表

1. 寒竹正人 CLDを発症した早産超低出生体重児におけるグルココルチコイド受容体遺伝子メチル化の出生後変化 第61回日本新生児成育医学会 2016.12.2
2. 有井直人 発達障害にて発症し、低カルシウム血症を伴わないために診断が遅れた偽性副甲状腺機能低下症の1例 第58回日本小児神経学会学術集会 2016.6.3
3. 馬場洋介、寒竹正人、清水俊明 免疫不全における血清IgG2の役割 静岡県小児IgG研究会 2016.11.17
4. Baba Y, Ohtsuka Y, Kantake M, Shimizu T. The Significance of measurement of antigen-specific IgA in children with food allergy. The 53rd annual meeting of the Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology, Gunma, Japan 2016.10.8
5. Baba Y, Yoneyama T, Yamada H, Yamazaki S, Hohg A, Inage E, Mori M, Ohtsuka Y, Kantake M, Shimizu T. Serum ST2, but Not IL-33, Is Elevated in Children with Food Allergy Due to Low Dose Baked Milk. The 73rd annual meeting of American Academy of Allergy Asthma and Immunology. Atlanta, America 2017.3.5
6. 馬場洋介、山田啓迪、山崎晋、有井直人、大塚宜一、寒竹正人、清水俊明 小児気管支喘息における新たなバイオマーカーの検討-乳児喘息におけるIL-1RL1/ST2の役割- 第69回静岡小児アレルギー研究会 2017.2.25
7. 山田啓迪、馬場洋介、米山俊之、横倉友諒、山崎晋、本庄明日香、稲毛英介、森真理、大塚宜一、寒竹正人、清水俊明 Omalizumabを導入した気管支喘息重症持続型に対するFOTによる呼吸機能評価 第68回静岡小児アレルギー研究会 2016.7.9
8. 山田啓迪、馬場洋介、米山俊之、横倉友諒、本庄明日香、山崎晋、稲毛英介、森真理、大塚宜一、寒竹正人、清水俊明 オマリズマブを導入した気管支喘息重症持続型3例に対する強制オシレーション法による呼吸機能評価 第33回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 2016.7.17

9. 山田啓迪、馬場洋介、米山俊之、横倉友諒、山崎晋、本庄明日香、稲毛英介、森真理、大塚宜一、寒竹正人、清水俊明 当科における気管支喘息“重症間欠型”の検討 第 53 回日本小児アレルギー学会 2016.10.9
10. 秋本智史、馬場洋介、吉村良子、京戸玲子、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人 心室中隔欠損症に合併した気管支軟化症の 1 例 第 119 回日本小児科学会学術集会 2016.5.15
11. 田所愛弓、島田姿野、秋谷梓、庄野哲夫、原聡、織田久之、青柳陽、中澤友幸、鈴木恭子、新妻隆広、高橋利幸、大日方薫 大脳白質病変を伴う抗 MOG 抗体陽性視神経炎の 1 例 第 204 回日本小児科学会千葉地方会 2016.6.22
12. 田所愛弓、馬場洋介、宮林和紀、山田啓迪、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人 眼窩周囲蜂窩織炎を契機に発見された自己免疫性好中球減少症の 1 例 第 141 回日本小児科学会静岡地方会 2016.11.13
13. 宮林和紀、馬場洋介、権田裕亮、深江俊愛、井福真友美、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人 新生児マスキリーニングにより発見された古典的フェニルケトン尿症の 1 例 第 140 回日本小児科学会静岡地方会 2016.6.5
14. 宮林和紀、馬場洋介、田所愛弓、山田啓迪、有井直人、寒竹正人 乳児後天梅毒の 1 例 第 52 回静岡県東部臨床小児懇話会 2016.9.17
15. 宮林和樹、馬場洋介、田所愛弓、山田啓迪、権田裕亮、深江俊愛、井福真友美、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人、清水俊明 第 48 回日本小児感染症学会学術集会 2016.10.19
16. 宮林和紀、馬場洋介、田所愛弓、山田啓迪、権田裕亮、深江俊愛、井福真友美、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人、清水俊明 水平感染により発症した乳児後天梅毒の 1 例 第 48 回日本小児感染症学会総会 2016.11.19
17. 宮林和紀、馬場洋介、田所愛弓、山田啓迪、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人 稀な経過から発症した非白血性白血病の 1 例 第 142 回日本小児科学会静岡地方会 2017.3.12
18. 京戸玲子、馬場洋介、大野香奈、有井直人、寒竹正人、清水俊明 当科で経験した栄養失調症とアトピー性皮膚炎の検討 第 119 回日本小児科学会学術集会 2016.5.14
19. 河島恵、馬場洋介、田所愛弓、山田啓迪、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人 プレドニゾロン維持療法にて管理した自己抗体陽性の慢性 ITP の 11 歳男児例 第 54 回静岡小児血液研究会 2017.2.4
20. 岩崎卓朗、江原尚弘、河島恵、秋本智史、馬場洋介、有井直人、寒竹正人 2016 年当科入院川崎病症例のまとめ 第 53 回静岡県東部臨床小児懇話会 2017.2.25

2-9 一般外科

診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院外科は、科長(教授)を中心に、先任准教授1名、准教授4名を含め、14人の医局員と臨床研修医で構成されています。医局員は、消化器、乳腺の手術はもちろんのこと、上部内視鏡検査、大腸ファイバー検査、ERCP検査、上部消化管造影検査、注腸造影検査、腹部超音波検査、胆道造影検査、超音波内視鏡検査など、消化器疾患に必要なすべての検査を経験し指導を受けています。また消化器疾患に必要なENBD, PTCD, ESTなどの処置も上級医師とともに勉強しています。医局員は、日本外科学会外科専門医修練プログラムに従って、学年毎に難易度の高い手術を経験していきます。近年は、腹腔鏡手術が盛んで、当院でも積極的に取り入れており、若い医局員が少しでも早く腹腔鏡手術をマスターできるよう、学会や研究会参加したり、全国のラボに勉強に行ったり、医局では腹腔鏡手術のトレーニングが出来るよう器具を揃えています。またマニュアルを作り、腹腔鏡手術を定型化することは医局員の技術を向上させる近道と考えています。

外科は担当医制にチーム医療体制をとっており、朝夕2回の回診、週2回の術前カンファレンス、毎週月曜日の入院患者検討会と診療を第一とし、医局員全体のチームワークを大切にしています。

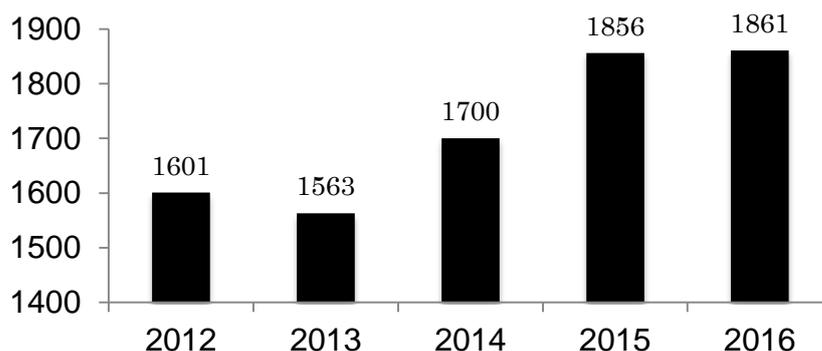
当施設は日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設であり、またがん治療拠点病院として消化器系の悪性疾患(食道がん・胃がん・肝がん・胆道がん・膵がん・結腸がん・直腸がん)や乳がんの治療にあたっています。とくに胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がんには3Dビデオカメラシステムの導入により、より安全な腹腔鏡手術を行い、さらに食道・胃・大腸の早期がんに対しては内視鏡による治療(ESD)を積極的に取り入れております。また乳がんに対しても、乳腺専門医(准教授)により乳房温存手術やセンチネルリンパ節生検などの縮小手術を施行しています。さらに形成外科と協力して、乳房再建手術も施行しています。

3次救命救急センターでは、外科専門医取得に必要な鈍的外傷による腹部実質臓器損傷や管腔臓器損傷、消化管穿孔の緊急手術を行っており、さらに上部消化管出血などの救急疾患の内視鏡治療を扱い、地域の救急医療に貢献しています。

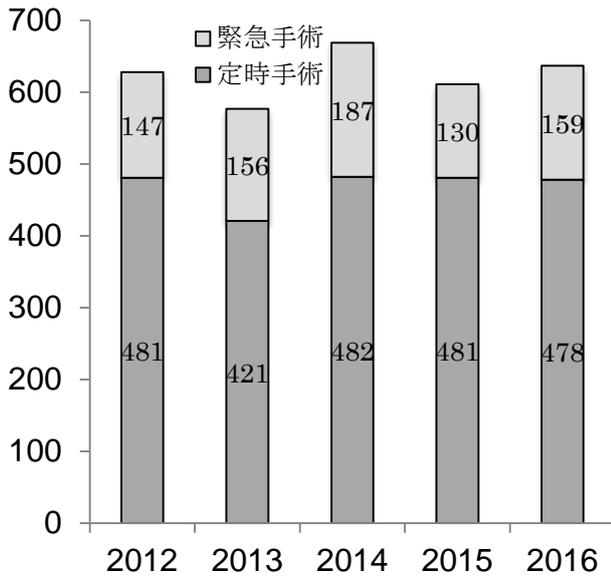
さらに、平成27年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に静岡病院の事業計画は高い評価を受け採択され、静岡災害医学研究センターが開設されました。外科でも当センターに7つの課題が採択され、医局員が研究面でも全力を尽くしています。

臨床実績

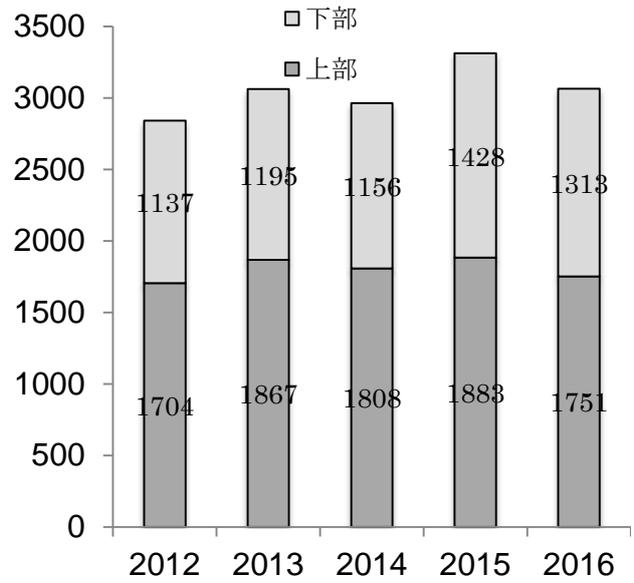
(1)当科における入院件数(過去5年)



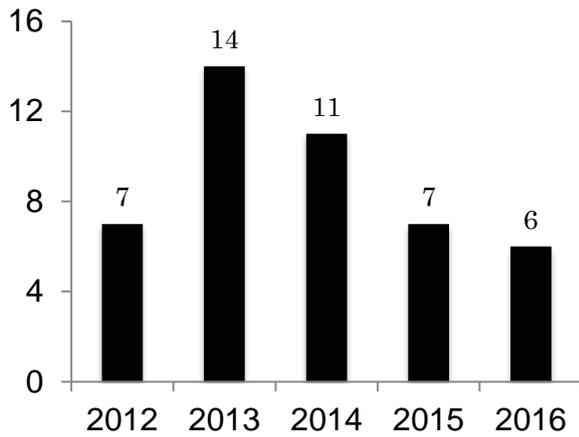
(2) 当科における手術件数(過去5年)



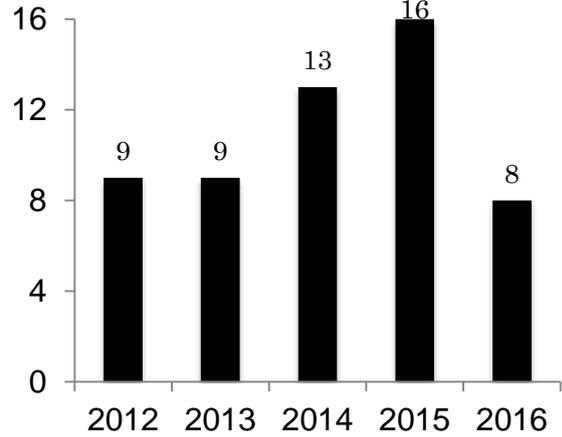
(3) 当科における内視鏡件数(過去5年)



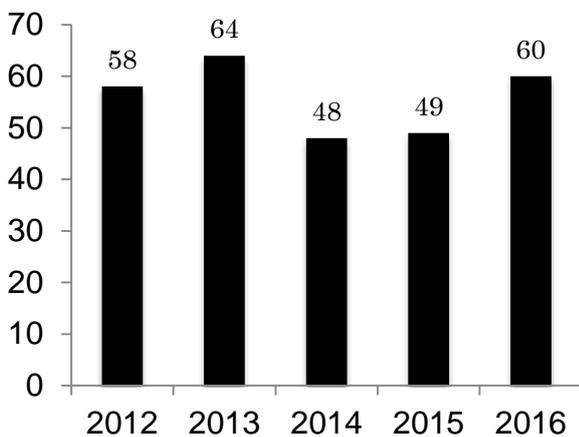
(4) 当科における食道手術件数(過去5年)



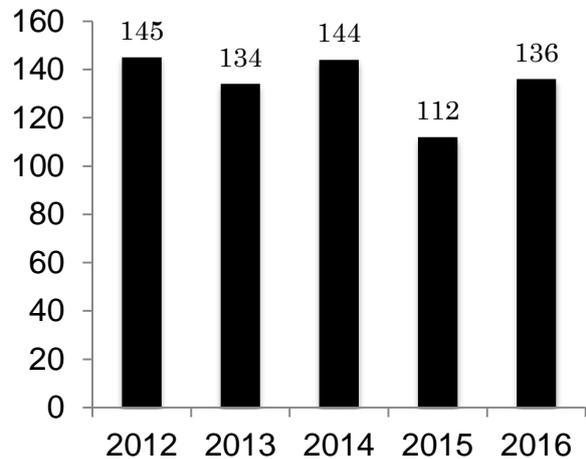
(5) 当科における膵臓癌手術件数(過去5年)



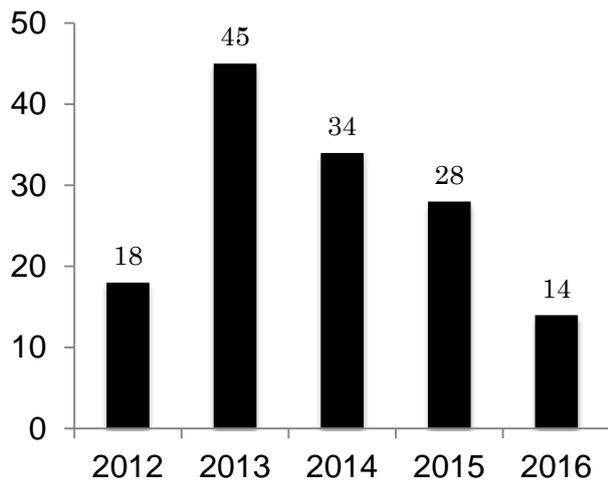
(6) 当科における胃・十二指腸手術件数(過去5年)



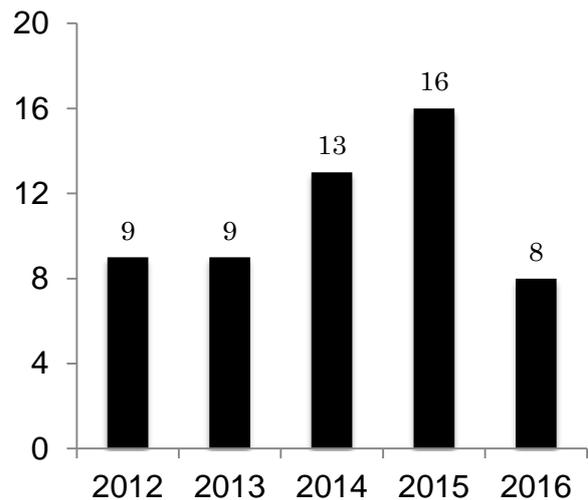
(7) 当科における大腸癌手術件数(過去5年)



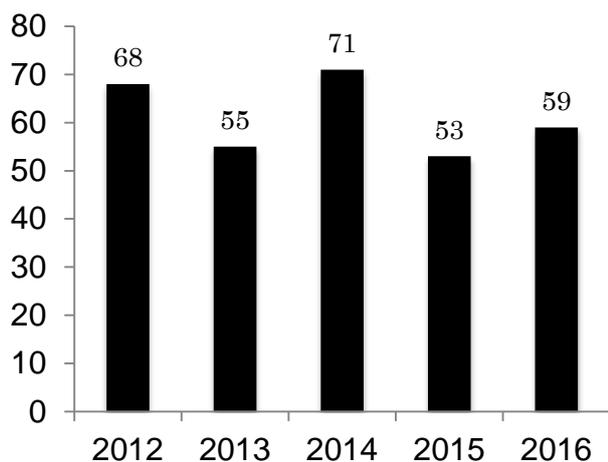
(8) 当科における肝臓癌手術件数(過去5年)



(9) 当科における胆道癌手術件数(過去5年)

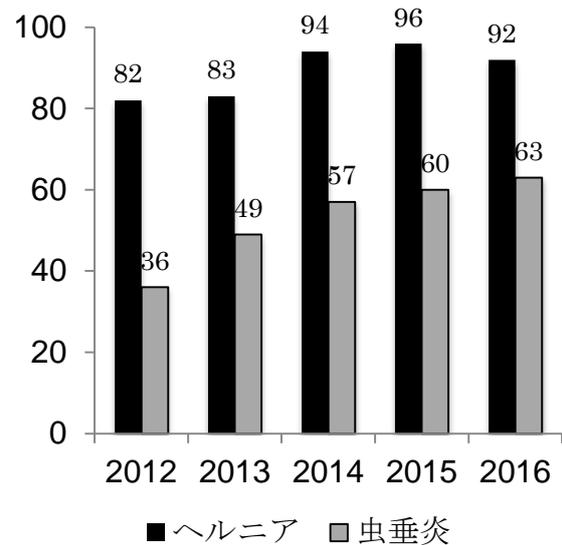


(10) 当科における乳癌手術件数(過去5年)



(11) 当科における急性性虫垂炎

・ヘルニア癌手術件数(過去5年)



次年度目標

平成29年度の目標は、より安全な医療の提供で、その一つとして低侵襲手術があげられます。結腸・直腸がん、胃がん、食道がんに対する腹腔鏡手術はすでに定型化され、より安全になり、手術創も小さく、術後の経過も極めて良好になっております。肝臓がんの腹腔鏡手術は安全性を第一に考え、肝部分切除術や肝外側区域切除術に対して、徐々に症例数が増加しています。このように鏡視下手術全盛の時代であり、昨年同様平成29年度も手術精度を向上させることにより、手術の安全性をより一層高めたいと考えております。

さらに手術時間の短縮、鏡視下手術の定型化により医局員のラーニングカーブの向上を目指したいと考えております。また研究面では、静岡災害医学研究センターを有効に利用して、質の高い研究を推進していき、臨床、教育、研究を推進し、大学附属病院として相応しい医局を目指していきたいと考えています。

研究・教育活動

英文原著

1. Hajime Orita, Malcolm Brock, Yoshimi Iwanuma, Kazunori Shimada, Hiroyuki Daida, Okio Hino, Yoshiaki Kajiyama, Masahiko Tsurumaru : Serum Fatty Acid Synthase As A Marker Of Esophageal Neoplasia Hereditary Genet 2016; 5:1
2. Tomoaki Ito, Tomoyuki Kushida, Mutsumi Sakurada, Hiroshi Maekawa, Hajime Orita, Konomi Mizuguchi, Koichi Sato : Two cases of laparoscopic simultaneous resection of colorectal cancer and synchronous liver metastases in elderly patients : international Journal of Surgery Case Reports 2016 ; 7: 27
3. Hiroshi Maekawa, Tomoaki Ito, Tomoyuki Kushida, Hajime Orita, Mutsumi Sakurada, Koichi Sato, Ryo Wada : Clinicopathological Significance of Fatty Acid Synthase Expression In Extrahepatic Cholangiocarcinoma : Oncology and Cancer Case Reports 2016 ; 2:2
4. Toshiaki Iba, Marcello Di Nisio, Jecko Thachil, Hideo Wada, Hidesaku Asakura, Koichi Sato, Naoya Kitamura, Daizoh Saitoh: Revision of the Japanese Association for Acute Medicine(JAAM) disseminated intravascular coagulation (DIC) diagnostic criteria using antithrombin activity. Critical Care2016;20:287
5. Yuki Tsuchiya, Tomoaki Ito, Mutsumi Sakurada, Tomoyuki Kushida, Hajime Orita, Hiroshi Maekawa, Miki Yamano, Ryo Wada, Koichi Sato : A case of giant leiomyosarcoma of the inferior vena cava with liver metastase : A surgicall challenge : Journal of Case Reports and Images in Surgery, Vol 2 , 2016; 9:2
6. Konomi Mizuguchi, Koichi Sato, Hiroshi Maekawa, Mutsumi Sakurada, Hajime Orita, Tomoyuki Kushida, Kouji Senuma, Tomoaki Ito, Hirokazu Matuzawa, Shunsuke Watanabe, Satoshi Tokuda, Shuhei Ueda, Ryo Wada : A case Report of Carbohydrate Antigen 19-9 Producing Advanced Gastric Cancer : Cancer and Clinical Oncology Vol 5 No.2, Oct .27, 2016

学会発表 国際学会

1. Hajime Orita, Malcolm Brock, Yoshimi Iwanuma, Kazunori Simada, Hiroyuki Daida, Okio Hino, Yoshiaki Kajiyama, Masahiko Tsumaru : Serum Fatty Acid Synthase As A Marker Of Digestive Neoplasia, Biomarkers 2016, Philadelphia, USA, 5th Dec, 2016
2. Sakuraba Sakuraba, Hajime Orita, Tomoaki Ito, Tomoyuki Kushida, Mutsumi Sakurada, Hiroshi Maekawa, Ryo Wada, Koichi Sato ; Pten as a Risk Factor of Recurrence in Gastrointestinal Stromal Tumors, Biomarkers 2016, Philadelphia, USA, 5th Dec, 2016

学会発表 国内学会

1. 櫻田睦 発表 重複癌のRAS変異結果が異なるケース, 大腸癌Expert Meeting (沼津リバーサイドホテル, 4階「秀丽」) 2016, 5.20
2. 徳田智史, 前川博, 加藤氷記, 山本陸, 上田脩平, 櫻庭駿介, 水口このみ, 宗像慎也, 内田隆行, 清水秀穂, 榎田知志, 折田創, 櫻田睦, 和田了, 佐藤浩一: 上行結腸に発生したinflammatory fibroid polyp の一例. 静岡県外科医会第234回集談会 (CSA貸会議室レイアツプ御幸町ビル6階) 2016.6.11
3. 清水秀穂: 当院におけるHER2陰性進行再発乳癌に対するBevacizumab + Paclitaxel療法の検討, 第24回日本乳癌学会学術総会, 東京(東京ビックサイト) 2016, 6.16~18
4. 水口このみ, 加藤氷記, 山本陸, 宮崎豪, 上田脩平, 徳田智史, 櫻庭駿介, 内田隆行, 宗像慎也, 清水秀穂, 榎田知志, 折田創, 櫻田睦, 前川博, 佐藤浩一: 十二指腸カルチノイドに対するLECS施行の経験. 静岡内視鏡外科研究会 (プラザバルデ) 2016.7.9

5. 内田隆行, 伊藤智彰, 前川博, 櫻田睦, 折田創, 榎田知志, 水口このみ, 櫻庭駿介, 徳田智史, 上田脩平, 佐藤浩一 : 当院におけるpostgastroctomy syndrome assessment scale-37(PGSAS-37)を用いたAboral pouchの術後QOL評価, 第71回日本消化器外科学会, 徳島(あわぎんホール, アステイ徳島)2016, 7.14~16
6. 徳田智史: 当院大腸癌症例における血中遊離DNAを用いたKRAS遺伝子解析, 第71回日本消化器外科学会, 徳島(あわぎんホール, アステイ徳島)2016, 7.14~16
7. 折田創: 当院におけるベシズマブを用いた高齢者大腸癌に対する長期維持治療の経験, 第54回日本癌治療学会学術集会, 神奈川(パシフィコ横浜)2016, 10.20
8. 小泉明博, 櫻庭駿介, 上田脩平, 徳田智史, 水口このみ, 内田隆行, 宗像慎也,
9. 清水秀穂, 榎田知志, 折田創, 櫻田睦, 前川博, 和田了, 佐藤浩一: 診断に苦慮したc-kit 陰性, CD34陰性の胃粘膜下腫瘍の一例.第78回日本臨床外科学会総会(ザ・プリンスさくらタワー東京)2016.11.24
10. 櫻庭駿介, 折田創, 上田脩平, 徳田智史, 水口このみ, 内田隆行, 宗像慎也, 清水秀穂, 榎田知志, 櫻田睦, 前川博, 和田了, 佐藤浩一: 大腸癌における原発巣部位別に検討したHER-2発現の検討, 日本臨床外科学会総会, 東京(グラントプリンスホテル新高輪)2016, 11.26
11. 水口このみ, 加藤氷記, 山本陸, 上田脩平, 徳田智史, 櫻庭駿介, 宗像慎也, 榎田知志, 折田創, 佐藤浩一: 表在性十二指腸腫瘍に対する治療戦略, 第29回日本内視鏡外科学会総会, 神奈川(パシフィコ横浜, 展示ホールB)2016, 12.9
12. 加藤氷記, 水口このみ, 山本陸, 上田脩平, 徳田智史, 櫻庭駿介, 宗像慎也, 榎田知志, 折田創, 佐藤浩一: 鏡視下手術にて治癒しえた正中弓状靭帯圧迫症候群の1例, 第29回日本内視鏡外科学会総会, 神奈川(パシフィコ横浜, 展示ホール)2016, 12.9
13. 宗像慎也: 腹腔鏡下大腸癌術後乳び腹水の検討, 第29回日本内視鏡外科学会総会, 神奈川(パシフィコ横浜, 会議センター4階)2016,12.9
14. 山本陸: 門脈血栓と限局性小腸壊死をきたしたプロテインS抗原活性低下の一例, 日本腹部救急医学会, 神奈川県(パシフィコ横浜)2017.3.3
15. 小笠大起, 佐藤浩一, 前川博, 櫻田睦, 折田創, 榎田知志, 内田隆行, 宗像慎也, 水口このみ, 櫻庭駿介, 徳田智史, 上田脩平, 李智榮, 加藤氷記, 山本陸, 和田了「噴門側胃切除術とス膈尾部・脾臓合併切除により完全一括切除なし得た胃原発性 Gastrointestinal stromal tumor(GIST)の1例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラザヴェルデ コンベンションホールB, 301会議室)2017.3.4
16. 櫻庭駿介: 体上部後壁の胃粘膜下腫瘍に対するLECSの1例, 静岡県外科医会第236回集談会(プラザヴェルデ コンベンションホールB, 301会議室)2017.3.4
17. 加藤氷記, 山本陸, 上田脩平, 徳田智史, 櫻庭駿介, 水口このみ, 宗像慎也, 内田隆行, 清水秀穂, 榎田知志, 折田創, 櫻田睦, 前川博, 佐藤浩一「術後11年目で腎転移をきたした直腸癌の1例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラザヴェルデ コンベンションホールB, 301会議室)2017.3.4
18. 徳田智史, 前川博, 加藤氷記, 山本陸, 上田脩平, 櫻庭駿介, 水口このみ, 内田隆行, 宗像慎也, 清水秀穂, 折田創, 榎田知志, 櫻田睦, 和田了, 佐藤浩一
19. 徳田智史, 前川博, 加藤氷記, 山本陸, 上田脩平, 櫻庭駿介, 水口このみ, 内田隆行, 宗像慎也, 清水秀穂, 折田創, 榎田知志, 櫻田睦, 和田了, 佐藤浩一「IPMCを併存した遠位胆管癌の一例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラザヴェルデ コンベンションホールB, 301会議室)2017.3.4
20. 上田脩平, 山本陸, 加藤氷記, 徳田智史, 櫻庭駿介, 水口このみ, 宗像慎也, 内田隆行, 清水秀穂, 榎田知志, 折田創, 櫻田睦, 前川博, 佐藤浩一「左卵巣静脈原発平滑筋肉腫の一例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラザヴェルデ コンベンションホールB, 301会議室)2017.3.4
21. 水口このみ, 山本陸, 加藤氷記, 李智榮, 上田脩平, 徳田智史, 櫻庭駿介, 宗像慎也, 内田隆行, 清水秀穂, 榎田知志, 折田創, 櫻田睦, 前川博, 佐藤浩一「子宮円靭帯に発生した平滑筋腫の一例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラザヴェルデ コンベンションホールB, 301会議室)2017.3.4

22. 三次悠斗、加藤氷記、山本陸、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一「乳腺アポクリン癌の一例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラサヴェルデ コンベンションホールB、301会議室)2017.3.4
23. 小泉明博、加藤氷記、山本陸、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一「虫垂粘液嚢腫の1例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラサヴェルデ コンベンションホールB、301会議室)2017.3.4
24. 山本陸、加藤氷記、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、榎田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一「腸重積をきたした回腸脂肪腫の1例」、静岡県外科医会第236回集談会(プラサヴェルデ コンベンションホールB、301会議室)2017.3.4
25. 上田脩平「DNAメチル化の検討」、第89回日本胃癌学会(広島国際会議場)2017.3.10

講演 等

1. 清水秀穂: 講演 乳癌について、H28 年度癌治療認定医及び薬物治療専門医研修、静岡(順天堂大学静岡病院 G棟4階視聴覚室)2016, 6.7
2. 水口このみ: 講演 表在性十二指腸に対する治療戦略, 第5回御茶ノ水外科フォーラム, 東京(御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター1F)2016, 7.23
3. 宗像慎也: 講演 「最新の大腸がんの科学療法」, 消化器研究会, 静岡(田方医師会)2016, 9.8

2-10 脳神経外科

診療活動

平成 28 年度は約 960 名の入院患者の診療に当たり、6 割が脳血管障害、2 割が神経外傷、10%弱が脳腫瘍症例であった。最近、数年間では入院患者数は年々増加の傾向であるが、同時に入院患者の平均年齢も上昇しており、地域の高齢化の影響が反映されている。

診療の大部分を占める脳血管障害では、約 50%が虚血性脳血管障害、約 25%が脳内出血、約 20%が未破裂動脈瘤、くも膜下出血を含む動脈瘤関連である。この割合も、重症度の高い脳内出血は、減少傾向にある一方で、心房細動をはじめとする心原性脳塞栓症、特に高齢者の心原性脳塞栓症の比率が高くなっている。平成 28 年度から血管内治療専門医が 2 名体制となり、平成 27 年度より導入した急性脳血栓回収療法に対してもより積極的な対応が可能となった。

一方で、放射線治療休止期間もあり脳腫瘍関連の症例が減少傾向にある。年度後半より定位放射線治療が可能となり、将来的に増加が予測される転移性脳腫瘍などにも対応できる体制を整え診療に当たっている。

診療実績

病床数	58 床
外来新患者数	1641 人
年間入院数	958 人
手術総数	463 件
腫瘍(脳、脊髄、眼窩)	39
動脈瘤	79
AVM	5
その他の血管障害	107
外傷	102
感染症	8
脊髄・脊椎疾患	4
機能外科	5
その他	78
血管内手術	36
緊急手術数	272 (58.7%)
集光照射	13

次年度目標

診療活動では、脳血管障害を中心に高齢者への対応が求められる。従来、手術適応、治療適応が見送られた症例についても治療介入の必要性が考えられ、脳神経外科による単一科の診療に限らず、複

数診療科にまたがるより高度な診療体制の確立が挙げられる。また、手術に関しても、周辺医療機関との連携もあり、より高度な手術手技な求められる症例が増加しており、医局員全体のスキルアップが不可欠である。

研究活動では、脳血管障害を中心に様々な研究に取り組んでおり、今後は結果の総括により教室の業績につなげられるよう医局員の支援体制を整えたい。

研究活動

英文原著

1. Yamamoto T, Mori K, Esaki T, Nakao Y, Tokugawa J, Watanabe M: Preventive effect of continuous cisternal irrigation with magnesium sulfate solution on angiographic cerebral vasospasms associated with aneurysmal subarachnoid hemorrhage:a randomized controlled trial. *Journal of Neurosurgery* Volume124, 1:18-26, 2016
2. Ishikawa K, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Nakao Y, Yamamoto T, Yanagawa Y: A comparison between evacuation from the scene and interhospital transportation using a helicopter for subarachnoid hemorrhage. *Am J Emerg Med.* doi: 10.1016/j.ajem.2016.12.007. [Epub ahead of print], 2016
3. Noda K, Ishimoto R, Hattori N, Okuma Y, Yamamoto T: Hemichorea improvement following endarterectomy for internal carotid artery stenosis. *J Neurol Sci* (371): 45-47, 2016
4. Sekiguchi K, Tsutsumi S, Arai S, Nonaka S, Suzuki T, Ishii H, Izumi H, Yasumoto Y:Osteochondroma Presenting as a Calcified Mass in the Sellar Region and Review of the Literature. *J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg* Nov, 2016

和文原著

1. 山本拓史, 中尾保秋, 渡邊瑞也, 木村孝興, 菅 康郎, 杉山夏来 : Borden type III 硬膜動静脈瘻に対する外科的治療. *脳卒中の外科* 44 : 367-374, 2016
2. 渡邊瑞也, 北村高之, 藤田修英, 鈴木皓晴, 杉山夏来, 清水勇三郎, 徳川城治, 中尾保秋, 山本拓史 : 狩猟用散弾銃による穿通性頭部外傷の一例. *神経外傷* 39 : 37-40, 2016

和文総説

1. 山本拓史:脳内出血に対する内視鏡下血腫除去術 *日本医師会雑誌* 第144巻・第11号 2286-2287, 2016

著書

1. 山本拓史 : 内視鏡を用いた多房性慢性硬膜下血腫の治療 *脳神経外科速報* vol.26 (6) メディカ出版 580-585, 2016

学会発表 (国際)

1. Yamamoto T : Endoscopic hematoma evacuation surgery in Japan. 5rth Shanghai Tokyo Friendship Neurosurgical Forum, Shanghai, Mar. 2017
2. Ueda T : Surgical cases of the distal middle cerebral artery aneurysm. 5rth Shanghai Tokyo Friendship Neurosurgical Forum, Shanghai, Mar. 2017

学会発表（国内）

1. 上野英明、石元玲央、渡邊瑞也、中尾保秋、山本拓史：再発性 *Cavernous Epidermoid Cyst* に対して *Extra-dural Temporopolar approach* を用いた一例. 第 8 回東海脳腫瘍手術手技研究会, 名古屋, Apr. 2016
2. 阿部瑛二、菅 康郎、木村孝興、渡邊瑞也、中尾保秋、山本拓史：*Cavum septum pellucidum* に対する *endoscopic double septostomy* 法の有効性. 第 90 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 富山, Apl. 2016
3. 山本拓史：脳卒中急性期における早期経腸栄養. 第 45 回日本脳卒中の外科学会学術集会, ランチオンセミナー, 札幌, Apl. 2016
4. 山本拓史、杉山夏来、菅 康郎、木村孝興、渡邊瑞也、中尾保秋、森健太郎：くも膜下出血に対する Mg 脳槽灌流療法の高齢化群に関する検討. *スパズムシンポジウム*, 札幌, Apl. 2016
5. 山本拓史、中尾保秋、渡邊瑞也、木村孝興、菅 康郎、石元玲央、新井 晶、阪本浩一郎、阿部瑛二：硬膜外前床突起削除を必要とする脳動脈流に対する外科的治療の適応と治療困難な大型内頸動脈瘤に対する工夫. 第 45 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, Apl. 2016
6. 渡邊瑞也：両側外転神経麻痺を呈した破裂脳底動脈先端部動脈瘤の 1 例. 第 45 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, Apl. 2016
7. 菅 康郎：当院における急性脳底動脈閉塞症に対する血栓回収療法. 第 45 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, Apl. 2016
8. 関口和哉：術中に両側皮質静脈流出を認めた前頭蓋底硬膜動静脈瘻の 1 例. 第 45 回日本脳卒中の外科学会学術集会, 札幌, Apl. 2016
9. 渡邊瑞也：抗血栓療法中の頭蓋内出血性病変における最近の動向. 静岡県東部地区 *Core Member Meeting*, 沼津, Apl. 2016
10. 中尾保秋：心原性脳塞栓症の予防の重要性. 静岡県東部地区コアメンバーミーティング, 沼津, Apl. 2016
11. 山本拓史：脳卒中患者への早期栄養介入の重要性. *ネスレ脳卒中栄養セミナーin 横浜*, 横浜, Apl. 2016
12. 菅 康郎：超急性期脳梗塞における血栓回収療法の現状と地域連携システム構築の試み. 静岡県東部脳卒中病診連携講演会, 三島, May. 2016
13. 山本拓史：内視鏡下脳内血腫除去術の基本. 第 36 回日本脳神経外科コンgres総会, ランチオンセミナー, 大阪, May. 2016
14. 山本拓史、中尾保秋、渡邊瑞也：新生児脳室内出血に対する *water jet irrigation* 法. 第 23 回静岡脳神経外科ビデオシンポジウム, 静岡, May. 2016
15. 山本拓史：脳血管疾患における抗血栓薬療法の現状. *タケキャブ発売 1 周年記念講演会 in 三島*, 三島, Jun. 2016
16. 山本拓史：脳卒中二次予防における抗凝固療法の意義. *血栓回収カンファレンス in 田方*, 伊豆の国, Jul. 2016
17. 上野英明、富山新太、池村涼吾、上田哲也、関口和哉、阿部瑛二、新井 晶、長谷川浩、菅 康郎、渡邊瑞也、中尾保秋、山本拓史、和田孝次郎、森健太郎、新井 一：*Augmentation of invadopodia formation in temozolomide-resistant or adopted glioma is regulated by JNK-paxillin axis* (テモゾロマイドに耐性化もしくは適応化した神経膠腫の浸潤突起形成の増加は JNK-paxillin 経路により制御される).

- 第 17 回日本分子脳神経外科学会, 東京, Aug. 2016
18. 山本拓史: 脳卒中二次予防における抗凝固療法の意義. 血栓カンファレンス in 下田, 下田, Sep. 2016
 19. 山本拓史: 脳卒中二次予防における抗凝固療法の意義. 血栓カンファレンス in 伊東, 伊東, Sep. 2016
 20. 山本拓史: 内視鏡下脳内血腫除去術の背景と review. 東海神経内視鏡フォーラム, 名古屋, Sep. 2016
 21. 中尾保秋: 急性期血栓溶解療法について. 賀茂医師会学術講演会, 下田, Sep. 2016
 22. 関口和哉、菅 康郎、池村涼吾、阿部瑛二、上田哲也、新井 晶、藤田修英、長谷川浩、上野英明、渡邊瑞也、中尾保秋、山本拓史: 脳深部悪性グリオーマに対する bevacizumab の使用経験. 静岡悪性神経腫カンファレンス 2016, 静岡, Sep. 2016
 23. 山本拓史、長谷川浩、菅 康郎、上野英明、渡邊瑞也、中尾保秋: 手術解剖に基づく内視鏡下血腫除去術の pitfall と recovery. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 24. 中尾保秋: 80 歳以上高齢者高血圧性脳出血症例連続 100 例の検討. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 25. 渡邊瑞也: 抗血栓療法中の脳出血発症例の検討. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 26. 上野英明、富山新太、池村涼吾、上田哲也、関口和哉、阿部瑛二、新井 晶、長谷川浩、菅 康郎、渡邊瑞也、中尾保秋、山本拓史、和田孝次郎、森健太郎、新井 一: テモゾロマイドに耐性化もしくは適応化した神経腫の浸潤突起形成の増加は JNK-paxillin 経路により制御される. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 27. 長谷川浩: 過去 10 年間にわたる脳膿瘍患者の特徴と治療法. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 28. 新井 晶: 脳室内穿破を伴う基底核出血に対し、double trajectory approach による内視鏡下血腫除去術を施行した 1 例. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 29. 阿部瑛二: 一過性偽性外転神経麻痺を呈した視床梗塞の一例. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 30. 上田哲也: Penicillium spp による真菌性硬膜下膿瘍・脳膿瘍を発症した一例. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 31. 関口和哉: Limb shaking にて診断された内頸動脈狭窄症において CEA が奏効した 1 例. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 32. 池村涼吾: 脊髄内腫瘍との鑑別が困難であった脊髄神経鞘腫の一例. 日本脳神経外科学会第 75 回学術総会, 福岡, Sep. 2016
 33. 山本拓史: ちょっと変わった動脈瘤の手術例. 第 37 回東海クモ膜下出血研究会, 名古屋, Oct. 2016
 34. 山本拓史: 心原性脳塞栓症から知る抗凝固療法の重要性～心房細動と DOAC～. 川崎学術講演会～脳梗塞について～, 川崎, Oct. 2016
 35. 山本拓史: 脳卒中予防における血圧管理の重要性～動脈硬化性病変と脳血管障害との関わり～. Patient Centered Treatment Seminar, 三島, Oct. 2016
 36. 山本拓史: 見逃されていた くも膜下出血. ストップ! NO 卒中プロジェクト 全国一斉エリア会議 in Shizuoka, 静岡, Oct. 2016

37. 山本拓史：脳外科医・脳卒中医へ伝えたい経腸栄養法. m3.COM, 東京, Nov. 2016
38. 中尾保秋：血圧管理の重要性と血栓予防. 脳卒中治療学術講演会, 沼津, Nov. 2016
39. 長谷川浩：超急性期脳梗塞における血栓回収療法の現状. 脳卒中治療学術講演会, 沼津, Nov. 2016
40. 山本拓史：脳卒中急性期における栄養療法. 第44回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, Nov. 2016
41. 山本拓史、長谷川浩、上野英明、渡邊瑞也、中尾保秋：高齢者脳内出血に対する内視鏡下血腫除去術の低侵襲性の評価と治療成績. 第23回日本神経内視鏡学会, シンポジウム, 東京, Nov. 2016
42. 山本拓史、渡邊瑞也、中尾保秋、宮武貞和：ラジオ波モノポーラー一体型吸引管の使用経験. 第23回日本神経内視鏡学会, 東京, Nov. 2016
43. 山本拓史：患者さんを幸せにする一次予防. 小群地区地域医療連携講演会～Network Meeting in 久留米北部～, 福岡, Nov. 2016
44. 山本拓史：心原性脳塞栓症から知る抗凝固療法の重要性～心房細動とDOAC～. 血栓カンファレンス, 富士, Nov. 2016
45. 長谷川浩：血栓回収療法における人的要因の後方視的検討. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, Nov. 2016
46. 中嶋伸太郎：急性期内頸動脈閉塞例に血栓回収療法とステント留置を併用した一例. 第32回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 神戸, Nov. 2016
47. 山本拓史：マニュアルに載っていない経管栄養－急性期から慢性期まで－. アボット Web セミナー, 東京, Nov. 2016
48. 山本拓史：心原性脳塞栓症から知る抗凝固療法の重要性～心房細動とDOAC～. 超高齢化社会における脳・心ケア講演会, 浜松, Dec. 2016
49. 山本拓史：DOAC 内服中の視床出血に対して内視鏡下血腫除去術を施行した症例. 静岡県東部 NS 会, 三島, Dec. 2016
50. 山本拓史：ちょっと変わった動脈瘤の手術例. 順天堂大学脳神経外科学術集会, 東京, Dec. 2016
51. 山本拓史：心原性脳塞栓症から知る抗凝固療法の重要性～心房細動とDOAC～. 日常診療に役立つ脳卒中治療勉強会, 浜松, Dec. 2016
52. 山本拓史、小川薫、浅田祐香子、高山卓也：非糖尿病患者における脳卒中急性期の経管経腸栄養の血糖値に及ぼす影響と低GI低GL製剤の効果について. 第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 岡山県, Feb. 2017
53. 関口和哉：転移性脳腫瘍の再発と放射線壊死の鑑別における画像診断の限界と有効性. 第17回日本術中画像情報学会, 鹿児島, Mar. 2017
54. 山本拓史：非侵襲的頭蓋内圧センサーの有効性と使用経験. 第40回日本脳神経外傷学会, 東京, Mar. 2017
55. 山本拓史：Autophagyを活性化する trophic feeding のくも膜下出血患者への応用と可能性～preliminary report～. STROKE2017, シンポジウム, 大阪, Mar. 2017
56. 山本拓史：後頭蓋窩硬膜動静脈瘻における解剖学的分類と手術アプローチ. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017
57. 山本拓史：こんなに大事な脳卒中患者の栄養管理. STROKE2017, ランチョンセミナー, 大阪, Mar. 2017
58. 中尾保秋：80歳以上高齢者高血圧性脳出血 手術例の検討. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017

59. 渡邊瑞也：脳梗塞にて発症した中大脳動脈遠位部隔離性動脈瘤の1例. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017
60. 上野英明：治療に難渋した脳動静脈奇形（AVMs）に合併した髄液鼻漏の一例. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017
61. 長谷川浩：内頸動脈海綿静脈洞瘻の特徴と治療法. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017
62. 藤田修英：脳梗塞で発症し画像上経時的変化を捉えられた小児内頸動脈解離の1例. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017
63. 中島伸太郎：急性期内頸動脈閉塞例に血栓回収療法とステント留置術を併用した一例. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017
64. 上田哲也：STA-MCA バイパスを併用した開頭クリッピング術にて根治しえた末梢性未破裂中大脳動脈瘤の1例. STROKE2017, 大阪, Mar. 2017

その他

1. 山本拓史：心房細動による脳梗塞の1次予防、2次予防について考える～日本人に最適な治療とは？～. リクシアナ Web 座談会@東海名古屋, Oct. 2016

2-11 整形外科

診療業務

本年の手術件数は諸処の事情からおよそ 100 件ほど減少し、1065 件でした。

外傷・急性疾患と慢性疾患の割合は 6:4 であり、その内訳もほぼ例年と同様でした。今年度は電子カルテの導入と若手のドクターが多く赴任した事もあり、治療内容が煩雑にならないように気を配りました。彼らの仕事がより充実したものになるように厳しく、また整形外科学への興味が継続するように指導をしています。

今後も当科ではより質の高い医療を提供し、微力ながら地域医療の一躍を担えるように努力していきます。今後とも皆様からの患者さんの御紹介とともに御指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ひとの流れ

4 月に高橋 Dr が 4 年ぶりに当院で初期研修終了後に直接当科へ入局してくれた。6 月に移動したのは安田 Dr が実家へ、武田、和田 Dr が浦安へ、並木 Dr は院生として練馬へもどった。赴任してきたのは根本、東村、大澤、眞島、大谷 Dr、半年交替で練馬から林、加藤 Dr が赴任した。東京臨海病院から落合 Dr が 1 月に 22 年ぶりに伊豆に赴任、伊豆保健医療センターの科長をお願いしている。また、岐阜大学の救急科から国内留学を 3 年間してくれた三宅喬人 Dr がこの 2 月で大学院に入学のため岐阜大へもどった。後方支援病院の中伊豆にかなりの人員を外勤でさいている状況は変わらない。7 月には京都大学から糸井 Dr が復職することが決定している。

診療実績

疾患別入院患者数(平成28年1月1日～12月31日)

1. 外傷		664	人
1) 骨折・脱臼			
	脊椎骨折(外傷性)	56	人
	大腿骨頸部骨折	84	人
	四肢の骨折(脱臼骨折を含む)	330	人
	脱臼(骨折のないもの)	3	人
	骨粗鬆症等に伴う胸・腰椎圧迫骨折	7	人
	抜釘目的の入院	38	人
	その他	47	人
2) 捻挫・靭帯損傷等			
	膝関節(半月板損傷を含む)	21	人
	足関節	0	人
	その他	4	人
3) 神経・腱損傷			
	アキレス腱	0	人
	手伸筋腱・屈筋腱	13	人
	脊髄損傷	16	人
	末梢神経損傷	5	人
	その他	3	人
4) その他の外傷性疾患		37	人
2. 疾患		401	人
1) 脊椎疾患			
	頚椎疾患	39	人
	腰椎疾患	66	人
	急性腰痛症	0	人
	脊髄・脊椎腫瘍(転移性腫瘍を含む)	12	人
	その他	4	人
2) 変形性関節症			
	変形性膝関節症	39	人
	変形性股関節症	109	人
	その他の関節症	19	人
3) 関節リウマチ等の膠原病疾患		13	人
4) 骨壊死		12	人
5) 化膿性疾患		40	人
6) その他の関節疾患		20	人
7) 四肢・骨盤の骨・軟部腫瘍			
	悪性腫瘍(転移性腫瘍を含む)	8	人
	良性腫瘍	2	人
8) その他の疾患		18	人
	計	1,065	人

研究・教育活動

原著(英文)

1. Toshiya Kudo, Akira Hara, Hideaki Iwase, Satoshi Ichihara, Masashi Nagao, Yuichiro Maruyama, Kazuo Kaneko:
Biomechanical properties of orthogonal plate configuration versus parallel plate configuration using the same locking plate system for intra-articular distal humeral fractures under radial or ulnar column axial load. *Injury*,
Int. J. Care Injured 47: 2071-2076, 2016.
2. Naito K, Sugiyama Y, Igeta Y, Kaneko K, Obayashi O:
Thorough debridement and immediate primary wound closure for animal bite injuries of the upper limbs.
Eur J Trauma Emerg Surg 42:213-217, 2016.
3. Naito K, Sugiyama Y, Aritomi K, Nagahama Y, Tomita Y, Obayashi O, Kaneko K:
Assessment of dorsal instability of the ulnar head in the distal radioulnar joint: comparison between normal wrist joints and cases of ruptured extensor tendons.
Eur J Orthop Surg Traumatol 26(2) : 161-166, 2016.
4. Sugiyama Y, Naito K, Obata H, Kinoshita M, Aritomi K, Kaneko K, Obayashi O:
Devising for a distal radius fracture fixation focus on the intra-articular volar dislocated fragment.
Ann Med Surg (Lond). Apr 14;8: 1-5, 2016.
5. Futamura K, Baba T, Homma Y, Mogami A, Kanda A, Obayashi O, Sato K, Ueda Y, Kurata Y, Tsuji H, Kaneko K:
New classification focusing on the relationship between the attachment of the iliofemoral ligament and the course of the fracture line for intertrochanteric fractures.
Injury 47(8): 1685-1691, 2016.
6. Obayashi O, Obata H, Naito K, Kanda A, Itoi A, Morohashi I, Mogami A, Kaneko K:
Recurrence of acute myelogenous leukemia with granulocytic sarcoma-associated tarsal tunnel syndrome in an elderly patient.
J Orthop Sci. available on line 2016 Jul 21. (In press)

原著(邦文)

1. 大林治、前田浩行、最上敦彦、小林敦郎、岩瀬秀明、金子和夫:
TKA 術前と術後1年での重心動揺計による% COP 移動可能距離の検討。
臨床バイオメカニクス 37, 295-300, 2016.
2. 諸橋 達、最上敦彦、神田章男、大林治、金子和夫:
ショートステム OptiMys の術中骨折および術後沈み込み症例から考える固定様式と応力集中部位の検討。
Hip Joint 42, 734-738, 2016.
3. 武田純、最上敦彦、和田知樹、大林治、金子和夫:
SCORPIO® NEO を用いた鎖骨遠位端骨折の治療経験。
骨折 38, 396-600, 2016.

学会発表

1. 田中将、:
骨粗鬆症性椎体骨折の CT を用いた予後不良因子の検討。
第 131 回北海道整形災害外科学会, June. 4-5. (函館)
2. 前田浩行、金子和夫、前田陸浩、岩瀬秀明、柿沼裕貴、武井祐輔、三井和幸:
ターニケット駆血後の運動器合併症の検討
第 53 回日リハビリテーション医学会学術集会, June, 9-11, 2016. (京都)、プログラム・抄録集: I248
3. 最上敦彦、二村謙太郎、大林治、金子和夫:

不安定型骨盤輪骨折に対する脊椎インストレーションを用いた治療戦略~外傷外科医から~
第42回日本骨治療学会, パネルディスカッション, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S49

4. 杉山陽一、小畑宏介、木下真由子、内藤聖人、金子和夫:
豆状骨亜脱臼は橈骨遠位端骨折の術後治療成績に影響を及ぼすか?
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S120
5. 三宅喬人、最上敦彦、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、大林治、金子和夫:
脊椎インストレーションを使用した仙骨腸骨間固定。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S169
6. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫:
手術中整復操作によりバイポーラトリアルカップが骨盤内に迷入した一例。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S234
7. 諸橋達、三宅喬人、二村謙太郎、神田章男、最上敦彦、大林治、金子和夫:
ショートステム Optimys を用いた THA における術中ステム周囲骨折症例の検討。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S271
8. 二村謙太郎、大林治、最上敦彦、諸橋達、神田章男、辻英樹、斉藤丈太、倉田佳男、上田泰久、金子和夫:
大腿骨転子間骨折の新分類。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S275
9. 松尾智次、最上敦彦、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、大林治、金子和夫:
大腿骨遠位骨幹部骨折(Infraisthmal fracture)に対する順行性髄内釘の治療経験。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S309
10. 田中将、糸井陽、大林治、最上敦彦、諸橋達、神田章男、二村謙太郎:
肋椎関節損傷が胸椎損傷に与える影響
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S323
11. 高橋良介、大林治、最上敦彦、糸井陽、田中将、金子和夫:
環椎後弓スクリューを用いた C1-2 hybrid fixation による創内創外固定を行った高齢者の歯突起 Anderson type 2。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S334
12. 三宅喬人、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治、金子和夫:
側方圧迫型骨盤輪骨折 (Young-Burgess 分類 LC1) の保存療法の臨床成績。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S382
13. 青木浩平、工藤俊哉、丸山裕一郎、前澤克彦、原 章、西嶋智子、馬場智規、金子和夫、二村謙太郎、山本康弘:
下腿開放骨折 Gustilo type 3b の治療成績。
第42回日本骨治療学会, July, 1-2, 2016 (東京)、プログラム・抄録集:S416
14. 小見桃子、三宅喬人、小畑宏介、二村謙太郎、神田章男、諸橋達、最上敦彦、大林治:
脛骨高位骨切り術(HTO)術後に深部静脈血栓(DVT)による肺塞栓(PE)と奇異性塞栓症を合併した1例。
第183回静岡県整形外科医会集談会, July, 9, 2016. (浜松)
15. 諸橋達、 :
殿部痛に対する股関節注射による診断と治療-坐骨神経痛として漫然と治療されていた症例の鑑別の必要性。
第29回日本臨床整形外科学会学術集会, July, 15-18. (札幌)
16. Maeda H, Maeda M, Iwase H, Kaneko K, Kakinuma Y, Takei Y, Mitsui K:
Investigation of Optimal Pressure and Evaluation of Tourniquet Avascularization to Prevent Motor Complication
-Development of a new Device.
38th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society, Aug., 16-20, 2016.
(Florida, USA)

17. 最上敦彦、：
大腿骨転子部粉碎骨折に対する大転子サポートプレート付き CHS による治療の適応と限界。
第 65 回東日本整形災害外科学会, Sep., 22-23 (箱根)
18. 前田浩行、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、雨宮将太、武井祐輔、柿沼裕貴、三井和幸：
EHD 現象を利用した新しいターニケットによる駆血圧、駆血評価の検討
第 43 回日本臨床バイオメカニクス学会, Oct. 8-9, 2016. (札幌)、プログラム・抄録集:133
19. 前田浩行、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、武井祐輔、柿沼裕貴、三井和幸：
ターニケットによる駆血後の合併症の検討ー至適圧力と駆血の評価ー
第 31 回日本整形外科学会基礎学術集会, Oct. 13-14, 2016 (福岡)、J. Jpn. Ortho. Assoc 90, S1635, 2016.
20. 諸橋達、大林治、最上敦彦、神田章男、岩瀬秀明、金子和夫：
Optimys 103 症例と Fitmore 15 症例の検討による反省と日本人への適応範囲。
第 43 回日本股関節学会学術集会 パネルディスカッション, Nov., 4-5, 2016 (大阪)、プログラム・抄録集 231
21. 神田章男、大林治、最上敦彦、諸橋達、金子和夫：
股関節 direct lateral approach における中殿筋・小殿筋損傷。
第 43 回日本股関節学会学術集会, Nov., 4-5, 2016 (大阪)、プログラム・抄録集 342
22. 諸橋達、：
先天性内反足に対する距踵関節固定術後 46 年で疼痛を呈した球状足関節症に対して脛骨遠位斜め骨切り術を行った1例。
第 41 回日本足の外科学会学術集会, Nov., 17-18 (奈良)
23. 諸橋達
一体型人工骨頭置換術後 20 年経過症例に対してステム温存+Dual mobility Cup を用いた部分再置換を行った 1 例
第 47 回日本人工関節学会 February24-25(沖縄県)
24. 最上敦彦
大腿骨遠位部における急性期処置としての創外固定 第
第 30 回創外固定・骨延長学会学術集会 March3-4(福岡)
25. 田中将
1-3 強直性脊椎障害に伴った脊椎損傷の治療成績と問題点
第 12 回 お茶の水脊椎セミナー February18(東京)
26. 二村謙太郎
The keynote of pilon fractures
第 57 回関東整形災害外科学会 March17-18(東京)

講演・その他

1. 最上敦彦
ARISTOPHN 上腕骨近位端骨折の治療戦略。
第 2 回順天堂若手整形外傷検討会, Aug., 20 (浦安)
2. 大林治：
第 6 回静岡東部骨粗鬆症学術講演会、特別講演座長, Aug., 25, 2016. (沼津)
3. 諸橋達
一体型人工骨頭置換術後 20 年の症例にステムを残したまま Dual mobility カップのライナーを用いて行った THA..
第 9 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, Oct., 1, 2016. (東京)
4. 大林治：
骨粗鬆症の最近の話題について
三島市医師会外科系医会、学術講演, Oct., 5, 2016. (三島)

5. 二村謙太郎:
第127回中部日本整形外科災害外科学会, 座長, Sep. 30 (松本)
6. 大林治:
第36回静岡骨軟部腫瘍研究会, 世話人, Oct. 22, 2016. (三島)
7. 大林治:
静岡県デュピイトラン拘縮治療フォーラム, 基調講演座長. Nov., 26, 2016. ()
8. 高橋良介
第12回 お茶の水脊椎セミナー- February18(東京)
9. 最上敦彦
第29回日本肘関節学会学術集会 February3-4(東京)
10. 大林治
第47回 人工関節学会 February24-25(沖縄)
11. 最上敦彦
Zimmer Biomet Trauma Bioskill Course February24-27(タイ王国)
12. 高橋良介
Zimmer Biomet Trauma Bioskill Course February24-27(タイ王国)
13. 眞島崇史
Zimmer Biomet Trauma Bioskill Course February24-27(タイ王国)
14. 最上敦彦
第29回日本肘関節学会学術集会 February 3-4 (東京)
15. 最上敦彦
第11回日本CAOS研究会 March9-10(新潟)
16. 最上敦彦
第5回日本脆弱性骨折ネットワーク March10-11(新潟)
17. 最上敦彦
札幌徳州会 Trauma Bioskill Course March16-19(タイ)
18. 神田章男
第1回静岡県東部整形外科難治性感染症研究会 March1(静岡)
19. 大林治
「関節リウマチと骨粗鬆症」特別講演 March1(三島)

2-12 脳神経内科

診療活動

順天堂大学静岡病院の脳神経内科は東部・伊豆地方における神経系診療の拠点で、神経疾患全般の、とくに診断治療が困難な患者の診療を優先的に行っています。外来では頭痛、認知症、めまい症などの common diseases の診療も積極的に行っています。パーキンソン病、神経免疫疾患などの神経難病患者も多く、数々の国内外の医師との共同臨床研究や治験に参加することで、患者さんに一刻も早く最新医療を届けられるよう努めています。

病床数は脳神経内科専用床が26床(4B病棟)で、他の診療科と併診(兼科)の患者さんも常時数名受け持っています。平成28年度の入院患者総数は昨年より20名増加し518名でした(兼科も含む)。平均在院日数は約19日と同様でした。疾患別ではパーキンソン病等の中枢神経変性疾患が146名と最も多く、脳血管障害は110名と昨年並で、ほとんどが緊急入院でした。変性疾患が血管障害より多いのは当科の特徴と思われます。

診療実績

(1) 外来

外来患者総数は22,597名で、初診患者数1,632名、再診20,965名。

(2) 入院

兼科患者を含めた総入院数 518名

脳血管障害	110	ニューロパチー	50
脳梗塞	87	炎症性・脱髄性	29
TIA	5	その他	21
後遺症, Binswanger	9	脊椎疾患	9
脊髄梗塞	4	NPH	7
脳出血	3		
その他	2		

神経変性疾患	146		筋疾患	17
パーキンソン病(内 DLB 7)	56		重症筋無力症	8
同関連疾患 (PSP/CBD など)	10		筋炎 PM/DM	1
変性型認知症(AD/FTD)	14		外眼筋炎	1
多系統萎縮症	12		筋ジストロフィー	5
脊髄小脳変性症	7		その他	2
運動ニューロン病(ALS 等)	37		挿間性(機能性)疾患	29
その他	10		てんかん	23
脱髄性疾患	36		頭痛	2
多発性硬化症, NMO	36		めまい	1
その他	0		その他	3
感染症, 炎症性疾患	46		内科的疾患	26
脳炎, 髄膜炎	31		精神疾患(心因性など)	17
脊髄炎	8			
その他(CJD 4)	7		薬剤性, 中毒性疾患	3
代謝性疾患	18		新生物	8
低酸素脳症	3		外傷	2
			先天性疾患	1

総括:

平成 28 年度の最も大きな変化は、7 月から外来・入院同時に電子カルテが導入されたことです。始めた当初は時間を要しましたが、平成 27 年度に外来全面予約制にしたことと相まって、効率の良い外来運営ができるようになりました。また外来の多剤投与がさらに減少しました。入院では平均在院日数が 19 日と昨年同様で、重症患者さんや社会的問題をもった方においてはまだ改善の余地があります。教育面では臨床研修医が月末に発表する症例報告が定着しました。年4回の地方会発表、論文化も継続しています。

次年度目標:

- ・ 医師・患者(家族)関係を大切にし、安全で良質な医療を提供する。
- ・ 多剤処方・長期処方をさらに減らす。
- ・ 長期入院を減らし、病床を効率的に運用する。
- ・ 基幹病院として最先端の診療を行う。
- ・ 脳神経内科専門研修医、スタッフの教育をさらに充実させ、大学附属病院として恥ずかしくない業績をあげる。

- ・ 臨床研修医に対してスタンダードな教育を行なう。
- ・ 臨床試験(治験)をできるだけ引き受け、新薬の開発に貢献する。
- ・ 科研費など競争的資金獲得を目指す。

研究活動

原著(英文)

1. Tomizawa Y, Nakamura R, Hoshino Y, Sasaki F, Nakajima S, Kawajiri S, Noda K, Takanashi M, Fujita N, Yokoyama K, Hattori N, Takahashi T, Okuma Y. Tumefactive demyelinating brain lesions with multiple closed-ring enhancement in the course of neuromyelitis optica. *J Neurol Sci* 361:49-51, 2016
2. Yoritaka A, Abe T, Ohtsuka C, Maeda T, Hirayama M, Watanabe H, Saiki H, Oyama G, Fukae J, Shimo Y, Hatano T, Kawajiri S, Okuma Y, Machida Y, Miwa H, Suzuki C, Kazama A, Tomiyama, Kihara T, Hirasawa M, Shimura H, Hattori N. A randomized double-blind multi-center trial of hydrogen water for Parkinson's disease: protocol and baseline characteristics. *BMC Neurology* 16:66, 2016
3. Noda K, Hattori, N, Okuma Y. Re-emergent tremor in a patient with Parkinson's disease. *BMJ Case Rep* 2016, bcr2016216436, 2016
4. Noda K, Ishimoto R, Hattori N, Okuma Y, Yamamoto T. Hemichorea improvement following endarterectomy for internal carotid artery stenosis. *J Neurol Sci* 371:45-47, 2016
5. Sasaki F, Kawajiri S, Nakajima S, Yamaguchi A, Tomizawa Y, Noda K, Hattori N, Okuma Y. Occipital lobe seizures and subcortical T2 and T2* hypointensity associated with nonketotic hyperglycemia: a case report. *J Med Case Rep.* 10:228, 2016
6. Kawajiri S, Hoshino Y, Nakamura R, Noda K, Tomizawa Y, Hattori N, Okuma Y. A case of painless legs and moving toes syndrome in Parkinson's disease responsive to dopaminergic therapy. *Case Rep Neurol Med.* 2016:6829410, 2016
7. Ogaki K, Koga S, Aoki N, Lin W, Suzuki K, Ross OA, Dickson DW. Adult-onset cerebello-brainstem dominant form of X-linked adrenoleukodystrophy presenting as multiple system atrophy: case report and literature review. *Neuropathology.* 36:64-76, 2016
8. Walton RL, Soto-Ortolaza AI, Murray ME, Lorenzo-Betancor O, Ogaki K, Heckman MG, Rayaprolu S, Rademakers R, Ertekin-Taner N, Uitti RJ, van Gerpen JA, Wszolek ZK, Smith GE, Kantarci K, Lowe VJ, Parisi JE, Jones DT, Savica R, Graff-Radford J, Knopman DS, Petersen RC, Graff-Radford NR, Ferman TJ, Dickson DW, Boeve BF, Ross OA, Labbé C. TREM2 p.R47H substitution is not associated with dementia with Lewy bodies. *Neurol Genet.* 2:e85. 2016
9. Labbé C, Heckman MG, Lorenzo-Betancor O, Murray ME, Ogaki K, Soto-Ortolaza AI, Walton RL, Fujioka S, Koga S, Uitti RJ, van Gerpen JA, Petersen RC, Graff-Radford NR, Younkin SG, Boeve BF, Cheshire WP Jr, Low PA, Sandroni P, Coon EA, Singer W, Wszolek ZK, Dickson DW, Ross OA. MAPT haplotype diversity in multiple system atrophy. *Parkinsonism Relat Disord* 30:40-5, 2016

10. Koga S, Josephs KA, Ogaki K, Labbé C, Uitti RJ, Graff-Radford N, van Gerpen JA, Cheshire WP, Aoki N, Rademakers R, Wszolek ZK, Ross OA, Dickson DW. Cerebellar ataxia in progressive supranuclear palsy: An autopsy study of PSP-C. *Mov Disord.* 31:653-62, 2016

原著(和文)

1. 渡邊大輔、松延郁恵、大熊泰之、長岡正範. 強制把握と模倣行為を合併した脳梗塞の一例. *運動障害* 26:21-26, 2016

総説

1. 大垣光太郎、西岡健弥、服部信孝. パーキンソン病の遺伝子研究 In: 遺伝子医学MOOK別冊 シリーズ 2「最新精神・神経遺伝医学研究と遺伝カウンセリング」p125-131.

著書

1. 大熊泰之. セクション III. 神経症候の診かた. 23.異常姿勢の診かた. 臨床神経内科学改訂6版. 平山恵造監修, 廣瀬源二郎, 田代邦雄, 葛原茂樹編集, 南山堂, 東京, 2016, pp237-241
2. 大熊泰之. セクション III. 神経症候の診かた. 24.起立・歩行障害の診かた. 臨床神経内科学改訂6版. 平山恵造監修, 廣瀬源二郎, 田代邦雄, 葛原茂樹編集, 南山堂, 東京, 2016, pp242-250
3. 大熊泰之. 転倒(歩行障害). パーキンソン病・パーキンソン症候群の在宅ケア. 佐藤 猛, 服部信孝, 村田美穂編, 中央法規, 東京, 2016, pp132-138.
4. 長岡正範, 佐藤 猛, 大熊泰之. 初期・中期のリハビリテーション, 在宅での危険サインのみかたと対応. パーキンソン病・パーキンソン症候群の在宅ケア. 佐藤 猛, 服部信孝, 村田美穂編, 中央法規, 東京, 2016, pp218-230.
5. 長岡正範, 佐藤 猛, 大熊泰之. すくみ足と転倒の対策. パーキンソン病・パーキンソン症候群の在宅ケア. 佐藤 猛, 服部信孝, 村田美穂編, 中央法規, 東京, 2016, pp231-233.
6. 大熊泰之. 第3章 症候から鑑別診断へ. てんかん. 神経内科ハンドブック第5版, 水野美邦編集, 医学書院, 東京, 2016
7. 大熊泰之. 第4章 神経学的検査法. 生理学的検査. 神経内科ハンドブック第5版, 水野美邦編集, 医学書院, 東京, 2016
8. 大熊泰之. 第5章 診断と治療. 脊椎疾患. 神経内科ハンドブック第5版, 水野美邦編集, 医学書院, 東京, 2016

学会発表(国際)

1. Okuma Y, Mitoma H, Yoneyama M. Identifying freezing of gait and falls in Parkinson's disease patients using a body-worn sensor. 20th International Parkinson's disease and movement disorders congress, Berlin, June 19-23, 2016
2. Okuma Y, Mitoma H, Yoneyama M. Identifying freezing of gait and falls in Parkinson's disease patients using a body-worn sensor. 15th Asian and Oceanian congress of Neurology, Kuala Lumpur, August 18-21,

学会発表(国内)

1. 大熊泰之, 三苫 博, 米山 満. パーキンソン病のすくみ足と転倒(英語セッション): "Identifying freezing of gait and falls in Parkinson's disease patients using a body-worn sensor". 第 57 回日本神経学会学術大会, 神戸, 5 月 18 日, 2016
2. 大垣 光太郎, 古賀 俊輔, Heckman, Michael G, Fiesel, Fabienne, 安藤 真矢, 西岡 健弥, 舩山 学, Boeve, Bradley F, Springer, Wolfdieter, Wszolek, Zbigniew K, Dickson, Dennis W, 服部 信孝, Ross, Owen A. Mitochondrial targeting sequence variants of the CHCHD2 gene are a risk for Parkinson's disease. 第 56 回日本神経学会学術大会 (神戸), 2016 年 5 月
3. 代田健祐, 上野真一, 大垣光太郎, 河尻澄宏, 野田和幸, 大熊泰之, 目崎直実, 池内 健. LaminB1 重複変異を認めた孤発性 Autosomal dominant leukodystrophy(ADLD)の 57 歳女性例. 第 216 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 3 月 5 日, 2016
4. 小川 崇, 代田健祐, 大垣光太郎, 河尻澄宏, 野田和幸, 大熊泰之. 視神経炎, 外眼筋麻痺を伴った再発性多発軟骨炎の 66 歳女性例. 第 217 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 6 月 4 日, 2016
5. 谷口大祐, 上野真一, 須田晃充, 河尻澄宏, 大垣光太郎, 野田和幸, 大熊泰之. 異なる臨床経過と画像所見を呈した神経核内封入体病の 2 症例. 第 218 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 9 月 3 日, 2016
6. 正島由理, 小川 崇, 安藤真矢, 大垣光太郎, 野田和幸, 大熊泰之. IgG4 関連疾患の経過中にミオクローヌス状態から全般化発作を呈した肥厚性硬膜炎の 73 歳男性例. 第 219 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 12 月 3 日, 2016

2-13 心臓血管外科

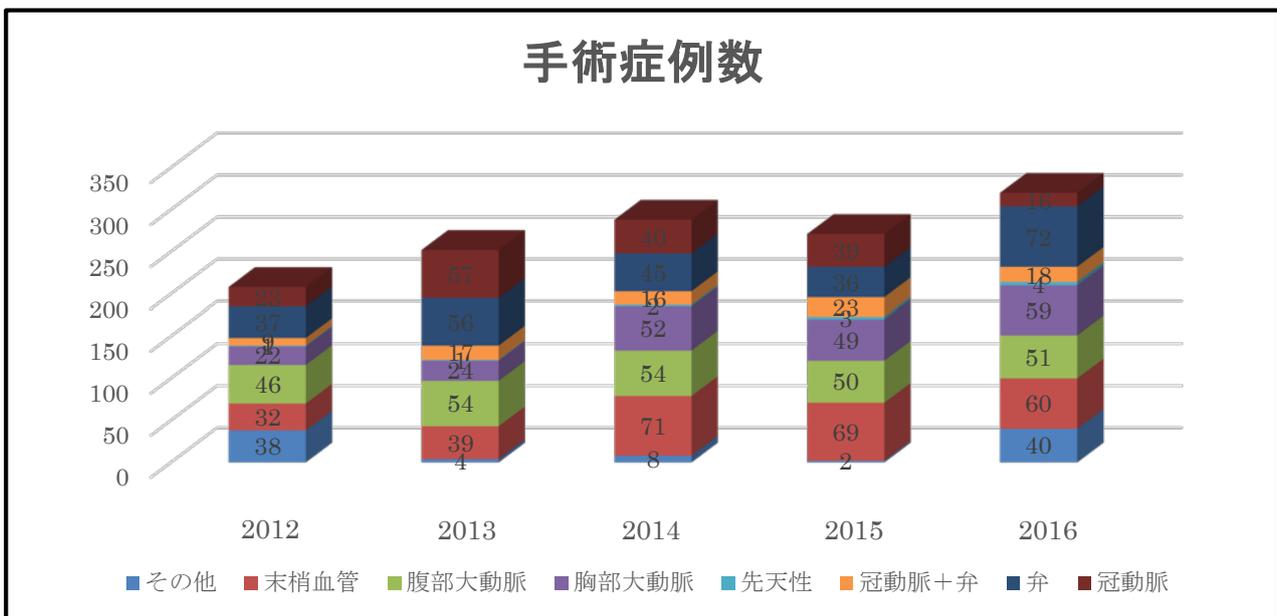
診療活動

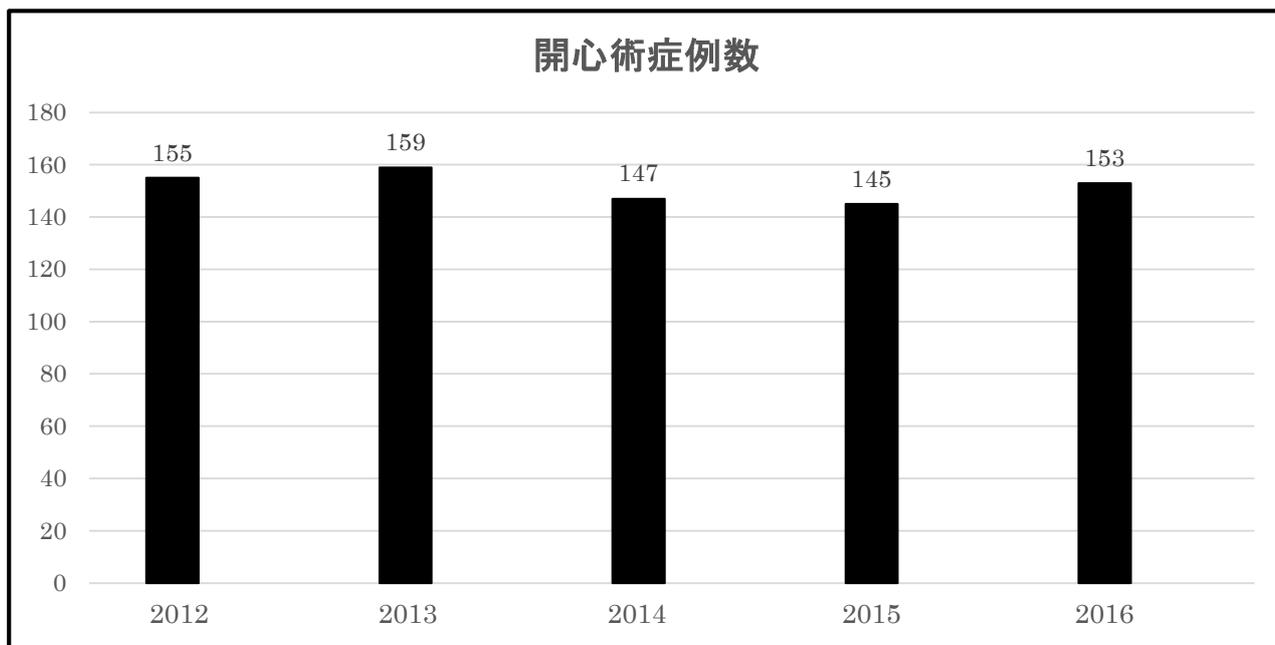
順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科では、平成 28 年の 1 年間で心臓・大血管（腹部大動脈を含む）手術 220 例、末梢血管手術その他 100 例で計 320 例の手術を施行しました。緊急手術はそのうち 81 例でした。このうちいわゆる開心術（心拍動下冠動脈バイパス術+体外循環症例）は 153 例あり、これは成人開心術では静岡県第 3 位の症例数でした。これはひとえに、院内で循環器科、麻酔科、手術部をはじめとする医師やコメディカルの方々、および地域の皆さまの御支援・御協力によって達成できたものと考えており、この場をお借りして深く御礼申し上げます。手術成績は、緊急手術を合わせて院内死亡率は約 5%でした。いわゆる開心術に限定すれば、お断りすることなく重症例を多く引き受けている当科において、全国平均（Japan SCORE）とほぼ同等の成績でした。

なお、平成 24 年度より胸部のステントグラフト実施施設として認定され、当科で腹部のみならず胸部の大動脈瘤についてもステントグラフト治療が実施できるようになっています。また、下肢静脈瘤についても積極的に外科治療を行い、良好な成績を上げています。平成 29 年度からは、低侵襲心臓外科手術（MICS）も大動脈弁置換術・僧帽弁形成術に対して始めています。

地域の皆さまに頼りにされる診療科として医療に貢献すべく、成人の心臓血管手術全般でいっそうの手術成績の向上を図っていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療実績





次年度目標

平成 28 年度は、臨床面では前年度に比べて、開心術、全手術ともにわずかに昨年を上回りました。成人開心術症例数は、例年どおり静岡県全体では第 3 位、静岡県東部では第 1 位でした。今後とも地域の方々にはいっそう信頼していただけるように、たゆまぬ努力が必要であると肝に銘じています。手術成績は、全国平均 (Japan SCORE) 並みであり、数値上は緊急手術においてより一層の努力が必要です。麻酔科・手術部の方々のご協力に感謝を申し上げます。

いっぽう研究面では、大学院生の博士論文の指導を中心に行ってまいりました。今年は英文論文が発表することができましたが、毎年続けていけるよう努力いたします。

平成 29 年度も引き続き、臨床面においては手術成績の向上により重点を置いて、県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとするを目標といたします。また研究面では、静岡病院発 (静岡病院のスタッフが筆頭著者・責任著者となっているもの) の英文論文を作成すること、および科学研究費を獲得することを二つの目標として掲げますが、同時に、当科の知名度の向上に寄与すべく各種地方会や研究会に積極的に演題を発表していきます。

すなわち、診療・研究・教育の 3 分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわしい活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究・教育活動

原著 (英文)

1. A satisfactory recovery after emergency pericardiocentesis in type an acute aortic dissection with cardiac arrest. Ohsaka H, Yoshizawa T, Ishikawa K, Jitsuiki K, Suwa S, Saito Y, Tambara K, Yanagawa Y. Sch J Med Case Rep. 2016;4:200-202.

2. Surgical treatment of left atrioventricular fistula due to mitral annular abscess after mitral valve replacement for active endocarditis. Nakanishi K, Tambara K and Saito Y. *nn Surg Perioper Care*. 2017; 2: 1027-1028.
3. Aortic injury due to paragliding: a case report. Omori K, Jitsuiki K, Majima T, Takeuchi I, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H, Tambara K, Yanagawa Y. *Int J Sports Phys Ther*. 2017; 12:390-401.
4. Efficacy of off-pump coronary artery bypass grafting using skeletonized bilateral internal thoracic arteries in diabetic patients. Saito Y, Tambara K, Dohi S, Inaba H, Yamamoto T, Tsuruta R, Hirose H, Amano A. *Juntendo Medical Journal* (in press).

学会発表(国内)

1. 可及的すみやかなエンドトキシン吸着療法の開始は敗血症性ショックの予後を改善する. 丹原圭一、齋藤洋輔、佐藤友一郎、宮崎 豪. 東レ・メディカル社内講演会. 2016年7月21日.
2. 救命できなかった感染性大動脈瘤の一例. 佐藤友一郎、丹原圭一、齋藤洋輔、宮崎 豪. 第10回静岡県東部心臓外科循環器科連携の会. 2017年2月3日.
3. DPP-4阻害薬「オングリザ錠:サキサグリプチン水和物」の使用経験. 齋藤洋輔、丹原圭一、宮崎豪、佐藤友一郎. 協和発酵キリン社内講演会. 2017年2月9日.
4. 可及的すみやかなエンドトキシン吸着療法の開始は敗血症性ショックの予後を改善する. 丹原圭一、齋藤洋輔、佐藤友一郎、宮崎 豪、李 智榮. 第21回エンドトキシン血症救命治療研究会. 2017年2月10日.
5. 開心術後におけるトルバプタンの使用経験からの考察. 齋藤洋輔、丹原圭一、宮崎豪、佐藤友一郎心不全治療学術講演会. 2017年5月19日.

2-14 呼吸器外科

診療活動

当科では原発性肺癌を中心に、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、胸部外傷など様々な胸部疾患に対して幅広く外科診療を行っている。その範囲は伊豆半島のみならず静岡県東部全域に及ぶ。

特に肺がん診療においては癌専門病院で手術が断られるような、心臓を含めた他臓器疾患が併存するハイリスク症例の手術にも対応しており、その重要な役割を担っている。大学病院の特性を生かし、呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内科・腎臓内科などとの連携を行い緻密な術後管理が可能である。

また高齢化社会という背景のもと患者の高齢化も進んでいるが、当院では高齢という理由のみで手術を回避することは行わない。術前のリスク評価を十分に行ったうえ、可能であれば高齢者であっても手術を行い、根治を目指す環境を備えている。

難症例に対しては、大学本院からのヘルプを仰ぎ拡大手術も積極的に行っている。

診療実績

総手術総数(平成 28 年 1 月～12 月)

疾患別手術総数	181 例 (前年度+15 例)
原発性肺癌	54 例
転移性肺腫瘍	8 例
肺良性腫瘍	4 例
縦隔腫瘍	12 例
胸壁腫瘍	7 例
自然気胸	39 例
胸部外傷	9 例
縦隔リンパ節腫大	2 例
膿胸	16 例
その他	30 例

次年度目標

特に、肺癌、膿胸、気胸の手術数は増加の一途を辿っている。今後、年間 200 例を超える症例を目標とする上で、患者の高齢化とともに、併存疾患のあるいわゆるハイリスク症例が増加することが予想される。そういった社会背景のニーズに合った手術治療を絶え間なく提供していくことが当科の担う役割である。近隣の病院・開業医の先生方と更なる連携を深めて診療を行っていく次第である。また、研究・学会活動の面でも国内に関わらず、国外へ新たなる知識を得るために前進する次第である。

研究・教育活動

論文業績

1. A case report: hemothorax caused by rupture of the left atrial appendage. Oizumi H, Suzuki K, Hoshino H, Tatsumori T, Ichinokawa H. Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):142. Epub 2016 Nov 26

学会発表

1. 市之川英臣:SVC 合併切除を必要とした右上葉肺癌切除症例 BaCuLu 7、品川、2016.1.30
2. 尾泉広明、市之川英臣、立盛崇裕、星野浩延、鈴木健司:鈍的胸部外傷後の左心耳裂傷による左血胸を手術により救命し得た1例 静岡呼吸器外科医会 第28回夏期例会、静岡、2016.6.04
3. 尾泉広明、市之川英臣、星野浩延、立盛崇裕、鈴木健司:胸部鈍的外傷後の左心耳裂傷による左血胸を手術により救命し得た1例 第69回日本胸部外科学会定期学術集会、岡山、2016.9.29
4. 市之川英臣:肺癌術後肺炎についての臨床的検討 第57回日本肺癌学術集会、福岡、2016.12.20
5. 市之川英臣、松永健志、高持一矢、王志明、鈴木健司:Clinical T1mi(すりガラス成分の最大径が30mm以下で、充実成分が5mm以下のものとする)の病理学的評価 第57回日本肺癌学術集会、福岡、2016.12.21

2-15 形成外科

診療活動

形成外科は、小児から成人までの形成外科的疾患を対象とし、地域の医療機関や院内他科との連携を取りながら診療活動を行っている。診療にあたってはわかりやすい説明を心がけ、患者さんが自分、もしくは自分の家族だったらどうするかという視点に立ち、優しい医療を提供するよう心掛けている。また火曜日の午後に予約制でフットケア外来を開設しており、形成外科、循環器科、糖尿病内科、スキンケアナースとの連携によりさまざまな足病変に対する下肢救済を目的とした診療を行っている。

診療実績

新患者数	719名(774名)
入院患者数	197名(192名)
入院手術	224件(252件)
外来手術	395件(334件)

内訳:外傷 177(138) 先天異常 9(17) 腫瘍 338(324) 癬痕・ケロイド 11(12) 難治性潰瘍 54(73)

炎症・変性疾患 25(18) レーザー治療 5(4)

*()内は平成 27 年

次年度目標

平成 28 年は新患者数がやや減少したものの、外来手術件数が 2 割ほど増加した。入院患者数は横ばいであった。特に外傷の手術件数が大きく増加した。救急車受け入れをはじめとする救急外来対応や救急科からの院内紹介件数が増加したためと考えられる。今後さらに多彩な形成外科的疾患への対応が必要とされる。一方で褥瘡、足潰瘍等の難治性潰瘍患者増加に伴い入院在院日数の増加が生じている。他科、他院との調整を行い短縮に努める。また眼瞼下垂をはじめとした顔面の整容を重視した手術が増えており、形成外科は整容的な面での quality を求められることが多い。多くの患者さんに対応するとともにその日々の処置から外来診療、手術を行う際今後も一層丁寧にそして安全に留意しより多くの患者さんのニーズに応えるべく努力していきたいと考える。

研究・教育活動

発表

1. 心臓血管外科術後の感染を伴う広範な鼠径部組織欠損に対側 VRAM flap による再建を行った一例 松村崇、古元将和、荻部綾香、水野博司／第 59 回日本形成外科学会総会・学術集会(福岡、2016.4 月)
2. 帝王切開時に PIP 関節で完全切断された右小趾に対し composite graft を行った 1 例 古元将和、荻部綾香、松村崇、水野博司／第 8 回日本創傷外科学会総会・学術集会(東京、2016.7 月)

2-16 眼科

診療活動

当科は9名の医師により診療を行っているが、外来患者数、手術件数ともに年々増加を認めている。当科の特徴として、白内障手術、緑内障手術、網膜・硝子体手術のみならず角膜移植に代表される角膜手術、眼瞼手術まで幅広い眼疾患の治療を行っている。白内障手術は、我が国において年間約140万件行われており年々増加傾向にあるが、当院においても2016年度は年間で前年比約300件増加した。眼内レンズ二次挿入においては新術式(眼内レンズ強膜内固定術)を開発し、平成24年度に国内外の学会で賞を受賞した。新術式は多焦点眼内レンズの二次挿入を可能とする画期的な術式であり、県外からも手術希望患者が来院している。現在国内外の学会にて普及を図っている。緑内障手術は、従来の線維柱帯切除術のみならず、シャント手術も導入して手術成績の向上を図っている。網膜・硝子体手術の手術件数は静岡県内随一であり、糖尿病網膜症、血管閉塞疾患、黄斑前膜、黄斑円孔など種々の眼底疾患の増加に対しても、最新の手術機器を用いて治療を行い、良好な治療成績を得ている。難症例に対しても積極的に治療を行っている。また、当院は静岡県内で最も多くの角膜移植術を行っているが、最近の角膜内皮移植術(DSAEK)の導入により、特に水疱性角膜症の治療成績が格段に向上した。術後視力の早期回復、拒絶反応の減少が可能となった。最近の高齢化社会の到来による加齢黄斑変性に対しても、抗VEGF薬を用いて多数の患者の治療を行っている。

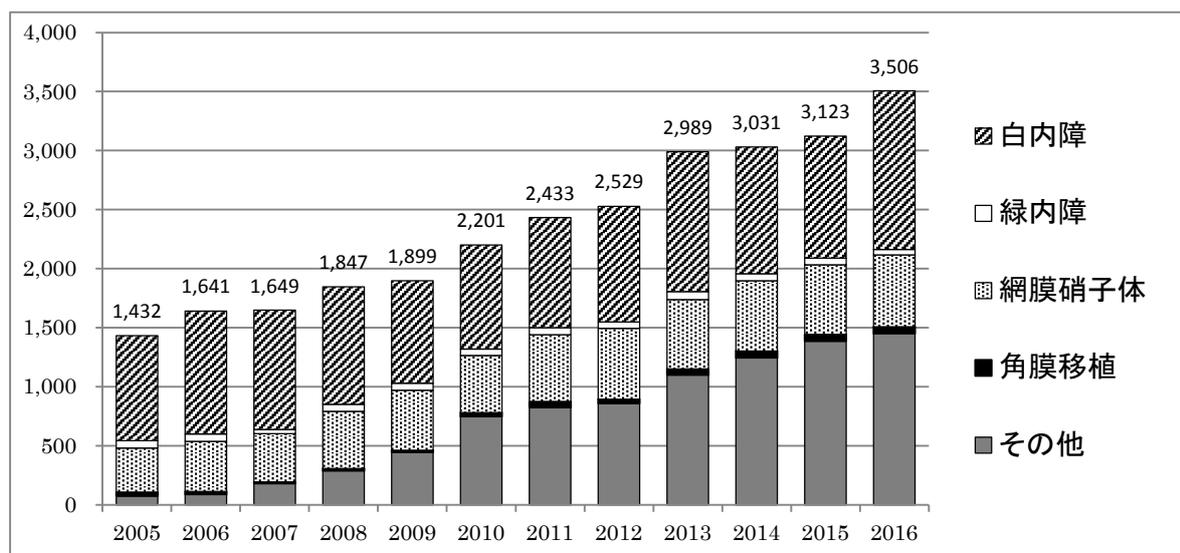
診療実績

患者数

新患	1,998
のべ再来患者数	32,983

手術件数

白内障手術	1,342
緑内障手術	47
網膜・硝子体手術	608
角膜移植	56
その他	1,453
総手術件数	3,506



次年度目標

平成 28 年度は外来患者数、手術件数も伸び、さらに当院で開発した新しい眼内レンズ二次挿入術も普及し始め、順調な 1 年であった。海外での発表も熱心に行い、順天堂大学静岡病院から国内のみならず欧米の眼科医にも情報を発信することは重要であると考え。平成 29 年度の目標としては、後期研修医の教育に重点をおき、知識の更なる習得と手術の錬度を上げることを目標としたい。

研究・教育活動

原著(英文)

1. Hayashi Y, Toshida H, Matsuzaki Y, Matsui A, Ohta T. Persistent corneal epithelial defect responding to rebamipide ophthalmic solution in a patient with diabetes. International Medical Case Reports Journal, May, 2016; 9, 113-116.
2. Toride A, Toshida H, Matsui A, Matsuzaki Y, Honda R, Ohta T, Murakami A. Visual outcome after emergency surgery for open globe eye injury in Japan. Clinical Ophthalmology, Sep, 2016; 8;10:1731-1736. (順天堂眼科同窓会学術奨励賞受賞論文)
3. Tabuchi N, Toshida H, Koike D, Odaka A, Suto C, Ohta T, Murakami A. Effect of Retinol Palmitate on Corneal and Conjunctival Mucin Gene Expression in a Rat Dry Eye Model after Injury. Journal of Ocular Pharmacology and Therapeutics, January 2017, 33(1): 24-33.

総説

1. 土至田宏: 特殊用途のコンタクトレンズ. 眼科 58 (10) 1063-1072, 2016.
2. 土至田宏: 神経とドライアイ. Frontiers in Dry Eye. 11 秋号 22-26, 2016.
3. 松崎有修, 太田俊彦: 【How to 水晶体再建】より正確な CCC 作成のコツ (解説/特集). MB OCULISTA No.45 26-34, 全日本病院出版会, 2016 年.
4. 太田俊彦: 「眼内レンズ強膜内固定術を成功させるコツ」—T-fixation technique—. 眼科グラフィック 6 巻 1

号, メディカ出版 6(1) 45-53, 2017.02.

著書

1. 土至田宏: 薬剤使用のイロハ. 眼科疾患最新の治療 2016-2018: 69-78, 南江堂, 2016年2月.
2. 桑名亮輔, 太田俊彦: 後発白内障. 眼科疾患最新の治療 2016-2018, 南江堂, 2016年2月.
3. 土至田宏: コンタクトレンズによる角膜障害. 今日の眼疾患治療指針: 341-342, 医学書院, 2016年10月.
4. 太田俊彦: Zinn 小帯脆弱白内障. 眼科診療マイスター2 巻 128-131, メジカルビュー社, 2017年1月
5. 太田俊彦: 無水晶体眼に対する眼内レンズ縫着術と強膜内固定術. 眼科診療マイスター3 巻 メジカルビュー社, 2017年3月.

学会発表(国際)

1. Ohta T: Intrasceral IOL Fixation – Glue or No Glue? The 31st APAO (アジア太平洋眼科学会), 台北(台湾), 2016年3月24日～27日.(招待講演).
2. Ohta T: L-Shaped Scleral Pocket Incision & Intra-Scleral Fixation. The 67th Annual Conference of Delhi Ophthalmological Society (デリー眼科学会)- DOSCON 2016: Ophthalmic Panorama, ニューデリー(インド), 2016年4月15日～17日.(招待講演).
3. Ohta T: Key Note Lecture: Pearls of Intrasceral Fixation. The 67th Annual Conference of Delhi Ophthalmological Society (デリー眼科学会)- DOSCON 2016: Ophthalmic Panorama, ニューデリー(インド), 2016年4月15日～17日.(招待講演).
4. Toshida H, Ohta T, Suto C, Shinji K, Karasawa M, Murakami A: Effect of 2% rebamipide ophthalmic suspension in dry eye rabbit model. 視覚と眼科学研究協会会議 (ARVO), シアトル(米国), 4月30日～5月5日(ポスター).
5. Ohta T, Matsuzaki Y, Brierley L, Beiko G, Agarwal A, Agarwal A: L-Shaped Pocket Incision for Dislocated IOL Explantation. 米国白内障・屈折矯正手術学会 (ASCRS2016), ニューオーリンズ(米国), 2016年5月6日～10日 (一般講演).
6. Ohta T, Matsuzaki Y, Brierley L, Beiko G, Agarwal A, Agarwal A: L-Shaped Pocket Incision for Dislocated IOL Explantation. 米国白内障・屈折矯正手術学会 (ASCRS2016), Film Festival, ニューオーリンズ(米国), 2016年5月6日～10日.(Cataract/Implant Surgery 部門 Winner 受賞).
7. Matsuzaki Y, Ohta T: Long-Term Postoperative Results of T-Fixation Technique Used for Intrasceral Posterior Chamber Intraocular Lens Fixation. 米国白内障・屈折矯正手術学会 (ASCRS2016), ニューオーリンズ(米国), 2016年5月6日～10日.(一般講演).
8. Ohta T, Brierley L, Beiko G, Agarwal A, Agarwal A: L-Shaped Pocket Incision for Dislocated IOL Explantation. アジア・太平洋白内障・屈折矯正学会(APACRS2016), バリ島, 2016年7月27日～30日.(ビデオ).
9. Ryosuke Kuwana, Toshihiko Ohta: Long-term Postoperative Active Results of T-fixation Technique Used for Intrasceral Posterior Chamber Intraocular Lens Fixation. アジア・太平洋白内障・屈折矯正学会

(APACRS2016), バリ島, 2016年7月27日～30日.(一般講演).

10. Ohta Toshihiko, Kohei Ichikawa, Yusuke Matsuzaki, Lawrence Brierley, George Beiko, Athiya Agarwal, Amar Agarwal: L-shaped pocket incision for 6mm PMMA IOL explantation. 欧州白内障屈折矯正手術学会 (ESCRS2016), コペンハーゲン, 2016年9月10日～14日.(一般講演).
11. Ichikawa Kohei, Toshihiko Ohta, Lawrence Brierley, George Beiko, Athiya Agarwal, Amar Agarwal: L-shaped pocket incision for 6mm PMMA IOL explantation. 米国眼科学会議 (AAO 2016), シカゴ(米国), 2016年10月14日～18日.(ポスター).
12. Ohta T: 6mm and 7mm PMMA IOL Implantation Using L-Shaped Scleral Pocket Incision. 米国眼科学会議 (AAO) Subspecialty day ISRS Member Only Lunch Meeting, シカゴ(米国), 2016年10月14日～18日.
13. Ohta T: Pearls of Intrasccleral Haptic Fixation of IOL. 75th Platinum Jubilee Annual Conference - All India Ophthalmological Society 2017(Keynote address). ジャイプル(インド), 2017年2月16日～19日.(招待講演).
14. Ohta T: Managing of IOL Dislocation. 75th Platinum Jubilee Annual Conference - All India Ophthalmological Society 2017(Keynote address). ジャイプル(インド), 2017年2月16日～19日.(招待講演).
15. Ohta T: Challenging Cataract/Complicated Cataract Case 4 (Multifocal Team). The 31st APAO (アジア太平洋眼科学会)(Ophthalmic Premier League), シンガポール, 2017年3月1日～5日.(招待講演).

学会発表(国内)

1. 土至田宏, 太田俊彦, 須藤史子, 穴道紘一郎, 唐澤真里亜, 村上晶: 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会 第120回日本眼科学会総会, 仙台市, 2016年4月7日～10日(講師).
2. 土至田宏: 家兎ドライアイモデルの角膜上皮障害に対するレバミピド点眼液の治療効果の検討. 第120回日本眼科学会総会, 仙台市, 2016年4月7日～10日(一般口演).
3. 土至田宏: 臨床力向上のための角膜疾患の診断と治療のコツ. コンタクトレンズ関連角膜障害 第120回日本眼科学会総会, 仙台市, 2016年4月7日～10日(教育セミナー1).
4. 朝岡聖子, 藤巻拓郎, Fraue Cappierers, 柳川愛, 高丹, 新井英介, Elfride De Baere, 村上晶: , 第120回日本眼科学会総会, 仙台市, 2016年4月7日～10日(一般口演).
5. 太田俊彦: IOL位置異常眼の対処法—IOL強膜内固定術を中心に—. 第21回栃木県眼科手術談話会(特別講演). 宇都宮市, 2016年5月20日.
6. 太田俊彦: IOL位置異常眼の対処法—IOL強膜内固定術を中心に—. 第9回聖隷浜松病院眼科 病診連携連絡会(特別講演). 浜松市, 2016年5月28日.
7. 土至田宏: 診断・治療に苦慮した角膜疾患例. 第1回東海角膜クラブ, 名古屋市, 2016年6月4日.
8. 太田俊彦, 小早川信一郎, 松島博之, 西村栄一, 松崎有修: これから始める眼内レンズ強膜内手固定術『IOL強膜内固定術の実際と注意点』. 第31回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2016年6月24日～26日(インストラクションコース).
9. 松崎有修, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 桑名亮輔, 土至田宏, 太田俊彦: L-ポケット切開を

- 用いた PMMA IOL 挿入術. 第 31 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2016 年 6 月 24 日～26 日 (一般講演).
10. 松崎有修, 太田俊彦: L-ポケット切開を用いて 7mm PMMA IOL 挿入を行なった 1 例. 第 31 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2016 年 6 月 24 日～26 日 (ケースレポート).
 11. 市川浩平, 朝岡聖子, 古賀暖子, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: 虹彩捕獲に対する虹彩縫合術. 第 31 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2016 年 6 月 24 日～26 日 (一般講演).
 12. 市川浩平, 太田俊彦: 虹彩捕獲に対し虹彩縫合術を行なった 1 例. 第 31 回 JSCRS 学術総会, 京都府, 2016 年 6 月 24 日～26 日 (ケースレポート).
 13. 朝岡聖子, 根岸貴志, 村上晶: 小児上斜筋麻痺に対する上斜筋縫縮術の効果. 第 72 回日本弱視斜視学会総会/第 41 回日本小児眼科学会総会合同学会, 横浜市, 2016 年 6 月 24 日～26 日(学術展示).
 14. 土至田宏: 原理と角膜への影響. フォーサム 2016 東京, 東京都, 2016 年 7 月 1 日～3 日(オルソケラトロジー講習会).
 15. 土至田宏: トライアルケース内の蛋白濃度. フォーサム 2016 東京, 東京都, 2016 年 7 月 1 日～3 日(一般講演).
 16. 桑名亮輔, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 松崎有修, 松井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦: 難治性黄斑円孔に対し内境界膜移植を施行した 2 例. 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2016 年 8 月 20 日.
 17. 太田俊彦, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 松井麻, 土至田宏: IOL 摘出時の L-ポケット切開法. 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2016 年 8 月 20 日.
 18. 桑名亮輔: 網膜下パーフルオロカーボン迷入の対処法. 静岡硝子体手術講習会, 沼津市, 2016 年 9 月 3 日.
 19. 古賀暖子, 土至田宏, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 太田俊彦: 角結膜腫瘍切開術とマイルトマイシン C 点眼併用療法が有効であった角結膜上皮内癌の 1 例. 平成 28 年度静岡県東部眼科医会放談会. 2016 年 9 月 8 日.
 20. 太田俊彦: IOL 位置異常眼の対処法—IOL 強膜内固定術を中心に—. 第 33 回眼科医療フォーラム(特別講演). 徳島市, 2016 年 9 月 24 日.
 21. 太田俊彦, 江口秀一郎, 小早川信一郎, 松島博之, 西村栄一: IOL 縫着術と強膜内固定術 A to Z. 第 70 回日本臨床眼科学会, 京都市, 2016 年 11 月 3 日～6 日. (インストラクションコース).
 22. 太田俊彦, 大内雅之, 永田万由美, 飯田嘉彦: 前眼部術者のための、破囊合併症処理フルコース. 第 70 回日本臨床眼科学会, 京都市, 2016 年 11 月 3 日～6 日. (インストラクションコース).
 23. 土至田宏: 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会 第 70 回日本臨床眼科学会総会, 京都市, 2016 年 11 月 3 日～6 日(オルソケラトロジー講習会).
 24. 松崎有修, 太田俊彦, 土至田宏, 村上晶: IOL 摘出時の L-ポケット切開法. 第 70 回日本臨床眼科学会イブニングセミナー12「2016 Ophthalmic Surgery Film Award」, 京都市, 2016 年 11 月 4 日.(ビデオ).
 25. 桑名亮輔, 土至田宏, 林 雄介, 古賀暖子, 市川浩平, 朝岡聖子, 松崎有修, 太田俊彦: 角膜血管侵入に対する血管焼灼術とベバシズマブ結膜下注射併用療法. 第 70 回日本臨床眼科学会, 京都市, 2016 年 11 月 3 日～6 日. (一般講演).
 26. 古賀暖子, 土至田宏, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 太田俊彦: 角結膜腫瘍切除術とマイルトマイシン C

点眼併用療法が有効であった角結膜上皮内癌の1例. 第70回日本臨床眼科学会, 京都市, 2016年11月3日～6日.(学術展示).

27. 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: 眼内レンズ扁平部強膜内固定術の中期術後成績. 第70回日本臨床眼科学会, 京都市, 2016年11月3日～6日.(一般講演).
28. 桑名亮輔, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 松崎有修, 松井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦: 一時的人工角膜併用硝子体手術と全層角膜移植の同時手術例の術後成績. 第55回日本網膜硝子体学会総会, 東京都, 2016年12月2日～4日.(ビデオセッション).
29. 桑名亮輔, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 松崎有修, 松井麻紀, 土至田宏, 太田俊彦: 一時的人工角膜併用硝子体手術と全層角膜移植の同時手術例の術後成績. 第68回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2017年1月21日.
30. 林雄介, 土至田宏, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 桑名亮輔, 松崎有修, 太田俊彦: 角膜内血腫に対して血腫除去術を施行した1例. 第40回日本眼科手術学会学術総会, 東京都, 2017年1月27日～29日(ポスター).
31. 桑名亮輔, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: 難治性黄斑円孔に対し内境界膜自家移植を施行した2例. 第40回日本眼科手術学会学術総会, 東京都, 2017年1月27日～29日(一般講演).
32. 松崎有修, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 桑名亮輔, 土至田宏, 太田俊彦: センターピン付きCCCマーカの有用性に関する検討. 第40回日本眼科手術学会学術総会, 東京都, 2017年1月27日～29日(一般講演).
33. 太田俊彦:これから始める眼内レンズ縫着術と強膜内固定術.第40回日本眼科手術学会学術総会, 東京都, 2017年1月27日～29日(インストラクションコース).
34. 土至田宏, 太田俊彦, 唐澤真里亜, 須藤史子, 村上晶: 家兎ドライアイモデルにおけるジクアホソル点眼液とレバミピド点眼液の治療効果の検討. 角膜カンファレンス2017, 福岡市, 2017年2月16日～18日(一般講演).
35. 土至田宏, 太田俊彦, 村上晶: 主涙腺組織の頑健結膜下移植による涙液分泌量改善を介したドライアイ治療の試み. 第16回日本再生医療学会総会, 仙台市, 2017年3月7日～9日(ポスター).
36. 太田俊彦:IOL位置異常眼の対処法—IOL強膜内固定術を中心に—.第11回東北眼科フォーラム(講演). 仙台市,2017年3月25日.

その他

1. 太田俊彦: 学会へ行こう インターナショナル第8回, IOL&RS 30巻4号, 602-604, 2016.12.
2. 市川浩平, 小林宏明, 舟木俊成, 鈴木康夫, 村上晶: 潰瘍性大腸炎に対して adalimumab 投与中に視神経炎を発症した1例. 神経眼科 33:254-258,2016.
3. 土至田宏: CL 装用と感染症 35. 日コレ誌 58, 43-44, 2016.
4. 太田俊彦: 白内障, アステラス製薬 明日も元気, TBS ラジオ, 2017年1月30日～2月3日.
5. 太田俊彦: コンサルテーションコーナー エキスパートに聞く, IOL&RS 31巻1号, 144, 2017.3.

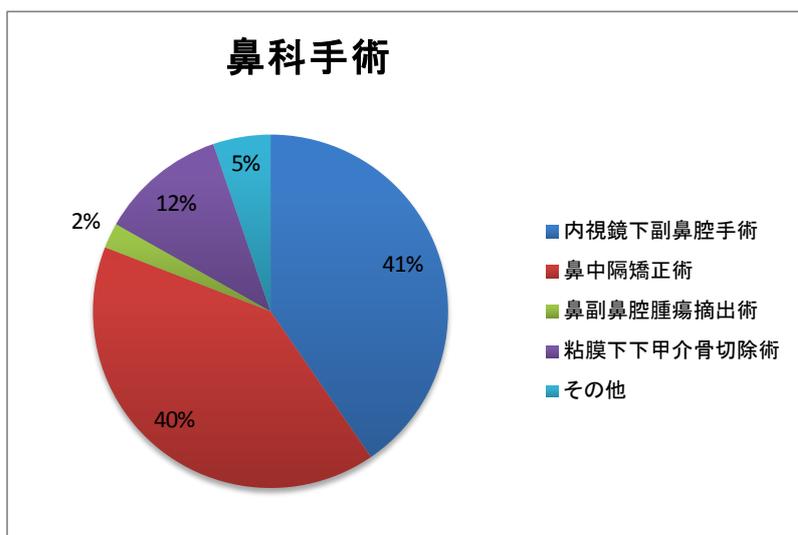
2-17 耳鼻咽喉科

診療活動

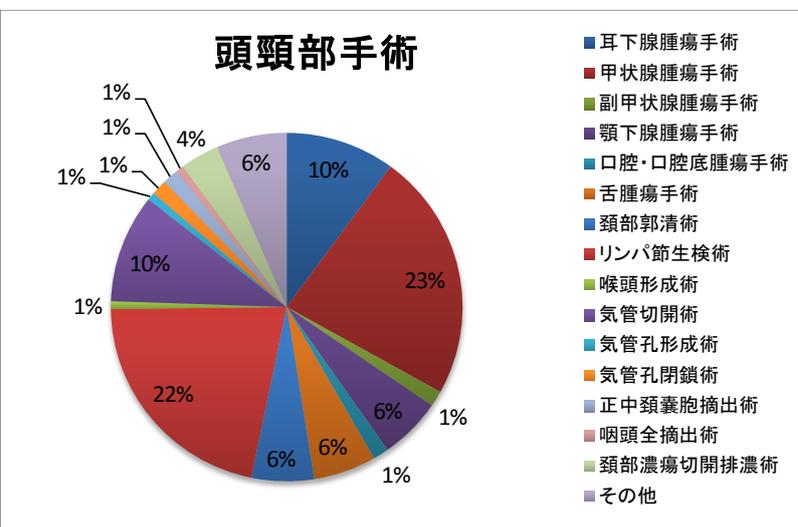
昨年4月1日より医局員の増枠により、現在当科は、医師6人体制で診療にあたっています。そのうち、小生も含め4人が、当院勤務が5年目に入り、多くの患者さんや他施設の先生から、「以前は、耳鼻科医師がコロナ変わっていたけど、今は、ほとんど変わらなくなった」と喜んでいただいています。その間、県内で行われる学会、研究会には、積極的に演題を出し、当科の診療内容を認識してもらうように努めていました。その甲斐あつてか、我々が赴任する以前に比べ、紹介患者が約3割増えております。また、静岡県西部からの紹介も増えております。手術症例で最も多いのは、鼻副鼻腔炎手術ですが、最近では腫瘍患者が、増えてきており、中でも甲状腺腫瘍に関しては、耳鼻科より、内科、外科の診療所の紹介が多いです。平成26年2月より田方歯科医師会と合同で、「がん医科歯科連携」をすすめています。当科では、9割以上の癌患者さんは、口腔ケアの重要性およびその意義を理解され受診されております。今後のより一層、治療後のQOLの向上・維持に努めます。

診療実績

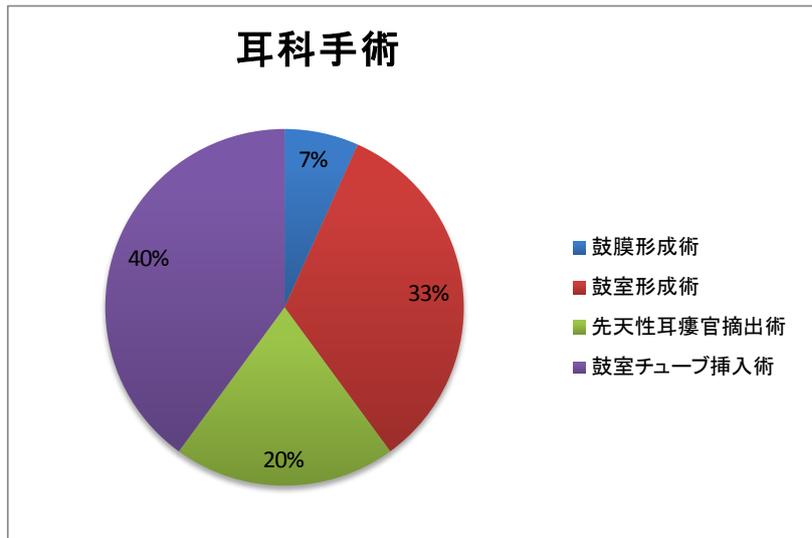
鼻科手術	
内視鏡下副鼻腔手術	70
鼻中隔矯正術	70
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	4
粘膜下下甲介骨切除術	20
その他	9



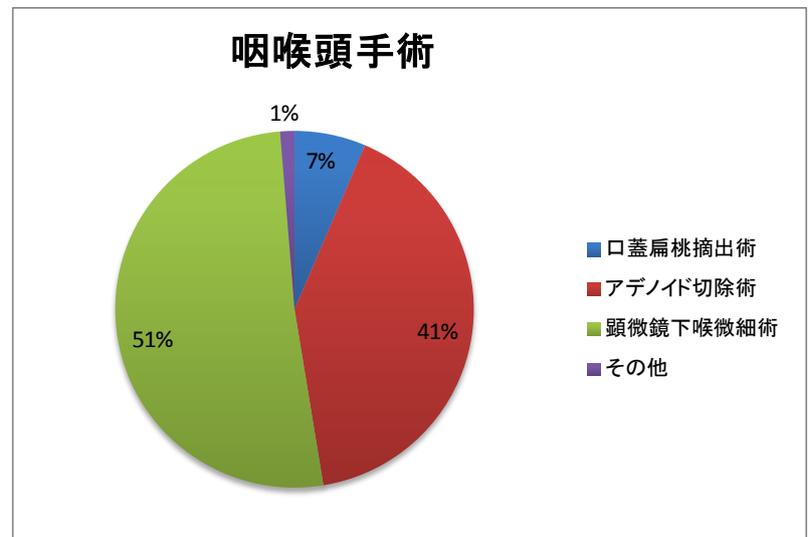
頭頸部手術	
耳下腺腫瘍手術	14
甲状腺腫瘍手術	32
副甲状腺腫瘍手術	2
顎下腺腫瘍手術	8
口腔・口腔底腫瘍手術	2
舌腫瘍手術	8
頸部郭清術	8
リンパ節生検術	30
喉頭形成術	1
気管切開術	14
気管孔形成術	1
気管孔閉鎖術	2
正中頸嚢胞摘出術	2
咽頭全摘出術	1
頸部濃瘍切開排膿術	5
その他	9



耳科手術	
鼓膜形成術	2
鼓室形成術	10
先天性耳瘻官摘出術	6
鼓室チューブ挿入術	12



咽喉頭手術	
口蓋扁桃摘出術	5
アデノイド切除術	32
顕微鏡下喉微細術	40
その他	1



次年度目標

1. 「がん医科歯科連携」の推進
2. 学会活動などを通して、病診連携をさらに強化し、新たな施設からの紹介患者の獲得

研究・教育活動

英文原著

1. Kusunoki T, Honma H, Kidokoro Y, Yanai A, Fujimaki M, Yabe A, Ikeda K. A case of a very elongated styloid process 8cm in length with frequent throat pain for 10 years. Clinics and Practice 2016; volume 6:820.
2. Kusunoki T, Ryo Wada, Honma H, Kidokoro Y, Yanai A, Fujimaki M, Ikeda K. Two cases of the laryngeal cystic lesions. Clinics and Practice 2016; volume 6:822.
3. Kusunoki T, Honma H, Kidokoro Y, Yanai A, Fujimaki M, Yabe A, Ikeda K. A parotid duct sialocle arising from stenson's duct injury due to face multiple stab wounds. Jacobs Journal of Otolaryngology 2016,2: 034
4. Kusunoki T, Honma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K. A case of pleomorphic adenoma arising in

the palate-pharyngeal arch. *Jacobs Journal of Otolaryngology* 2016;2: 035

5. Kaga A, Higo R, Yoshikawa H, Yokoi N, Haruyama T, Komatsu H, Yabe A, Kusunoki T, Ikeda K. A case of multiple empyema caused by *Streptococcus intermedius*. *ANL* 2016 29. pii: S0385-8146(16)30500-4. doi: 10.1016/j.anl.2016.10.009. [Epub ahead of print]
6. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K. Tracheal stenosis due to huge adenomatous goiter. *Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery*. 2016; 2(2):1-2
7. Kusunoki T, Saito K, Ikeda K. Meanings of the Tympanic Mucosa Recovered By Tubotympanoplasty (A Long T-Shaped Solid Silicon Plate in Eustachian Tubal Orifice). *Archives of Otolaryngology and Rhinology* 2016;2(1): 079-081. DOI: <http://doi.org/10.17352/2455-1759.000031>
8. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K. An Adult case of a huge tongue base mucocele. *Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery*. 2016;2(1):1-2.
9. Kusunoki T, Saito K, Ikeda K. One device of surgery for external auditory canal cholesteatoma. *Jacobs Journal of Otolaryngology* 2017;3(1):40
10. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K. Primary malignant lymphoma of the uvula. *Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery*. 2017;2(2):1-2.
11. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Hara S, Kobayashi Y, Tou M, Wada R, Ikeda K. Facial nerve palsy due to parotid abscess with Warthin's tumor. *Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery*. 2017;2(3):1-3.

和文原著

1. 楠 威志: マクロファージ: IL-17A, MUC5AC, Cu, Zn-SOD との関連 *日鼻詩* 55: 86-89, 2016.
2. 楠 威志: 日常診療で行える「腹式呼吸に重点を置いた簡易音声訓練法」 *耳鼻臨床* 109: 518-519, 2016.
3. 矢内 彩、*楠 威志: 難治性咽喉頭病変をきたした慢性活動性EBウイルス感染症. *耳鼻臨床* 109: 608-609, 2016. *Corresponding author
4. 城所淑信、*楠 威志: 当科における「がん医科歯科連携」の試み. *耳鼻臨床* 109: 750-751, 2016. *Corresponding author
5. 本間博友、*楠 威志: 再発を繰り返す術後性上顎嚢胞に対する下甲介粘膜下経由上顎洞手術. *耳鼻臨床* 110: 62-63, 2017. *Corresponding author
6. 原 聡、城所淑信、*楠 威志: セツキシマブによる重度のインフュージョンリアクション症例と対応. *耳鼻臨床* 110: 430-431, 2017. *Corresponding author

和文著書 3 編 (分担筆頭著者 3 編)

1. 楠 威志: 急性喉頭蓋炎. 目でみる耳鼻咽喉科. 文光堂 東京 2017.
2. 楠 威志: 急性・慢性喉頭炎. 目でみる耳鼻咽喉科. 文光堂 東京 2017.
3. 楠 威志: 喉頭肉芽腫. 目でみる耳鼻咽喉科. 文光堂 東京 2017.

科研費

1. 楠 威志 H27 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 新規採択
2. 城所淑信 H26 年度科学研究費補助金 研究活動スタート支援 継続

2-18 麻酔科

診療活動・診療実績

1. 手術室業務

麻酔科の基本業務である手術麻酔は、麻酔科医の減少から昨年度は若干の減少を見たが、今年度は麻酔科医の人数の変更はなく、麻酔管理症例数も増加を示している。結果、各科麻酔制度は廃止し、すべての症例は、麻酔科医または麻酔研修レジデントと非常勤麻酔科医が担当するようになった。各科麻酔システムは、常勤麻酔専門医が極端に少ない当院においては麻酔件数を維持するには有効であったが、術前患者管理、患者状態把握を各科に任せておいてはやはり手術患者の安全と責任の問題が常について回る。常勤麻酔科医の増加と非常勤麻酔科医の減少は、いまだに緊急的問題であり、手術室麻酔業務量が一般的な仕事量守ることも、麻酔科医が研究面にも充実した日々を送れるためにも必要だと考える。

年間手術症例数は、眼科手術が増加しているので過去最高の症例数 7,982 例となった。今年度は、手術室室長が変わり、新手術室長の尾前教授と洪医局長が、手術室の更なる効率化運用を求め、午前中の手術を極力増加することを行った結果、効率運用の指標である手術室利用率は70%を超えている。この午前中に手術室運用を効率化させることが、時間外手術を減少させ、看護師の人的余裕と緊急手術の開始時間が前倒しになることにつながっている。効率的運用が功を奏し、麻酔科管理症例数も 4,093 例となり、H23 年度から減少してきていた症例数も昨年に続き増加に転じている。回復傾向をまた、神経ブロックに長けた常勤専門医の積極的な指導により、近年増加している抗凝固剤を使用している症例に対しても安全に疼痛管理ができる神経ブロックの併用全身麻酔症例が増加した。

表1 総手術件数と麻酔科管理症例の推移

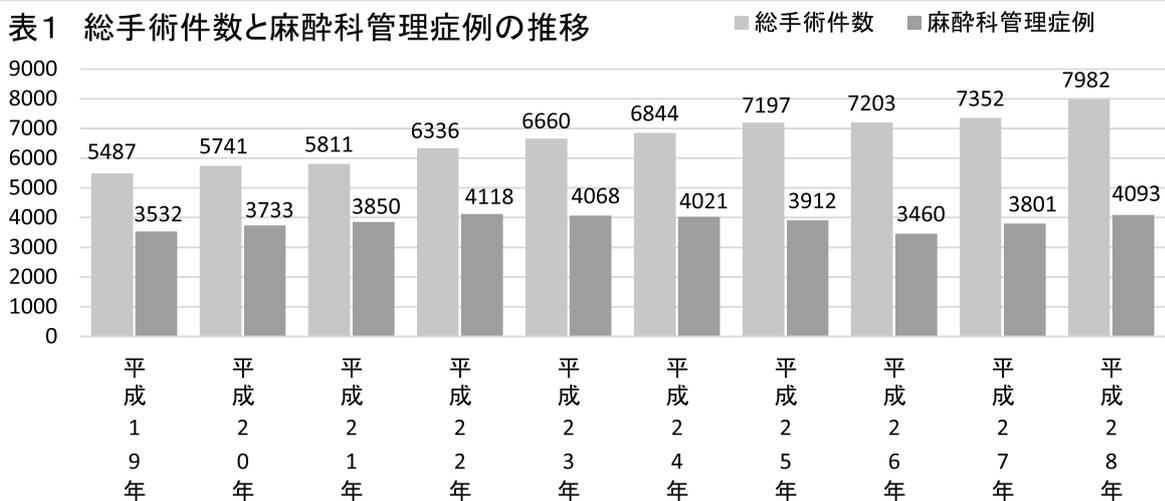
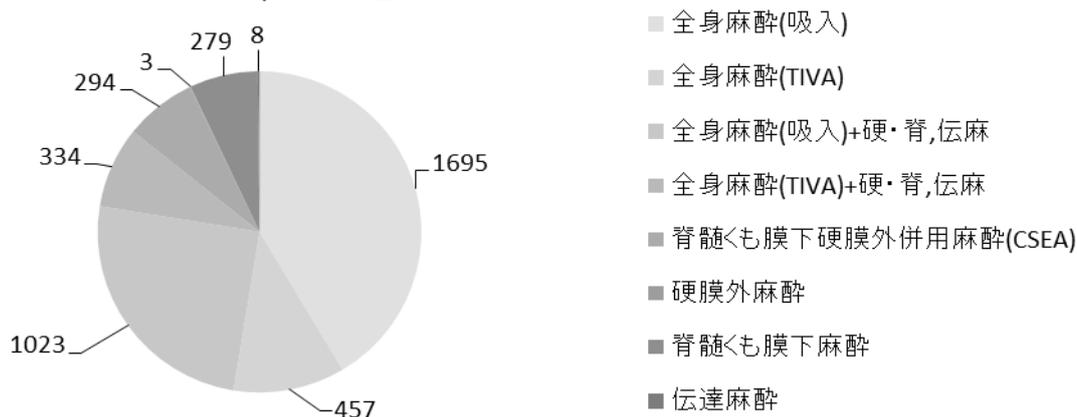


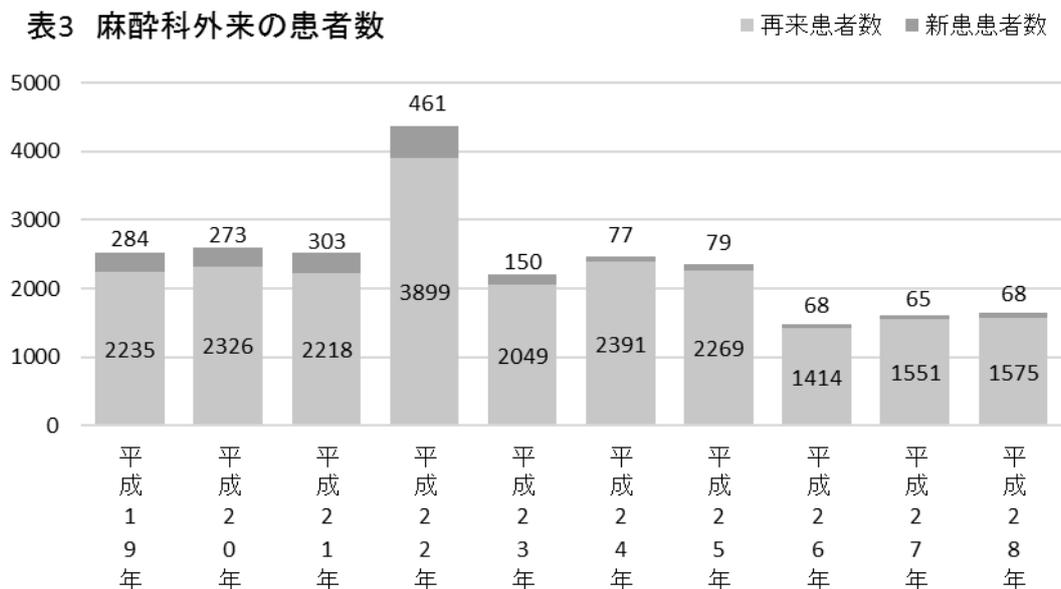
表2 2016年麻酔法別手術件数(麻酔科管理症例)



2. ペインクリニック業務

ペインクリニックは火曜日と金曜日に行っており、症例数は新患者 65 名、再診患者 1551 例で、のべ患者数は 1616 例であった。また、外来業務には術前チェック症例も入っており、余裕を持って合併症を抱える患者の準備を行え、患者の安心にも繋がっている。

表3 麻酔科外来の患者数



3. 集中治療室管理業務

3E-ICU の管理業務では、入室が 811 例(月平均 67.6 例)あり、昨年より延べ人数は若干増加している。3 E-ICU 入室患者のうち HCU としての算定対象者 1878 名で、算定条件を満たしたものは 1787 名であり95%の患者が算定できていた。入室患者の曜日による偏りは未だに多い。

次年度目標

常勤麻酔科医がさらに増加するよう努力する。常勤医の増加は、手術室業務に没頭し、麻酔科学講座としての研究業務がほとんど行われていない状況を改善する特効薬であることには違いない。さらに、麻酔科業務に余裕ができれば、麻酔科医のサブスペシャリティであるICU業務やペインクリニック、緩和ケアを行うことで幅のある麻酔科医を育てながら、順天堂大学麻酔科・ペインクリニックの魅力を発信できると信じている。

教育研究活動

原著(和文)

1. 特集 痛み治療における合併症・副作用の予防と対策
膜外ブロックおよび神経根ブロックに伴う合併症
洪景都 井関雅子
麻酔 Vol.6 No.7 P678-685 2016.7 克誠堂出版(株)周術期輸液の返還
2. 周術期輸液の返還
臨床麻酔 Vol.41 No.2 P135 2017.2 真興交易(株) 東京都
尾前 毅

著書

1. 術前評価・管理と周術期計画 12.頸動脈狭窄、アスピリン
酔科医のための困ったときの3分コンサルト P46-49 2016.6 克誠堂出版 東京都
尾前 毅
2. 術前評価・管理と周術期計画 13.大動脈炎症候群、ステロイド
酔科医のための困ったときの3分コンサルト P50-53 2016.6 克誠堂出版 東京都
尾前 毅

報告(症例報告)

1. 蛋白症患者の全身麻酔下全肺洗浄中に発症した希釈性アシドーシズの経験(ポスター)
稲田美香子、川越いづみ、林田眞和、齋藤愛子、佐藤大三、稲田英一
日本麻酔学会 第63回学術集会 2016.5.26 福岡市
2. スタンチンは周術期心房細動発症を制御するか(ポスターディスカッション)
櫻庭園子、尾前毅、洪景都、若林彩子、田中真佑美、勝田陽介
日本麻酔学会 第63回学術集会 2016.5.26 福岡市
3. Iターンで過疎指定地域に移住した終末期がん患者の療養場所調整に苦慮した一事例
高島信世、岡崎敦、金光芳生、白川啓子、窪倉正一、木下史一、星野剛史、浅井茉裕、山下小夜子、森久美
第21回日本緩和医療学会学術大会 2016.6.17 京都市
4. Comelia de Lange 症候群(CdLS)で右気管気管支を伴った患者の右肺上葉自然気胸に対して、シングルルーメンチューブ(SLT)で分離肺換気に成功した1例
稲田美香子、清水英史、岸井絢、櫻庭園子、太田正孝、岡崎敦
日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第56回合同学術集会 2016.9.3 東京都
5. 硬膜外麻酔施行困難な高度側弯に対して傍脊椎ブロックが有効であった一例
岸井絢、稲田美香子、櫻庭園子、太田正孝、清水英史、岡崎敦
日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第56回合同学術集会 2016.9.3 東京都
6. 緊急帝王切開手術中に血圧コントロールが困難であった1症例
太田正孝、清水英史、岸井絢、稲田美香子、櫻庭園子、岡崎敦
日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第56回合同学術集会 2016.9.3 東京都
7. 僧帽弁形成術後のSAMに対してシベンズリンが有用であった2症例

尾前毅、洪景都、櫻庭園子、若林彩子、稲田美香子、岸井絢

日本麻酔科学会東海・北陸支部第14回合同学術集会 2016.9.10 三重県

8. Statin Therapy for Perioperative Atrial Fibrillation.

Takeshi Omae.

American Society of Anesthesiologist's annual meeting. McCormick Place, Chicago, Illinois, United States of America 2016 Oct 10

9. 偽性低アルドステロン症合併妊娠における帝王切開手術の麻酔経験

太田正孝、清水英史、尾前毅

日本臨床麻酔学会 第36回大会 2016.11.3 高知市

10. 冠動脈バイパス術閉胸時の左内胸動脈血流低下の検出に経食道心エコーが有用であった一例

洪景都、尾前毅、太田正孝、清水英史、若林彩子、櫻庭園子

日本臨床麻酔学会 第36回大会 2016.11.3 高知市

11. 心臓手術の周術期輸液管理

尾前毅

日本臨床麻酔学会 第36回大会 ランチョンセミナー16 2016.11.4 高知市

12. がん性疼痛の憎悪と見られていた難治性背部痛が筋筋膜痛であった症例(ポスターセッション)

洪景都、岡崎敦、高島信世、清水英史

第9回日本運動器疼痛学会 2016.11.26-27 御茶ノ水

13. 重症大動脈弁狭窄症合併患者に対する骨接合術に、デクスメトミジン投与下の大腿神経ブロックが有用であった一例

尾前毅

第29回日本老年麻酔学会 2017.2.11-12 津市

広報活動(講師等)

1. PBLD セッション

虚血性心疾患を持った透析患者の非心臓手術の麻酔管理

コメンテータ 尾前毅

日本麻酔学会 第63回学術集会 2016.5.27 福岡市

2. 心臓血管麻酔領域における術中体液管理の知識習得

尾前毅(講師)

(株)大塚製薬工場社内研修会 2016.6.15 沼津市

3. BLS 講習会 BLS ヘルスケア プロバイダーコース(開催企画者)

岡崎敦

日本 ACLS 協会静岡東部トレーニングサイト 2016.7.3 伊豆の国市

4. ACLS 講習会 ACLS プロバイダーコース(開催企画者)

岡崎敦

日本 ACLS 協会静岡東部トレーニングサイト 2016.7.16~17 伊豆の国市

5. BLS 講習会 BLS ヘルスケア プロバイダーコース(開催企画者)

岡崎敦

- 日本 ACLS 協会静岡東部トレーニングサイト 2016.9.22 伊豆の国市
6. バクスター(株) 社内講演会
岡崎敦(講演)
2016.12.9 沼津市
7. BLS 講習会 BLS ヘルスケアー プロバイダーコース (開催企画者)
岡崎 敦
日本 ACLS 協会静岡東部トレーニングサイト 2017.1.21 伊豆の国市
8. がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会における講義
岡崎 敦 (ファシリテーター)
国際医療福祉大学熱海病院 \$緩和ケア研修会 2017.1.28 熱海市
9. 心エコーと疾患群-1 像帽弁 虚血性像帽弁逆流
尾前 毅 (講師)
JB-POT 日本周術期経食道心エコー認定委員会
第 25 回経食道心エコー講習会：周術期 TEE の基本と応用 2017.3.4 東京都

2-19 放射線科

診療活動

平成 28 年度の検査件数は前年とほぼ同等で、翌診療日までの読影率も概ね 8～9 割程度を保っている。3D 画像など容量が大きく画像作成までに時間のかかる検査が増加しており、man power の低下も相まって読影率は若干低下しつつある。外傷などに対する緊急血管造影、塞栓術や腸腰筋膿瘍などに対するドレナージなどの処置対応は迅速に行われている。放射線治療部門では月間の照射件数が 350～550 件程度で癌拠点病院としての責務を果たしていると言えよう。

業務実績

CT:	32,587 件
MRI:	11,999 件
核医学検査:	914 件
PET-CT:	882 件
骨密度:	1,029 件
一般撮影:	184,056 件

次年度目標

平成 28 年度はネットワークシステムへの順応、電子カルテ対応などが安定した。本年度も引き続き放射線科医、技師その他スタッフの新しい知識の習得、向上につとめ、放射線室全体の人的な底上げをはかるべく勉強会などを充実させていく予定である。また当院本来の三次救急システムにより貢献できるように緊急時の 3D 画像作成など、引き続き「現場で役に立つ医療」を第一に考えていく。放射線科医、放射線技師ともに慢性的な man power の不足について何らかの対応策の必要性が高まってきている。

研究活動

2015 年 日本医学放射線学会秋季臨床大会 silver medal 受賞 :松波 環

2017 年 JJR(日本医学放射線学会雑誌)論文掲載 :松波 環

2-20 メンタルクリニック

診療活動

完全予約制・電子カルテを導入したことで、患者数はさらに増え県内トップクラスの外来患者数を維持しています。新患数でも県内1を維持しています。病棟からのコンサルテーション数も依然多く、自殺企図患者などを救急科と連携して治療しています。必要に応じて、地域の精神科病院に転院させるネットワークも構築され、順調に機能しています。他院で受け入れ困難な精神疾患患者の身体疾患も、各科と連携して受け入れています。

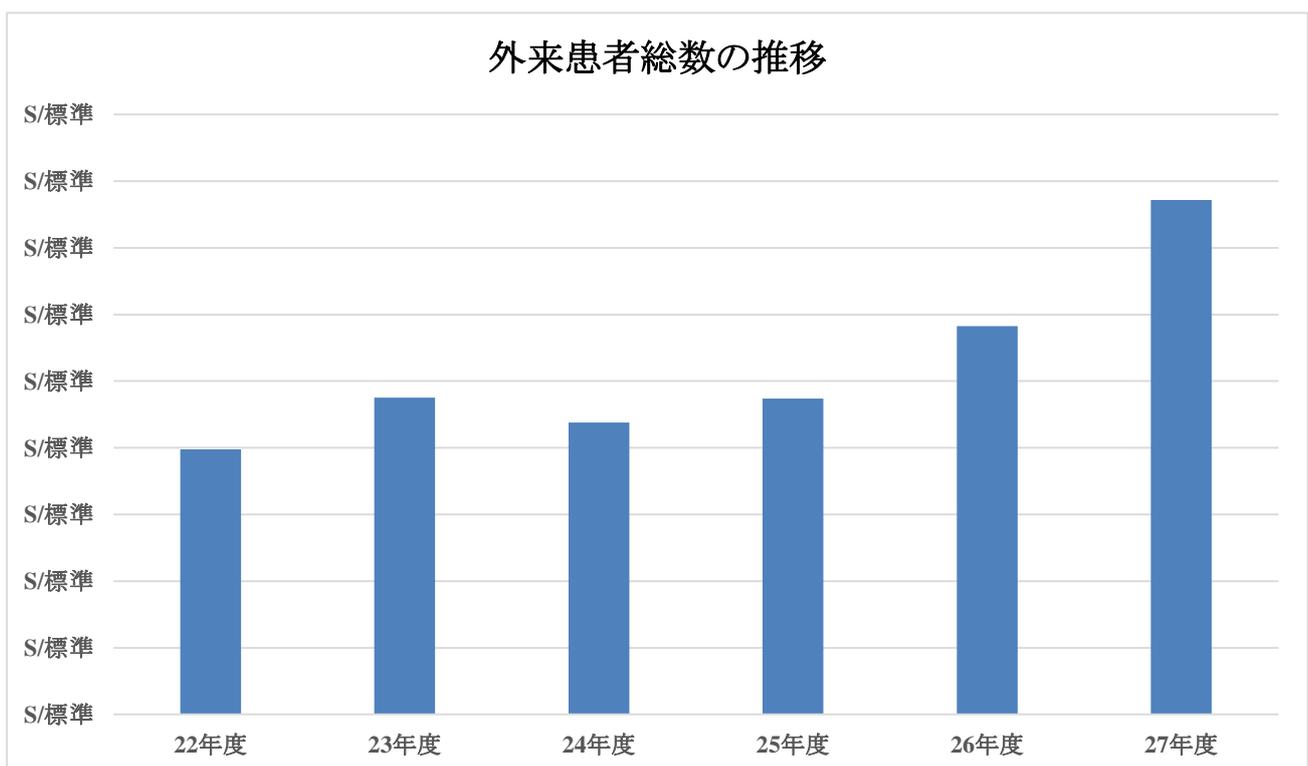
児童思春期の患者も引き続き多数来院しており、他院では対応できないケースを受け入れることも多くなっています。児童に限らず、近年は非薬物療法のニーズが高いことに応え、臨床心理士と連携して、ペアレントトレーニング・ソーシャルスキルトレーニング・認知行動療法・遊戯療法などの非薬物療法を充実させてきました。発達障害児の療育プログラムの充実に取り組んでいます。成人の発達障害の診療においても受診依頼が増加傾向にあります。

研究では、桐野は functional MRI、脳波とMRIの同時測定、functional connectivityなどのニューロイメージング手法を用いた研究を継続しています。児童思春期のメンタルヘルスなどのテーマで講演依頼も多く、地域医療に貢献しています。

次年度の目標

児童思春期・発達障害・認知症など専門外来を新設し、グループ療法などの非薬物療法を充実させていきたいと考えています。

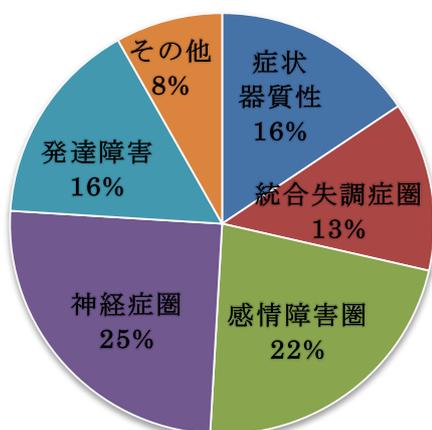
診療実績



	初診												合計	
	H28	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29	1月		2月
F0		8	20	15	18	15	13	8	14	14	16	11	12	164
F1		1	1	1	3	0	0	0	2	0	3	0	2	13
F2		13	10	10	13	7	13	11	16	8	15	14	7	137
F3		18	30	31	16	19	12	19	17	24	16	12	21	235
F4		20	18	36	31	22	21	21	18	17	17	18	25	264
F5		1	2	0	1	0	2	1	2	1	1	1	2	14
F6		2	1	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	7
F7		3	3	5	6	3	2	5	1	2	4	4	4	42
F8		7	6	8	6	13	7	4	3	5	5	2	7	73
F9		4	3	2	3	5	1	7	3	6	3	8	7	52
G40		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
その他		2	5	5	5	2	2	1	2	10	6	6	4	50
合計		79	99	114	103	86	73	79	78	87	86	77	92	1053
再診		1882	1854	1981	1961	1883	1992	1962	1990	1948	1994	1922	2141	23510
初診再診合計		1961	1953	2095	2064	1969	2065	2041	2068	2035	2080	1999	2233	24563

	兼科												合計	
	H28	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H29	1月		2月
F0		37	21	20	18	19	25	16	20	20	14	20	30	260
F1		1	0	3	1	2	1	2	3	2	4	1	0	20
F2		0	4	0	0	4	3	3	3	1	2	0	0	20
F3		3	3	4	0	2	2	4	2	3	1	1	2	27
F4		1	3	1	1	2	5	3	4	2	2	3	2	29
F5		0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
F6		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F7		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3
F8		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
F9		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
G40		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他		1	2	0	0	0	1	0	0	2	0	2	1	9
合計		43	35	28	20	30	38	29	32	31	23	28	36	373

平成28年度新患者の内訳



研究活動

英文原著

1. Tanaka S, **Kirino E**: Functional connectivity of the dorsal striatum in female musicians. *Frontiers in Human Neuroscience* 10: PMID: 27148025. 2016 doi: 10.3389/fnhum.2016.00178
2. Tanaka S, **Kirino E**: Functional connectivity of the precuneus in female university students with long-term musical training. *Frontiers in Human Neuroscience*. 10: PMID: 27445765. 2016. doi: 10.3389/fnhum.2016.00328.
3. **Kirino E.**: Effect of topiramate in Japanese patients with binge eating behavior. *Current Topics in Pharmacology*. 20: 81-85. 2016
4. **Kirino E**, Tanaka S, Fukuta M, Inami R, Arai H, Inoue R, Aoki S: Simultaneous rsfMRI and EEG Recordings of Functional Connectivity in Patients with Schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 71(4): 262–270, 2017 doi: 10.1111/pcn.12495.
5. Tanaka S, **Kirino E**: Reorganization of the thalamocortical network in musicians. *Brain Research* 1664: 48-54, 2017 doi: 10.1016/j.brainres.2017.03.027
6. **Kirino E**: Three-dimensional stereotactic surface projection in the statistical analysis of SPECT data for distinguishing between Alzheimer's disease and depression. *World Journal of Psychiatry* 7 (2): 121-127, 2017 DOI: 10.5498/wjp.v7.i2.121, ISSN 2220-3206 (online)

和文原著

1. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 井上令一, 新井平伊: 統合失調症におけるdefault mode networkのfMRIと脳波の同時計測を用いた検討. *日本薬物脳波学会雑誌* 17 (1): (印刷中)
2. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 新井平伊, 井上令一: 成人自閉症スペクトラム障害患者におけるfunctional connectivityのrs-fMRIを用いた検討. *日本薬物脳波学会雑誌* 18 (1): (印刷中)

和文総説

1. **桐野 衛二**: うつ病とアルツハイマー病の鑑別における SPECT 3D-SSP および DAT-SPECT の有用性について. *総合病院精神医学* 28 (3): 233-242, 2016

英文著書

1. **Kirino E**: Antidepressant efficacy of escitalopram in major depressive disorder. López-Muñoz, F., Srinivasan, V., de Berardis, D., Álamo, C., Kato, T.A. (Eds.) *Melatonin, Neuroprotective agents and Antidepressant Therapy*. Springer India, 465-476, 2016. (DOI: 10.1007/978-81-322-2803-5_30)

和文報告

1. **桐野衛二**: 第18回埼玉東部精神医療フォーラム 特別講演2「成人発達障害の診断と治療」. 平成27年度順天堂精神医学研究所紀要: 15-26, 2016
2. **Kirino E**, Tanaka S: Functional organization of resting-state networks in young healthy adults. 平成27年度順天堂精神医学研究所紀要: 27-40, 2016
3. Inami R, **Kirino E**, Tanaka S, Arai H, Inoue R: Under-modulated Functional Connectivity Associated with the Insular Cortex in Patients with Schizophrenia: a Resting-state Functional MRI Study. *Brain Connectivity*. 平成27年度順天堂精神医学研究所紀要: 41-47, 2016
4. 福田麻由子, **桐野衛二**, 田中昌司, 井上令一, 新井平伊: 統合失調症におけるdefault mode networkのfMRIと脳波の同時計測を用いた検討. 平成27年度順天堂精神医学研究所紀要: 48-54, 2016
5. **桐野衛二**: 日本臨床神経生理学会認定医・認定技術師試験問題解説シリーズ第3回問題4. *臨床神経生理学* 44 (2): 85-86, 2016
6. Inami R, **Kirino E**, Fukuta M, Arai H, Inoue R: Simultaneous rsfMRI and EEG Recordings of Functional Connectivity in Patients with Schizophrenia. 平成28年度順天堂精神医学研究所紀要: 8-18, 2017
7. **桐野 衛二**: いわゆる 3Q の臨床応用と神経学的基盤. 平成 28 年度順天堂精神医学研究所紀要: 1-7, 2017

8. **桐野衛二**: 日本臨床神経生理学会認定医・認定技術師試験問題解説シリーズ第10回問題5. 臨床神経生理学 45 (4): 2017 (印刷中)

英文学会発表

1. Tanaka S, **Kirino E**: A network for auditory-motor coupling: comparison between musicians and nonmusicians. Annual Meeting of The Cognitive Neuroscience Society. San Francisco, March 25-28, 2017.

和文学会発表(招待講演)

1. **桐野衛二**: 子どもの心の不調についてー医療現場から見える現代の子どもの様子ー田方地区学校保健会総会 伊豆の国市, 2016年6月23日
2. **桐野衛二**: 心の病気の理解と治療について. 家族のための精神保健福祉講座. 伊豆の国市, 2016年7月5日
3. **桐野衛二**: メンタルクリニック外来から見た発達障害. 日私小連全国教員夏季研修会 横浜 新横浜プリンスホテル, 2016年8月9日
4. **桐野衛二**: 高次脳機能障害者・家族の支援～精神科医の視点から～静岡高次脳機能障害リハビリテーション講習会 静岡市, 2016年11月27日
5. 東根明人, 大羽瑠美子, 伊藤憲治, **桐野衛二**: コーディネーション運動と社会性および脳活性の相互関係 第13回敬心学園学術研究会分科会2福祉分野 2016
6. **桐野衛二**: 医療とカウンセリング-精神科医とカウンセラーの連携の現場より-. 三島カウンセリング研究会公開講座 三島市, 2017年7月1日
7. **桐野衛二**: 疾病・臨床病態概論 (17) 第5回 精神疾患・精神系疾患・神経系疾患 放送大学オンライン授業2017(製作中)

その他和文学会発表

1. 田中昌司, **桐野衛二**: 音大生の脳は嗅前部の機能的結合が強化されている. 第39回日本神経科学大会(パシフィコ横浜) 2016年7月20～22日
2. 高木宏章, **桐野衛二**, 田中昌司: 顔の表情知覚における機能的脳神経ネットワークの動的再構成. 第39回日本神経科学大会(パシフィコ横浜) 2016年7月20日～22日
3. 望月明人, 須藤路子, 伊藤憲治, **桐野衛二**: コーディネーション能力と社会認知能力および言語能力との関連性. 第71回日本体力医学会大会 岩手 2016年9月23日～25日
4. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 新井平伊, 井上令一: 成人自閉症スペクトラム障害患者におけるfunctional connectivityのrs-fMRIを用いた検討. 第18回日本薬物脳波学会学術集会, 宮古島, 2016年11月11～12日.

海外雑誌査読

Journal of Affective Disorders 1 編, Neuropsychobiology 1 編, Psychiatry and Clinical Neurosciences 1 編

主な競争的資金の獲得状況

平成 26-30 年度 基盤研究(C) (研究代表者) 課題番号 21591532「機能的MRIと脳波の同時計測による default mode networkの検討」 ¥5,070,000 (直接経費¥3,900,000)

2-21 皮膚科・アレルギー科

診療活動

2016年の診療実績ですが、外来・入院患者数の長期減少傾向はいまだに続いています。紹介率・逆紹介率は若干向上しているのですが、十分とはいえません。診療効率を上げるためには、一層の地域医療連携と院内チーム医療の向上を目指しております。全身麻酔を要する手術については、医療安全上必要とされる2名以上の術者を確保できず、比較的大きな手術については、形成外科にお願いしています。一方、手術後療法や創傷管理については当科が役割を担うなど院内連携を強化しました。疾患内訳ですが、一般皮膚疾患が減少する一方、不変、一部の疾患では微増しています。地域・院内を通じた医療連携を最も必要とする重症薬疹は急増しており、地域の先生方の益々のご支援を願っています。チーム医療の実を上げるため、他科に先駆けて看護師の外来・病棟の一体化を導入しましたが、入院外来業務の効率化に大きく貢献しました。さらに、診療における無駄にも改めて着目し、問題点をチームスタッフとともに洗い出し、改善を進めています。

診療実績

【外来・入院・手術】

	2012	2013	2014	2015	2016
外来(1日平均)	113.7	99.3	96.4	96.8	92.0
新患(年間総人数)	3191	2850	2448	2225	2021
外来手術(年間件数)	528	569	457	396	292
紹介率(%)	19.8	17	19	22.5	29.1
逆紹介率(%)		8.5	9.1	20.7	27.4
入院(年間新入院患者総数)	329	286	172	205	201
中央手術(年間件数)	46	30	10	1	2

【主要難治性皮膚疾患】

	2012	2013	2014	2015	2016
アトピー性皮膚炎	656	491	456*	426	458
乾癬	125	77	62	69	62
円形脱毛症	89	82	86	90	99

*病名統計から「顔面アトピー性皮膚炎」を除く

【皮膚悪性腫瘍】

	2012	2013	2014	2015	2016
基底細胞癌	8	19	12	22	16
有棘細胞癌(ボーエン病を含む)	12	10	12	27	30
悪性黒色腫	7	2	2	11	8
悪性リンパ腫(菌状息肉症含む)	9	8	5	4	4

次年度目標

1. 接遇改善:医師人員減に伴う外来待ち時間対策が喫緊の課題です。予約しているのに待つという問題は、患者さんのご要望・苦情の筆頭であり、現在予約枠の適正化を図っております。一方で、紹介・初診の診療のあり方についても、診療時間を短縮するための抜本的な改善を事務職・看護師・医師が協力しながら模索していきます。
2. 院内・院外連携の強化:チーム医療のさらなる充実を図ります。チームのコミュニケーションを潤滑にし、感染対策を含む医療安全・接遇を向上させつつ、入院患者に対する診療の質向上に努めます。また、順天堂医院を通じて短期研修する外国人医師との意見交換・交流に皮膚科スタッフ全員参加で当たります。

研究活動

和文原著

1. 野々垣 香織, 吉池 高志, 竹下 芳裕:鍼痕に生じた有棘細胞癌. *Skin Cancer* 31: 285-289, 2017
2. 稲毛 明子, 吉池 高志:梅毒血清反応陰性かつ性交渉の否定により当初診断が困難であった硬性下疳の1例. *皮膚科の臨床* 58: 1763-1765, 2016
3. 永田 絢子, 根木 治, 秋山 俊洋, 吉池 高志:【ウイルス感染症 最近の動向】免疫不全患者に生じた多発性の真皮内伝染性軟属腫. *皮膚科の臨床* 58: 1639-1642, 2016
4. 伊勢 友加里, 秋山 俊洋, 吉池 高志, 徳留 康子:Hyperkeratosis of Nipple and Areola の1例. *皮膚科の臨床* 58; 715-718, 2016
5. 白石 映里子, 飯田 秀雄, 本間 由希子, 石井 智子, 桑江 義介, 吉池 高志:テルピナフィン塩酸塩による急性汎発性発疹性膿疱症の1例. *皮膚科の臨床* 58: 247-251, 2016
6. 稲毛 明子, 竹内 かおり, 根木 治, 木村 有太子, 鈴木 民夫, 須賀 康:光治療(Intense Pulsed Light)により顔面皮疹の改善がみられた遺伝性対側性色素異常症の3症例. *Aesthetic Dermatology* 26: 332-339, 2016

和文著書

1. 吉池高志:XVI-B9 風疹、渡辺晋一・古川福美編:皮膚疾患最新の治療 2016 -2017、p186、南江堂、東京

2-22 泌尿器科

診療活動

遺伝性の多発性嚢胞腎(難病指定)のサムスカによる治療を開始した。

腹腔鏡下に副腎腫瘍、腎癌および腎盂尿管癌の手術を行っている。腹腔鏡下腎摘除術は後腹膜アプローチで行っている。出血も少なく輸血症例はなかった。術後の回復も問題なかった。

大きな腎癌に対して開腹で根治的腎摘除術を行っている。今年も下大静脈浸潤のある腎癌には心臓血管外科と手術を行った。所属リンパ節に転移のある症例、肺転移のある症例に関しても可能なものは手術を行った。

4センチ以下の小径腎癌では開腹による腎部分切除を積極的に行っている。転移のある腎細癌に対して分子標的薬による治療を行っている。前立腺癌に対しては開腹で前立腺全摘を行っている。腹腔鏡と同じ手技で膀胱頸部温存および膀胱—尿道吻合での連続吻合を行っている。

前立腺肥大症の手術にPVP手術を導入し、28症例行った。出血量、手術時間、術後のカテーテル抜去時間に著明な改善が見られた。また、TURは昨年から生食を灌流液とするTURisを導入した。

ESWLの症例が減り、経尿道的尿管結石破碎術(TUL)が激増したTULにおいてはホルミウムヤグレーザーを用いて破碎するだけでなく、バスケット鉗子を用いて回収し残石がないようにしている。硬性鏡だけでなく軟性尿管鏡(コブラ)も用いて腎盂腎杯結石の治療を行っている。ハイビジョンのモニターになったこともあり、手術時間の短縮および手術成功率が向上した。小径の器具を用いた経皮的腎碎石術(PNL)の症例が増加した。

近隣の病院からの紹介による尿路通過障害に伴う腎盂腎炎の症例が多かった。ステント留置数は極めて多くなった。DICを伴う症例が多く、全身状態の管理に大変な患者が多かった。

去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム-223(ゾーフィゴ)の治療が当院で可能になった。

診療実績

(1) 腹腔鏡下手術

腹腔鏡下副腎摘除術	7例
腹腔鏡下腎摘除術	8例
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	1例

(2) 開腹手術

根治的腎摘除術	4例
腎部分切除術	5例
腎尿管全摘除術	2例
膀胱全摘除術	3例
膀胱部分切除術	3例
尿管新吻合術	1例
前立腺全摘除術	8例

(3) 内視鏡手術

TUR-Bt	79 例
TUR-P	0 例
PVP 手術	28 例
ESWL	38 例
TUL	59 例
PNL	8 例
尿管ステント留置	207 例
腎瘻造設	18 例

次年度目標

グリーンレーザーを手術に導入し症例数が安定した。次年度は前立腺肥大症の標準術式として確立したい。また来年度は大きな前立腺肥大症にも対応できる、HoLEPも導入したい。昨年は、生食を灌流液とするTURの新しい機械であるTURisシステムが導入され、膀胱腫瘍、前立腺肥大症の手術の精度が増した。画像もHigh Visionになり、次年度はTUR-Bt, TUR-Pのいっそう質の向上を目指したい。大きな腎結石に対して、小口径腎盂鏡を用いた経皮的腎結石破碎術(PNL)が始まり、件数を増加した。

研究・教育活動

研究業績

原著

藤田和彦、泌尿器科領域のプライマリーケア、今日の治療指針, 2016, p1217-1218

報告

1. 藤田和彦, 半田亜希, 中島晶子, 稲本宗, 今泉健太郎, 気腫性腎盂腎炎の治療方針(12例の経験から)、泌尿器科学会中部総会。2016.10.29 四日市
2. 藤田和彦, 半田亜希, 中島晶子, 稲本宗, 今泉健太郎, 精巣胎児性癌におけるシリアルルイスCの腫瘍マーカーとしての意義、泌尿器科学会東部総会。2016.10.8 青森
3. 今泉健太郎, 黒澤誠, 飯村研二, 清水史孝, 坂本善郎, 堀江重郎、当院における進行性腎細胞癌に対するパゾパニブ初期投与12症例の使用経験、第104回泌尿器総会 2016.4.25 仙台
4. 今泉健太郎, 黒澤誠, 飯村研二, 清水史孝, 坂本善郎, 堀江重郎、当院における去勢抵抗性前立腺癌に対するエンザルタミドの使用経験、第81回東部総会 H28.10.8 青森
5. 今泉健太郎 1、半田亜希、中島晶子、稲本宗、藤田和彦、堀江重郎、前立腺癌放射線療法後の放射線性腸炎に対する高圧酸素療法(HBO)13症例の検討、第66回中部総会 H28.10.27 四日市
6. 今泉健太郎、半田亜希、中島晶子、稲本宗、清水史孝、坂本善郎、藤田和彦、堀江重郎、診断に難渋した同時性三重複癌(膀胱・肺・大腸)の1例、第68回西日本総会 H28.11.26 下関
7. 今泉健太郎、半田亜希、中島晶子、稲本宗、藤田和彦、堀江重郎、当院における去勢抵抗性前立腺癌に対するアピラテロンの使用経験、静岡県伊豆地区前立腺がん講演会 H28.11.16

8. 中島晶子、半田亞希、稲本宗、今泉健太郎、藤田和彦、堀江重郎
排尿障害を契機に発見された pelvic lipomatosis の一例
2016.6.25 静岡県泌尿器科医会 三島
9. 中島晶子、半田亞希、稲本宗、今泉健太郎、藤田和彦、堀江重郎
肺病変を伴う腎腫瘤で発見された腎原発悪性リンパ腫の一例
2016.10.8 第81回日本泌尿器科学会東部総会 青森
10. 中島晶子、半田亞希、稲本宗、今泉健太郎、藤田和彦、堀江重郎
排尿障害を契機に発見された pelvic lipomatosis の一例
2016.10.29 第66回日本泌尿器科学会中部総会 三重
11. 中島晶子、半田亞希、稲本宗、今泉健太郎、藤田和彦、堀江重郎
肺病変を伴う腎腫瘤で発見された腎原発悪性リンパ腫の一例
2017.1.21 静岡県泌尿器科医会 浜松
12. 半田 亞希 中島 晶子 稲本 宗 今泉 健太郎 藤田 和彦 堀江 重郎 当院における精巣捻転につ
いて、第66回日本泌尿器科学会中部総会 四日市

2-23 産婦人科・総合周産期母子医療センター

診療活動(診療科紹介)

平成20年8月に静岡病院が静岡県東部地域で初めての総合母子周産期センターに指定されてから、平成29年で9年目となった。総合母子周産期センターの最も重要な役割である、救急の母体搬送は122件で、ここ数年間、120件以上で推移している。分娩件数は882件であり、2008年度から年間約900件前後と多くの分娩を請負、当院の新生児センターと協力して静岡県東部地域の周産期医療の中心的な役割を果たしている。妊娠25週未満の母児管理が困難である切迫早産・前期破水症例、重症妊娠高血圧症候群症例や、産褥大量出血症例など、極めてハイリスク症例が多くみられる。手術件数は937件と前年を大きく上回り、特に良性腫瘍症例が大幅に増加した。悪性腫瘍手術件数も78件で、悪性腫瘍に合併症を伴う症例や、手術以外の化学療法、放射線治療症例数も増加をしている。

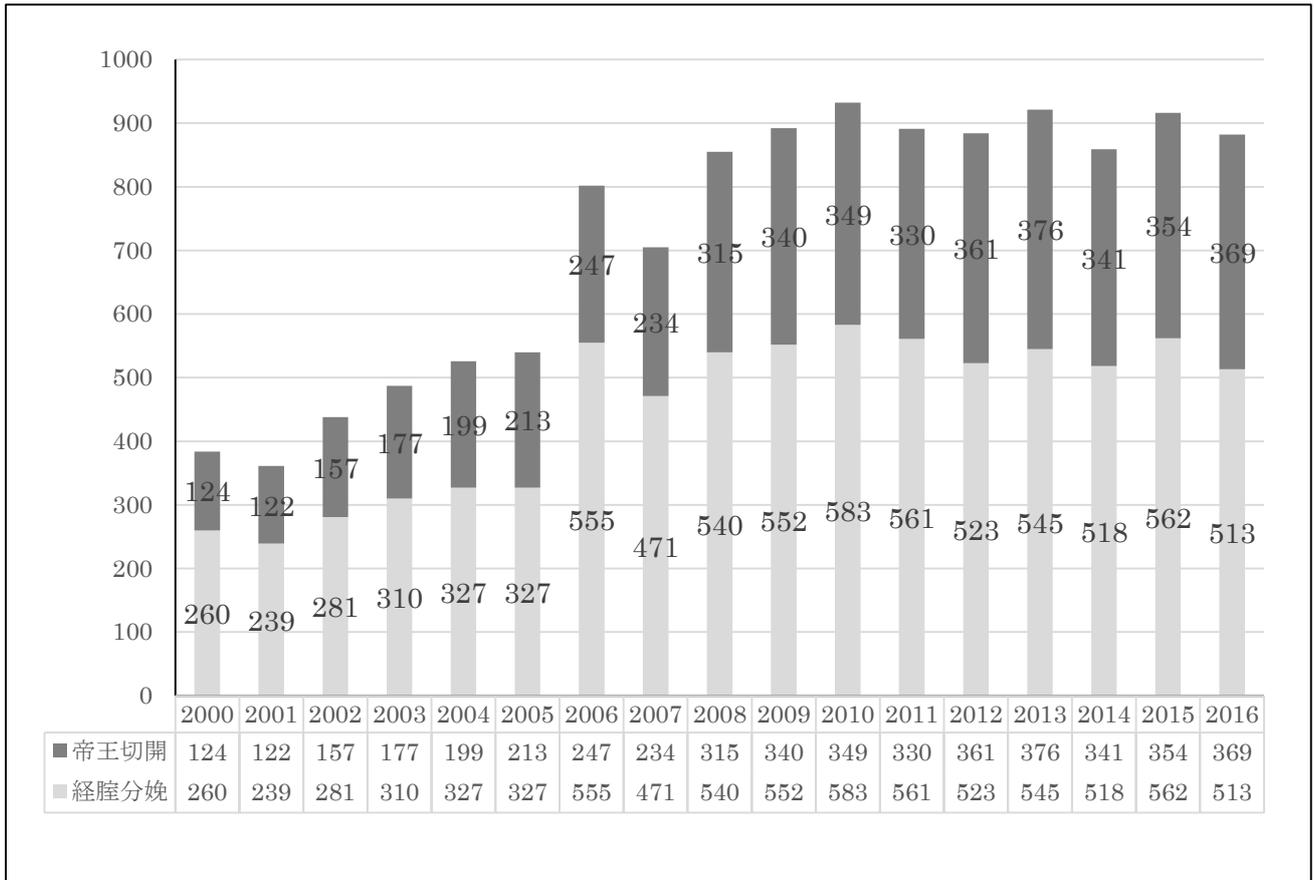
静岡県東部の基幹病院としての役割を果たせるよう今後も引き続き努力していきたい。

診療実績

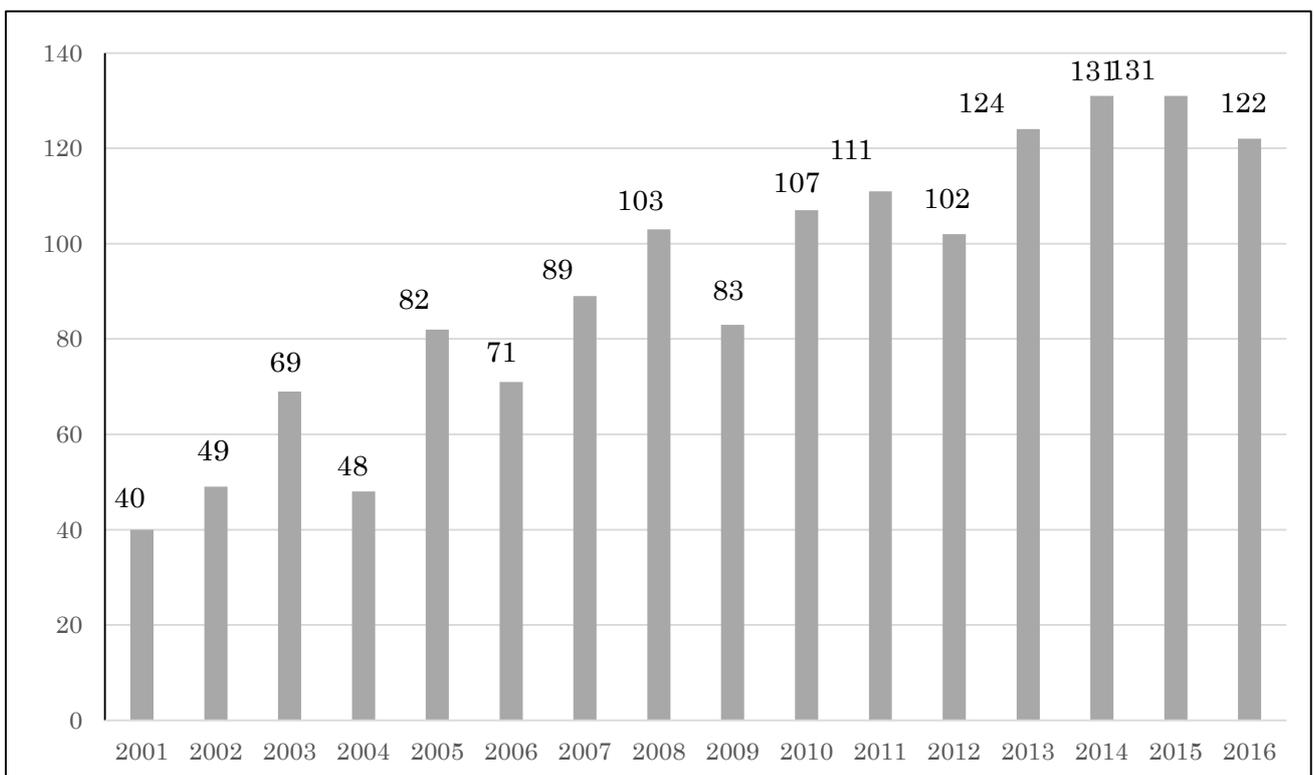
【手術件数】

		2013	2014	2015	2016
腹腔鏡	卵巣	47	59	59	65
	子宮	0	0	1	0
	子宮外妊娠	6	20	12	21
	その他	4	0	1	0
開腹手術	帝王切開術	376	341	354	369
	良性	182	221	214	309
	悪性	62	53	73	78
悪性手術内訳	子宮頸癌	10	12	14	15
	子宮体癌	27	16	34	36
	卵巣癌	22	20	24	25
	その他	3	5	1	2
腔式手術	円錐切除	18	12	16	36
	頸管縫縮術	15	19	13	14
	子宮脱根治術	10	7	5	13
	陰閉鎖術	15	2	14	24
	その他	13	2	9	8
合計	810	789	859	937	

【分娩件数推移】



【母体搬送数推移】



次年度目標

現在当科は 11 人の医師が、外来・病棟診療にあたっている。産科では 2008 年度から増加した分娩件数および母体搬送件数の維持と増加を、婦人科では悪性腫瘍症例件数の増加や標準治療の quality 向上を引き続き、目標にしている。研究活動では、昨年度と同様に国内外の学会発表や、英語論文を中心とした業績の研鑽を積む。また新生児科と協力して、次世代シークエンサーを使用し母体ストレスが胎児・新生児に及ぼす影響に関する研究や、最新の超音波を用いた婦人科疾患および産科疾患の臨床研究を行う。

研究活動

原著(英文)

1. Yamamoto Y, Hirose A, Howley L, Savard W, Jain V, Hornberger LK. Parameters of fetal pulmonary vascular health: baseline trends and response to maternal hyperoxia in the 2nd and 3rd trimesters. *Ultrasound Obstet Gynecol.* 2016 Dec 10.

原著(和文)

1. 市山卓彦, 田中利隆, 佐藤杏奈, 植木 典和, 平山貴士, 山口貴史, 菅沼牧知子, 田中沙織, 五十嵐優子, 田口雄史, 三橋直樹. 超音波検査が診断に有用であった非瘢痕子宮に発症した子宮破裂の 2 例. *超音波医学* 43 巻 4 号 P587-592. 2016
2. 石田ゆり, 田中利隆, 北村絵里, 篠原三津子, 高橋奈々子, 村田佳菜子, 菅直子, 矢田昌太郎, 宮国泰香, 山本祐華, 金田容秀, 三橋直樹. 妊娠に絡む諸問題への対応 超音波所見から子宮頸管延長及び嵌頓子宮と診断した子宮筋腫合併妊娠の一例. *産科手術* 27 号 P55-61. 2016
3. 吉田恵美子, 田中利隆, 藤原里紗, 石田ゆり, 大野基晴, 松井泰佳奈, 菅沼牧知子, 田中沙織, 宮国泰香, 五十嵐優子, 田口雄史, 三橋直樹. 当院で頸管した周産期心筋症の 4 症例とその予後の検討 *日本周産期・新生児医学会雑誌* 52 巻 4 号 P1144-1149. 2016

総説(和文)

1. 山本祐華. 【胎児発育不全(FGR)の管理 UP To Date】原因別にみた管理の実際 胎児要因 先天性疾患における FGR の評価 *臨床婦人科産科* 70 巻 10 号 P932-937. 2016

学会発表(国際)

1. A case of obstetric disseminated intravascular coagulation (DIC) that was successfully treated using Dry-hematology system (DRIHEMATO®).
Asako Kumagia, Keiko Miyashita, Hiroyuki Sumikura
Juntendo University, Faculty of Medicine. Department of Anesthesiology and Pain medicine
SOAP (Society of Obstetric Anesthesia and Perinatology) 48th Annual Meeting (May. 2016. Boston)
2. Identification of labor onset hypertension under obstetric analgesia.
Asako Kumagai, Shintaro Makino, Jun Takeda, Tadayoshi Uesato, Chihiro Hirai, Astuo Itakura, Satoru Takeda
Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Faculty of Medicine

FAOPS 19th (The Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies) (Dec. 2016 Taipei)

3. Prediction of severity of lung hypoplasia in the fetuses with prolonged premature rupture of membrane.

Yuka Yamamoto, Akiko Hirose, Venu Jain, Winnie Savard, Lisa Hornberger

26th World conference for International Society of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology.

(Sep. 2016 Rome)

学会発表 (国内)

1. 妊娠 34 週以降の胎児発育不全における分娩管理の検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
石田ゆり、山本祐華、篠原三津子、高橋奈々子、北村絵里、村田佳菜子、矢田昌太郎、菅直子、
宮国泰香、金田容秀、田中利隆、三橋直樹
第 68 回日本産婦人科学会学術集会 2016. 4 東京
2. HELLP 症候群に伴う肝機能障害に尿崩症を発症した一例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
篠原三津子、山本祐華、高橋奈々子、北村絵里、石田ゆり、村田佳菜子、矢田昌太郎、菅直子、
宮国泰香、金田容秀、田中利隆、三橋直樹
第 68 回日本産婦人科学会学術集会 2016. 4 東京
3. Myocardial diastolic function with early diastolic intraventricular pressure difference in fetuses. Yuka Yamamoto, Yo Takemoto, Atsuo Itakura, Satoru Takeda
Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Faculty of Medicine
第 68 回日本産婦人科学会学術集会 2016. 4 東京
4. 超音波により先天性胆道拡張症と出生前診断した 2 例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆、山本祐華、加藤雅也、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、本田理子、村田佳菜子、菅
直子、矢田昌太郎、金田容秀、三橋直樹
第 89 回日本超音波医学会学術集会 2016. 5 京都
5. 塩酸リトドリン製剤の経静脈投与における副作用の検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
加藤雅也、村田佳菜子、高橋奈々子、篠原三津子、北村絵里、本田理子、矢田昌太郎、菅直子、山
本祐華、金田容秀、田中利隆、三橋直樹
第 131 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 2016. 6 東京
6. 分娩時高血圧のハイリスク例抽出における無痛分娩の有用性
順天堂大学医学部附属順天堂医院 産婦人科
熊谷麻子 牧野真太郎 竹田純 平井千裕 島貫洋太 板倉敦夫 角倉弘行 竹田省
第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016. 7 富山
7. 胎児期に四肢短縮を指摘され骨系統疾患が疑われた 4 例
順天堂大医学部附属静岡病院 産婦人科
村田佳菜子、田中利隆、加藤雅也、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、本田理子、菅直子
矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、三橋直樹

- 第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016. 7 富山
8. 妊娠 34 週未満の早産妊婦に対する母体ステロイド単回プロトコールにおける投与状況
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆、北村絵里、篠原三津子、高橋奈々子、本田理子、村田佳菜子、矢田昌太郎、菅直子、
山本祐華、金田容秀、三橋直樹
第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016. 7 富山
9. シンポジウム「周産期専門医制度」 「周産期専門医制度の向上を目指して」
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
山本 祐華
第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016. 7 富山
10. 妊娠中後期胎児における拡張早期心室内圧較差の推移
順天堂大学
山本祐華、高橋健、大野香奈、清水俊明、板谷慶一、板倉敦夫、竹田省
第 52 回日本周産期新生児医学会 2016. 7 富山
11. 妊娠中のストレスが与える周産期予後への影響
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
村瀬佳子
第 32 回東部周産期研究会 2016. 7 静岡
12. 妊娠中後期胎児における拡張早期心室内圧較差の推移
順天堂大学
山本祐華、高橋健、大野香奈、清水俊明、板谷慶一、板倉敦夫、竹田省
第 36 回小児循環血行動態研究会学術集会 2016. 10 金沢(会長賞受賞)
13. 超音波カラー Doppler 法と HD live flow が診断に有用であった子宮動静脈奇形の 1 例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
矢田昌太郎、熊谷麻子、北村絵里、助川幸、村田佳菜子、菅直子、田中里美、山本祐華、金田容秀
田中利隆、三橋直樹
第 132 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 2016. 10 東京
14. 超音波カラー Doppler 法と HD live flow が診断に有用であった子宮動静脈奇形の 1 例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
矢田昌太郎、熊谷麻子、北村絵里、助川幸、村田佳菜子、菅直子、田中里美、山本祐華、金田容秀
田中利隆、三橋直樹
平成 28 年度静岡産科婦人科学会秋季学術集会 2016. 11 静岡
15. 興味ある胎児循環症例～Fetal Critical Aortic Stenosis～
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
助川幸、熊谷麻子、北村絵里、村田佳菜子、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、山本祐華、
金田容秀、田中利隆、三橋直樹
第 14 回日本胎児治療学会学術集会 2016. 11 浜松
16. 胎児重症大動脈弁狭窄症における肺静脈血流波形とその予後予測
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
助川幸、正岡駿、熊谷麻子、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀

田中利隆、三橋直樹

第33回東部周産期研究会 2016. 11 静岡

17. 先天性梅毒

熊谷麻子、正岡俊、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀

田中利隆、三橋直樹

第34回東部周産期研究会 2017. 3 静岡

18. 胎児重症大動脈弁狭窄症における肺静脈血流波形とその予後予測

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

助川幸、正岡駿、熊谷麻子、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀

田中利隆、三橋直樹

第23回胎児心臓病学会学術集会 2017. 3 東京

2-24 救急診療科

診療活動

救急診療科では、救命救急センターに常駐する救急専従医が、緊急度・重症度の高い救急患者の受け入れを、各診療科と協力しながら実践し、病状に対応した迅速な診断、適切な治療へと病名にとらわれずに円滑に進めていき、必要に応じて適切な専門診療科へと引き継いでいる。平成 24 年 10 月に新体制となりスタッフが増員され、救急診療科が主科として担当する疾患は、多発外傷、急性中毒、熱傷、環境障害(熱中症、偶発性低体温症)、などの外因性重症救急疾患と、来院時心肺停止、痙攣、アナフィラキシーショック、麻痺を伴わない意識障害など緊急蘇生処置を要する疾患などに拡大された。それらの疾患には、救急外来での初期対応から ICU 入室後の全身・集中管理までを行っている。また、平成 25 年秋から、平日の日勤帯に限定した ER 外来も部分的に開始している。その他の活動としては、救命救急センターの病床管理、救急隊専用ホットラインの対応、ドクターヘリの運用、メディカル・コントロール(救急隊・救命士・救急応答事務員の指導/研修、事後検証)、救急外来トリアージの指導・事後検証などを行っている。平成 25 年度初旬に日本救急医学会指導医指定施設に認定された。また平成 27 年度には日本集中治療学会指定施設に認定された。

診療実績

救急診療科単独での診療実績ではないが、診療各科と協力して活動した。

平成 28 年

救急外来受診患者総数	12,935
救急入院患者総数	4,316
救急車搬送件数	4,257
ドクターヘリ運航件数	886 件

次年度目標

1. 平成 29 年度に日本外傷学会の認定を取得できるように準備を行う。
2. ドクターヘリ活動及び研究に積極的に介入し、適正かつ有効なドクターヘリ運用を目標とする。
3. メディカル・コントロール活動の推進による救急隊との連携を強化する。
4. 学生教育や若手研修医への研修カリキュラムを強化し、将来の救急医療を担う人材を育成する。
5. 国際交流を深め、視野の広い医療人を育成する。

研究・教育活動

英文論文

1. Ohsaka H, Ishikawa K, Jitsuiki K, Yanagawa Y. Factors affecting difficulty in extubation after initial successful resuscitation in cardiopulmonary arrest patients. J Emerg Trauma Shock. 2016 Apr-Jun;9(2):88-9.

2. Mishima K, Itoi A, Sugita M, Yanagawa Y. A case of fracture through fused cervical segments following trauma in a patient with Klippel-Feil syndrome. *J Emerg Trauma Shock*. 2016 Apr-Jun;9(2):85-6.
3. Yanagawa Y, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Takeuchi I, Omori K, Oode Y, Ishikawa K. Vacuum phenomenon. *Emerg Radiol*. 2016 May 4. [Epub ahead of print]
4. Yoshizawa T, Jitsuiki K, Obinata M, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Sugita M, Yanagawa Y. A patient with clear consciousness even with a glucose level of 5 mg/dL (0.2 mmol/L). *Am J Emerg Med*. 2016 May;34(5):941.e3-4.
5. Ohsaka H, Yoshizawa T, Ishikawa K, Jitsuiki K, Suwa S, Saito S, Tambara K, Yanagawa Y. A satisfactory recovery after emergency pericardiocentesis in type an acute aortic dissection with cardiac arrest. *Sch J Med Case Rep*, April 2016; 4(4):200-202.
6. Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yoshizawa T, Omori K, Yasumasa Oode Y, Yanagawa Y. Characteristics of patients who fell into open drains: a report from a single emergency center in East Shizuoka. *Acute Med & Surg* 2 MAY 2016,
7. Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Omori K, Ishikawa K, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. A blunt traumatic diaphragmatic hernia diagnosed at resuscitative thoracotomy. *Sch J Med Case Rep*, April 2016; 4(4):242-245.
8. Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Oode Y, Asahi K, Yanagawa Y. Splenic injury with right rib fractures. *Sch J Med Case Rep*, April 2016; 4(4):239-241.
9. Ishikawa K, Ohsaka H, Omori K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Yanagawa Y, Oode Y, Yanagawa Y. Effective simulation training for advanced cardiopulmonary resuscitation for first year students of a nursing university. *Sch. J. App. Med. Sci.*, 2016; 4(2A):339-342.
10. Yanagawa Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Osaka H, Sato K, Mitsuhashi N, Mihara J, Ono K. Disaster Imagination Game at Izunokuni City for preparedness for a huge Nankai Trough earthquake. *Sch. J. App. Med. Sci.*, 2016; 4(6D):2129-2132.
11. Ishikawa K, Jitsuiki K, Ohsaka H, Yoshizawa T, Obinata M, Omori K, Oode Y, Takahashi M, Yanagawa Y. Management of a Mass Casualty Event Caused by Electrocution Using Doctor Helicopters. *Air Med J*. 2016 May-Jun;35(3):180-2.
12. Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Oode Y, Sakurada M, Mogami A, Yanagawa Y. A system of delivering medical staff members by helicopter to manage severely wounded patients in an area where medical resources are limited. *Acute Med & Surg* 2016.
13. Yanagawa Y, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Omori K, Nakao Y, Yamamoto T. Hemiparesis due to subarachnoid hemorrhage. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(5):320-321.
14. Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Omori K, Oode Y, Ishikawa K, Yanagawa Y. Activity of a medical relief team from Shizuoka Hospital during the 2016 Kumamoto Earthquake. *Juntendo Med J* 2016;1-3.
15. Takeuchi I, Ohsaka H, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A case of an alcohol user complicated with both Wernicke's encephalopathy and Boerhaave syndrome. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(8):620-622.
16. Ishikawa K, Yoshizawa T, Fukase T, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A case of mountain sickness with premature ventricular contraction improving while descending a mountain. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(8):616-619.

17. Ohsaka H, Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Ishikawa K, Yanagawa Y. Ultrasound for diagnosing inner ear decompression sickness. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(8):605-606.
18. Ohsaka H, Namiki Y, Matsuoka R, Tsuboi K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Yanagawa Y. A case of thyroid storm where the CT findings were the first clue. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(8):602-604.
19. Yanagawa Y, Kondo A, Yoshizawa T, Jitsuiki K, Miyake T, Ohsaka H, Sugita M. The migration of air into the aorta from a pneumothorax in a patient with a penetrating injury of the aorta. *Aorta* 2016;4(3):102-4.
20. Yanagawa Y, Omori K, Ishikawa K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Takeuchi I, Ohsaka H. Hypothesis: the influence of cavitation or vacuum phenomenon for decompression sickness. *Diving and Hyperbaric Medicine* 2016;46(3): 190.
21. Yoshizawa T, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki T, Ohsaka H, Omori K, Sugita M, Yanagawa Y. A case of essential thrombocythemia complicated with spontaneous chest wall Hematoma. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(9):657-659.
22. Jitsuiki K, Yanagawa Y, Ohsaka H, Ishikawa K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Yoshiike T. A case that developed Stevens-Johnson syndrome as a complication during treatment for Methicillin resistant *Staphylococcus aureus*. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(9):675-677.
23. Yanagawa Y, Anan H, Oshiro K, Yasuhiro Otomo Y. An evaluation of a mass casualty life support course for chemical, biological, radiological, nuclear, and explosive incidents. *SAS J. Med.*, 2016;2(5): 110-114.
24. Ishikawa K, Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A lethal case of gastroenterobronchial fistula. *Am J Emerg Med.* 2016 Sep 22.
25. Oode Y, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Ishikawa K, Obinata M, Yanagawa Y. Vacuum Phenomenon as a Mechanism of Gas Production in the Abdominal Wall. *J Emerg Med.* 2016 Sep 30.
26. Yanagawa Y, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H. Traumatic pneumosyrinx and pneumorrhachis. *J Neuroradiol.* 2016 Oct;43(5):358-9.
27. Jitsuiki K, Ohsaka H, Takeuchi I, Yoshizawa T, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Emphysematous Cystitis after Treatment for Depression. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(10):765-767.
28. Jitsuiki K, Yoshizawa T, Nakamura Y, Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A case of thrombocytopenia mimicking thrombotic thrombocytopenic purpura. *Sch J Med Case Rep* 2016; 4(10):777-781.
29. Yanagawa Y, Sonobe M, Suzuki H, Hayashi K, Matsuoka R, Takahashi Y, Yoshino A, Hayakawa T. The introduction of a mass casualty life support management course in Shizuoka. *SAS J. Med* 2016;2:121-5.
30. Yoshizawa T, Omori K, Takeuchi I, Miyoshi Y, Kido H, Takahashi E, Jitsuiki K, Ishikawa K, Ohsaka H, Sugita M, Yanagawa Y. Heat stroke with bimodal rhabdomyolysis: a case report and review of the literature. *J Intensive Care* 2016, 4 :71
31. Ishikawa K, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Nakao Y, Yamamoto T, Yanagawa Y. A comparison between evacuation from the scene and interhospital transportation using a helicopter for subarachnoid hemorrhage. *Am J Emerg Med.* 2016 Dec 10. pii: S0735-6757(16)30906-8.
32. Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A case of subarachnoid hemorrhage that a fire department first reported as an inhalation burn injury. *J Emerg Trauma Shock.* 2016 Oct-Dec;9(4):158-159.

和文報告

1. 柳川洋一, 今村友典, 今関信夫. 喀血を伴い心停止に至った胸部大動脈気管支瘻の 1 例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:37-9.
2. 吉澤俊彦, 日域佳, 石川浩平, 大坂裕通, 大出靖将, 柳川洋一. 特発性大量心嚢液貯留を認めた一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:47-9.
3. 柳川洋一, 大森一彦, 戸塚剛彰, 岩崎浩司, 北村惣一郎. 脳動脈瘤切迫破裂徴候:眼瞼下垂で救急搬送された一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016;12:50-2.
4. 大坂裕通, 日域佳, 吉澤俊彦, 大森一彦, 石川浩平, 大出靖将, 山本拓史, 市川訓基, 小池 道明, 柳川洋一. 脳内出血発症に血管閉塞機転の関与が示唆された急性リンパ性白血病の一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:58-61.
5. 栗栖美由希, 石神智行, 中川彰彦, 柳川洋一. 腓仮性嚢胞内出血、大腸穿破に対して塞栓術で治癒した一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:40-2.
6. 吉澤俊彦, 日域佳, 竹内郁人, 小畑宏介, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 大出靖将, 柳川洋一. 特発性後腹膜血腫の一例. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:47-9.
7. 柳川洋一, 吉澤俊彦, 日域佳, 竹内郁人, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 大出靖将. 鼠径部ヘルニアによる心窩部痛で医療機関に受診し、二度も見逃されていた一例:鼠径部診察の重要性. 日本救急医学会中部地方会雑誌 2016; 12:53-4.
8. 柳川洋一. 目で見るトレーニング. *Medicina* 2016;53:558-561.

国内発表

1. 柳川洋一, 日域佳, 小日向麻里子, 吉澤俊彦, 小畑宏介, 石川浩平, 大坂 裕通, 大出靖将. Post Cardiac Arrest Syndrome 心肺機能停止蘇生術後の抜管困難症となる要因の検討. 日本集中治療医学会雑誌 2016;23:S271.
2. 石川浩平, 柳川洋一, 大出靖将, 大坂裕通, 吉澤俊彦, 日域佳, 小日向麻里子. 過疎地域における多数傷病者発生時の分散搬送の重要性 ドクターヘリを複数機使用した現場活動. *Japanese Journal of Disaster Medicine* 2016;20:571.
3. 吉澤俊彦, 日域佳, 竹内郁人, 小畑宏介, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 大出靖将, 柳川洋一. 特発性大量心嚢液貯留を認めた一例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会学術集会
4. 大坂裕通, 日域佳, 武田純, 小日向麻里子, 三島健太郎, 石川浩平, 大出靖将, 柳川洋一. アルティメット競技中に脊髄震盪を呈した一例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会学術集会
5. 吉澤俊彦. 高乳酸並びに高濃度ケトン体血症が意識レベルの保持に寄与していたと考えられる高度低血糖の一例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会学術集会
6. 松田浩成, 大坂裕通, 日域佳, 吉澤俊彦, 小日向麻里子, 石川浩平, 大出靖将, 内藤俊夫, 柳川洋一. 減圧症における超音波検査の有用性. *日本病院総合診療医学会雑誌* 2016;10:134.
7. 三宅喬人, 吉澤俊彦, 近藤彰彦, 柳川洋一. 背部からの鈍的外傷から大動脈損傷を来し CPA となった一症例. *日本外傷学会雑誌* 2016;30:273.
8. 吉澤 俊彦, 日域佳, 小日向麻里子, 石川浩平, 大坂裕通, 大出靖将, 柳川洋一. 特発性大量心嚢液貯留を認めた一例. 第 19 回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 2016;19:111-83.
9. 柳川洋一, 大坂裕通, 吉澤俊彦, 日域佳, 石川浩平, 大森一彦, 大出靖将. 非典型症状が主訴であった循環器系急性疾患. 第 7 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会抄録集 p302.

10. 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大坂裕通, 大出靖将, 大熊泰之, 柳川洋一. 転倒外傷を契機に筋強直性ジストロフィーの診断がなされた一例. 第 30 回日本神経救急学会総会学術集会. シンポジウム 1 「Common disease に潜む神経救急」
11. 柳川洋一, 日域佳, 竹内郁人, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 斎藤頁一. 危険ドラッグ使用者の診断に当たっての問題点. 第 28 回日本中毒学会総会抄録集 P199.
12. 石川浩平, 大坂裕通, 大森一彦, 吉澤俊彦, 日域佳, 柳川洋一. 交通外傷後に遅発性小腸損傷を発症し、術後胆嚢炎を併発した一例. 第 31 回救命救急医療学会.
13. 柳川洋一, 佐藤浩一, 三橋直樹, 志賀清悟, 小野憲, 小池啓司, 平井貴, 露木克好, 菊地豊. 東京オリンピック競技開催決定後の静岡県東部での取り組み. 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会 抄録集 p421
14. 大坂裕通, 日域佳, 野澤陽子, 森島克明, 川口亮, 石橋基弘, 柳川洋一, 三橋直樹. 静岡県救護班第 5 陣として Aso Disaster Recovery Organization 活動拠点本部の統括業務. 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p372.
15. 日域佳, 吉澤俊彦, 大森一彦, 石川浩平, 大坂裕通, 大出靖将, 柳川洋一. 開渠側溝に潜む危険. 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p587.
16. 三宅喬人, 大林治, 設楽準, 諏訪哲, 磯田菊生, 大坂裕通, 柳川洋一. 一過性脳虚血発作と診断された深部静脈血栓症を伴う肺血栓塞栓症の一例. 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p591.
17. 石川浩平, 柳川洋一, 大坂裕通, 大森一彦, 吉澤俊彦, 日域佳. 病院前診療において外傷性横隔膜損傷は診断可能であるか否か. 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p606
18. 大坂裕通, 石川浩平, 大森一彦, 大出靖将, 柳川洋一. オリンピック開催地・サイクルスポーツセンターでの外傷対応- 静岡県東部ドクターヘリ- 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p607.
19. 竹内郁人, 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 大出靖将, 柳川洋一. アルコール関連疾患としてのウェルニッケ脳症と特発性食道破裂を合併した 1 例. 第 44 回 日本救急医学会総会・学術集会抄録集 p397.
20. 大坂裕通, 石川浩平, 大森一彦, 大出靖将, 柳川洋一. 伊豆半島における内因性疾患の活動状況とドクターヘリ有効活用. 第 23 回日本航空医療学会総会抄録集 p149.
21. 石川浩平, 柳川洋一, 大坂裕通, 大森一彦, 吉澤俊彦, 日域佳. 当基地病院のフライトドクター養成までの取り組みと課題. 第 23 回日本航空医療学会総会抄録集 p114.
22. 大坂裕通, 石川浩平, 大森一彦, 大出靖将, 柳川洋一. オリンピック開催場所とサイクルスポーツセンターに関するドクターヘリの活用. 第 23 回日本航空医療学会総会抄録集 p149.
23. 大森一彦, 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大坂裕通, 市之川英臣, 柳川洋一. 継続する血胸の原因が結果的に左心耳損傷であった 1 例. 第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p82
24. 長澤宏樹, 大森一彦, 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. 早期治療介入と円滑な組織間連携にて救命した日本刀による胸部刺創の 1 例. 第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p59
25. 鶴上浩規, 大森一彦, 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. CT 画像が甲状腺クリーゼ診断の一助となった症例. 第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p25
26. 堂垂大志, 大森一彦, 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. 巨人症による胸郭変形により窒息症状を呈した一例. 第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p58
27. 三好 悠斗, 大森 一彦, 日域 佳, 吉澤 俊彦, 石川 浩平, 大坂 裕通, 柳川 洋一. III 度熱中症による

急性肝不全と回復期，再燃性横紋筋融解症を認め遺伝子解析まで至った症例．第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集 p26

28. 小笠大起，大森一彦，日域佳，吉澤俊彦，石川浩平，大坂裕通，柳川洋一．介達外力で脾臓損傷を合併した一例．第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集, p24
29. 柳川洋一．災害時における静岡県東部の現状と課題．第 19 回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会抄録集, p19
30. 柳川洋一．37 歳・男性．咽頭痛で 119 コール．どう対処する？ 第 33 回静岡県東部循環器救急医学会．平成 28 年 1 月 18 日
31. 日域佳．歯ブラシによる口腔内損傷で咽頭来した小児の 1 例．東部地区救命救急医学研修会．平成 28 年 1 月 20 日

国際学会発表

1. Yanagawa Y. Coordinated and combined use of military and civilian resources for large-scale natural disasters in Japan. Disaster Response Workshop. 11th Asian Congress of Neurological Surgeons, Surabaya, Indonesia 2016.
2. Yanagawa Y. Coordinated and combined use of military and civilian resources for large-scale natural disasters in Japan. Neurotrauma section 2 11th Asian Congress of Neurological Surgeons, Surabaya, Indonesia 2016.
3. Yanagawa Y, Ohsaka H, Ishikawa K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Omori K. Factors affecting difficulty in extubation after initial successful resuscitation in cardiopulmonary arrest patients. EUSEM 2016 in Vienna (Austria) Congress Programme p55
4. Ishikawa K, Jitusiki K, YoshizawaT, Omori K, Ohsaka H, Oode Y, Yanagawa Y. A case of spinal cord concussion induced by neck massage. The Annual World Congress of Neurotalk May 20-22, 2016 in Beijing, China.

オスキー教育関係

ICLS

- 4 月 順天堂大学静岡病院 研修医 1 年向け
- 4 月 順天堂大学静岡病院
- 7 月 31 日-8 月 2 日 順天堂大学保健看護学部
- 10 月 順天堂大学静岡病院
- 11 月 静岡県東部スキルアカデミー 沼津ワークステーション

JMECC

- 10 月 順天堂静岡 JMECC 順天堂大学静岡病院
- 11 月 沼津市立病院 JMECC

ISLS

- 10 月 第 4 回順天堂静岡 ISLS 順天堂大学静岡病院

JPTEC

- 第 123 回静岡外傷セミナーin 沼津 沼津ワークステーション
- 第 126 回静岡外傷セミナーin 伊豆の国 田方消防署

JATEC

- 4月 東京国立国際医療センター
- 5月 国際医療福祉大学
- 7月 横浜市立大学附属市民総合医療センター
- 11月 順天堂救急グループ

MCLS

- 第4回静岡 MSLC インストラクターコース
- 第4回駿東田方 MCLS 順天堂大学保健看護学部
- 第1回静岡 MCLS-CBRNE 田方消防署
- 第1回静岡 MCLS マネージメントコース 静岡消防学校

PNLS

11th Asian Congress of Neurological Surgeons, Surabaya, Indonesia 2016.

講演

金子直之

重症外傷の治療のキモは誰でもできる基本的なところにある

坂本壮

ER 診療に関わる教育講演 2回

河島昌吾

NBC 災害対応

柳川洋一

救急救命士処置拡大の概説(御殿場市)

災害医療一般の概説(伊豆の国市)

感冒や胃腸炎と判断された重篤な疾患症例シリーズ(下田メディカル)

CBRNE って? (順天堂大学静岡病院)

減圧症に関する当院の知見 (順天堂大学静岡病院)

大出靖将

東日本大震災の体験談 (田方医師会主催:田方中消防署)

大坂裕通

日常から出来る災害準備について(田方医師会主催:田方中消防署)

かかりつけ医と救急医療の使い方～AED(伊東市市民健康講座)

ドクターヘリ勉強会(御殿場市小山消防、富士山南東消防、熱海消防、旧伊東消防、旧裾野消防、

旧長泉消防、旧三島消防)

大森一彦

静岡県東部の救急事情とドクターヘリ (志太榛原救急医療研究会)

ドクターヘリの活用方法は時代とともに進化している!(駿東伊豆消防)

救命救急センターの外傷診療(沼津医師会)

トリアージ PAT 法(沼津市立病院)

日本救急医学会中部地方会優秀演題賞受賞 (2 演題)

長澤宏樹, 堂垂大志

新聞取材協力

毎日新聞 3月11日 東日本大震災 静岡の備え

静岡新聞 5月23日 特殊災害への対応を学ぶ

朝日新聞 11月26日 ヒートショック予防

伊豆新聞 5月11日/5月17日 かかりつけ医と救急医療の使い方～AED

熊本地震災害支援 (柳川洋一, 大坂裕通, 日城佳)

4月21日 情報収集活動(静岡県庁)

4月23日 巡回診療支援

5月5日-9日 Aso Disaster Recovery Organization 活動支援

2-25 病理診断科

診療活動

当院病理施設は静岡県東部では少数である日本病理学会認定施設の一つです。当科常勤医師 1 名、検査室の臨床検査技師 5 名で、病理標本作成から病理診断提出までの病理診断書作成業務を多数例(病理専門医 3 人を要するとされる業務量)担い、さらに、院内 CPC・各科カンファレンス、当科選択の研修医・医学部 5・6 年生の病理診断学の教育、他科の医学的研究における病理学的支援、順天堂大学保健看護学部の必修講義(15 回/年)、日本病理学会中部支部経由のセカンドオピニオン担当を行い、かつ、当科自身の研究活動(主に消化器系腫瘍の病理)も若干行っています。前述の業務量は常勤医 1 名のみで行うには諸条件的に好ましくないので、現在は、本院から八尾主任教授・准教授全員が、練馬病院から松本特任教授・若手病理医師全員が随時来院し、順天堂大学全体的支援を受けた形で精度の高い病理診断業務を維持しつつ、診療活動を行っています。

診療実績

平成 28 年度

(平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月)

組織診断:6183 例

(うち術中迅速診断:278 例)

細胞診断:6965 例

病理解剖診断:16 例

次年度目標

病理医不足はおおむね全国的な傾向であり(本邦の病理医師数は、対国民人口的には米国の 1/5 程度のみと極めて少ない)、当院も同等な状況にある。一般に、病理専門医は全身の病理学に精通しているものの、現在のように細分化され、各々高い診療レベルにある各科の臨床医が望む臓器特異的病理診断学のすべてにおおむね対応するには、その専門的経験を相当数重ねた超ベテランの病理医を複数置くか、あるいは大学本院のように臓器特異的病理学に卓越した病理医を多数備えることが望まれる。従って、「常勤の病理専門医数を単に増やす」は本当の解決策ではない。そのため、当院のように大都市から離れた地域に位置する総合病院にとっては、病理組織像のデジタル化による IT 的病理診断業務の実現(遠隔業務も含む)、順天堂大学医学部病理部門全体としての業務上支援が、合理的な対策の一つと言える。日常業務の適切な遂行はもとより、当院運営陣のご理解・ご指導を基に、前年度に加え、この業務的改築を継続し、各科の診療に貢献することが当科の主なる目標である。

研究活動

英文原著

- 1 . Sato S, Genda T, Ichida T, Murata A, Tsuzura H, Narita Y, Kanemitsu Y, Ishikawa S, Kikuchi T, Mori M, Hirano K, Iijima K, Wada R, Nagahara A, Watanabe S : Impact of aldo-keto reductase family 1 member B10 on the risk of hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma. *J Gastroenterol Hepatol*. 2016 Jan 13.
- 2 . Kusunoki T, Wada R, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Ikeda K : Two cases of laryngeal cystic lesions. *Clinics and Practice*, 6:822, 2016
- 3 . Wada R, Hirabayashi K, Ohike N, Morii E : New guidelines for HER2 pathological diagnostics in gastric cancer. *Pathol Int* 66:57-62, 2016
- 4 . Mori M, Genda T, Ichida T, Murata A, Kamei M, Tsuzura H, Sato S, Narita Y, Kanemitsu Y, Ishikawa S, Kikuchi T, Shimada Y, Hirano K, Iijima K, Sugimoto K, Wada R, Nagahara A, Watanabe S : Aldo-keto reductase family 1 member B10 is associated with hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma risk. *Hepatol Res*. 2016 Apr 15.
- 5 . Sakuraba S, Orita H, Ito T, Kushida T, Sakurada M, Maekawa H, Yamano M, Wada R, Sato K : A case of rectal mucosa-associated lymphoid tissue (MALT) lymphoma treated twice with antibiotic therapy for *Helicobacter pylori*. *J Gastrointest Cancer Stromal* 1:1, 2016
- 6 . Sakuraba S, Orita H, Ito T, Kushida T, Sakurada M, Maekawa H, Wada R, Sato K : A case of Pifitin negative gastrointestinal stromal tumor (GIST), metastasized to the liver five years after surgery : A surgical challenge. *J Mol Biomarkers Diagn* S:8, 2016
- 7 . Kusunoki T, Honma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K : A case of pleomorphic adenoma arising in the larynx. *J J Otolaryn*. 2(3):035, 2016.
- 8 . Maekawa H, Ito T, Kushida T, Orita H, Sakurada M, Sato K, Wada R : Clinicopathological significance of fatty acid synthase expression in extrahepatic cholangiocarcinoma. *Oncol Cancer Case Rep* 2 : 2, 2016
- 9 . Hara M, Iwakami S, Matsumoto N, Miyawaki T, Wada R, Takahashi K : Carcinomatous pleuritis and pericarditis accompanied by pulmonary tuberculosis. *Respirology Case Reports*, 4 (6), 2016
10. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K : An adult case of a huge tongue basophilic mucocoele. *Otorhinolaryngol Head Neck Surg*, 2:1-2, 2016
11. Sato S, Genda T, Ichida T, Amano N, Sato S, Murata A, Tsuzura H, Narita Y, Kanemitsu Y, Hirano K, Shimada Y, Iijima K, Wada R, Nagahara A, Watanabe S : Prediction of Hepatocellular Carcinoma Development after Hepatitis C Virus Eradication Using Serum Wisteria floribunda Agglutinin-Positive Mac-2-Binding Protein. *Int J Mol Sci* 20;17(12), 2016
12. Murata A, Genda T, Ichida T, Amano N, Sato S, Tsuzura H, Sato S, Narita Y, Kanemitsu Y, Shimada Y, Hirano K, Iijima K, Wada R, Nagahara A, Watanabe S : Pretreatment AKR1B10 expression predicts the risk of hepatocellular carcinoma development after hepatitis C virus eradication. *World J Gastroenterol*. 7;22(33): 7569-78, 2016

和文原著

1. 矢内 彩、楠 威志、和田 了: 難治性咽喉頭病変をきたした慢性活動性 EB ウイルス感染症. *耳鼻臨床* 109:608-609, 2016

和文総説

1. 和田 了: 専門医のためのアトラス 未分化癌と特殊な癌. 胃がん perspective 8:32-37, 2016

講演・発表(主なもの)

1. 和田 了: 腺腫と高分化腺癌(大腸).
早期胃癌研究会(ミニレクチャー) 2016.2.17(東京都)
2. 和田 了: 病理標本作成からはじまる、病理診断のいろは～「病理医」あれこれ.
第2回東京 Jr.胃会(特別講演)2016.6.4(東京都)
3. 和田 了: 消化管癌の病理診断におけるバイオマーカー, シンポジウムⅢ「病理診断におけるバイオマーカー」第48回 日本臨床分子形態学会総会・学術集会(シンポジウム) 2016.9.24(熊本市)
4. 和田 了: 病理標本作成過程(概説)～胃微小癌の病理組織学的発見.
第116回消化管 X線診断研究会(ミニレクチャー) 2016.12.15(東京都)

2-26 リハビリテーション科

業務内容

診療業務

最大のトピックは7月にリハビリテーション科が附属病院内で最後にやっとなされたことです。小川理事長、新井学長、三橋院長の特別な取り計らいを頂き実現し、深謝いたします。折しも三橋院長は当科で術後リハビリテーションを受けていただいた時期で、当科の必要性を肌で感じ取られ本郷に強く働きかけていただいた結果であると聞いております。順天堂関連のリハビリテーション科は、神経内科からの出身者で占められていましたが、当院では私とリハ臨床認定医の前田 Dr が整形外科と兼務する形での船出となりました。本郷に藤原俊之新教授を迎え、新しい時代に新しい関係を構築していきたい所存です。また現在、電子カルテを使用しての業務システム構築をしています。これが整えば診察・治療がよりスムーズになると期待しています。

ひとの流れ

4月にPTに森尾さんとST海東君が入職し、STは特にフレッシュな二人になった。年度末に松下君、奥田さんが退職、次年度にむかいOT,STの増員も認めていただくことが出来、「入院患者の毎日リハビリ施行」を目標にかかげ業務の充実を図りたいと考えています。

業務実績

平成28年度 依頼件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
273	292	302	268	265	271	260	286	262	269	283	278	3,309

平成28年度 区分別依頼割合

区分	依頼件数	割合
脳血管	1,220	34.8%
廃用症候群	247	7.0%
運動器	1,016	29.0%
呼吸器	633	18.0%
心大血管	202	5.7%
がん	185	5.2%

平成28年度 実施件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3,748	3,703	4,149	3,934	3,945	3,604	3,702	3,772	3,551	3,613	3,655	3,953	45,329

次年度目標

平成 28 年度は、リハビリテーション科が設立され、リハビリテーション医の適切な評価のもと、各療法士の特性を生かしたリハビリテーション介入を実施しました。またそれに伴い、心大血管リハビリテーション料(Ⅰ)の取得、初期加算の算定が始まり、稼働実績の向上が図ることができました。また、定期的な病棟カンファレンスの開催や退院前カンファレンスへの参加など、病棟連携を進め、早期退院に向けて活動しました。

次年度は、電子カルテリハビリシステムの稼働が始まる予定となっており、引き続きリハビリテーション医の適切な評価のもと、業務効率を向上し、患者の早期回復・退院へ向け尽力するよう以下を目標としていきます。

1. 患者治療の質の向上
2. 稼働実績の改善・効率の向上
3. 電子カルテへの対応

研究・教育活動

発表、報告

1. 石井啓太、渡邊大輔、奥田舞、大熊泰之、長岡正範
筋萎縮性側索硬化症患者に対する NPPV のマウスピース型インターフェースの使用経験
第 57 回日本神経学会学術大会 兵庫 H28.5.18 - 21
2. 渡邊大輔
再入院を繰り返す重度僧帽弁閉鎖不全症の一例
第 20 回静岡県理学療法士学会 静岡 H28.6.18-19
3. 小池教文、小林敦郎、吉川雄太郎
重度両側変形性股関節症に対し人工股関節全置換術を施行した一症例
第 20 回静岡県理学療法士学会 静岡 H28.6.18-19
4. 阿妻伸幸、石井啓太
口すぼめ呼吸により歩行時低酸素血症を軽減できた CPFE 合併肺癌術後の一症例
第 20 回静岡県理学療法士学会 静岡 H28.6.18-19
5. 渡邊大輔、鳥屋優太、石井啓太、河原一剛、阿妻伸幸、下島健斗、森尾真衣、市之川英臣、岡崎敦
呼吸器外科術後における肩部痛を呈する症例の検討
第 9 回日本運動器疼痛学会 東京 H28.11.26-27

2-27 臨床検査科

(特任教授 田内一民)

診療活動

臨床検査科の主な業務は以下の 6 つに大別される。

1. 検体検査の質の保証: 日常の内部精度管理を徹底し、精度保証された検査データを利用者に提供する。
検体検査とは患者血液、尿、体液、喀痰などを試料とし、その濃度、細胞などを調べる検査をいう。また外部精度管理(日本医師会、日本臨床検査技師会、静岡県医師会主催の外部精度管理調査)に参加し検査データの標準化を確認する。異常値の出た時の対策・対応・指示。インシデント・アクシデント対応。
2. 機器試薬の検討と選別、検査項目取捨選択。
3. 外注検査項目の選択と精度管理。
4. 検査技師を中心とした検査関係者の教育・指導: 研修会、勉強会を行い検査知識・技術の向上を目指す。
5. 検査の説明・案内・広報: 検査データ利用者に対して、検査の意義、検査データの解釈などについて周知、広報を努める。
6. その他

診療実績

1. 日本医師会精度管理調査での点数 98.2 点、
(D) 評価: APTT 測定機器誤記入(KAB→KAR)。
2. 静岡県医師会精度管理調査は全て A ランクで問題点なし。
3. 日臨技精度管理調査では(A)(B)評価 99.5%、(D)評価 1 項目。
4. 検査技師を対象に勉強会「知得会」を開催(第 47～49 回)。
5. 院内の検査データの意義、検査結果の考え方について作成した検査説明パンフレットを改訂(基準範囲について前文の改訂、測定単位の訂正)し、採血室・受付等に配布(H28. 4)。
6. 検査依頼書、報告書の検査項目の配列順序を理解しやすいように変更。

次年度目標

1. 検査の質の保証: 向上と維持。
2. 「検査結果の考え方」改訂と配布。
3. 検査依頼書、報告書の検討。

研究・教育活動

1. 第 33 回 静岡県臨床検査精度管理調査報告書、H28.10
2. 日本総合健診医学会第 44 年次 臨床検査精度管理報告書、H28.12
3. 尿所見の異常と対応: 健診・人間ドックハンドブック、中外医学社 P162～175、H28.10
4. 健診分野での判断値①②: 検査のはなし ラボ Vol9,10 日本衛生検査所協会、H28.9,10

3. 部門報告

3-1 薬剤科

業務内容

薬剤師:33名うちGCPセンター(調剤業務兼務)に3名、薬剤管理指導業務担当7名、手術室業務1名 注射薬払い出しおよび無菌製剤業務1名、外来調剤業務18名、外来・入院化学療法2名、医薬品情報室1名にて業務をおこなっている。

1. 調剤 外来・入院調剤
2. 製剤 約束処方・院内特殊製剤
3. 注射薬の取り揃え 入院一般注射薬・化学療法用注射薬(外来・入院とも)
4. 注射薬の無菌製剤 中心静脈栄養・化学療法(外来・入院とも)
5. 薬品管理 薬品発注・在庫管理・麻薬管理
6. 医薬品情報提供 院内医薬品集の発行・新規採用薬中止薬の案内・副作用情報等の提供
7. 薬剤管理指導業務 科ごとに薬剤師を担当させているが、ICU・CCUは持参薬管理のみプレアボイド報告
8. 手術室業務 麻酔薬の準備・使用後の確認など麻酔科医業務支援及び 麻薬管理
9. その他 学会発表など

1. 調剤業務

処方内容については、調剤監査システムにて相互作用、重複投与等のチェックを行った後処方せんを発行し調剤を実施している。外来および退院処方については「薬剤情報提供書(あなたのおくすり)」を添付して患者への医薬品情報提供を行っている。また、お薬手帳用シールは希望者には毎回発行・配布している。外来処方せんは院内にて調剤を行い、院外処方せんについては希望者のみとしている。

● 2016年度調剤業務(処方せん枚数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	25,842	24,421	25,592	24,865	25,484	25,012	25,567	25,177	25,512	24,813	24,349	27,410
入院	9,659	10,051	10,442	9,243	9,729	10,499	11,912	12,071	12,071	11,967	11,662	12,539
合計	35,501	34,472	36,034	35,108	35,213	35,511	37,479	37,347	37,583	36,780	36,011	39,949
院外	380	322	370	398	325	325	348	336	350	361	313	387

2. 製剤

院内製剤は点眼薬、点鼻薬、点耳薬、軟膏、処置薬などを調製している無菌的な操作の必要なものはクリーンベンチ内で調製している。

3. 注射薬の取り揃え

入院一般注射薬:前日までにオーダーされている注射薬を個人別にセットし、専用カートにて各病棟に払い出す。金曜日は土曜日・日曜日分を、土曜日は月曜日分のセットを施行している。

●2016 年度注射薬取り揃え件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	3,306	3,304	3,268	3,108	3,118	3,041	3,296	3,228	3,216	3,301	3,274	3,520
入院	20,509	20,105	18,733	18,808	19,009	17,546	19,264	18,883	17,768	19,428	17,619	19,497

4. 注射薬の無菌製剤

外来・入院化学療法: 前日までにオーダーされている外来化学療法の注射薬を個人別にセットし、担当者がレジメン内容の監査を行なう。

実施日当日は治療続行の指示に従って、がん治療センターの安全キャビネット内で直前に混注業務を行っている。

中心静脈栄養 (IVH): 当日 13:00 まで (土曜及び休日は 8:00) にオーダーされたものを、クリーンベンチ内で調製し病棟に払い出している。

●2016 年度無菌製剤件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来 化学 療法	459	459	428	414	446	421	464	475	460	491	501	554
入院 化学 療法	153	128	154	133	125	153	139	158	118	187	124	122
IVH	124	179	174	126	111	199	185	228	159	172	194	111

5. 薬品管理

採用薬は平成 29 年 3 月 31 日時点で内服薬:941 品目・注射薬:512 品目、合計 1453 品目である。

6. 医薬品情報提供業務

医薬品の安全かつ、適正使用のための情報収集および情報提供を実施。

院内医薬品集の作成 (年 1 回)・新規採用薬、採用中止薬、包装・剤形変更の情報は薬剤科からのお知らせにて院内配布。

7. 薬剤管理指導業務

内科、外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、神経内科、呼吸器外科、形成外科に、科ごとに配置している。持参薬の検索、服薬指導、薬歴から相互作用、併用禁忌などの薬学的管理を行なっている。

医療安全対策のひとつとしてプレアボイド報告 (薬学的ケアの実施によって、副作用・相互作用・治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の報告)を行っており 2016 年度は 38 件の報告を行った。

●2016 年度薬剤管理指導算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
算定 件数	1,066	1,032	1,138	1,087	1,083	984	1,021	1,029	1,033	1,005	1,070	1,095

8. その他

学会発表

1. C型肝炎患者に対する Interferon 治療効果がもたらす投与終了後の体重変動
植松卓也† 玄田拓哉
第26回日本医療薬学会年会 2017年9月19日 京都国際会議場
2. パニツスマブ使用患者における保湿剤の違いによる皮膚障害の予防効果の検討
柴田笑利† 小柴聖史、菅尾高裕、小池道明
第26回日本医療薬学会年会 2017年9月18日 京都国際会議場

論文

1. ローリングボールタック試験法を用いたケトプロフェンテープ剤の先発薬と後発薬の粘着力比較
vol.52 (5)513-517 2016 日本病院薬剤師会雑誌
植松卓也† 小林淳司、芹沢健一、木下史一、松浦亨、南雲昭人、柿沼智之、菅尾高裕
2. 不眠または痛みを合併する新規がん化学療法導入患者における重度倦怠感の発症リスクに関する研究
43(3) 129-138 2017 医療薬学
植松卓也†小柴聖史、磯 智輝、木下史一、堀井一輝、星野剛史、川口亮、飯島克順、佐藤浩一

平成 29 年度の目標

1. 研究活動の充実と臨床スキル(薬学的管理)の向上
6 病院合同研究会の開催 人事交流によるキャリアパスの取得など。
2. 改正薬剤師法に準拠した医薬品適正使用および医療安全への貢献
医薬品安全管理マニュアルの見直し
院内医薬品集の電子化など

3-2 栄養科

栄養科では、外来患者及び入院患者には栄養食事指導を実施し、加えて入院患者には早期治癒退院のための栄養サポートやきめ細やかな給食サービスを行なっている。

以下の項目を重点的に、管理栄養士7名（内パート1名含む）、その他職員29名（パート事務員1名派遣補助員3名を含む）、業務委託14名、計50名で業務を遂行している。

業務内容

（1）栄養管理業務

- ① 医師の指示のもとに、外来患者および入院患者へ栄養食事指導を実施した。
糖尿病の教育入院(2週間)が毎週定期的にあり、入院中には患者に寄り添った栄養食事指導を行い、退院後も定期的にフォローアップを行った。糖尿病療養指導士の取得者は3名である。栄養指導実施件数の推移は26年度2,204件、27年度2,276件、28年度2,722件であった。
- ② 栄養サポートチーム（NST）を中心に、患者の栄養状態改善を図るため、毎週木曜日にNST回診を実施した。管理栄養士が活動をまとめる中で、NSTリンクナースを中心に活動はより充実し、また回診方法等の定期的な見直しを行った。NST専門療法士取得者は、管理栄養士2名、看護師2名、薬剤師1名となり、それぞれの立場から専門性を発揮し、連携を深めた。NST介入延べ患者数の推移は26年度650人、27年度601人、28年度627人であった。

（2）給食管理業務

- ① 適時適温給食の実施、安心して安全な食事の提供を行なった。
- ② 医師の指示に従い、また患者の状態に寄り添った個々人の対応を行なった。
- ③ 年4回の嗜好調査により患者の希望を捉え、献立作成に生かした。
- ④ 選択メニューを実施し、患者満足度を向上させた。

次年度目標

- ① 外来・入院を問わず、多くの患者に対し栄養食事指導を実施し、入院中の食事の説明や、退院後の食事療法が継続できるよう具体的に指導し、積極的に取り組む。
- ② 引き続き、糖尿病療養指導士等の専門性の高い資格の取得を目指し、患者の背景に合ったオーダーメイドの栄養指導を行うようにする。
- ③ NST業務において管理栄養士が専従となり加算算定を行うよう推進する。
- ④ 給食における重点課題は、2015年版食事摂取基準や各治療ガイドラインを遵守しつつ、より丁寧な献立作成を行い、出来る限り個別に対応する。また、極力献立を統一し、食材の無駄をなくし、システムにおいて合理化を促進する。

①給食実施状況 (単位:食)

区分	食種名	食数	
一般食	常食	185,829	
	授乳食	7,969	
	お祝い膳	864	
	学童食	1,697	
	小児食	4,070	
	離乳食	908	
	軟食	62,867	
	流動食	5,931	
	小計	270,135	
特別食	加算	蛋白コントロール食	23,388
		エネルギー塩分食	92,096
		脂質制限食	6,458
		胃腸病食	21,186
		低残さ食	3,257
		注腸食	22
		小計	146,407
	非加算	ミルク	27,507
		無菌食	2,267
		濃厚流動食	37,828
小計	67,602		
患者合計		484,144	
職員合計		81,835	
付添い合計		1,808	
おやつ合計		3,823	
5回食合計		1,344	

②栄養食事指導実施状況 (単位:件)

区分	指導名	入院	外来	合計
個人指導	糖尿病食	202	1088	1290
	腎臓病食	111	76	187
	減塩食	207	50	257
	肝臓病食	23	3	26
	胃腸病食	282	7	289
	肥満食	3	11	14
	脂質異常食	46	34	80
	痛風食	1	1	2
	貧血食	0	0	0
	高血圧食	45	5	50
	その他	141	24	165
	小計	1061	1299	2360
	集団指導	指導名	回数	人数
糖尿病教室		27	158	
心臓病教室		22	86	
糖尿病会食		10	46	
母親教室		10	72	

③NST介入延べ人数(各科別)

	延べ人数
膠原病内科	6
消化器内科	45
呼吸器内科	47
血液内科	60
腎臓内科	15
糖尿・内分泌内科	2
外科	62
脳神経外科	72
循環器科	34
心臓血管外科	91
呼吸器外科	13
脳神経内科	39
整形外科	31
形成外科	22
救急診療科	29
小児科	0
眼科	0
耳鼻咽喉科	6
産婦人科	27
皮膚科	3
泌尿器科	23
メンタルクリニック	0
28年度合計	627

3-3 放射線室

業務内容

当放射線室は放射線技師 30 名によって、1 モダリティー1 名を原則としているが、ここ 5 年間に増加を辿る 3D 等の画像処理要員として CT 室においては 3 台において 4 名の技師を配置している。また、放射線治療室においては安全性に鑑み技師 2 名、認定看護師 1 名の配置としている。また、女子事務員 5 名を加え放射線室スタッフは 35 名の運営となっている。昨年度より完全 R I S 化と DR 化に移行し、高画質と安定したデータ送信が可能となった。平成 23 年 4 月から実施している早朝より待つ患者さんに対し、技師全員が輪番制によって早朝出勤し、一般撮影にあたっている。また、ポータブル撮影に於いては前日のオペ患者さんを対象に月曜日から金曜日まで業務開始 1 時間前より輪番制にてポータブル撮影を行っている。現在、月平均 150 件から 200 件程であるが、他部署等の環境が整い次第、より多くの患者さんに利便性を提供したいと鋭意努力中である。放射線室内月例研究発表会も 68 回目を迎え、平成 28 年度は 23 名の技師発表、6 名の外部講師により、何れも前年度を上回る研究会となった。

放射線室実績 平成 28 年

(単位: 件)

区分 月	画 像 診 断									骨密度	治療
	一般撮影	ポータブル撮影	造影	CT腹部	CT頭部	MRI	CINE DSA	核医学検査	PETCT		
1	13,123	3,114	296	1,537	1,298	1,023	185	91	75	73	0
2	13,201	3,228	246	1,425	1,143	1,035	222	91	80	108	0
3	14,218	3,526	472	1,609	1,239	1,098	254	98	90	90	0
4	13,620	3,190	327	1,492	1,262	1,058	221	87	77	101	458
5	13,441	3,331	354	1,558	1,222	974	212	68	77	99	601
6	14,105	2,934	307	1,669	1,280	1,182	342	98	93	108	696
7	12,852	2,758	399	1,625	1,223	1,084	209	84	75	70	526
8	13,360	3,006	304	1,480	1,220	1,116	212	87	88	87	497
9	12,773	2,771	361	1,523	1,180	1,033	361	90	71	77	608
10	13,293	3,055	354	1,655	1,191	1,092	208	104	81	87	542
11	12,872	2,957	337	1,551	1,192	1,079	200	69	69	114	480
12	12,975	2,922	318	1,593	1,290	1,064	207	82	75	77	479
1ヶ月平均	13319.42	3066	339.58	1559.75	1228.33	1069.83	236.08	87.42	79.25	90.92	407.3
設置台数 (台)	4	5	3	2	1	3	2	1	1	1	1

合 計	159,833	36,792	4,075	18,717	14,740	12,838	2,833	1,049	951	1,091	4,887
-----	---------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	-------	-----	-------	-------

マンモグラフィ 約 3,500 件/年

CT 3D 処理 約 20,000 件/年

平成 28 年度研究活動

1. 永徳 一真、平入 哲也、篠田 雅弘、長谷川 公彦、小野 直人、阿瀬川 敏：股関節 CT における体位の検討
第 21 回静岡県放射線技師学会大会 浜松市 2016.05.29
2. 永徳 一真、平入 哲也、篠田 雅弘、長谷川 公彦、小野 直人、阿瀬川 敏：股関節 CT における体位の検討
第 32 回日本診療放射線技師学会大会 岐阜市 2016.09.26
3. 杉山 拓也、田爪 健二、武川 彰宏、清水 匡大、阿瀬川 敏：当院における急性期脳梗塞における再開通療法の現状と課題
第 32 回日本診療放射線技師学会大会 岐阜市 2016.09.26
4. 落合 史朗、平入 哲也、篠田 雅弘、長谷川 公彦、阿瀬川 敏：新型混合チューブ使用時における流速・TEC 変化の検討
第 32 回日本診療放射線技師学会大会 岐阜市 2016.09.26
5. 田爪 健二、原 保和、杉山 拓也、武川 彰宏、清水 匡大：カテーテルキャリブレーションを用いた各カテーテルにおける計測値の検討
静岡 IVR 懇話会 静岡市 2016.11.26
6. 平入 哲也、阿瀬川 敏：仮想単色 X 線 CT 画像における線質硬化補正の検討
第 44 回日本放射線技術学会秋季学会大会 さいたま市 2016.10.13
7. 坂元 慎介：作業環境測定士とは
静岡県放射線技師会管理士部会 静岡市 2017.01.14
8. 西尾 綾華：当院のマンモグラフィにおける被曝線量の評価
平成 28 年度静岡県放射線技師会東部地区会セミナー 三島市 2017.01.30
9. 七尾 光広：当院の一般撮影・ポータブル撮影におけるリスクマネジメント
第 14 回静岡県東部マネジメントセミナー 清水町 2017.03.05
10. 平入 哲也：Dual energy CT を用いた Backbord 上，上肢撮影の検討
第 10 回遠州 CT 懇話会 浜松市 2017.02.24
11. 平入 哲也：下肢 DCTA の撮像タイミング
第 47 回アンギオ部会研修会 静岡市 2017.03.18

資 格	認 定 団 体
第1種放射線取扱主任者	2名 国 家
第1種放射線作業環境測定士	3名 国 家
第2種放射線作業環境測定士	3名 国 家
臨床実習指導教員	2名 日放技
放射線治療専門技師	1名 放射線治療専門技師機構
放射線治療品質管理士	1名 放射線治療品質管理機構
救急救命撮影認定技師	2名 日本救急救命技師認定機構
肺癌CT健診認定技師	1名 肺癌CT健診認定機構
X線CT認定専門技師	5名 日本X線CT認定専門技師認定機構
血管撮影・インターベンション専門放射線技師	3名 日本血管撮影・IVR専門7技師認定機構
健診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師B認定	4名 マンモグラフィ健診精度管理中央委員会
Ai認定技師	2名 日放技
PET/CT研修終了技師	5名 日本核医学学会
放射線管理士	1名 日放技
医療画像情報精度管理士	1名 日放技
放射線機器管理士	1名 日放技
日本放射線技師格アドバンス放射線技師	2名 日放技
医療福祉学研究科修士	1名 国際医療福祉大学
保健衛生学修士	1名 金沢大学

次年度計画

- 早朝出勤による、一般撮影の全科患者さんへの提供
- 他部署との連携等の環境が整い次第休日出勤による CT,MRI、骨密度等の検査提供
- 災害対策の一環とし、放射線室内連絡網の連絡訓練
- 学会または、研究会への積極的な参加と 10 例以上の研究発表
- 放射線室内研究発表会の継続と受講
- 複数の認定技師養成（女性技師 5 名のマンモ認定 A 認定の取得）

以上を次年度目標とし、達成された目標は継続。達成が未完であった場合は更なる目標に追加する。

3-4 検査室

業務内容

日常業務

中央検査室では、臨床検査技師 26 名と看護師 3 名下記の検査業務を行なった。

1. 検体検査(生化学・血液・凝固機能・免疫血清・尿一般・細菌)
早朝より当直技師と早出技師で緊急検査対応
2. 生理機能検査(循環機能・呼吸機能・脳波・聴力・心臓超音波・腹部超音波)
3. 病理検査(組織診・細胞診)
4. 採血(早朝7時より3名から6名体制で開始)
5. 輸血検査
6. 当直体制を検体検査と輸血管理・検査の2名体制
7. オーダメイド医療業務

活動状況

1. 平成 28 年度静岡県臨床細胞学会秋期学術集会症例の座長(堀井)。
2. 平成 28 年度日本臨床細胞学会 静岡県支部 東部症例検討会症例運営発表(堀井)
3. 順天堂6病院情報交換会を行ない業務の標準化等を進める。
4. 毎月 1 回の勉強会の開催。
5. 平成 28 年度より輸血管理を行うため日赤血液センターに講師をお願いし勉強会開催。
6. 静岡県標準化事業第東部地区意見交換会発表
7. 日本臨床検査標準協議会より精度保証施設認証
8. 静岡県県学会で血液の発表(土屋)

資格取得

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 心電図認定技師 | 1 名 |
| 2. 延べ 2 級臨床検査士資格 | 20 認定取得 |
| 3. 細胞検査士 | 3 名 |
| 4. 超音波認定技師 | 2 名 |
| 5. 有機溶剤作業主任者 | 1 名 |
| 6. 緊急検査士 | 3 名 |
| 7. 衛生士学衛生管理者 | 1 名 |

業務実績

	検体検査数	病理検査	生理検査数	採血件数	委託検査数	総検査件数
4月	338,404	1,043	4,064	8,643	12,234	364,388
5月	341,165	1,023	4,539	8,071	12,714	367,512
6月	342,409	1,199	4,410	8,901	14,840	371,759
7月	323,702	1,139	3,510	8,144	13,139	349,634
8月	337,272	1,087	3,649	8,554	12,668	363,230
9月	330,200	1,086	3,720	5,766	12,536	353,308
10月	346,680	1,164	3,694	8,616	13,849	374,003
11月	343,568	1,114	3,654	8,151	14,584	371,071
12月	330,600	1,035	3,497	8,175	14,336	357,643
1月	335,342	1,025	3,627	8,315	13,041	361,350
2月	325,068	1,057	3,870	7,948	15,388	353,331
3月	361,860	1,186	4,118	9,061	13,451	389,676
合計	4,056,270	13,158	46,352	98,345	162,780	4,376,905

検査内訳

	生化	免疫	一般	輸血	血液・凝固	細菌	計
4月	247,436	32,885	9,605	3,068	40,288	5,122	338,404
5月	251,040	32,113	8,322	3,128	41,420	5,142	341,165
6月	251,261	33,769	7,958	3,224	40,785	5,412	342,409
7月	239,356	31,345	7,487	2,873	37,665	4,976	323,702
8月	246,650	32,889	8,554	2,802	40,792	5,585	337,272
9月	242,551	32,544	7,728	2,942	39,604	4,831	330,200
10月	253,992	34,349	7,748	3,040	42,336	5,215	346,680
11月	250,794	32,844	8,735	2,947	42,811	5,437	343,568
12月	242,381	32,455	6,835	2,920	41,317	4,692	330,600
1月	242,312	33,025	7,995	3,308	42,206	6,496	335,342
2月	237,889	31,183	7,450	2,924	40,435	5,187	325,068
3月	266,031	34,004	8,565	3,154	44,770	5,336	361,860
合計	2,971,693	393,405	96,982	36,330	494,429	63,431	4,056,270

次年度目標

- 1、採血待ち時間、迅速検査結果報告時間の短縮を図る
- 2、臨床検査技師による輸血室業務の知識、技術の向上
- 3、各種認定資格取得(細胞検査士、各認定検査技師、各2級臨床検査士)を目指す

3-5 手術室

業務実績

1. 手術件数の推移

昨年度より手術件数としては、593 件の増加であった。手術室稼働率は 84.9%であり、稼働状況は良好であると考えられる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 24 年度	544	533	557	592	593	522	616	589	600	565	549	606	6,866
平成 25 年度	595	548	585	654	657	558	676	595	609	570	567	617	7,231
平成 26 年度	575	572	630	621	655	576	652	559	609	592	578	668	7,287
平成 27 年度	628	547	631	646	658	578	650	579	604	590	633	689	7,433
平成 28 年度	666	656	728	698	705	671	670	619	657	647	652	657	8026

2. 手術室の有効利用

手術の 1 回のインターバルを短くし、定時手術の効率を上げることが必要であり、8:30 出し手術枠を 1 件増やし日勤帯の稼働が上がるよう看護師の人員配置を行った。病棟からの手術出しの遅延も手術室の有効利用の課題となっており、病棟の手術出し遅延時間理由調査を行った。調査をすることで、病棟の手術出しの意識の変化や協力を得ることができ、手術出し時間の遅れは少なくなった。今後も各部門と連携し有効利用に努める。

3. 手術室看護師の業務効率化

業務委託の拡大を行っており、器械出しの器材、衛生材料のピッキング業務を委託し看護師の業務の効率化に繋がっている。今後も、業務効率化のために業務の評価、修正を適宜行っていく。また、業務の可視化に伴い、マニュアルも見直し修正をした。マニュアル活用により業務の効率をあげていく。

4. 手術室看護師の知識と技術向上

手術室看護師に必要な専門的知識、周手術期の看護力向上のため、各科医師、麻酔科医師、コメディカルと連携をとり学習会の回数を増やした。知識、技術の向上のためには、適切に OJT が行える指導者育成が課題である。また、術前術後訪問、術前カンファレンスを行い、患者の個別性を踏まえた周手術期看護が提供できるようにする。

5. コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行った。また、腹腔鏡手術の診療材料(一部)をシングルユース品からリユース品への変更、麻酔科診療材料の変更などにより 21.7%のコスト削減ができた。

次年度目標

1. 手術室の有効利用

手術室部門システム導入により、手術予定枠の可視化が図れ、緊急手術対応等など、手術室利用の向上に努める。

2. 手術室看護師の能力の向上

平成 30 年度手術室ラダーの導入に向けて、システムの構築、スタッフ教育など準備を進める。ラダー活用により個々の能力を可視化し、目標設定ができる環境を整える。

3. コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行う。手術室部門システム導入や SPD の管理によるコスト削減を図る。看護師がコスト意識を持ち責任のある物品管理ができる。

3-6 血液浄化センター

業務内容

腎臓内科専門医師4名・看護師8名・医療工学技士9名、看護助手1名により運営された。移動困難な重症例は病室へ出張し、血液浄化療法を施行した。合併症の加療のため入院した維持透析患者の血液透析の管理を行い、他科からの依頼による単純血漿交換・二重濾過血漿分離交換・エンドトキシン吸着・血液吸着・顆粒球吸着などの血液浄化療法および腹水の濃縮還元療法を行った。例年に比し、エンドトキシン吸着・血液吸着などの件数が増加し、血液浄化療法の適応が拡大していることが示唆された。

診療実績

	HD	ECUM	PMX	PE	DFPP	血漿 吸着	血液 吸着	CHDF	CART	合計
23年度	5,423	104	31	57	39	57	25	420	6	6,162
24年度	5,332	135	51	30	32	76	18	666	33	6,373
25年度	5,752	71	94	29	64	65	21	608	64	6,768
26年度	5,981	122	101	56	37	52	29	572	72	7,022
27年度	5,136	120	137	56	7	52	90	838	84	6,520
28年度	6,006	62	136	27	5	29	164	968	58	7,455
合計	33,630	614	550	255	184	331	347	4,072	317	40,300

研究・教育活動

英文原著

1. Wakabayashi K, Io H, Nakata J, Nakamoto H, Sato M, Sasaki Y, Shimizu Y, Horikoshi S, Tomino Y, Suzuki Y. Effects of Cardiac Function with Postoperative Arteriovenous Fistula Blood Flow in Patients with Hemodialysis. Blood Purif. 2017 Feb 25;44(1):24-29. doi: 10.1159/000458146.

学会発表

1. 清水 芳男、山田 芳、野原 奈緒、松本 真弓、狩野 俊樹、高森 建二、富野 康日己. 血清 BNP 調節による透析患者の痒みの軽減. 日本透析医学会学術集会・総会. 2016年6月11日. 大阪国際会議場

次年度目標

業務では、血液浄化実施件数は7,455件であり、平成27年度よりも大幅に増加した。周辺の透析施設からの入院依頼には必ず応じたこと、院内での透析導入数、CHDF やその他の血液浄化療法の件数が大幅に増加し

たことによると考えられる。高齢者の透析導入が全国的に増加しており、転倒や抜針事故などに配慮し、さらなる医療安全の確保に努める。

研究活動では英文原著および学会発表が医師からなされたが、看護師・臨床工学技士からの積極的な学会発表を促し、研究活動にも力を発揮したい。

3-7 臨床工学室

業務内容

人員：医師 1 名、臨床工学技士 11 名

◆血液浄化業務

- ・血液透析(HD)
- ・血液ろ過透析(HDF)
- ・単純血漿交換(PE)
- ・二重膜濾過血漿交換(DFPP)
- ・持続的緩徐式血液濾過透析(CHDF)
- ・エンドトキシン吸着(PMX)
- ・顆粒球吸着療法(GCAP)
- ・白血球除去療法(LCAP)
- ・腹水濾過濃縮再静注療法(CART)
- ・各種血液および血漿吸着療法

◆心臓カテーテル検査室業務

- ・心臓カテーテル検査時の IVUS 操作や IABP・PCPS の操作業務
- ・ペースメーカー・ICD・CRTD 等のリードチェックやプログラマー操作
- ・毎週水曜日午後のペースメーカー外来でのプログラマー操作

◆手術室業務

- ・人工心肺装置操作業務
- ・自己血回収装置操作業務
- ・X投透視診断装置(Cアーム)操作業務
- ・カルディオブレード操作業務
- ・術中モニタリング業務

◆高気圧酸素療法業務

◆医療機器中央管理業務

- ・人工呼吸器(成人用 40 台 小児新生児用 16 台)
- ・シリンジポンプ 255 台
- ・輸液ポンプ 225 台

◆各点検業務

- ・人工呼吸器始業点検業務
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプ始業点検業務
- ・手術室内各機器の始業点検業務
- ・新生児センターの保育器・人工呼吸器始業点検業務
- ・ドクターヘリ搭載機器動作確認点検業務
- ・ドクターカー搭載機器動作確認点検業務

業務実績

血液浄化業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	514	562	458	441	495	472	490	544	528	477	476	549	6006
ECUM	10	8	2	7	5	5	2	2	0	5	4	12	62
PMX	3	10	14	3	4	13	10	5	9	30	25	10	136
PE	2	10	2	0	3	0	4	0	2	2	2	0	27
DFPP	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	5
PA	4	4	1	1	5	5	0	1	1	1	5	1	29
HA	16	5	2	20	7	4	24	23	17	16	15	15	164
CHDF	66	96	80	56	65	86	82	66	87	95	121	68	968
CART	7	2	0	6	6	5	3	7	4	3	4	11	58
合計	622	697	559	534	590	590	615	649	650	631	652	666	7455

心臓カテーテル検査室業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
ポリグラフ	CAG	46	35	42	42	38	23	27	25	32	22	32	397	
	PCI	66	73	65	52	50	52	63	47	49	46	70	696	
	PPI	9	4	15	16	15	9	8	9	7	9	8	7	116
	PTA	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	右心カテ	1	1	0	0	0	1	0	1	1	5	1	1	12
	左心カテ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	両心カテ	2	2	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	10
	EPS	2	2	4	3	1	6	0	3	5	1	2	2	31
Abration	1	0	0	1	0	2	1	2	3	0	2	0	12	
IVUS	71	79	81	66	65	63	67	55	54	54	73	70	798	
FFR	41	30	41	39	34	24	26	19	27	17	33	30	361	
OCT	3	1	3	2	2	0	4	2	3	0	3	6	29	
Rota	2	1	3	3	1	1	3	5	2	2	3	1	27	
CROSSER	1	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	1	7	
IABP	6	7	4	10	5	4	7	1	9	7	7	12	79	
PCPS	2	2	2	1	4	1	1	0	1	6	5	1	26	
Pacemaker	植え込み	2	5	4	2	2	5	1	5	3	4	2	40	
	交換	2	4	3	4	3	2	0	6	3	3	2	33	
ICD	植え込み	0	0	1	1	1	0	0	4	2	0	0	10	
	交換	0	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	6	
CRT	植え込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ループレコーダー	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	
合計	258	246	272	245	224	196	210	187	203	178	244	234	2697	

人工心肺装置操作業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	13	14	17	8	12	10	6	14	8	9	10	14	135

回収式自己血輸血業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	49	50	46	46	42	58	46	56	37	44	44	53	571

X投透視診断装置(Cアーム)操作業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	4	2	3	5	4	3	6	2	7	8	2	7	53

術中モニタリング業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Tc-MEP	17	12	17	6	19	15	18	17	16	19	20	16	192
D-MEP	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
SEP	0	2	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	7
ABR	0	0	3	1	1	0	1	1	1	2	0	2	12
AMR	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4
VEP	0	0	0	0	2	1	3	1	0	1	1	0	9
NIM	0	0	2	1	0	1	0	1	0	1	0	1	7
合計	17	14	23	8	23	18	23	20	18	26	22	20	232

オペ室機器点検業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	703	632	1010	882	1072	853	928	850	918	944	1077	1054	10923

高気圧酸素療法業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	53	39	61	19	26	28	44	32	26	42	17	33	420

次年度目標

平成 28 年度の各種臨床業務件数は全ての業務が前年度と比較して増加傾向であった。

特に、血液浄化業務件数や手術室の医療機器保守管理及び機器操作業務件数が、予想以上に増加傾向であった。

多忙な業務状況となっている、各臨床業務の対応として、下記の各項目を平成 29 年度の検討及び目標事項とする。

1. 臨床業務件数増加に対応するため、各業務の人員配置人数の再検討を行う。
2. 人工心肺装置操作の技術習得を第一目標として人員配置を優先的に考慮する。
3. 現在の保守管理機器以外に必要な機器の再検討を行い、安全な医療機器を提供する。
4. 手術室機器保守管理および臨床業務の内容を検討して、手術室業務の充実を図る。
5. 個人の能力向上のため、積極的に各種認定技師資格を取得できる環境をつくる。
6. 時間外労働を減少するために、時差出勤時間の検討を行い労働環境の改善を行う。
7. 関連学会に積極的に参加して知識及び技術の向上を習得する。

3-8 輸血室

業務内容

これまで輸血検査は検査技師が担当し、輸血用血液製剤の管理は薬剤師が担当する体制で業務が分担されていましたが、平成 28 年度から検査技師が輸血検査と輸血製剤の管理を担当する新たな体制となりました。

輸血検査では ABO・Rh 血液型、交差適合試験、不規則抗体スクリーニングを行っていますが、不規則抗体の同定検査は実施していません。輸血製剤の管理では、赤十字血液センターへの輸血製剤の発注、輸血製剤の在庫管理・払い出し、自己血の保管管理・払い出しを行っています。その他に末梢血幹細胞の凍結保管管理を行っています。払い出し時の適合票発行を手書き作業からラベルプリンターでの発行に切り替えるなど作業の効率化を進めました。払い出された輸血製剤が病棟の薬用保冷庫に保管されて未使用で返却されることが多かったため、病棟での輸血製剤の保管を一切禁止すると同時に「30 分ルール」を導入して払い出された輸血製剤が速やかに使用されるようにしました。また、新鮮凍結血漿に関しては適正使用を進めるために厚生労働省の使用指針に基づく使用基準を設定して基準を満たさない場合は払い出さない「許可制」を導入しました。

業務実績

年間輸血検査件数

- ・血液型検査 (ABO、Rh) 9,267 件 (時間外 2,320 件)
- ・不規則抗体検査 8,088 件 (時間外 2,267 件)
- ・交差適合試験 9,737 バッグ (時間外 4,554 バッグ)

年間輸血使用量

赤血球製剤 13,325 単位、自己血 348 単位、新鮮凍結血漿 4,876 単位、
血小板製剤 18,655 単位
診療科別輸血使用量 別表

廃棄 (有効期限切れ、払い出し後の未使用・温度管理不備)

赤血球製剤 174 単位 (廃棄率 1.2%)
新鮮凍結血漿 84 単位 (廃棄率 1.6%)
血小板製剤 20 単位 (廃棄率 0.1%)

次年度目標

輸血実施時のルールを策定したことで輸血の適正使用に関して院内の意識が少しずつ高められてきたと思われます。当院は静岡県内での輸血使用量が最上位の医療機関であり、輸血製剤は献血から得られる貴重な医療資源であることを認識して、今後も適正な輸血療法を行うことが求められます。

また、クリオプレシピテートの院内調製や新生児輸血のための小容量輸血バッグへの分割などを導入して診療科を支援することや、緊急時・大量出血時の輸血対応については、安全で速やかに輸血が実施できるように診療科や看護部と協力して体制を整備していく必要があります。

輸血検査についてもレベルアップを図り、不規則抗体同定検査を実施できるように準備を進めて Type & Screen (T&S)を導入したいと考えています。

平成28年度 診療科別輸血製剤使用状況

	赤血球製剤	自己血	新鮮凍結血漿	血小板製剤
血液内科	3,264	0	80	11,040
心臓血管外科	2,640	0	2,030	4,590
循環器科	1,286	0	322	335
外科	1,100	0	208	360
救急診療科	754	0	422	370
整形外科	600	250	106	170
消化器内科	568	0	130	380
産婦人科	638	77	386	180
脳神経外科	540	0	46	230
泌尿器科	332	11	66	260
腎臓内科	230	0	82	20
呼吸器外科	118	0	36	40
呼吸器内科	98	0	70	110
新生児科	43	0	10	0
形成外科	52	0	0	0
麻酔科	762	10	606	380
膠原病内科	126	0	14	40
皮膚科	4	0	0	0
耳鼻咽喉科	22	0	0	0
小児科	8	0	2	0
糖尿病・内分泌内科	20	0	0	40
脳神経内科	104	0	242	110
眼科	0	0	0	0
放射線科	2	0	0	0
メンタルクリニック	12	0	18	0
総合内科	2	0	0	0
計	13,325	348	4,876	18,655

3-9 看護部

【理念】

私たちは「仁」の心をもって、患者さんとご家族が満足できる最善の看護をめざします。

【基本方針】

1. 専門職としての倫理を遵守し、思いやりのある看護を実践します。
2. 根拠に基づく安全な看護を提供します。
3. 教育・実践・研究を通して看護の発展に貢献します。
4. 他の医療職者と協働し、健全な病院運営に参画します。

【ビジョン】

大学附属病院、基幹病院(救急・高度・特殊・専門・地域医療など)としての機能強化し、看護の質向上を目指す。

【H28 年度 目標】

- 1 安全で信頼される看護サービスの提供
 - 1) 個別性を踏まえた看護過程の展開
 - 2) 臨床実践能力の向上
 - 3) 倫理観を高め、基本的な知識・技術に基づいた看護実践
 - 4) 接遇マナーの向上
2. スタッフ 1 人ひとりが働きやすい環境を整備
 - 1) 職員満足度の向上

【H28 年度 目標の評価】

目標1に関しては、個別性を踏まえた看護過程の展開ができることを目標に挙げ、看護計画立案は前期 68% から後期 88% と向上した。7 月電子カルテ導入により、看護計画の指導や監査が容易になったことが要因と考える。臨床実践能力向上については、H29 年 2 月ナーシングスキルを導入した。紙ベースの手順書をスマホやパソコンで閲覧でき、動画での視聴や確認テスト等自己学習できる環境を整えた。しかし、バーコード未使用による患者誤認、誤薬発生率は減少したが手指衛生の遵守、褥瘡発生は目標達成できなかった。DiNQL(労働と看護の質向上のためのデータベース事業)への参加病棟は、新規の4病棟を加え7病棟で実施した。DiNQLを経験した管理者が増え、各部署の課題と成果を可視化でき、課題達成にむけて取り組みやすくなった等の意見が聞かれた。また、電子カルテ導入により、業務の効率化が進んだ。とくに、情報共有が容易になったことで外来看護記録が記載できるようになった。次年度は電子カルテ部門システム(産科・眼科・耳鼻科)導入後、外来看待時間調査を実施し、外来のサービス向上を推進したい。

目標2に関しては、H26 年度よりワークバランス INDEX 調査を実施し、明らかとなった課題の中から「勤務が終われば気兼ねなく帰れる」に焦点をあて取り組み「気兼ねなく帰れる」は 45.7% から 51.9% と改善した。超過勤務時間は、月 1 人平均 14 時間 2 分から 15 時間 44 分と 1 時間 42 分増えた。電子カルテ導入準備と導入後職員

への周知のためと考える。離職率は9.3%から10.8%、早期離職率(新卒1年以内の離職)も1%から2.5%へと微増したが低い値を維持できた。

次年度は高い倫理感を持ち、患者さん1人ひとりに向き合い、最善の看護が提供できるよう取り組んでいく。患者・家族の意思を尊重し、外来から入院、地域へと質の高い最善の看護サービスが提供できるよう地域連携を強化し、スタッフが生き活きと働き続けられる職場環境を整えていきたい。

平成28年度 看護部 BSC

	戦略目標	重要成功要因	成果指標	目標値	結果
財務の視点	病院運営に参画	看護が関係する収益の向上	平均在院日数 病床利用率 ベッド回転数	12日以下 97%以上 2.54回以上	12.5日 97.4% 一般2.4回 特定4.6回
顧客の視点	患者・職員満足度の向上	安全・安心な療養環境の提供 職員満足度の向上	転倒・転落率 誤薬発生率 褥瘡発生率 離職率 早期離職率 超過勤務時間 ワークライフバランスINDEX 調査項目「勤務が終われば気兼ねなく帰れる」	1.3/1000患者/日 2.15%以下 1.16%以下 10%以下 4.5%以下 15時間以内 50%以上	1.4/1000患者/日 1.83% 0.75% 10.8% 2.5% 15時間44分 51.9%
業務プロセスの視点	チーム医療の実践	多職種との連携による看護の質向上	介護支援連携指導書件数 退院時共同指導書 5大がん連携パス件数 医科歯科連携件数 リンパ浮腫指導件数 糖尿病指導件数	160件以上 120件以上 20件以上 50件以上 50件以上 50件以上	161件 100件 22件 46件 100件 50件
学習と成長の視点	専門職としての知識・技術の向上	臨床実践能力の向上 自己教育力の向上	キャリアアップ研修参加人数 重症度、医療・看護必要度研修参加者 個人目標達成度 看護研究発表者数 雑誌投稿者数	前年度より向上 111名 院外7名以上 院内21名以上 平均72点以上 14名以上 3名以上	56名 院外28名 院内162名 75.7点 15名 5名

平成 28 年度 看護部委員会 成果と課題

	成 果	課 題
医療安全	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬・転倒転落予防手順の周知徹底に取り組み達成率は 80%であった。 2. 与薬事故件数は、1.83%と前年度を下回った。 3. 転倒転落予防勉強会を開催し、知識を深めることができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. H28 年度の各部署取り組み結果の課題を次年度引き続き取り組んでいく。 2. 与薬事故・転倒転落の減少に向けて、事例分析を的確に行い、効果的な対策立案につなげる。(手順に沿った対策のシンプル化) 3. 医療安全に関する知識の向上を図る。
感染対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. リンクナースによる環境監査以外にコアメンバーの監査を実施した。各部署改善点が多く成果が出ている。 2. 手指衛生遵守率 48% (前年度 54%) と前年度を下回った。 3. CLA-BSI 感染率1部署/3部署、UTI 感染率 8 部署/15 部署 (前年度データを下回る) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手指衛生遵守率 70%達成部署を増やす。 2. 中心静脈カテーテル、尿道カテーテル感染率が昨年より改善できる部署を増やす。 3. リンクナース一人では限界があるため各部署の師長・主任、感染係を巻き込み指導できる 看護師を育成し感染活動ができる環境をつくる。
N S T ・ 褥 瘡	<ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡推定発生率は目標 0.98%のところ 0.75%と下回ることができた。 2. 褥瘡勉強会 3 回/年開催を、対象病棟 3 部署実施することができた。 3. NST 介入件数の増加 (146 件→204 件) が図れた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. リンクナースの褥瘡回診同行を活かし、褥瘡発生件数の減少に努める。 2. NST 介入による患者満足度が向上するために NST 介入後評価を実施する。 3. 褥瘡対策チーム、NST の協働を図る。
記 録 ・ カ ル テ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子カルテ上、看護記録の円滑導入ができた。 2. 電子カルテ導入後の看護記録監査手順を作成し、他部署監査を実施した。 3. 監査の結果、個別的なケア計画立案の実施が 88%で前年度よりアップした。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自部署での記録監査を実施できるように、研修を計画し監査者を育成する。 2. 監査を実施し、SOAP に沿った記録、記録漏れなどの改善と強化。 3. 2 次データを活用して、ケア項目・看護計画のマスタの修正。
ク リ ニ カ ル パ ス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子カルテ導入後、電子化されたクリニカルパスは 43.5%まで上昇。 2. クリニカルパス使用率 34%と電子カルテ導入前と変わらない状況まで回復。 3. クリニカルパスの検証会を行い、クリニカルパス作成の情報共有ができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子化されていないパスをすべて電子化し、パス数を増やし、使用率を上げる。 2. パス使用率の低い診療科、病棟の検証会を行い、使用率を上げる。 3. 患者パスを作成・使用を進め、患者・家族に安心・安全な医療と看護を提供する。
W R B	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超過勤務時間は外来部門において目標の 15 時間を下回った。 2. INDEX 調査の結果からは「気兼ねなく帰ることができる」の回答が 6.2%上昇した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟部門でも目標時間達成に向け業務を見直し改善を行っていく。 2. 適正な超過勤務取得に向け、時間管理の意識を持ち退勤時間との乖離を減少していく。

災害対策	<ol style="list-style-type: none"> 院内ラウンドは計画通り実施した。 机上シミュレーションは全部署1回のみの開催にとどまった。 アクションカードの運用マニュアルを作成した。 災害ミニセミナーは計画通り開催できた。 	<ol style="list-style-type: none"> 院内ラウンドを引き続き行っていく 机上シミュレーションの実施計画を見直す。 アクションカード運用の現状調査を実施し、全病棟で運用できるよう検討する。 委員を対象のセミナーを病院全職員対象とし、知識の底上げを図る。
看護必要度	<ol style="list-style-type: none"> 新しい評価へ移行し、一般病棟 28.3% ハイケア 93.6%、重症 81.4%と基準は達成できた。 毎月院内研修を開催 137名の受講者数 毎日師長の監査、年間3回他部署監査実施。 	<ol style="list-style-type: none"> 評価者の育成と正しい評価の実施。 監査要綱の見直し、記録不備による評価の取り漏れを防ぐ。 他部門との連携システムをつくり、取り漏れを防ぐ。

平成28年度 看護部の看護単位と責任者

平成28年4月1日

看護部

病棟	病床数	主な診療科	師長	主任
A棟 3階 3A	20	救命救急センター ICU・CCU	長友 節子	多田 真也
A棟 5階 5A	33	産婦人科	栗原 未黄	三角 百合子・石井 彰子
MFICU	6			勝又 理恵
A棟 6階 6A	56	脳外・形成	山口 礼	亀井 厚子・山崎 裕也
A棟 7階 7A	56	外科・呼吸器外科	山本 希	飯田 敏秀・村田 文明
A棟 8階 8A	52	循環器・心外・血内	三枝 英美	中尾 恵美子・島田 奈津美
A棟 9階 9A	36	混合（全個室）	間部 幸	綾部 彰美・山崎 小百合
B棟 3階 3B	38	耳鼻科・泌尿器・整形・救	加藤 清美	長谷川 亜矢
B棟 4階 4B	47	脳内・眼科	荻島 真弓	渡邊 光香・宮澤 初美・森 みどり
B棟 5階 5B	46	整形	藍澤 真澄	瀧田 千草・古屋 曜子
C棟 2階 2C	16	小児科	佐々木 智子	増田 友香・長谷川 智美
C棟 3階 3C	37	消化器内科・外科	鈴木 美佐	加藤 和歌子
C棟 4階 4C	33	呼内・腎内・皮膚科	濱口 真知子	渡辺 ひとみ
C棟 5階 5C	44	婦人科・内科系	田村 美紀	山下 安奈
E棟 2階	12	NICU	土井 尚美	大木直美
新生児センター	18	GCU		田爪 千里
E棟 3階 3E	20	救命救急センター 全科	野澤 陽子	石倉 美穂子・松尾 正人
E棟 3階 3EICU	7	全科 術後ICU	仁科 公江	鈴木 英子
病棟合計	577	16病棟 18看護単位	16	28

外来部門	ブロック	診療科	師長	主任
A棟 2階	A	循環器・外科・心外・呼外	杉山 希	
		脳外・整形・形成		
B棟 2階	B	脳神経内科	荻島 真弓	神谷 里美
		耳鼻科	加藤 清美	
		小児科	佐々木 智美	
A棟 2階	C	総合内科・消内・血内・腎内	杉山 希	渡邊 あつ子・三島 めぐみ
		呼内・膠内・糖内・麻酔科		
		メンタルクリニック		
E棟 1階	D	眼科・泌尿器科	濱口 真知子	福地 みどり
A棟 1階		皮膚科		一杉 あけみ
		産婦人科		栗原 未黄
E棟 1階	救急外来		野澤 陽子	勝間田 敏宏
D棟 地下	検査部門	内視鏡・アンギオ・シネ	櫻井 操	
F棟 1階		回復室・CT室		
G棟 1階		がん治療センター		
F棟 2階		予防医学センター 血液浄化センター		
A棟 4階・3階	手術・滅菌室		高橋 真紀子	藤本 ゆうこ・内田 佳月
合計			9	6

看護部	役職	氏名	他部門	師長	主任
	部長	堀江 みどり	医療安全推進センター		
看護総務課 課長	長澤 幸子	感染対策室	杉山 美和		
入院業務課 師長	廣瀬 典子	医療安全管理室	小川 利恵子		
外来業務課 課長補佐	矢田 みどり	医療サービス支援センター			
看護安全管理課 師長	長富 美恵子	医療福祉相談室	山下 小夜子	森 久美	
看護教育課 課長補佐	堀込 克代	患者・看護相談室	白川 啓子		
	師長 川村 繭子		大川 綾子		
役職者数 (合計)	67				
部長/課長	4				
師長	25	(看護部 21 他部門 4)			
主任	38	(看護部 36 他部門 2)			

3-9 (1) 看護総務課

平成 28 年度採用者

- ・看護職 : 82 名 (助産師 3 名・看護師 77 名・既卒者 2 名)

平成 28 年度退職者

- ・看護職 : 75 名 (看護師 73 名・パート助産師 1 名・パート看護師 1 名)
- ・看護補助者 : 2 名

看護職員状況

1. 平成 23 年度～27 年度

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
看護職員(助産師・看護師・准看護師)	581 名	601 名	633 名	680 名	710 名
退職者数	82 名	63 名	71 名	76 名	63 名
離職率	14.1%	11.2%	11.9%	11.6%	9.3%
早期離職率	7.1%	8.1%	2.4%	3.4%	1.1%

2. 平成 28 年度

職種	4/1 在籍者数	中途採用者数	退職者数	離職率	早期離職率
看護職員(助産師・看護師 准看護師)	704 名	0 名	73 名	10.8%	2.4%
パート看護師(助産師含む)	6 名	0	2 名		
介護福祉士	21 名	0	0 名		
看護補助者(派遣)	126 名(107)	18 名(18)	18 名(16)		
看護部事務員(派遣)	61 名(59)	17 名(17)	21 名(21)		

3. 専門・認定看護師

- (1) 専門看護師 4 名 ・感染看護 1 名 ・慢性疾患看護 2 名 ・老人看護 1 名
- (2) 診療看護師 1 名 ・クリティカルケア 1 名
- (3) 認定看護師 16 名 ・皮膚・排泄ケア 2 名 ・がん化学療法看護 2 名 ・救急看護 3 名
 ・集中ケア 1 名 ・感染管理 1 名 ・緩和ケア 3 名 ・新生児集中ケア 2 名
 ・がん放射線療法看護 1 名 ・摂食・嚥下障害看護 1 名

看護職員募集に関する取り組み 平成 28 年度看護師募集活動

1. 就職説明会 2 回 ・順天堂大学医療看護学部・順天堂大学保健看護学部
2. 学校訪問 2 回 ・聖隷クリストファー大学(在校生) ・順天堂大学医療看護学部
3. 病院見学会 4 回 ・他 2 回個別に見学者対応
4. オープンキャンパス 3 回 ・順天堂大学保健看護学部 病院見学会 (8/6・7 9/4)

ワークライフバランスの取り組み

1. 時間短縮勤務は、全員希望を受け入れている。今年度 4 月は 19 名であったが、1 月には 31 名まで増加した。特に病棟での勤務は時間内に終了できないことが課題である。
2. 変形労働時間制勤務は新たに 2C 病棟で開始し 4 部署(3A・3E・3EICU)で実施。その他は昨年と同様である。2 部署で 3 交替を行なっているが、長時間夜勤の改善を検討していきたい。
3. INDEX調査の結果より「勤務が終了すれば気兼ねなく帰ることができる」が 51.9%に上昇した。さらに改善できるよう働きかけていく。また、「定時で終われる業務である」が 24.0%と低いため、超過勤務の削減などと共に検討していく。
4. 今年度の平均有給休暇取得日数は 11.5 日で、取得率は 61.5%であった。部署間での差異が大きかった。次年度に向け 3 月にまとめて退職することなど考え、年間を通して計画的に取得する必要がある。

看護補助者・看護事務について

1. 看護補助者の定数は、太陽技研 59 名、三幸コーポレーション 6 名で運用している。今年度は、急性期看護補助体制加算 25 対 1 もすべて基準達成することができた。
2. 平成 28 年度より病棟事務員が委託から派遣に変更となった。

3-9 (2) 看護入院業務課

施設基準に関して

1. 一般病棟入院基本料及び急性期看護補助体制加算等について
 - 1) 一般病棟入院基本料7対1・夜間配置加算は、12カ月を通して取得できた。
 - 2) 夜勤72時間制限は、1カ月管理では、12カ月中、4カ月クリアできなかった。
4週管理においては基準を達成した。
 - 3) 急性期看護補助体制加算は25対1、夜間配置加算は、100対1を取得した。
看護職員夜間12対1配置加算1について、夜間看護体制評価7項目中4項目がクリアできている。
 - 4) 重症度、医療・看護必要度については、すべての月(4月～6月:15%以上、7月～3月:25%以上)で基準を達成した。しかし、病棟ごとにみると月により達成できていない病棟が9病棟ある。
2. 特定病棟の平均夜勤回数と、重症度、医療・看護必要度について
 - 1) 特定病棟(7病棟)の平均夜勤回数は、平成28年3月で平均夜勤回数が最も少ない病棟は10.3回(2C病棟)、多い病棟は12.3回(3A病棟)であった。
 - 2) 重症度、医療・看護必要度は全ての月で基準達成した。

DiNQLに関して

DiNQL(Database for improvement of Quality and Labor:労働と看護の質向上のためのデータベース)事業に7病棟(7A・5B・5C・4B・4C・3A・3C)が参加した。電子カルテ導入に伴い、8月より毎月を必須入力月(昨年度は年間3回)とし、ベンチマークを行った。ベンチマーク結果を基に看護部5課で協働し、各病棟師長(主任)と面談を行い、次年度の課題を検討した。

1. DiNQLベンチマーク結果より読み取れたこと
 - 1) DiNQL参加継続病棟(7A病棟・5B病棟・5C病棟)
 - 2) 褥瘡発生率・転倒転落率・誤薬発生率共に、全国平均を下回り、発生率は低くなっている。
 - 3) DiNQL新規参加病棟(4B病棟・4C病棟・3A病棟・3C病棟)
 - 4) 転倒転落発生率・誤薬発生率共に、平成27年度自病棟平均を下回り、発生率は減少傾向にある。
2. 参加してのメリット
 - 1) 病棟管理者がベンチマーク結果を、ドナベディアン[®]の看護の質の枠組みである「構造」「過程」「結果」の視点から分析する事により、自病棟の問題点や成果を可視化できる。
 - 2) 各病棟のデータが把握でき、全国の同じレベルの病棟と比較することができた
 - 3) 感染や褥瘡のデータ収集において、スタッフがどのような視点で観察をしていくのか示すことができた。
 - 4) バルンカテーテルの早期抜去や褥瘡予防につながった。
 - 5) 看護師が働き続けられるための環境整備に使用できる。
 - 6) DiNQL参加取組発表を行うことで、DiNQL参加のメリットや成果を共有できた。

3. 次年度に向けての展望

- 1) 得られたデータを読み解き、自部署の強みや弱みを把握し、看護の質向上や労働環境改善に繋げる。
- 2) 環境改善を行うことや強みをスタッフにフィードバックすることで、モチベーションが向上し離職率低下に繋がる。
- 3) DiNQL を活用した取組みの発表を行い共有する事で、管理者のモチベーション向上が期待できる。
- 4) DiNQL に参加できなかった病棟との格差を是正する為の取組みを行う。

MaIN2 に関して

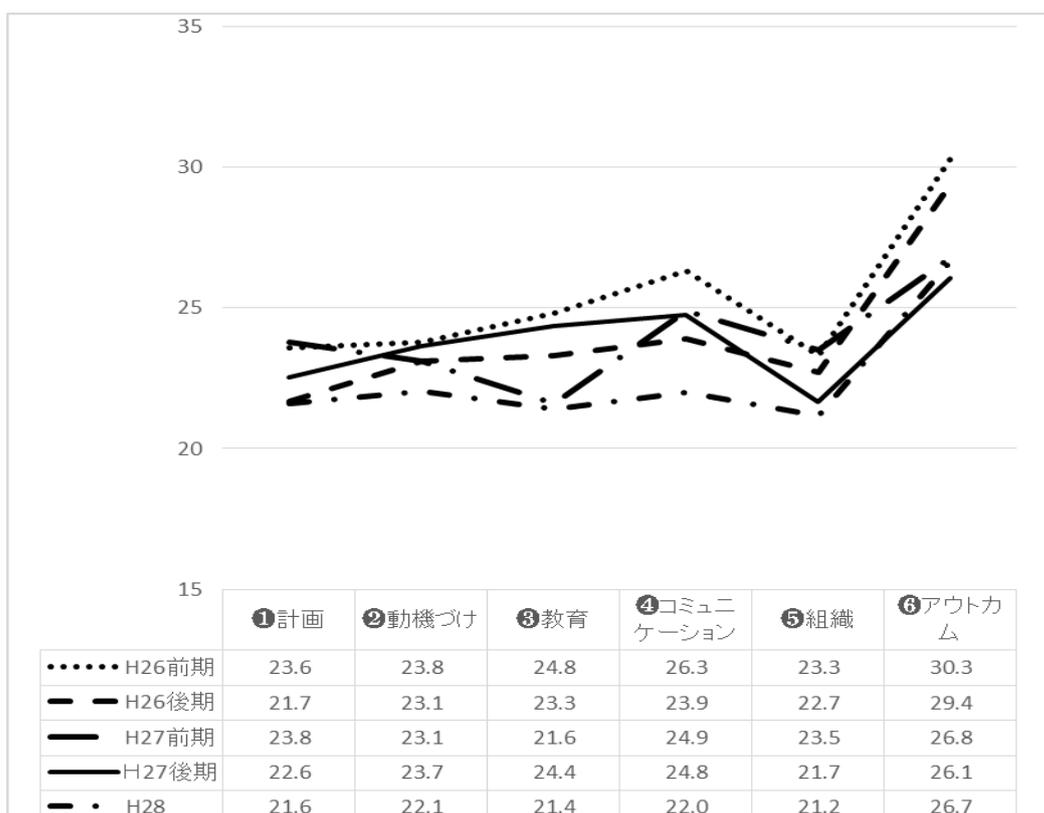
《MaIN2 の概要》

MaIN2 は「病院の規模によらず」「簡便に」「自己評価が可能」なマネジメントツールとして開発された。

6 カテゴリー(①計画:組織の目標をメンバーが理解し共有しているか②動機づけ:個人のやる気を大切にして、これを支援しているか③教育:新しい知識を取り入れた学び合える組織か④コミュニケーション:個人個人の意思疎通は十分にできているか⑤組織:効率的に組織運営ができているか⑥アウトカム:成果が結果として現れているか)に対してそれぞれ 8 つの設問が与えられ、各設問には 5 つの選択肢があり、該当するものを選ぶようになっている。これらの設問ひとつひとつ、そこに含まれている選択肢が、看護マネジメントを特徴づける指標となる(合計 48 指標)。最終的には、該当した選択肢の数を点数として加算し、各カテゴリ 40 点、合計 240 点満点になる。

看護部では、平成 28 年度も「看護管理能力の向上」を目指して MaIN2 を活用している。

結果としては、総合点は平成 27 年度前期 143.7・後期 151.4 点、平成 28 年度 134.6 点で下降傾向にある。H27 年後期と比較すると⑥アウトカムは上昇しているが、①計画②動機づけ③教育④コミュニケーション⑤組織は低下している。今後も MaIN2 を活用し、看護管理者自ら自己評価を行い、強み弱みを把握した管理実践を通して看護管理能力を向上させていきたいと考える。



3-9(3) 看護外来業務課

1. 電子カルテ導入

- 1) 7月19日より電子カルテの運用が開始となり、スムーズに移行できた。
電子カルテ導入により受付後、外来へのカルテ搬送所要時間40分(平成26年度外来待ち時間調査結果より)が削減され、待ち時間の短縮に繋がった。
- 2) 外来窓口事務の業務整理、ローテーションを行い4.5人削減することができた。

2. 医師事務作業補助者の外来配置

医師事務作業補助体制加算20:1から15:1を取得できた。電子カルテ導入により病棟医師事務作業補助業務の整理を行い外来兼任業務ができるようにした。外来配置の医師事務作業補助者を3名増員したことで、看護師が行っていた医師事務業務を委譲でき、患者指導などの看護師業務の充実に繋がった。

3. 外来看護充実のための取り組み

- 1) 平成27年度「外来看護の可視化」を目的に外来看護記録用紙を作成し133件/月から、平成28年度は約1000件/月の入力ができ看護記録の定着が図れた。平成29年度は、看護計画立案の件数を増やしていく。
- 2) 内視鏡検査の回復室業務を外来から内視鏡検査室に移行し、外来業務の効率化が図れた。また、内視鏡検査技士の資格を有する看護師を中心に、専門的な知識をもとに患者に安心・安全な看護の提供が推進できた。
- 3) 指導内容と件数

	平成27年度	平成28年度
母乳外来	269件	271件
フットケア件数	187件	156件
がん患者指導管理料算定件数	管理料(1)34件(2)12件	管理料(1)82件(2)21件
がん患者指導管理料算定件数	—	164件
リンパ浮腫指導件数	103件	118件
糖尿病透析予防指導件数	209件	76件
骨粗鬆症指導件数	720件	1210件
間歇導尿指導件数	17件(5月～)	15件

- 4) 外来部門各資格者数(平成28年度 資格取得者を含む)
 - ・がん化学療法看護認定看護師(1名)
 - ・がん放射線療法看護認定看護師(1名)
 - ・リンパ浮腫療法士(1名)
 - ・糖尿病療養指導士・糖尿病学内認定看護師(1名)
 - ・学会認定内視鏡検査技士(5名)
 - ・学会認定・臨床輸血看護師(3名)

- ・快適 CIC 指導士(間歇導尿指導) (2名)
- ・静脈注射造影剤コース院内認定看護師(3名)

【平成 28 年度 資格取得者】

- ・学会認定内視鏡検査技士(1名)
- ・快適 CIC 指導士(間歇導尿指導) (1名)
- ・静脈注射造影剤コース院内認定看護師(2名)

手術室

- 1) 平成 28 年度の年間手術件数 8026 件、定時外も含む稼働率は、87.3%であった。
手術室を効率よく運用するために、8:30 出し手術枠を 1 件増やし日勤帯の稼働が上がるよう看護師の人員配置を行った。病棟からの手術出しの遅延も手術室の効率運用の課題となっており、7 月より手術出し遅延調査を実施した。7 月 15 件の遅延件数があったが、データの可視化により病棟の協力を得ることができ、5 分以上の遅れが 12 月には 0 件となり調査を終了とした。
- 2) 平成 27 年度、手術室での褥瘡発生件数は 35 件であった。皮膚・排泄ケア認定看護師指導のもと、各科ポジショニングマニュアルの見直し、褥瘡ケア用品の勉強会を実施した。結果、手術室での褥瘡発生件数は 20 件に減少した。このうち術中発赤重症化件数は 0 件であった。
- 3) 腹腔鏡手術の診療材料(一部)をシングルユース品からリユース品への変更、麻酔科診療材料の変更等により 21.7%のコスト削減ができた。

滅菌室

- 1) トレーサビリティシステム(滅菌機材管理システム)のアイテム数や器材の写真を追加し、運用を更に充実させることができ、器材使用後の定数確認、洗浄、セット組みの作業効率や安全性の向上に繋がり、手術室の効率運用に貢献できた。

3-9(4) 看護教育課

業務内容

1. 平成28年度 現任教育必修研修一覧

月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容(教育要綱参照)	単位	担当者*担当責任者					
4	2(土)	9:00~17:00	ノンレベル (新人看護職員)	オンユアマーク研修2	看護技術	4	教育課					
	6(水)	8:30~16:40		オンユアマーク研修1	オリエンテーション	4						
	7(木)	8:30~16:40		オンユアマーク研修1	オリエンテーション	4						
	9(土)	9:00~17:00		オンユアマーク研修2	看護技術	4						
	10(日)	9:00~17:00		オンユアマーク研修2	看護技術	4						
	28(木)	午前8:00~11:30 午後12:30~16:00(午前午後入れ替え制)			医療安全研修	誤薬防止・転倒転落予防		2	山崎・廣瀬・(小川)・高橋・杉山・瀧田・渡辺ひ・中尾・綾部			
5	2(月)	午前8:30~12:00 午後13:00~16:30 (午前午後入れ替え制)	I	実地指導者研修	実地指導者(エルダー)にな	2	綾部・三角・望月啓					
	9(月)	17:15~18:30	II	事例研究	研究方法論・文献検索方法	1	杉山・大木					
	11(水)											
	13(金)											
	16(月)											
	12(木)	8:30~12:00	III	実習指導者研修(1回目)	実習指導者の役割について	2	長谷川・中尾・村田・鈴木由・鈴木					
	16(月)	9:00~16:10	IV	エキスパートコース(1回目)	SWOTを用いた現状分析	4	石倉・教育課・堀江部長					
	24(火)	17:00~18:00	介護福祉士	ケーススタディー説明会	方法・スケジュール・発表方	1	教育課					
	19(木)	午前9:00~12:00 午後13:00~16:00 (午前午後入れ替え制)5/30 午後のみ)	看護補助者	看護補助者研修	BLS	2	勝間田・岩崎・相馬・池田・山本 秋好					
	30(月)	午前8:30~12:00 午後13:00~16:30 (午前午後入れ替え制)	II	リーダーシップ研修2	後輩の成長を支援する指導者となるために	2	加藤和・鈴木英・山口					
	1(水)											
	2(木)	午前9:00~12:20 午後13:20~16:40 (午前午後入れ替え制)	ノンレベル (新人看護職員)	新採用者研修	フィジカルアセスメント	2	渡辺あ・多田・一杉・土佐谷・田上・黒田・内田 千・鈴木め・稲葉・福沢・肥後					
	3(金)	午前8:30~12:00 午後13:00~16:30 (午前午後入れ替え制)	II	リーダーシップ研修2	後輩の成長を支援する指導者となるために	2	加藤和・鈴木英・山口					
	6(月)											
7(火)	8:30~16:10	III	臨床実習指導者研修(2回目)	実習指導案について	4	長谷川・中尾・村田・鈴木由・鈴木						
21(火)	17:00~18:00	介護福祉士	介護福祉士研修	高齢者痴呆看護	1	植田						
22(水)												
27(月)	8:30~16:10	I以上	学内認定看護師教育課程静脈注射コース(1回目)	認定後4	三島・瀧田・山崎裕・石井							
28(火)	17:00~17:45	III	他部署留学1	他部署研修説明会	1	教育課						
30(木)												
7	5(火)	8:30~12:00	IV	看護倫理1	看護実践に必要な倫理	2	山下安・長富					
	6(水)	午前9:00~12:20 午後13:20~16:40 (午前午後入れ替え制)	ノンレベル (新人看護職員)	新採用者研修	BLS	2	藤本・松尾・増田・神田・内山・平馬・三枝夕・関根・野中・渡辺和・中村沙・佐野・藤沢					
	7(木)	8:30~16:40	III	リーダーシップ研修3問題解決	問題解決	4	宮澤・土屋・杉村・濱口					
	14(木)											
	28(木)	午前9:00~12:00 午後13:00~16:00 (午前午後入れ替え制)	ノンレベル (新人看護職員)	新採用者研修	多重課題・3カ月の振り返り	2	田爪・山崎小・内田佳・仁科					
29(金)	17:00~18:00	I	リーダーシップ研修1-①	退院支援研修	1	森						
1(木)												
9	2(金)	8:30~16:10	I以上	学内認定看護師教育課程静脈注射コース(2回目)	認定後4	三島・瀧田・山崎裕・石井						
	6(火)											
	12(月)											
10	5(水)	午前8:30~12:00 午後13:00~16:30 (午前午後入れ替え制)	ノンレベル (新人看護職員)	救急看護	急変時の対応・机上シミュレーション 救急カードについて	2	福地・神谷・飯田・亀井・松本・後藤・増永・森島・松下・鬼塚・酒井・長谷川					
	6(木)	8:30~16:10	III	リーダーシップ研修3問題解決	問題解決	4	宮澤・土屋・杉村・濱口					
14(月)												
11(金)	17:00~18:30							III・その他	実習指導リフレクション研	平成26年度受講生と指導の	1	長谷川・中尾・村田・鈴木由・鈴木
17(木)	17:00~18:30							介護福祉士 全員参加	ケーススタディー・研修報	ケーススタディー発表・研修	1	教育課
28(月)	8:30~16:10	I以上	学内認定看護師教育課程静脈注射コース(3回目)	認定後4	三島・瀧田・山崎裕・石井							
12	2(金)	午前8:30~12:00 午後13:00~16:30 (午前午後入れ替え制)	ノンレベル (新人看護職員)	エンゼルケア	逝去時の看護	2	渡邊光・高島・西原					
	9(金)	10:00~16:40 (受講人数によって変更あり)	II	事例研究	事例研究発表会	4	杉山・大木 講師担当:全師長					
	5(月)											
	6(火)											
	7(水)											
	8(木)	13:00~16:10	IV	エキスパートコース(2回目)	成果発表	2	石倉・教育課・堀江部長					
15(木)												

月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容(教育要綱参照)	単位	担当者*担当責任者
1	27(金)	13:00~16:10	IV	看護倫理2	事例発表会	2	山下安・長富
	31(火)	9:00~16:40	ノンレベル (新人看護職員)	メンバーシップ研修	シップ・1年間の振り返り・(褥)	4	長谷川亜・勝又・島田・浦岡
2(木)							
3(金)							
15(水)							
2	16(木)	17:00~18:30	III	他部署留学2	成果発表	8	教育課
	27(月)	8:30~16:10	I以上	学内認定看護師教育課程静脈注射コース(4回目)	認定後4	三島・瀧田・山崎裕・石井	
3	2(木)	午前 9:00~12:00 午後 13:30~16:40	I	リーダーシップ研修1-②	リーダーになるための心構え	2	渡辺ひ・森み・小島
	3(金)	(午前午後入れ替え制)					
	9(木)	8:30~12:30					

平成28年度 キャリアアップ研修計画

【看護教育研究会】

月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容(教育要綱参照)	単位	担当者
9	14(水)	17:00~18:30	III・IV	看護教育研究会(1回目)	伝達講習・研究・取り組み発表	発表者3 聴 講者1	教育課
2	22(水)			看護教育研究会(2回目)	伝達講習・研究・取り組み発表		

【アラカルトコース】*期日未定のコースは決定次第各部署へお知らせ予定

月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容	単位	担当者
未定		17:00~18:30	II以上	看護研究1	看護で使える統計学	1	高橋
			III以上	看護研究2	論文クリティーク		田村
6	15(水)	17:30~18:30	条件なし	看護を語ろう1	(申込不要)		杉村
2	未定			看護を語ろう2	(申込不要)		杉村

【中間管理者コースI / ベーシック】

*主任昇格予定者受講必修研修

月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容	単位	担当者				
6	16(木)	17:00~18:30	ラダーIV・管理I (主任)*本年度 ファーストレベル 受講予定者除く	中間管理者になるために	組織における看護部の役割	全 出 席 1 0	看護部長				
7	27(水)				目標管理		廣瀬・堀込				
9	21(水)				人材育成と管理		堀込・高橋				
10	19(水)				看護と経済		矢田・櫻井				
11	16(水)				労務管理		長澤・宮澤				
12	21(水)				医療安全管理		杉山				
1	18(水)				看護倫理		長富				
2	9(木)				医療連携		荻島・山下				
H30年2月6・13日実践報告					実践報告			看護部			

【専門看護コース】

1. 退院支援・連携研修

月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容	単位	担当者
6	28(火)	17:00~18:30	III・IV	退院支援・退院調整	要項参照	全 出 席 5	退院支援
7	26(火)						
10	25(火)						
12	15(木)						

2. 急変対応シミュレーションコース

月	日	研修時間	受講予定部署	受講方法	単位	担当者
7	2(土)	8:00~12:00	受講部署はリソースナースで厳選し決定予定	要項参照	3	リソースナース(救急領域)
9	3(土)					
11	5(土)					

3. 重症度、医療、看護必要度研修

月	日	研修時間	ラダー	研修内容	単位	担当者
7	23(土)	9:00~12:00	I以上	教育要項参照	各 2	加藤
10	22(土)					
1	21(土)					

4. 創傷ケア(褥瘡ケア)コース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容	単位	担当者
7	21(木)	17:00~18:30	II以上	教育要項参照	3	杉村/浦岡
9	1(木)					
3	16(木)	18:00~19:00				

5. ストーマケアコース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容	単位	担当者
6	16(木)	17:00~18:30	II以上	ストーマケアについて講義・技術・演習・各部署にて 症例展開 (3日間全て受 講)	3	杉村/浦岡
8	4(木)					
3	16(木)	17:00~18:00				

6. ICS (infection control staff) を目指そう

月	日		研修時間	研修内容	受講方法	単位	担当者
6	2(木)～	Cコース	コースにより日程 が異なります要 項を参照下さい	教育要項参照		各1	杉山/長富
7	7(木)～	Dコース					
1	19(木)	Aコース					
2	2(木)	Bコース					

7. 看護技術のスキルを磨こう

月	日	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者
5	19(木)	17:00～18:30	Ⅲ・Ⅳ・ 管理Ⅰ(主任)	教育要項参照		1	教案参照
8	18(木)						

8. 看護過程・看護記録

月	日にち	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者
4	23(土)	8:00～12:00	Ⅱ以上	教育要項参照		2	記録検討委員会
5	21(土)						

9. がん看護研修

月	日にち	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者
10	未定	17:00～18:00	Ⅱ以上	緩和ケア	教育要項参照	1	がん化学療法認定 緩和ケア認定 放射線看護
12				がん化学療法			
1							
11							
12				リンパ浮腫			

10. 看護倫理を学ぼう

月	日にち	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者
9	15(木)	17:00～18:00	条件なし	教育要項参照		2	慢性疾患看護専門看護師
10	20(木)						

2. 平成 28 年度 看護教育研究会 開催一覧

第 1 回 看護教育研究会 9 月 30 日(金) 17:00～18:30	部署 氏名
<研究> ICU へ新規配属される看護師の職場適応に関する研究 ～ICU 看護のコンピテンスに焦点を当てて～	3A 渡邊和信
<活動報告> 緩和認定看護師の役割と活動報告	7A 渡邊美佐子
<活動報告> 緩和認定看護師としての課題	9A 中村佳代子
<活動報告> 熊本地震災害支援活動報告	3E 森島克明

第 2 回 看護教育研究会 3 月 2 日(水) 17:00～18:30	部署 氏名
<活動報告> 臨地実習指導者研修会に参加して学んだこと	2C 黒崎麻由子

<活動報告> 災害医療従事者研修会に参加して	8A 山崎慎也
<活動報告> フライトナースの活動報告	救急外来 中村沙織
<活動報告> 救命センターでの取り組み 部門毎の専門性を活かした連携	3E 石倉美穂子

3. 平成 28 年度 院外教育活動

《 学会・研究会発表 》

テーマ	発表場所	発表者(部署)
0～3歳児を初めて育児する母親から見た育児満足感に影響を及ぼす家族維持機能の要因探索	日本母性衛生学会	勝又理恵(5C)
慢性病者がその人らしく生きるための支援 ～多職種協働におけるCNSのコーディネーション～	第10回日本慢性看護学会	田村美紀(5C)
誤嚥性肺炎を繰り返す患者の療養先の調整	第10回クリニカルケア研究会	田村美紀(5C)
肥満2型糖尿病患者への療養指導について	第15回東部糖尿病チーム医療カンファレンス	足立美加(5C)
多数病者事案における診療看護師を有するフライトナースの活動	日本NP学会第2回学術集会	多田真也(3A)
ナーシングサイエンスカフェ 実践力から広がる看護の仕事	第26回日本看護学教育学会	多田真也(3A)
ICUにおける人工呼吸器管理患者のセルフケア支援 -当施設看護師のアンケート調査より-	第44回日本集中治療医学会学術集会	阿部誠人(3A)
ICU看護のコンピテン스에焦点を当てて	第45回日本集中治療医学会学術集会	渡邊和信(3A)
静岡県内の救命センター1施設における看護師の教育経験と被災可能性に対する不安の調整	日本災害学会第18回年次大会	池谷俊祐(3A)
災害委員会リンクナースの自部署での取り組み 災害予防遵守率を維持するための取り組みと今後の課題	日本災害看護学会	山崎慎也(8A)
交流集会「慢性病患者がその人らしく生きるための支援」診断初期のALS患者に対する意思決定支援	第10回日本慢性看護学会	宮澤初美(4B)
麻薬初回導入の患者に排便日誌を活用した排便コントロール	第47回日本看護学会慢性期看護	山崎典子(3C)
病棟からの減災への試み 病棟におけるリーダー看護師の実務教育に災害時初動訓練を取り入れた効果	災害看護学会	森島克明(3E)
患者が語り自ら気づく脳卒中再発予防	第42回日本脳卒中学会学術集会	倉田洋美(6A)
同乗者対応の見直し 看護記録からの検討	日本航空医療学会	勝間田敏宏(救急外来)

《誌上発表》

テーマ	書籍・雑誌名	著者(部署)
第2章主な症状に対する看護	新体系看護学全書「呼吸器」メジカルフレンド社	田村美紀(5C)
冬場が増える救急症例に備える 急性アルコール中毒	救急看護ケアアセスメントとトリアージ	石田桃子(3A)
院内トリアージやさしく理解する思考過程	救急病棟の看護に活かす臨床推論	多田真也(3A)
特殊な搬送方法システム (小児患者搬送システム)	フライトナースハンドブック	多田真也(3A)
医薬品管理・看護倫理	フライトナースハンドブック	野澤陽子(3E)

《 院外での講師としての教育活動 》

活動内容	活動場所	担当者(部署)
日本救急看護学会主催 フィジカルアセスメントセミナー	愛知医科大学	石田桃子(3A)
救急患者の健康指導	愛知医科大学	野澤陽子(3E)
静岡県病院協会感染対策セミナー	グランシップ	杉山美和(感染対策室)
院内感染対策講演会	国際医療福祉大学熱海病院	杉山美和(感染対策室)
東部地区37病院感染対策担当者会研修会	静岡がんセンター	杉山美和(感染対策室)
ピースプロジェクト緩和ケア研修	静岡済生会総合病院	渡邊美佐子(7A)
平成28年度院内急変認定看護師教育課程	順天堂医学部附属練馬病院	石田桃子(5A)
平成29年度院内急変認定看護師教育課程公開講座 キャリアデザインを考えよう	順天堂医学部附属練馬病院	多田真也(3A)
成人看護方法論Ⅱ-①呼吸機能に障害のある人	順天堂保健看護学部	田村美紀(5C)
小児に必要な基本的看護技術実技演習の指導	順天堂保健看護学部	佐々木智子(新生児)
医療におけるリスクマネジメント	順天堂保健看護学部	廣瀬典子(入院業務課)
DMATの活動	順天堂保健看護学部	野澤陽子(3E)
成人看護方法論Ⅰ-② 急性期	順天堂保健看護学部	石田桃子(4A)
成人看護方法論Ⅰ-② 急性期	順天堂保健看護学部	多田真也(3A)
救命救急看護論	順天堂保健看護学部	多田真也(3A)
医療におけるリスクマネジメント	順天堂保健看護学部	小川利恵子(医療安全管理室)
静岡県看護連盟伊豆支部沼津支部合同研修会	三島市文化センター	勝間田敏宏(救急外来)

4. 公開講座

研修会のテーマ	心肺停止患者に遭遇した際の対応～一次救命処置と二次救命処置～		
開催日時	平成28年5月11日(水) 17時～18時		
会場	第一会議室		
参加人数	44人	院外からの参加者数	0人

研修会のテーマ	これで安心！明日から使える新生児の呼吸を整える看護技術		
開催日時	平成28年7月6日(水)17:00～18:30		
会場	第一会議室		
参加人数	61人	院外からの参加者数	32人
研修会のテーマ	明日からやってみよう！皮膚を護るひと工夫		
開催日時	平成28年8月3日(水)17時～18時		
会場	第一会議室		
参加人数	23人	院外からの参加者数	3人
研修会のテーマ	事例を用いて看護倫理を学ぼう～自己効力感		
開催日時	平成28年9月7日(水)17時～18時		
会場	第1会議室		
参加人数	50人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	続・いつものケアで大丈夫？血流感染対策&尿路感染対策		
開催日時	平成28年10月5日(水)17時～18時		
会場	第1会議室		
参加人数	84人	院外からの参加者数	5人
研修会のテーマ	今日から実践！口腔ケアと食事介助のポイント		
開催日時	平成28年11月2日(水)17時から		
会場	第一会議室		
参加人数	66人	院外からの参加者数	3人
研修会のテーマ	がん患者に寄り添う心とコミュニケーション		
開催日時	平成28年12月7日(水)17時～18時		
会場	第一会議室		
参加人数	32人	院外からの参加者数	3人
研修会のテーマ	動画で学ぶポジショニング		
開催日時	平成29年1月4日(水)17時～18時		
会場	第一会議室		
参加人数	41人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	化学療法看護 ～抗がん剤曝露と外見上のケアについて～		
開催日時	平成29年2月1日(水)17時～18時		
会場	第一会議室		
参加人数	56人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	がん放射線療法を受ける患者の看護		
開催日時	平成29年3月1日(水)17時00分～18時30分		
会場	第一会議室		
参加人数	25人	院外からの参加者数	0人

5. 平成 28 年度 教育活動状況

	項目	内容	期間
1	順天堂大学 医療看護学部実習	助産NICU実習	9月4日～15日
	順天堂大学 保健看護学部実習	①保健医療福祉に携わる職種の活動見学	5月30日
		②基礎看護実習Ⅰ	平成29年1月14日～20日
		③基礎看護実習Ⅱ	8月22日～9月16日
		④成人看護実習	10月7日～平成29年7月7日
		⑤看護総合実習	7月11日～7月21日
2	インターンシップ	当院の医療・看護を実際に体験し、就職後のリアリティーショックを緩和する	平成29年3月3日～3月17日
3	高校生 1日ナース体験事業	看護実務体験を通して思いやりや看護する事の理解と関心を深め、看護職への志望を啓発する	8月8・9日
4	中学生職場体験	勤労観・職業観を養うための学習の一環として近隣の各事業所、施設等で職務体験を実施	5月19・20・23・24日
	高校生職場体験	実践活動を通じて産業現場の実態の体験・社会に関する知識・技術を総合的に学習する	6月6日～9日
6	中学生社会人講話	職業人から体験談や職業観等を話し、生徒の職業に対する意識を高め、働く事の意義を考えさせる	1月29日
	ふれあい看護体験	一般市民の方々が看護の仕事について理解を深める	5月26日
8	順天堂学内認定 看護師教育課程	①糖尿病看護	9月5日～2月27日
		②院内急変看護	
		③摂食嚥下障害看護	
		④集中ケア	
		⑤認知症看護	
		⑤静脈注射コース	①6月27日
			②9月12日
			③11月28日
			④2月27日

3-9 (5) 看護安全管理課

看護事故について

1. 看護部のインシデント・アクシデントレポートの総件数は、1345 件(H27 年度に比較し 40 件減)。内訳は、与薬管理関連 377 件(49 件減)、チューブライン管理 255 件(51 件減)、転倒・転落 281 件(9 件増)であった。アクシデント(影響レベル 3b 以上)は、看護部全体の 0.97% (0.4%減)であった。
2. 与薬事故の目標値は H27 年度 2.15%から H28 年度は 1.83%へ減少したが、目標値の 2.15%に 15 部署中 6 部署が達成できなかった。与薬事故の中では点滴やインスリン・経口薬に関する事故が多く、発生要因としては指示の確認不足による投与忘れ・投与量間違い・投与薬間違いの順に多かった。転倒・転落事故の目標値は H27 年度 1.41%から H28 年度は 1.40%へ減少していたが目標値の 1.3%には 15 部署中 7 部署が達成できなかった。発生要因としては転倒アセスメント危険度Ⅱの患者のアセスメント不足やスタッフ間の情報共有が出来ていなかった。
3. 看護医療安全対策委員会では、与薬手順と転倒・転落防止のグループに分かれ手順の見直しを行った。取り組みを発表することで事例を共有する事が出来た。参考になる取り組みは、各部署で活用できるよう支援していく必要がある。また、理学療法室と協働し転倒転落予防研修を行い、医療安全教育に努めた。
4. 医療安全管理室・看護部教育課と協働し、新入職員の医療安全教育活動を行った。

次年度に向けては、引き続き転倒予防への取り組み、与薬関連事故対策として手順遵守の徹底・ダブルチェックの統一、インシデントKYTによる分析、自立して活動できるリンクナース育成が課題である。

感染制御について

1. 平成 28 年度は、BSI/UTI サーベイランス実施、手指衛生の遵守、感染経路別対策の遵守を中心に取り組んだ。
2. 感染率が改善した病棟は、CLABSI(中心ライン関連血流感染)が 1 病棟、CAUTI(カテーテル関連尿路感染)が 8 病棟だった。
3. 標準予防策の遵守では、リンクナースが中心となり手指衛生強化を目指したが、実施率 72%、遵守率 48%と改善は見られなかった。アルコールゲルの使用量は、集中治療領域で目標に達成しているが、一般病棟での低迷が続いている。MRSA レベルゼロシステムは、手指衛生・防護具の適正使用・経路別対策遵守を中心に 6 部署で取り組んだ。
4. 感染経路別対策は、33%の実施状況ではあったが、可視化したことで、防護具の着用など経路別対策を意識できるようになってきた。
5. キャリアアップ研修(ICS(Infection control staff)コース)、リソースナース公開講座など研修会を開催するとともに、院内感染対策研修会への参加を促すなど感染対策の教育活動を行った。

褥瘡対策について

1. 褥瘡推定発生率は、全国平均の 1.16%を下回る 0.75%の月が 1 回あった。
2. 褥瘡対策チームが介入しやすい踵部発生の褥瘡を減少させることを目標とし、褥瘡ハイリスク患者のポジショニングを含めたケアの指導に力を入れていたが、減少させることはできなかった。

3-10 救命救急センター

業務内容

静岡県東部地域の救急医療の「最後の砦」の三次救急医療機関として、院内全診療科と各部門の協力・連携のもと、「断らない救急医療」の実践を継続している。二次救急医療についても駿東田方地域の広域輪番制で対応不能な場合は当センターが対応しており、同様に一次救急医療を担当する休日夜間急患センターなどの対象外地域や診療時間の空白時は、当センターが対応することが多い。

病院前救急医療としては、静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院として、医師及び看護師の現場派遣と迅速な搬送を行うことで、特に伊豆半島と静岡市山間部の救急医療に重要な役割を果たしている。

入院診療ではICU13床、CCU7床を含む救急専用病床40床を利用し、重症傷病者の診療を行っている。

業務実績

平成28年

救急外来受診患者総数	12,935
救急入院患者総数	4,316
救急車搬送件数	4,257
ドクターヘリ運航件数	886件

メディカルコントロール活動

消防機関とのメディカルコントロール(MC)体制を確保・発展するために、地域MC協議会より要請された救急救命士の病院内実習の指導を行い、当院に収容した院外心肺停止症例についての事後検証を行った。静岡県MC協議会及び推進作業部会に参加し、救急救命士の業務プロトコル策定と事後検証に参加した。

地域においては、駿東田方地域MC協議会が開催する事後検証会に参加した。

次年度目標

- 救急搬送収容業務の円滑化と迅速化のため、救急応答事務員による救急対応体制への移行を順次実施する。
- 平成29年度に日本外傷学会認定施設への移行準備を行う。
- 周辺地域における救急医療連携を強化し、医療情報ネットワークを構築する。
- ドクターヘリ活動と研究により積極的に介入し、適正かつ有効なドクターヘリ業務を推進する。

3-11 ドクターヘリ運航対策室

業務内容

当院は静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院である。当院のフライトドクター及びナースがヘリでいち早く救急現場の傷病者と接触し、トリアージと応急処置を行い、適切な医療施設を選定して、目的地まで安全に搬送できるよう注意深い観察と対応を行っている。平成 16 年の指定以降、出動件数は年々増加傾向であり、当院を中心とする半径 70km の医療圏から年間 700 件以上の重症救急患者の広域ヘリ搬送を実施し、その約 6 割の患者を当院の救命救急センターに収容している。

次年度目標

- ・ ドクヘリ活動周知、啓発活動の継続
- ・ 消防との更なる連携強化
- ・ 県防災ヘリとの連携強化
- ・ 大規模災害、AACN 等の訓練への参加
- ・ 海上保安庁との連携強化
- ・ 自衛隊との連携強化

平成 28 年度ドクターヘリ出動件数・搬送人数

転 帰	人 数	
入 院	446	0
外 来	291	0
転 送	277	0
キャンセル	50	0
合 計	1,064	1

要請内容	件 数	
現場搬送	741	現場計
現場キャンセル	50	791
病院間搬送	227	病院間計
病院間キャンセル	0	227
合 計	1,018	

平成28年/29年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(人)
入 院	27	28	34	39	55	24	35	39	35	39	34	57	446
外 来	13	21	15	30	28	22	13	23	29	33	35	29	291
転 送	33	27	13	23	24	12	25	22	19	21	29	29	277
キャンセル	2	2	3	6	2	0	3	4	6	9	5	8	50
月別合計	75	78	65	98	109	58	76	88	89	102	103	123	1,064

平成28年/29年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
救急現場	49	47	47	68	83	43	59	61	64	70	76	74	741
転院搬送	23	20	13	24	20	11	11	21	15	21	18	30	227
キャンセル	2	2	3	6	2	0	3	4	6	9	5	8	50
月別合計	74	69	63	98	105	54	73	86	85	100	99	112	1,018

出動実績

(消防本部別)

出 動 内 容		消 防 本 部 名	転 院 搬 送		現場出動	計
			病 院	診 療 所		
現 場	741	下田消防	75	18	182	275
		駿東伊豆消防	22	6	277	305
		熱海市消防	21	1	42	64
		富士山南東消防	1	1	137	139
病院間	227	御殿場市・小山町消防	3	11	28	42
		富士宮市消防	1	0	52	53
小 計	968	富士市消防	0	0	58	58
キャンセル	50	静岡市消防	0	2	13	15
合 計	1,018	その他消防	0	0	4	4
		小 計	123	39	793	955
		消防との合流なし	63	0	0	63
		合 計	186	39	793	1018

(診療科別)

診 療 科 名	(人数)
循環器科	199
脳神経外科	127
整形外科	83
外 科	18
呼吸器内科	3
小児科	23
膠原病内科	0
呼吸器外科	0
腎臓内科	2
消化器内科	11
心臓血管外科	12
脳神経内科	8
産婦人科	8
眼科	0
泌尿器科	3
形成外科	0
耳鼻咽喉科	1
皮膚科	4
新生児科	0
血液内科	2
糖尿病・内分泌内科	0
救急診療科	510
合 計	1,014

(収容先別)

出 動 別	当 院(人数)	他 院(人数)	合 計(人数)
現 場	470	197	667
病 院 間	144	81	225
小 計	614	278	892
現場のみ	10	112	122
合 計	624	390	1,014

※1,018件の出動中

2名 23件
3名 2件
4名 2件
6名 1件
9名 1件

/1064名(キャンセル50件を除く)

疾患別搬送件数

内因性疾患	件数	内因性疾患	件数
急性冠症候群	113	過換気症候群	2
心不全	25	気管狭窄症	1
急性大動脈解離	25	気管支喘息	2
大動脈瘤破裂	8	肺気腫	1
大動脈瘤	2	切迫早産	1
完全房室ブロック	2	不正出血	2
大動脈弁狭窄症	2	破水	2
心房細動	4	高カリウム血症	1
心室細動	1	髄膜炎	1
発作性上室性頻拍	1	低血糖	9
心室頻拍	1	敗血症	2
不整脈	1	吐血	1
洞不全症候群	2	骨盤内腫瘍	1
肺血栓塞栓病	4	低血圧症	1
除脈	1	高血糖	1
頻脈	2	膀胱癌	1
心筋症	5	線維筋痛症	1
心膜症	1	尿路感染症	2
胸痛	2	感染症	1
胸部不快感	1	脱水	4
急性循環不全	1	鼠径ヘルニア	3
脳内出血	17	突発性血小板減少性紫斑病	1
くも膜下出血	12	迷走神経反射	2
脳梗塞	14	パーキンソン病	1
脳卒中	61	ショック	9
脳血管障害	6	不明	5
脳腫瘍	1	心肺停止	51
一過性脳虚血発作	1		
意識消失発作	6		
意識障害	21		
けいれん発作	23		
インフルエンザ脳症	1		
頭痛	1		
腸閉塞	4		
消化器管穿孔	4		
消化器管出血	5		
潰瘍性大腸炎	1		
急性膵炎	1		
胆管炎	2		
胆石症	1		
腎不全	1		
急性腹症	1		
下血	2		
肺炎	7	内因性疾患 小計	512
呼吸不全	6		

外因性疾患	件数	外因性疾患	件数
交通外傷	29	手指切断	21
転落外傷	14	下肢切断	1
頭蓋内出血	12	頸部切創	1
腹腔内出血	4	上肢切創	1
頭蓋骨骨折	3	上肢挫滅創	2
脊椎骨折	18	上肢デグロービング損傷	1
鎖骨骨折	3	手指挫滅創	10
胸骨骨折	2	手デグロービング損傷	3
肩関節脱臼骨折	2	下肢挫滅創	1
肋骨骨折	14	下腿デグロービング損傷	4
骨盤骨折	22	足指挫滅	1
恥骨骨折	2	全身擦過傷	1
上腕骨骨折	1	頭部外傷	36
前腕骨折	12	顔面外傷	9
前腕開放性骨折	5	胸部外傷	15
肘骨折	1	腹部外傷	7
手指骨折	9	多発外傷	18
下腿骨骨折	17	脊髄損傷	20
下腿骨開放骨折	10	肝損傷	4
足部骨折	1	腎損傷	1
足関節骨折	3	胸部刺傷	1
足関節開放骨折	2	腹部刺傷	1
多発骨折	1	薬物中毒	1
頸椎捻挫	6	溺水	13
頭部打撲	13	減圧症	9
胸部打撲	5	窒息	10
背部打撲	2	熱中症	8
腹部打撲	3	一酸化炭素中毒	6
腰部打撲	2	低体温	4
上肢打撲	3	高山病	1
下腿打撲	5	アナフィラキシー	14
四肢打撲	2	異物誤飲	2
全身打撲	8	蜂刺傷	6
頭部挫創	6	縊首	4
上肢挫創	1	電撃傷	1
下肢挫創	8	筋膜性腰痛症	1
手指挫創	4	熱傷	14
足指挫創	3	不明	3
四肢挫創	1	外傷性心肺停止	26
脳挫傷	2		
下腿挫傷	1		
肺挫傷	1		
外傷性気胸	1		
血気胸	5	外因性疾患 小計	552
上肢切断	1	内・外因性疾患 合計	1,064

3-12 新生児センター

業務内容

当センターは静岡県に3か所ある総合周産期母子医療センターの新生児部門であり、東部地区を総括するセンターである。病床は重症児を診る NICU12 床、回復した児あるいは比較的軽症児をみる GCU18 床からなる。

業務内容としては新生児医療に特化して 24 時間・365 日体制で早産・低出生体重児と病的新生児の診察および入院診療を行っている。総合周産期母子医療センター産科部門には母児のハイリスクが予想される症例が母体搬送されており、産科とカンファレンスを重ねながら母児にとって最善となるべく管理を行っている。また当センターでは新生児専用救急車を有し、概ね富士宮以東の静岡県東部地域の産科医療機関からのホットライン連絡網による診察・入院依頼に対応している。このため夜間は当直医以外に搬送に備えた2名のバックアップ体制を敷いている。

業務実績

総入院数と院内/院外出生の割合

	入院数	前年度比
総入院数	414	+4%
院内出生	238	-1%
院外出生	176	+13%

出生体重別の入院数

	入院数	前年度比
超低出生体重児 (1,000g未満)	27	-4%
極低出生体重児 (1,000g-1,500g)	31	0%

在胎週数別の入院数

在胎週数	入院数	前年度比
22-24	3	-40%
25-27	23	+130%
28-30	13	-43%
31-31	34	-11%

新生児救急車

	出動件数	前年度比
総出動件数	243	+3%
入院数	178	+21%
三角搬送	43	+19%

次年度目標

長期的にみた目標は何とかして小児外科・小児心臓血管外科の開設にこぎつけたいが、これは新生児科だけの努力で成しえるものではなく、関係各科に継続的に働きかけていきたい。

29年度の第一の目標は、28年度に苦労した感染対策を徹底させながら、昨年度を上回る診療実績を上げること。第二に災害医学研究の一環として、出生後の環境が児のDNAにメチル化として記憶され、将来の精神活動に影響するプロセスの解明を継続して解析することである。

第三の目標は、大学病院の第三の機能である教育である。学生教育、研修医教育を通じて新戦力の発掘、育成に努めたい。新生児科は歴史もあり、診療レベルは全国有数である。産婦人科、小児科との連携も良好であり、こうした点を全国にアピールして幅広く人材を集めたいと考えている。

研究・教育活動

原著

1. Nishizaki N, Nakagawa M, Hara S, Oda H, Kantake M, Obinata K, Uehara Y, Hiramatsu K, Shimizu T. Effects of PMX-DHP for sepsis due to ESBL-producing E.coli in an extremely low-birthweight infant. *Pediatr Int.* 58: 411-4.
2. Ikeda N, Shoji H, Suganuma H, Ohkawa N, Kantake M, Murano Y, Shimizu T. Effects of insulin-like growth factor-1 during early postnatal period in intrauterine growth-restricted rats. *Pediatr Int.* 58: 353-8.
3. Saito N, Suzuki M, Sakurai Y, Nakano S, Naritaka N, Minowa K, Sai J, Shimizu T. Genetic analysis of Japanese children with acute recurrent and chronic pancreatitis. *Journal of Pediatric Gastroenterology and Nutrition* 63(4):431-6.
4. 山崎晋、大塚宜一、米山俊之、上田琴葉、林麻紀、鈴木有里、横倉友諒、横田麗菜、稲毛英介、馬場洋介、森真理、工藤孝広、清水俊明。好酸球性胃腸炎の小児2例 *小児アレルギー学会誌* 30(2):120-126
5. Yamazaki S, Ohtsuka Y, Yokokura T, Yokota R, Honjo A, Inage E, Baba Y, Mori M, Suzuki R, Iwata T, Shimizu T. A case of eosinophilic gastroenteritis in a patient with Bruton tyrosine kinase deficiency. *Pediatric International* 58(5):417-419

総説

1. 齋藤暢知、箕輪圭、中野聡、成高中之、鈴木光幸、清水俊明 小児期慢性膵炎の診断および疼痛治療 胆と膵 37(12):1587-1590

講演

1. 寒竹正人 夏かぜから家族を守りましょう 第44回市民公開講座
2. 寒竹正人 出生後のNICU環境による児のDNA変化 第32回東部周産期研究会
3. 寒竹正人 こんなときどうする？ 幼児期の病気と対処法 順天堂大学保健看護学部
4. 寒竹正人 SGA児のエピゲノム解析 -IGF1とglucocorticoid receptor- 第61回日本新生児成育医学会教育セミナー

学会発表

1. 寒竹正人 CLDを発症した早産超低出生体重児におけるグルココルチコイド受容体遺伝子メチル化の出

生後変化 第 61 回日本新生児成育医学会 2016.12.2

2. Saito N. Suzuki M. Minowa K. Sakurai Y. Nakano S. Naritaka N. Sai J. Ishige T. Abukawa D, Shimizu T. Genetic analysis in Japanese children with acute recurrent and chronic pancreatitis. 5th World Congress of Pediatric Gastroenterology Hepatology and Nutrition. Canada.
3. 井福真友美、齋藤暢知、江原尚弘、河島恵、秋本智史、山崎晋、大川夏紀、寒竹正人、大山慧、高橋俊明、漆原直人 嘔吐を契機に診断された、腹部外科疾患の 2 例 第 141 回日本小児科学会静岡地方会 2016.11.13
4. 秋本智史、山崎晋、磯武史、井福真友美、田中登、福永英生、岩崎友弘、大川夏紀、芳本潤、寒竹正人、清水俊明 胎児期から徐脈を認め出生後に一過性 QT 延長症候群の診断に至った 1 例 第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016.7.18
5. 山田啓迪、大川夏紀、秋本智史、田所愛弓、宮林和紀、井福真友美、山崎晋、齋藤暢知、寒竹正人 Basedow 病母体より出生した二絨毛膜二羊膜双胎児の甲状腺機能異常 第 36 回静岡県周産期新生児研究会 2017.3.18
6. 宮林和紀、大川夏紀、秋本智史、井福真友美、山崎晋、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明 心室中隔欠損症に慢性肺疾患を合併した超低出生体重児の 2 例 第 61 回新生児成育医学会学術集会 2016.12.2
7. 河島恵、山崎晋、秋本智史、京戸玲子、磯武史、齋藤暢知、岩崎友弘、大川夏紀、寒竹正人 稀な染色体異常症の 2 例 第 140 回日本小児科学会静岡地方会 2016.6.5
8. 河島恵 呼吸管理に難渋した先天性声門狭窄症の 1 新生児例 第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016.7.17
9. 河島恵、大川夏紀、江原尚弘、秋本智史、井福真友美、齋藤暢知、山崎晋、寒竹正人 心室中隔欠損症に慢性肺疾患を合併した超低出生体重児の 1 例 第 35 回静岡周産期新生児研究会 2016.9.24
10. 石田翔二、山崎晋、井福真友美、大川夏紀、寒竹正人、清水俊明 18 番染色体部分トリソミーの 1 例 第 61 回新生児成育医学会学術集会 2016.12.1
11. 磯武史、吉村良子、大川夏紀、権田祐亮、深江俊愛、井福真友美、成高中之、山崎晋、岩崎友弘、寒竹正人、清水俊明 前置胎盤母体児における呼吸障害と出生時の脂質代謝の関係 第 119 回日本小児科学会学術集会 2016.5.13
12. 京戸玲子、大川夏紀、秋本智史、磯武史、山崎晋、齋藤暢知、岩崎友弘、山本祐華、田中利隆、漆原直人、寒竹正人、清水俊明 胎児超音波検査により早期に診断し得た先天性胆道拡張症の 2 例 第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016.7.17
13. 吉村良子、大川夏紀、磯武史、山崎晋、及川奈央、細澤麻里子、岩崎友弘、吉川尚美、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明 極低出生体重児における出生時イオン化マグネシウム値と修正 18 か月時の発達予後との関連 第 52 回日本周産期新生児医学会学術集会 2016.7.18
14. 江原尚弘、井福真友美、齋藤暢知、田所愛弓、宮林和紀、秋本智史、山崎晋、大川夏紀、寒竹正人 新生児期より QT 延長をきたし β 遮断薬を投与した遺伝性 QT 延長症候群の 1 例 第 142 回日本小児科学会静岡地方会 2017.3.12

3-13 がん治療センター

業務内容

当院は平成 19 年より静岡県東部・伊豆地域における「地域がん診療連携拠点病院」として指定を受け、駿東田方・熱海伊東・賀茂医療圏のがん診療の充実を目標に診療レベルの向上に努めている。

がん治療センターでは、がん患者さんが安心して治療が行える外来化学療法室を完備し、経験豊富な医師や看護師、薬剤師等が連携し治療にあたり、更に術前術後の化学療法や放射線療法、緩和ケア等を組合せた高度な集学的治療の推進に注力している。また、当センターは化学療法・放射線治療・緩和ケア・がん相談支援等の各部門を包括する役割も担っており、多職種が出席するがんセンターボードを定期的開催し当院のがん治療レベルの向上にも取り組んでいる。

地域医療連携においては、周辺機関とのカンファレンスや研修会を定期的開催し、がん患者さんの療養生活に関する現状や課題について情報共有を推進している。また、地域連携パスや歯科医療機関との連携による周術期口腔ケアも積極的に導入し、今後は在宅緩和ケアや就労に関する相談支援等も充実させ、患者さんご家族にとってより良い環境でがん治療が継続できるよう努力している。

また、地域への啓蒙活動として、一般市民を対象とした「市民公開講座」を伊豆の国市及び一般社団法人田方医師会との共催により毎月開催し毎回多数の参加を頂いている。

次年度目標

在宅療養支援施設のリストアップや、在宅緩和ケア地域医療連携や地域連携クリティカルパスの活用、がん患者の周術期口腔ケアの実施、がん治療に関する不安や就労支援等のがん相談支援、定期的な研修会や連絡会の開催等、がん診療に関わる地域医療連携の推進を図る。

業務実績

【研修会・カンファレンス・連絡会等】

6月 11-12日	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
6月 21日	がん治療研修会(化学療法・放射線療法)
7月 12日	がんセンターボードカンファレンス
9月 13日	がん治療研修会(がん早期診断・緩和ケア)
10月 21日	がん治療研修会(緩和ケア)
11月 15日	がんセンターボードカンファレンス
12月 13日	口腔ケア勉強会
1月 14-15日	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
2月 7日	地域がん診療連絡会
2月 23日	がんセンターボードカンファレンス
3月 7日	医科歯科連携打合せ

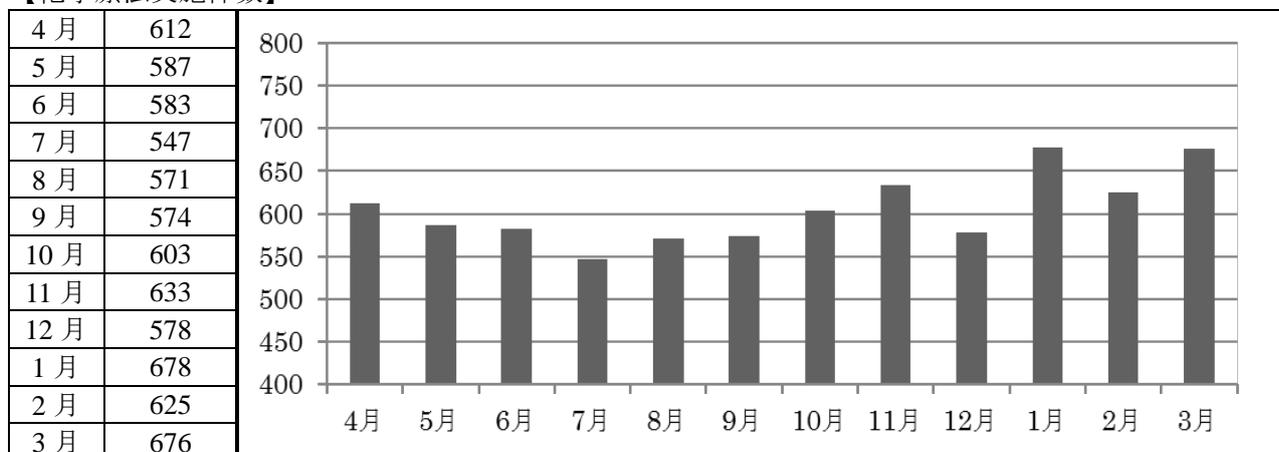
【市民公開講座】(がん関連テーマ)

5月 24日	放射線治療 過去・現在・未来
9月 26日	リンパ腺がはれたら ～いろいろな病気でリンパ腺ははれます～
2月 13日	腹腔鏡下手術の進歩 - 胃がんの手術 - ～最新の手術機器について～

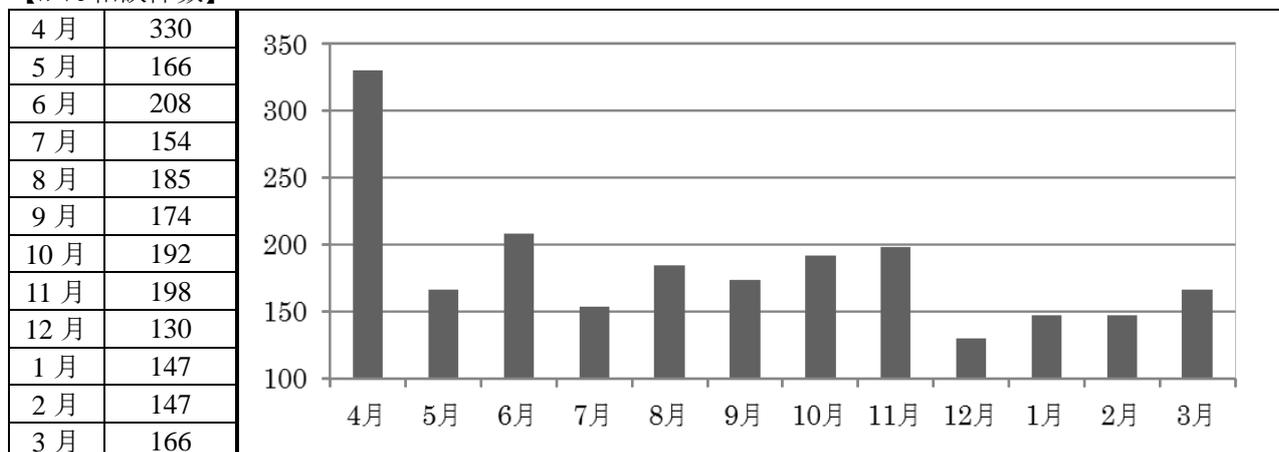
【がん登録件数】(H27.1.1～12.31)

総登録数	5大がん	肺がん	141	大腸がん	229	乳がん	78
1,425		胃がん	116	肝がん	70		

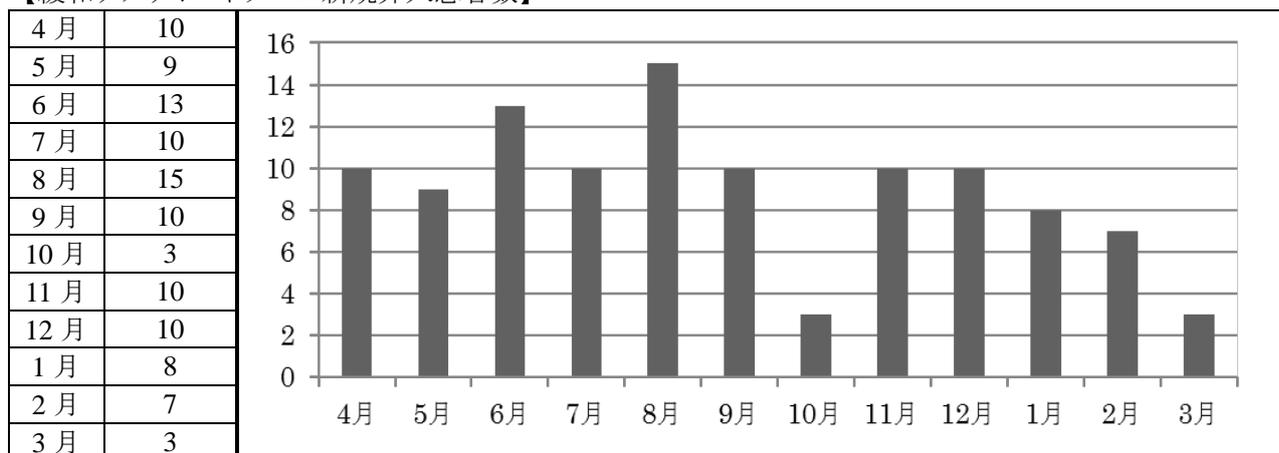
【化学療法実施件数】



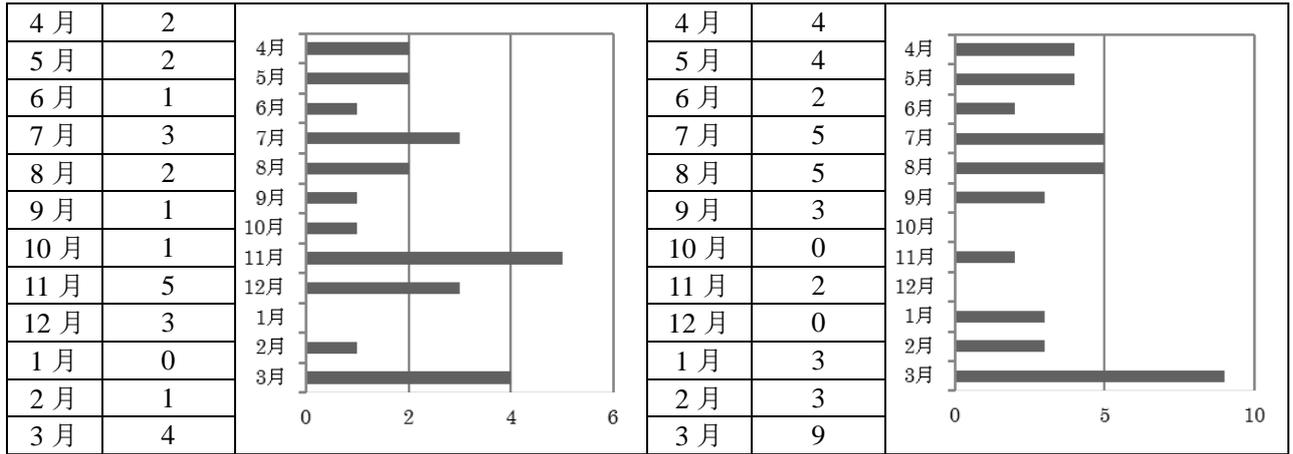
【がん相談件数】



【緩和ケアサポートチーム新規介入患者数】



【5大がん地域連携クリティカルパス新規導入件数】 【がん患者周術期口腔ケア医科歯科連携実施数】



3-14 予防医学センター

人間ドック男女別、月集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
日帰りコース	男	6	8	10	17	6	10	14	9	8	7	13	11	119	55.3%
	女	8	3	12	5	4	11	12	8	8	2	14	9	96	44.7%
	小計	14	11	22	22	10	21	26	17	16	9	27	20	215	
1泊2日コース	男	5	3	7	3	6	4	2	5	6	6	3	3	53	67.9%
	女	2	2	1	1	4	1	2	2	2	3	1	4	25	32.1%
	小計	7	5	8	4	10	5	4	7	8	9	4	7	78	
がんコース	男	2	2	1	0	1	0	0	0	0	1	5	0	12	63.2%
	女	0	2	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	7	36.8%
	小計	2	4	3	0	1	2	0	0	0	1	6	0	19	
P E T C T コース	男	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	3	6	54.5%
	女	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	5	45.5%
	小計	0	1	0	1	1	1	0	1	2	1	0	3	11	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	16.7%
	女	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	5	83.3%
	小計	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	2	0	6	

人間ドック年齢別、男女別集計表

区分		年齢							合計	比率(%)
		20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上		
総合日帰りコース	男	0	3	14	20	48	29	5	119	36.17%
	女	0	4	18	18	35	18	3	96	29.18%
	小計	0	7	32	38	83	47	8	215	65.35%
	比率(%)	0.00%	2.13%	9.73%	11.55%	25.23%	14.29%	2.43%	65.35%	
総合1泊2日コース	男	0	2	13	9	15	13	1	53	16.11%
	女	0	1	2	9	6	5	2	25	7.60%
	小計	0	3	15	18	21	18	3	78	23.71%
	比率(%)	0.00%	0.91%	4.56%	5.47%	6.38%	5.47%	0.91%	23.71%	
がんコース	男	0	1	3	3	4	4	0	15	4.56%
	女	0	1	2	1	3	0	0	7	2.13%
	小計	0	2	5	4	7	4	0	22	6.69%
	比率(%)	0.00%	0.61%	1.52%	1.22%	2.13%	1.22%	0.00%	6.69%	
PET-CTコース	男	0	1	0	0	2	0	0	3	0.91%
	女	0	0	1	0	2	2	0	5	1.52%
	小計	0	1	1	0	4	2	0	8	2.43%
	比率(%)	0.00%	0.30%	0.30%	0.00%	1.22%	0.61%	0.00%	2.43%	
脳ドックコース	男	0	0	1	0	0	0	0	1	0.30%
	女	1	0	0	1	1	1	1	5	1.52%
	小計	1	0	1	1	1	1	1	6	1.82%
	比率(%)	0.30%	0.00%	0.30%	0.30%	0.30%	0.30%	0.30%	1.82%	
合計	男	0	7	31	32	69	46	6	191	58%
	女	1	6	23	29	47	26	6	138	42%
	小計	1	13	54	61	116	72	12	329	100.0%
	比率(%)	0.30%	3.95%	16.41%	18.54%	35.26%	21.88%	3.65%	100.0%	

年齢別総合判定区分集計

区分	年齢	～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～	合計
A: 異常はありません		0	0	0	0	0	0	0	0	0
B: わずかな変化を認めますが 日常生活上心配ありません		1	0	0	0	0	0	0	0	1
C: 経過観察を必要とします		2	3	5	5	4	2	0	4	25
D: 二次検査・精密検査を必要とします		1	4	13	8	6	6	9	16	63
E: 治療を必要とします		0	1	7	4	5	11	11	18	57
F: 治療・経過観察を継続してください		0	3	6	13	9	20	31	101	183
合 計		4	11	31	30	24	39	51	139	329

次年度目標

人間ドックの人数拡大

問い合わせ、要望の多かった新簡易コースの検討、実施する。

各コースの充実した検査内容を丁寧に説明し、申込み受診者の要望にあったプランをお勧めする事で人数の拡大につなげる。

リピーターへのサービス

センター内の絵画更新により、視覚からのリフレッシュ効果を提供。

定期的に検査着やタオル等の劣化をチェックし、気持ちよく健診を受けて頂く。

サンダルでの転倒防止のため、ドックの方によっては、持参の履物を使用していただく。

3-15 GCP センター

業務内容

当院では、治験や臨床研究が倫理的にまた安全に実施することができるか審査するために、治験審査委員会および倫理審査委員会が設けられています。GCP センターではその事務局を兼ねていて、治験の依頼者である製薬企業、臨床研究の実施者である医師等の相談にも対応しています。

また治験が安全にかつ円滑に実施されるために、治験コーディネーターが配置され実務をサポートしています。

業務実績

治験

新規

治験を行う場合には、治験に参加される方々の安全と人権を守るために、国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準(GCP といいます。)」を遵守しなければなりません。この GCP に従って、科学のおよび倫理的な観点から、治験の実施や継続について調査・審議するため、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を設置しています。本治験審査委員会により内容が審議され、病院長より許可された治験のみが実施されます。

	件数	予定症例数
治験	3 件	16 症例
製造販売後臨床試験	2 件	12 症例
合計	5 件	28 症例

治験審査委員会 毎月 1 回(8 月休会)、治験の倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

	安全性 報告	内容変更	継続審査	重篤な 有害事象	逸脱 (除 緊急の 危険回避)	軽微な 内容変更	報告事項
治験	56 件	33 件	7 件	4 件	6 件	12 件	40 件
製造販売後 臨床試験	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合計	56 件	33 件	7 件	4 件	6 件	12 件	40 件

監査・モニタリング受け入れ回数

製薬メーカー及びCROのモニターが治験実施施設へ来訪し、治験の進行状況を調査し情報収集する。治験が治験実施計画書・標準業務手順書(SOP)・GCP 及び適用される規制要件に従って、実施・記録及び報告されている事を保証する活動。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
治験	5 回	6 回	10 回	7 回	10 回	6 回	7 回	9 回	9 回	9 回	9 回	10 回	97 回
製造販売後 臨床試験	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	1 回	1 回
合計	5 回	6 回	10 回	7 回	10 回	6 回	7 回	9 回	9 回	9 回	9 回	11 回	98 回

終了

治験審査委員会に、治験が GCP に従って実施され、終了したことが報告されます。

	件数	実施症例数	同意取得数
治験	5 件	41 症例	41 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例	0 症例
合計	5 件	41 症例	41 症例

製造販売後調査

医薬品が治験後に承認されて販売された後、引き続き医薬品の有効性・安全性について調査します。

新規契約 23 件	使用成績調査・特定使用成績調査	16 件
	副作用詳細調査	7 件

倫理審査委員会

病気の原因、病態の理解及び患者さんの生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの。

8 月を除く毎月 1 回開催されて、倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

	新規	内容変更	実施状況	重篤な有害事象報告	安全性情報報告	終了報告	その他
倫理審査	59 件	53 件	74 件	1 件	1 件	41 件	2 件

次年度目標

本年、個人情報保護法の改正に伴い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針も一部改正されることとなった。特にインフォームドコンセントに関するところで、今まで必要とされなかった研究においても、研究対象者に情報を通知・公開し拒否機会を保障しなければならなくなった。これら法令等を遵守して、臨床研究が実施できるようにサポートを行っていききたい。

また、倫理審査を必要とする研究が増加傾向にあり、倫理審査が迅速に適切に実施できるように委員会の運営を行っていききたい。

3-16 臨床研修センター

業務内容

当院は、大学附属病院として 31 診療科を有し、内科系の各科はそれぞれ複数の専門医がおり、ウイルス性肝炎、糖尿病、白血病など全て県内有数の治療数を誇っている。また外科系では一般外科、整形外科、脳神経外科、など多数の手術症例があるが、さらに心臓血管外科、呼吸器外科など高度の手術も手掛けている。総合周産期母子医療センター及び12床のNICUのある新生児センターは、静岡県東部の周産期中核を担っており、救急救命センターには、8名の救急医のスタッフが24時間診療を行い、一次から三次までのあらゆる救急疾患の受け入れを行っている。以上のことから臨床研修病院として理想的な環境である。

業務実績

■研修内容

<レクチャー>

臨床研修医を対象とした、基本的な勉強会である「モーニングレクチャー」を 21 回(内4回をコメディカルが担当)、各科長クラスによるレポート提出症例に沿った内容を講義いただく「研修医レクチャー」を 20 回(内 1 回は縫合トレーニング)実施した。

又、インタラクティブなレクチャーとして、レジデントアワーを実施しており、内容については学会発表を行った研修医数名が、発表した症例を他の研修医に向けレクチャーし、研修医同士でディスカッションを行う。更に学会発表の指導を行った各科医師にご協力いただき、補足等の意見を述べていただくというもので、活発な意見交換がなされた。

【モーニングレクチャー】

月	日	担当科	担当者		講義名
4	7	呼吸器内科	原 宗央	助手	呼吸困難
	14	医療安全管理室	小川 利恵子	看護師	患者誤認防止対策
5	12	消化器内科	甘楽 裕徳	助教	肝疾患～最近の話題～
6	2	感染対策室	谷崎 隆行 鈴木 美沙子 杉山 美和	検査技師 看護師	血液培養採取方法
	9	脳神経内科	大垣 光太郎	助教	意識障害(+留学のススメ)
7	7	放射線科	朝日 公一	助教	もう一度“検査”を考えてみませんか?
	14	膠原病内科	片桐 彰	准教授	膠原病の診断について
8	4	形成外科	苅部 綾香	助手	形成外科とは
9	1	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	認知症診断に必要なニューロイメージングの基礎
10	6	糖尿病・内分泌内科	佐藤 淳子	准教授	インスリンの使い方
	13	臨床検査科	田内 一民	特任教授	このデータは間違っていない?～精度管理入門～
11	10	新生児科	大川 夏紀	助教	今日の新生児医療
	17	血液内科	櫻井 弘子	助手	見逃してはならない血液疾患の Emergency
12	1	麻酔科	清水 英史	講師	初めての人工呼吸器
	8	循環器科	小西 宏和	助教	循環器疾患の初期対応
1	5	薬剤科	野田 貴義	薬剤師	医薬品の剤形
	12	皮膚科	坂本 淳	助手	抗アレルギー剤について
2	2	小児科	有井 直人	准教授	小児の成長障害
	9	腎臓内科	林 陽子	助手	血液浄化療法
3	2	呼吸器外科	市之川 英臣	助教	胸腔ドレーン挿入術について
	9	産婦人科	西澤 しほり	助手	産婦人科でのマメ知識

【研修医レクチャー】

月	日	担当科	担当者		講義名
4	18	臨床研修センター長	丹原 圭一	教授	研修医からの意見について
	25	大塚製薬 輸液・栄養管理勉強会			
5	16	脳神経外科	中尾 保秋	先任准教授	急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法
	23	整形外科	田中 将	助手	腰椎穿刺
6	20	麻酔科	尾前 毅	教授	麻酔管理
	27	眼科	土至田 宏	先任准教授	結膜の充血
7	25	腎臓内科	清水 芳男	先任准教授	腎不全
8	15	エチコン 縫合トレーニング 講師:中尾先任准教授、金田助教、齋藤助手、櫻庭助手、大澤助手、稲本助手			
	22	泌尿器科	今泉 健太郎	助教	血尿
9	26	消化器内科	永原 章仁	教授	食道・胃・十二指腸疾患
10	17	呼吸器内科	藤井 充弘	准教授	呼吸器感染症
	24	心臓血管外科	佐藤 友一郎	助教	胸痛(血管)
11	21	外科	前川 博	先任准教授	便通異常
	28	皮膚科	吉池 高志	教授	感染症としての発疹・生命に関わる発疹
12	19	静岡災害医学 研究センター	遠藤 未来美	PD	医学の基礎研究 ～静岡災害医学研究センターでできること～
1	16	循環器科	諏訪 哲	先任准教授	高血圧・動悸
	23	糖尿病・内分泌内科	佐藤 淳子	准教授	糖代謝異常
2	20	脳神経内科	安藤 真矢	助教	四肢のしびれ
	27	呼吸器外科	市之川 英臣	助教	呼吸困難
3	27	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	認知症・総合失調症

【レジデントアワー】

月	日	学会発表者	指導医	指導科	発表内容
9	17	藤岡 紗綾 (R2)	最上 敦彦	整形外科	大腿骨人口骨頭置換術の整復操作中にバイポーラトライアルカップが骨盤内に迷入した一例
		深瀬 達也 (R2)	徳田 智史	外科	直腸 Dieulafoy 潰瘍による下血をきたした一例
		小見 桃子 (R1)	大林 治	整形外科	脛骨高位骨切り術 (HTO) 術後に深部静脈血栓 (DVT) による肺梗塞 (PE) と奇異性塞栓症を合併した一例
12	17	堀越 恒 (R2)	渡邊 瑞也	脳神経外科	Complete neck clipping 後に硬膜由来の vasavasorum による血栓化を来した症候性内頸動脈瘤の一例
		竹内 郁人 (R2)	柳川 洋一	救急診療科	アルコール関連疾患としてのウェルニッケ脳症と特発性食道破裂を合併した一例
		小泉 明博 (R2)	櫻庭 駿介	外科	診断に苦慮した c-kit 陰性、CD34 陰性の胃粘膜下腫瘍の一例
		小笠 大起 (R1)	大森 一彦	救急診療科	右肋骨骨折に加え介達外力で対側の脾臓損傷を来した一例
		堂垂 大志 (R1)	大森 一彦	救急診療科	巨人症による胸郭変形により窒息症状を呈した一例
		西牧 孝泰 (R2)	松本	呼吸器内科	食道狭窄を伴う進行期肺腺癌に対しゲフェチニブの経管投与で症状改善が認められた二症例
3	18	新田 周作 (R1)	若林 啓一	腎臓内科	再発防止に苦慮した運動後急性腎障害の一例
		宮原 怜 (R2)	上野 英明	脳神経外科	前下小脳動脈 pro-meatal segment に発生した動脈瘤破裂により発症したクモ膜下出血の一例
		長澤 宏樹 (R1)	大森 一彦	救急診療科	早期治療介入と円滑な組織間連携にて救命した日本刀による胸部刺創の一例
		三好 悠斗 (R1)	吉澤 俊彦	救急診療科	Ⅲ度熱中症による急性肝不全と回復期、再燃性横紋筋融解症を認め遺伝子解析まで至った症例
		鶴上 浩規 (R1)	大森 一彦	救急診療科	CT 画像が甲状腺クリーゼ診断の一助となった症例
		堀越 恒 (R2)	岡田 隆	膠原病内科	頭痛が初発症状であった巨細胞性動脈炎の一例

<CPC・CRCデスカンファレンス(臨床病理・臨床放射線合同カンファレンス)>

年 3 回開催した。

実施日	症 例 内 容
7 月 29 日	肺腺癌(左肺上葉) + 脳腫(肺・右腎・皮下) + 糸球体腎炎 + 大脳・多発性梗塞(ラクナ梗)

	塞) + 子宮平滑筋腫
11月11日	急性骨髄性白血病(遺残腫瘍+) + 肺炎・肺出血 + 前立腺癌治療後(遺残腫瘍+) + 胃・微小 GIST
2月10日	下咽頭癌治療(遺残腫瘍なし) + compatible, 肝中心静脈閉鎖症 + 後腹膜出血・大量の血性腹水

<日本救急医学会認定 ICLS コース>

4月4日 臨床研修医1年目が全員参加し、実際に即したシミュレーション実習を、1日かけて行った。

<臨床研修医のための学術集会>

7月1日 順天堂大学4基幹病院全研修医による学術集会があり、静岡病院として R1 三好 悠斗 先生による「Ⅲ度熱中症による急性肝不全と回復期、再燃性横紋筋融解症を認めた一例」の発表と救急診療科 吉澤俊彦先生による「熱中症患者に出会ったら」のミニレクチャーを行った。

<研修医・指導医のための研修会>

平成28年9月24日(土)、25日(日) クロスウェーブ府中にて順天堂大学4基幹病院合同の研修があり、研修医1年目19名、「半年の臨床研修の振り返りとこれからの臨床研修の充実に向けての提案」をテーマに研修を行った。

<臨床研修修了証書授与式>

平成29年3月10日 順天堂大学本郷キャンパスにて順天堂大学4基幹病院合同の修了証書授与式が行われ、静岡病院では研修医20名が授与された。

■研修管理委員会

研修管理委員会が開かれ、平成28年度の当院、各施設より研修報告が行われた。

■臨床研修病院合同説明会への参加

平成28年度は県外4回、県内2回の合同説明会に参加した。説明会では、医学生が当院研修医と、気軽に臨床研修について質問、相談できる雰囲気を作り、多くの医学生に立ち寄っていただいた。

開催日	説明会	場所	参加人数
6月12日	臨床研修病院合同説明会 in 沼津	プラザヴェルデ	2名
7月17日	レジナビフェア 2016in 東京	東京ビッグサイト	名
3月5日	レジナビフェア 2017in 福岡	マリメッセ福岡	28名
3月19日	レジナビフェア 2017in 東京	東京ビッグサイト	34名
3月26日	臨床研修病院合同説明会 in 静岡	グランシップ	9名

■平成28年度 初期臨床研修医採用について

静岡県東部地域で地域医療の最前線で日々奮闘している順天堂大静岡病院で多くの研修医が研修することには大きな意義がある。しかし、現在の傾向として都会の順天堂の関連病院や母校以外のより優秀な研修医が集まる有名病院で研修する人達が増加してきている。

そうした現状の中で、静岡病院での研修を積極的に希望する研修医がしだいに増加しつつある。

静岡病院の特徴は、静岡県東部地区の基幹病院として、救急車やドクターヘリにより連日多くの患者が運ばれ、救急外来、病棟で多くの患者さんの治療を経験することができ、またその際に実践的に実技を習得すること

ができる。科間の垣根が低く、迅速に全身の治療ができることにある。さらに指導医は専任のチューターを中心に、教育に力をいれており、レクチャー、症例発表会なども定期的に行った。その上、静岡病院では、研修医のための宿舎が整備され、部屋は広く、備品も整い、病院に近く、希望者全員が生活しているため、研修医同志の絆が形成し易く、相互に研鑽して有意義な研修生活を送っている。

<採用結果>

平成 28 年度医師臨床研修医は、基本プログラム 19 名を採用した。(平成 29 年度採用)

定員	本学	他学	男子	女子	合計	マッチング率
26名	9	11	14	6	20	76.9%

※マッチング決定 20 名、採用は 13 名であった。

次年度目標

静岡病院の特徴である、救急診療を中心とした各診療科との連携から得られる技術や知識を身に付け、コミュニケーション能力を鍛えられる研修環境を整えていく。また、研修医の学会発表の経験を研修プログラムとして必須要件と捉え、多くの研修医が積極的な発表を行えるよう、臨床研修センター及び各診療科からも指導を行い、プレゼンテーション能力、伝える力を鍛え、順天堂大学内のみならず、広く世界で活躍できる医師への礎となるよう、サポートしていきたい。

3-17(1) 地域医療連携室

業務内容

当室は、地域医療連携の強化を目標とし、患者紹介・逆紹介の推進、広報の充実などに努めています。事務員 4 名、医療ソーシャルワーカー 4 名が当室に配置され、当年度後半には事務員 1 名を増員しました。目標達成のために、地域医療連携における診療情報授受の円滑化、他医療機関からの紹介予約対応、当院活動の発信、地域住民を対象とした公開講座の開催などを業務としております。

業務実績

平成 28 年度地域別紹介患者数

	2次保健医療圏	市町村	平成 27 年度	平成 28 年度	前年度比
静岡県	賀茂	下田市	772	664	86.0%
		賀茂郡東伊豆町	220	169	76.8%
		賀茂郡河津町	394	445	112.9%
		賀茂郡南伊豆町	30	29	96.7%
		賀茂郡松崎町	34	44	129.4%
		賀茂郡西伊豆町	314	368	117.2%
		小計	1,764	1,719	97.4%
	熱海伊東	熱海市	384	423	110.2%
		伊東市	1,766	1,797	101.8%
		小計	2,150	2,220	103.3%
	駿東田方	沼津市	1,966	2,250	114.4%
		三島市	1,992	2,076	104.2%
		御殿場市	660	746	113.0%
		裾野市	410	624	152.2%
		伊豆市	1,483	1,642	110.7%
		伊豆の国市	2,207	2,317	105.0%
		田方郡函南町	1,257	1,353	107.6%
		駿東郡清水町	606	656	108.3%
		駿東郡長泉町	560	597	106.6%
		駿東郡小山町	27	37	137.0%
小計	11,168	12,298	110.1%		

	2次保健医療圏	市町村	平成27年度	平成28年度	前年度比
	富士	富士宮市	98	90	91.8%
		富士市	255	253	99.2%
		小計	353	343	97.2%
	その他		260	255	98.1%
	県内合計		15,695	16,835	107.3%
		県外	943	939	99.6%
		総計	16,638	17,774	106.8%

次年度目標

目標である「地域医療連携の強化」を達成するため、次年度以降も以下に努めてまいります。

- ・ 患者紹介・逆紹介の円滑化
- ・ 紹介予約件数の増加(患者紹介円滑化と外来待ち時間短縮)
- ・ 地域連携バス合同連絡会議の運営
- ・ 広報活動の活性化

3-17(2) 医療福祉相談室

業務内容

ソーシャルワーカー(社会福祉士)が配置され、入院・外来患者、地域に対し相談・調整業務を行っている。主な業務としては、転院・退院支援(地域連携パス含む)、各種福祉制度・社会保障制度の紹介、経済的問題の支援である。心理的・社会的背景や傷病によって生じる生活上の課題を把握し、社会資源を活用しながら個別的に支援を行っている。

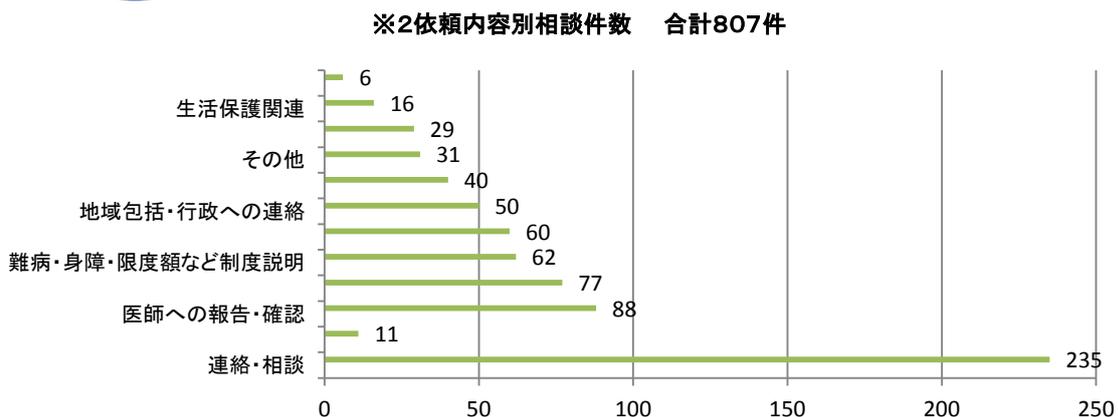
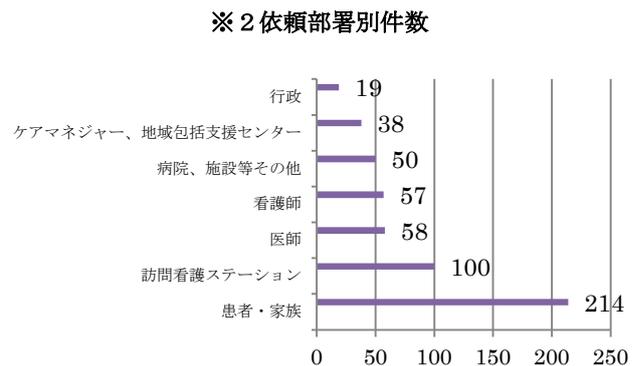
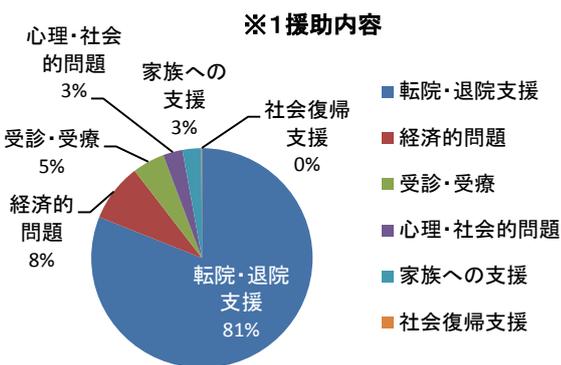
業務実績

業務の多くが、転院・退院支援となっている。※1グラフ参照(科別件数上位科①脳神経外科②整形外科③脳神経内科。)科別で件数は異なるが、あらゆる診療科に必要な応じ介入している。転院調整をする中で、経済的な問題や家族関係の課題が表出されることも多く同時に調整することも多い。受診受療援助は外来相談に多く、自宅療養困難等を見据え療養病院や在宅医療に結びつける支援も増加傾向にある。

※2グラフ参照 平成28年度 外来患者医療福祉相談室への依頼内容と件数(院内・地域)

次年度目標

平成28年度5月よりソーシャルワーカー1名が育児休暇から復帰し、時短勤務含め4名体制にて業務を行った。6月より退院支援加算1の取得にあたりソーシャルワーカーと看護師にて病棟担当制を実施した。次年度は、退院支援加算1取得継続にあたり院内外連携を図る。ソーシャルワーカー1名が退職の為、新入職員を迎え新たな環境にて業務分担と実業務の円滑化を目指す。自己研鑽にてソーシャルワーカー協会の研修に積極的に参加しソーシャルワーク支援の質向上を目指す。



3-17(3) 患者・看護相談室

業務内容

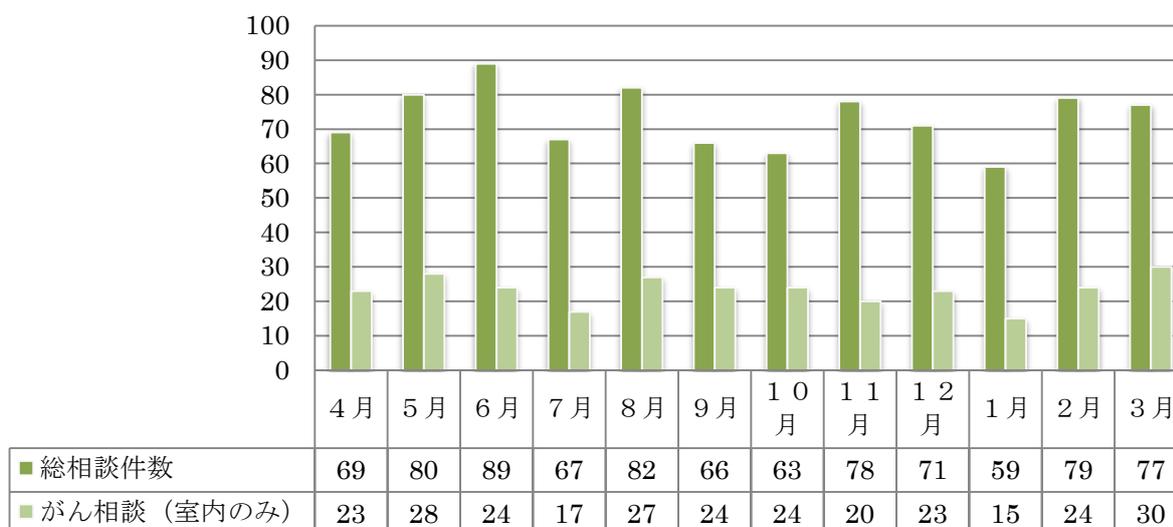
当室は、医療サービス支援センターの部門として患者サービスに努めています。また、地域がん診療連携拠点病院に設置される「がん相談支援センター」も併設され、院内外のがん患者さんやご家族の相談に対応しています。

昨年より、がん患者および他疾患に於ける「長期療養者の就労支援」に取り組んでいます。このため地域のハローワークや社会保険労務士との連携を深め、患者さんが働きながら治療を継続するサポートを開始しました。

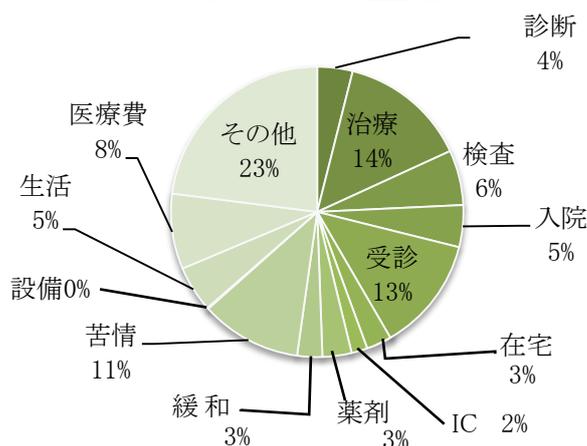
また、「患者・看護相談室」としてよろず相談の他、平成28年度10月より「ご来院皆様の声」の対応を行っています。

業務実績

平成28年度相談件数



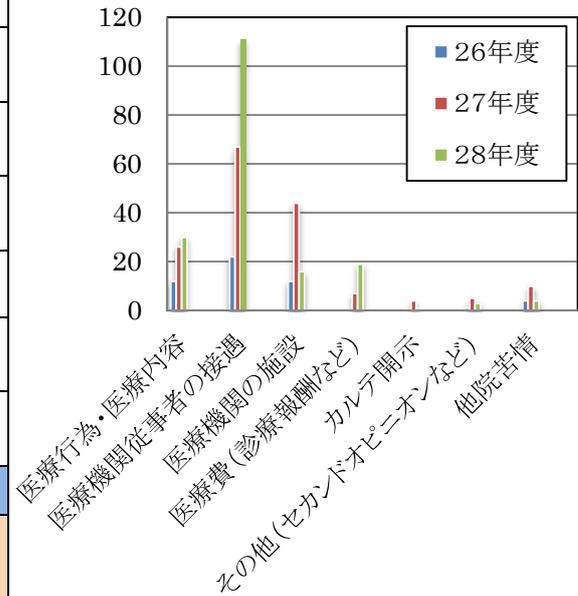
相談内容(重複)



「患者・看護相談室」内の苦情内容

	26年度	27年度	28年度
医療行為・医療内容	12	26	30
医療機関従事者の接遇	22	67	111
医療機関の施設	12	44	16
医療費(診療報酬など)	0	7	19
カルテ開示	0	4	1
その他(セカンドオピニオンなど)	1	5	3
他院苦情	4	10	4
合計	51	163	184
医療安全室介入事例数	4	15	21

年度別苦情内訳



次年度の目標

平成 29 年秋には「患者満足度調査」の実施、室内で対応した苦情および投書内容の分析と改善へ向けた他部門との連携を充実していきます。

がん相談支援センターは、平成 25 年から年4回「患者・家族サロン」の定期開催を継続しています。これに加え平成 28 年より「がん患者の就労支援」のため、社会保険労務士を招聘し「無料相談会」開催を継続します。静岡県駿東田方地区に於ける「がん患者就労支援ネットワーク」の立ち上げを静岡県立がんセンターと静岡県疾病対策課がん対策班の指導の下行っていきます。

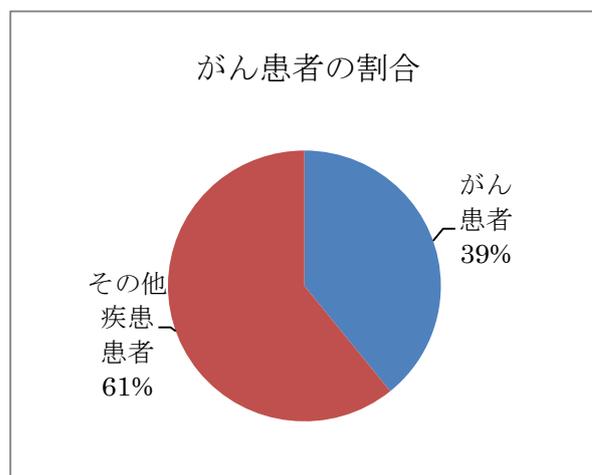
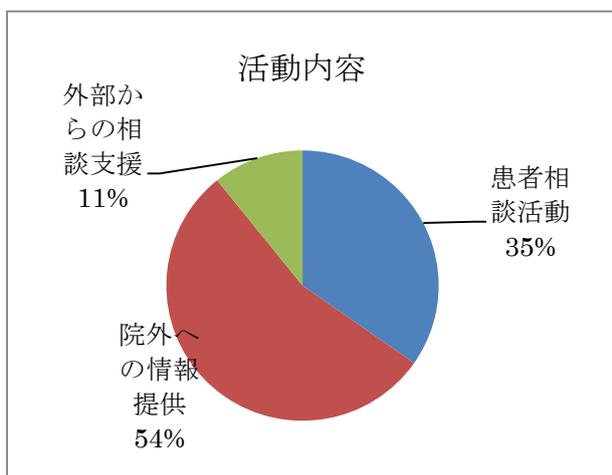
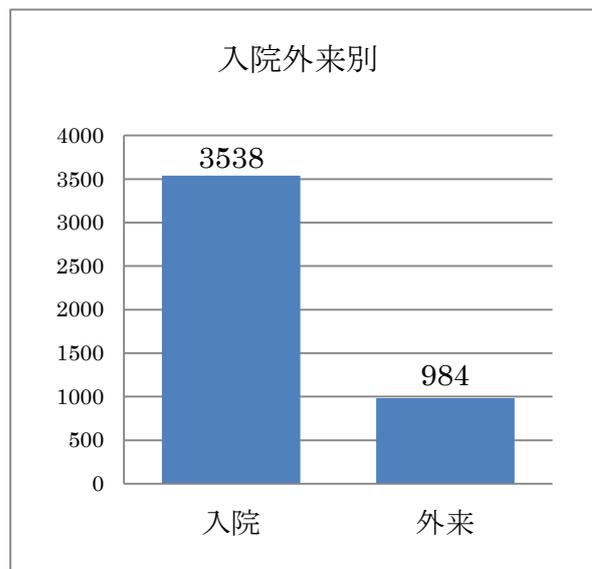
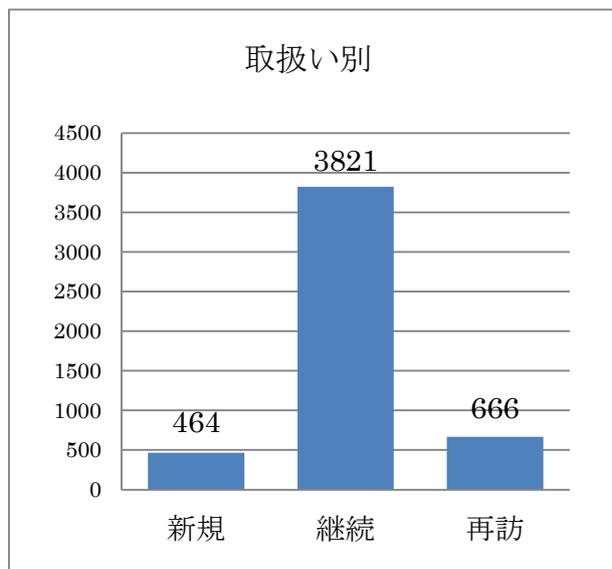
3-17(4) 退院支援看護師

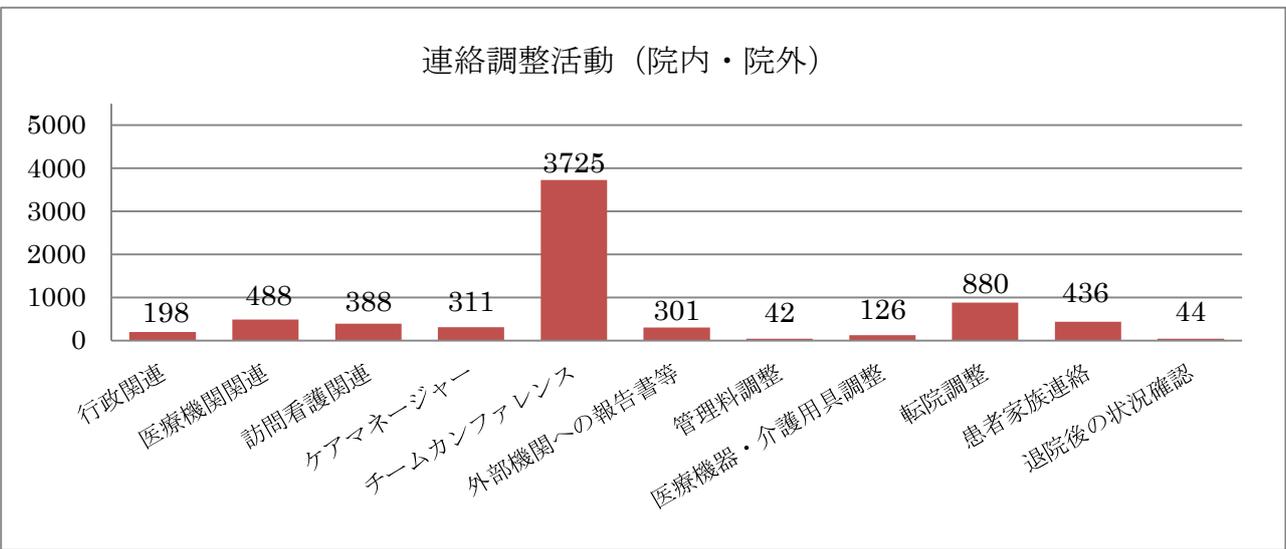
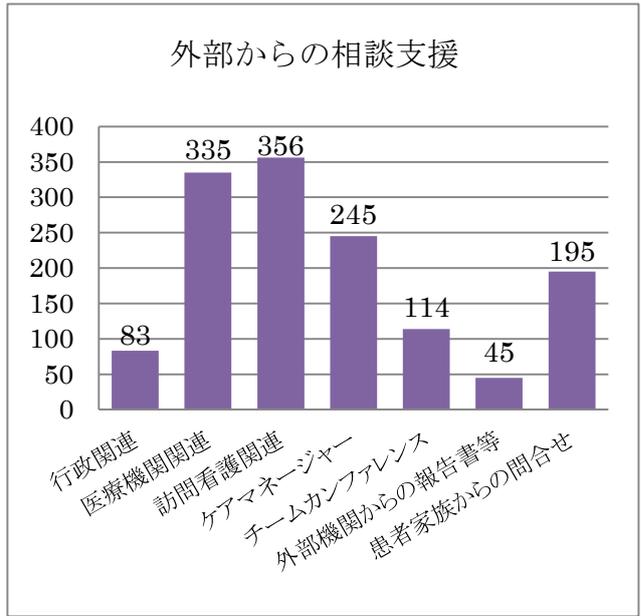
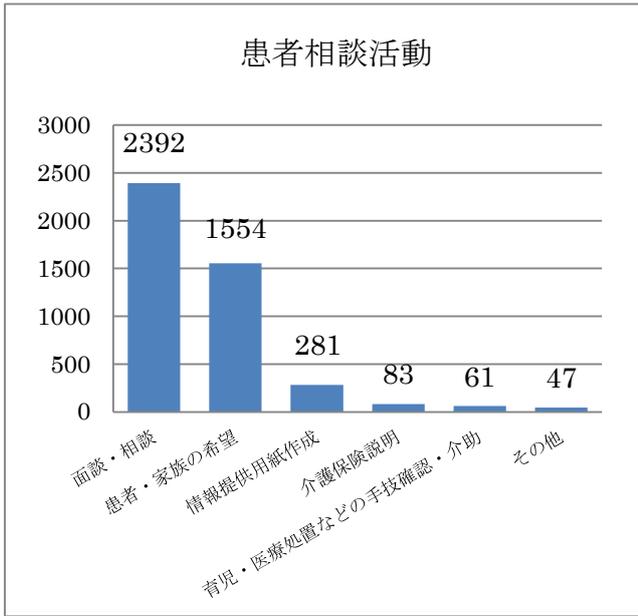
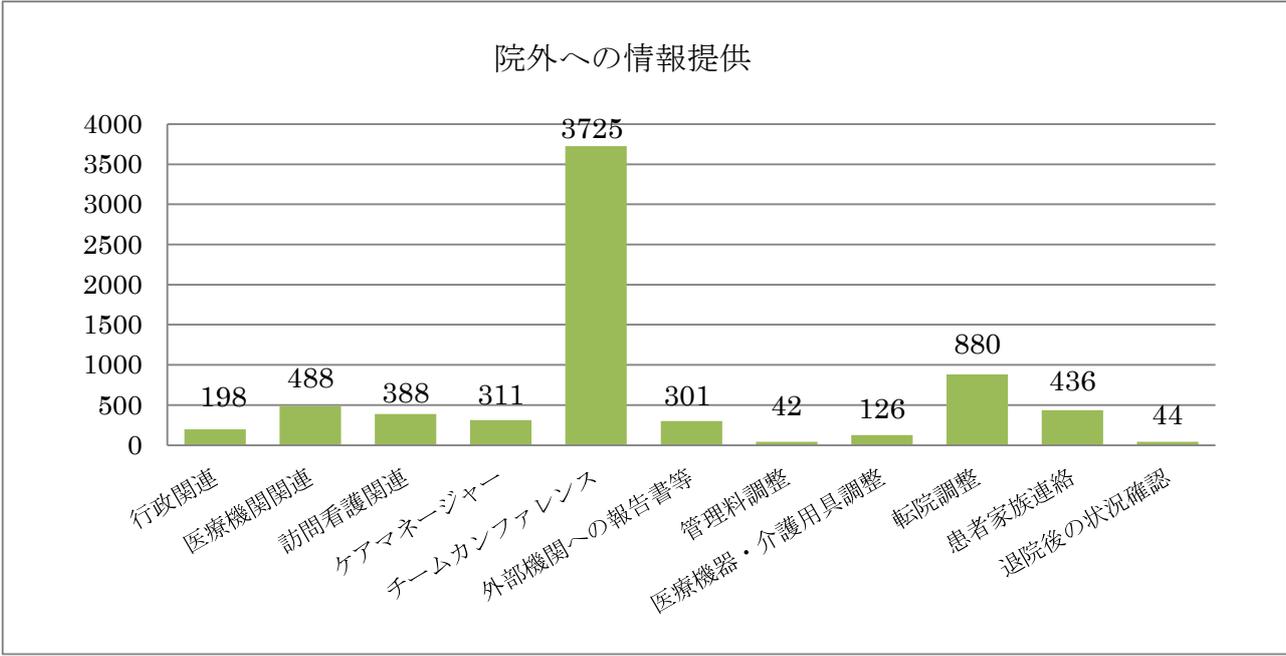
業務内容

平成28年度は診療報酬改定により、退院支援加算1と3の算定に向けたシステムを構築し運用の開始に至った。算定要件である専従・専任職員の配置を遵守するため、看護師3名が増員となり退院支援看護師としての育成を図った。また、入院後7日以内の多職種共同カンファレンスの、開催実施率向上を目指した啓蒙活動を行った。当初30%程度の実施率であったが、3月には100%となった。

次年度目標

平成29年度は8月末にMSW1名の退職により、1名のMSWが補充されるが、別のMSWは育児中のため、4月から時短勤務となっている。これらの現状から、補充されるMSWが即戦力となるのに時間を要することを考慮すると、2名のMSWの業務が拡大することが予測できる。8月から新たに看護師1名が配置されるため、各部署の退院支援専任看護師に在宅療養調整と転院調整を行うことで、MSWの負担軽減に繋げたい。また専任看護師3名となるが、1名は異動に伴い退院支援全般の指導が必要であるが、昨年からの2名も転院調整の経験がないため、OJTにより育成していき、専任部署の円滑な退院調整へ繋げていきたい。





3-17(5) 受診相談・総合案内

業務内容

1. 当院へ来院する患者・家族の院内案内・受診相談・家族サポートを行っています。
2. 安全・安心な病院環境を提供するよう心がけています。
3. 速やかに適切な診療科に受診できるように支援しています。
4. 高齢化に伴い車椅子使用や介助の必要な患者さんにボランティアと協力して、サポートしています。
5. 受診相談以外にも、あらゆる困った事に対応しています。
(交通機関案内、入院・退院手続き、宿泊施設案内等)

業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診相談	514	471	572	437	529	505	599	502	492	539	544	486	6,190
電話相談	182	183	209	213	211	178	194	180	166	162	202	186	2,266
院内案内	408	395	371	375	403	385	357	373	359	335	371	362	4,494
面会案内	297	261	284	225	307	261	295	262	287	271	261	256	3,267
受付案内	594	532	651	577	758	651	738	709	714	784	774	701	8,183
その他	190	151	208	102	121	131	127	144	165	134	147	147	1,767
計	2,185	1,993	2,295	1,929	2,329	2,111	2,310	2,170	2,183	2,225	2,299	2,138	26,167

次年度目標

患者さんの多様化する要望や、気持ちよく診療を受けられるための接遇・マナー研修に積極的に参加し患者サービスに努める。

3-18 医療安全管理室

業務内容

1. 医療安全・危機管理委員会の計画・実施（月 1 回）
2. 医療安全・危機管理小委員会の計画・実施（随時）
3. 医療安全・危機管理委員会で用いられた資料及び議事録の作成と保管
4. 事故等に関する、診療録や看護記録等への記載の確認、並びに必要な指導
5. 患者や家族への説明など、事故発生時の状況確認と必要な指導
6. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導
7. 医療事故防止のための院内研修会の計画・実施および院外研修会の参加
8. 順天堂 6 病院医療安全ネットワーク会議・シンポジウムへの参加（2 ヶ月 1 回）
9. インシデント・アクシデントレポートの受付・統計処理
10. 医療情報提供委員会の計画・実施（月 1 回）
11. 患者苦情報告書受付・対応
12. ハラスメント委員会
13. 倫理委員会
14. 個人情報相談窓口
15. 顧問弁護士との調整・連絡・相談

平成 28 年度の主な活動と実績

医療安全管理マニュアル(第 12 版)の改訂を行い、4 月に全職員に配布し(携帯)、医療事故防止の周知・徹底を図った。28 年度のインシデント・アクシデントレポート報告は 1,584 件で、前年度より 48 件減少した。事故種類別では、主に与薬事故、チューブ・ライン管理事故、転倒・転落事故が多く、その他、器械紛失や食事の異物混入、書類の渡し間違い、患者からの暴力行為等の報告があった。部門別では看護師が 85%と大半を占め、コメディカル 7%、医師 7%と続いた。影響レベルは、レベル 0 からレベル 2 及び、その他の範囲で、全体の 8 割程度を占めた。また、電子カルテ導入に伴い、診療部・看護部と連携し副作用情報や禁忌薬剤等の患者基本情報入力手順やインスリン指示マニュアル等を作成し事故予防に努めた。院内の苦情・クレームについては随時対応し、解決に向けた対策を図った。

毎月 1 回各部署のリスクマネージャーが出席し、医療安全・危機管理委員会を開催。毎回事例を議題として取り上げ、全体で最善の医療事故対策について検討している。また、前月の医療安全・危機管理委員会で検討した内容の中で、特に周知徹底が必要な事項については、リスクマネジメントニュースレターを毎月発行し院内周知をしている。

診療記録等の開示請求については、毎月 1 回医療情報提供委員会を開催し、351 件の情報開示を行った。保険会社からの開示申請が大半を占めており、B 型肝炎訴訟に伴う申請も増加している。

医療安全に関する研修会については、年間 8 回の院内研修会を行い、合計 2,329 名の職員が参加した。

また、順天堂 6 病院医療安全ネットワーク、シンポジウムに年各 3 回参加。各附属病院の事例について意見交換・対策を検討し、当院の医療安全・危機管理委員会で周知を図った。

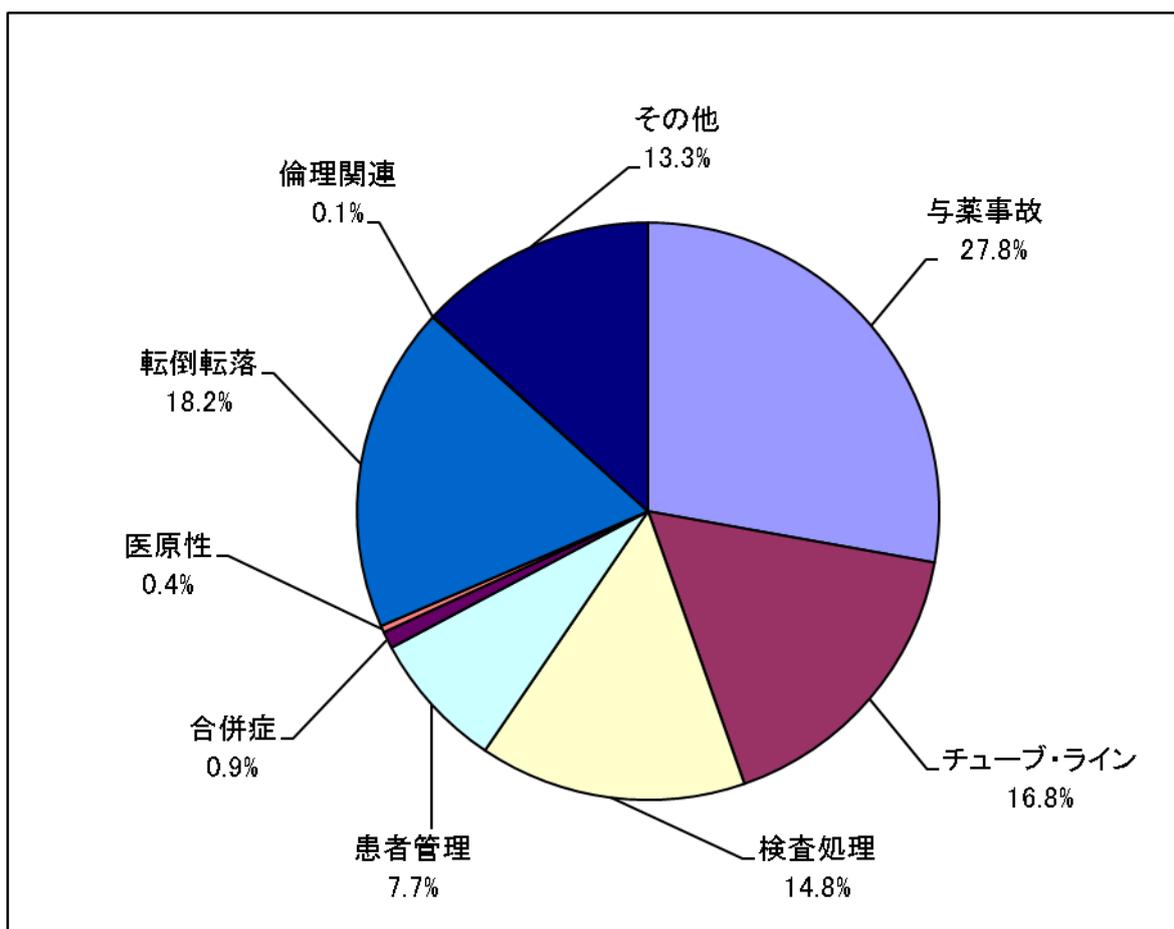
平成 29 年度 年間目標

医療事故防止の為に、医療従事者一人ひとりが患者の安全を守る意識を持ち、質の高い安全な医療提供体制を構築する。

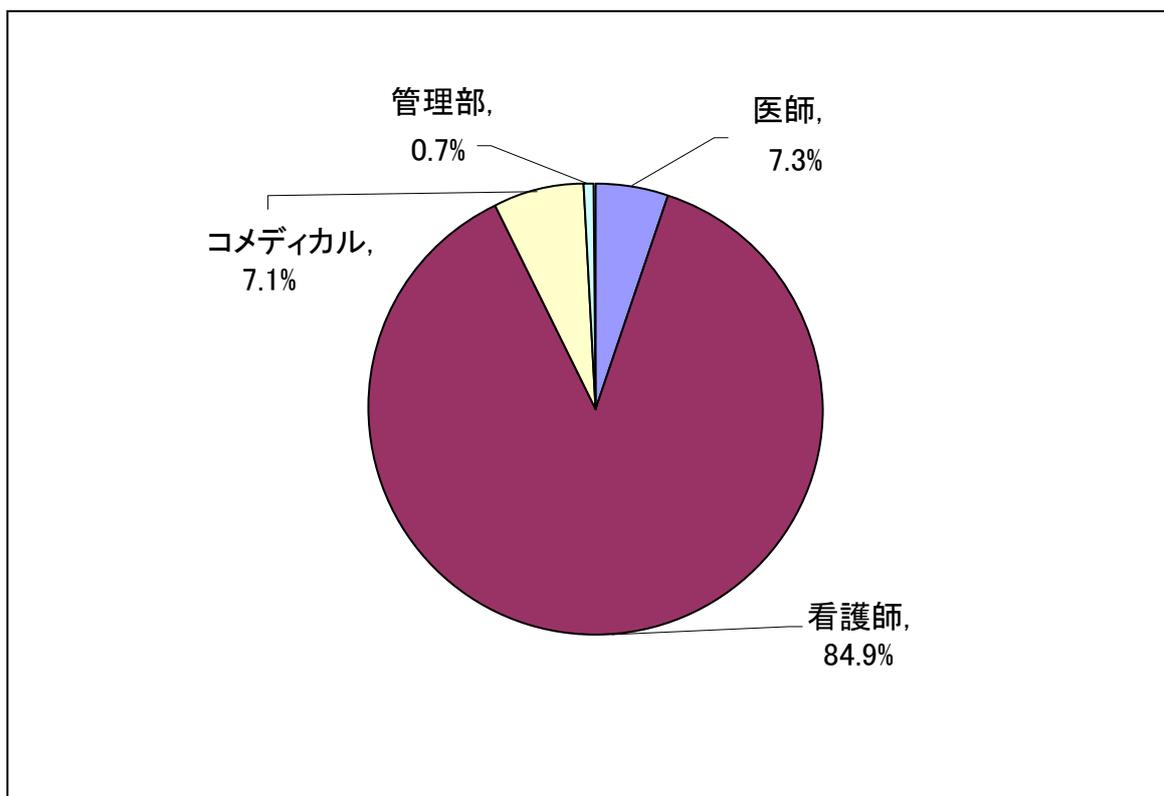
1. 事例の原因究明・分析に基づく再発防止策の徹底。
2. 医療安全ラウンドを行い、医療安全対策の実施・検証を行う。
3. 医療安全・危機管理委員会の円滑な運営を行う。
4. 医療従事者への教育・啓発を行う。
5. 安全な医療提供のためのマニュアル作成。

平成 28 年度インシデント・アクシデントレポート

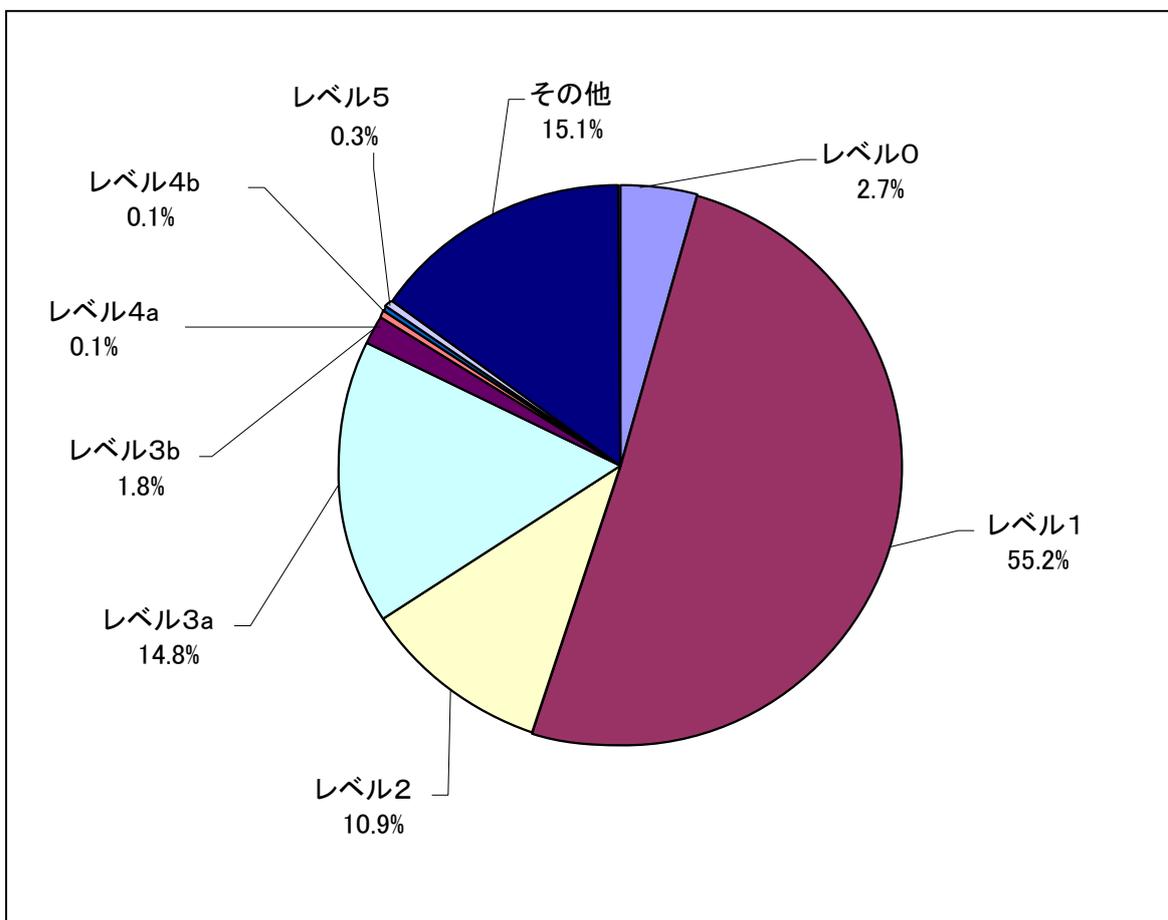
1. 事故種類別



2. 部門別



3. 影響レベル



3-19 感染対策室

業務内容

感染対策室では以下のような活動を行っている。

- ① 患者に対しては安全な医療環境を提供するために、診療上問題となる病原微生物が発生・伝播・拡散することを防ぐ活動。
 - 病原微生物の感染経路に応じて感染拡大を防止する対策を行う。
 - 手指衛生モニタリングを行い、アルコールゲルなどの使用状況に応じて各部署に指導を行う。
 - 耐性菌の発生率を減少させるために、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用に際して適正な使用状況にあるか、週 1 回程度の病棟ラウンドを行う。
 - 年間計画に沿って院内のいずれかの部署の環境ラウンドを週 1 回程度行い、病原微生物が繁殖する温床がないかチェックを行う。ハイリスク病棟は 1 回/週、他の病棟も 1 回/月、ハイリスク部署は 1 回/2 ヶ月の頻度で行う。
 - 細菌検査室が耐性菌を中心とした報告書を週 1 回感染対策室に提出し、各病棟で問題となる病原微生物のアウトブレイクがないかチェックを行う。もし、アウトブレイクと判断した場合は、当該部署に指導を行う。
- ② 職員を感染曝露から防ぐための活動。
 - 針刺し、切創、粘膜曝露予防策及び発生時の対応方法を職員に指導している。
 - 安全衛生管理室と連携して職業感染予防のためのワクチン接種を推進している。
- ③ 院内感染対策の広報活動。
 - 院内感染対策を職員に浸透させるための定期的な講習会を開催している。
 - 不定期でニュースレターを発行している。
- ④ 近隣病院との連携。
 - 連携をしている近隣病院との合同カンファレンスを通して、各施設が抱えている問題点を提示し、それに対する対策に関して意見交換を行う。
 - 連携病院と相互に院内ラウンドを行い、第三者の目から改善点を指摘しあう。

業務実績

月	日(曜日)	
4 月	1 日(金)	新入職員オリエンテーション
	15 日(金)	感染対策委員会
5 月	27 日(金)	感染対策委員会
	28 日(土)	6 病院感染対策連絡会議
6 月	17 日(金)	感染防止対策加算 1・2 合同カンファレンス
	24 日(金)	感染対策委員会
7 月	22 日(金)	感染対策委員会
8 月	26 日(金)	感染対策委員会

		感染対策研修会(手術時手洗い)
9月	2日(金) 17日(金) 23日(金)	感染防止対策加算1・2合同カンファレンス 6病院感染対策連絡会議 感染対策委員会
10月	21日(金) 18日(金)	感染防止対策地域連携加算ラウンド(静岡医療センター受け入れ) 感染対策委員会
11月	11日(金) 18日(金) 30日	感染防止対策地域連携加算ラウンド(沼津市立病院に訪問) 感染対策委員会 私立医科大学病院感染対策相互ラウンド(近畿大学堺病院)
12月	2日(金) 7日(水) 9日(金)	感染防止対策加算1・2合同カンファレンス 6病院感染対策連絡会議 感染対策委員会
1月	27日(金)	感染対策委員会
2月	8日(水) 10日(金)	東部地区感染対策合同カンファレンス(静岡がんセンター) 感染対策委員会
3月	4日(土) 17日(金) 21日(火) 24日(金)	6病院感染対策連絡会議 感染防止対策加算1・2合同カンファレンス 感染対策研修会(CREの感染対策) 感染対策委員会

次年度目標(28年度の総括と次年度の目標)

- ① 平成28年度の総括
 - 新生児センターでMRSAアウトブレイク発生があった。
 - 抗菌薬ラウンドで広域抗菌薬や抗MRSA薬の使用適正化を進めた。
 - 手指衛生は直接観察法をICN、リンクナースが実施し質担保に努めているが、実施率70%、遵守率44%にとどまる。アルコールゲル使用量は15.0ℓ/1000患者程度を維持している。
 - 環境衛生についてはICTラウンドの実施、看護部リンクナースと協働し衛生的な病院環境の提供に努めているが、再ラウンドの改善率がよくない。
 - CLA-BSI/CA-UTIサーベイランスでは多くの部署で感染率が高かった。
 - 感染経路別対策実施率は38.7%と低く、改善への取り組みが必要である。
 - MRSAレベルゼロシステムは各部署の主体的な活動にはつながっていない。
- ② 平成29年度の目標
 - 抗菌薬ラウンドと血液培養陽性症例のラウンドを一緒に行い、抗菌薬の適正使用の更なる推進を図る。
 - CLA-BSI/CA-UTI感染率は28年度データを下回る。
 - MRSAレベルゼロシステムに応じ、自主的な活動を促し実践能力の向上を目指すための支援を行う。

3-20 健康管理室

業務内容

健康管理室は、教職員の健康の保持増進及び疾病予防を図ることを目的に業務を行っている。

教職員健康診断では、常に受診率 100%を目指している。また、ストレスチェックの実施、教職員の外来受診対応や職業感染予防のための B 型肝炎ワクチン接種・インフルエンザ予防接種等を行っている。

毎月開催している衛生委員会では、教職員の健康及び精神的健康の保持増進を図るための対策について検討している。メンタルヘルスに関する講演会の開催や産業カウンセラーによる個人面談も実施している。

平成 28 年度 安全衛生管理室行事

年 月	日	曜 日	行 事
28 年 4 月	5	火	新入職員オリエンテーション
	6	水	雇い入れ時健康診断
	14	木	ストレスチェック制度説明会
	26～28	火～木	B 型肝炎ワクチン接種・B 型肝炎ワクチン接種後抗体検査
	27	水	衛生委員会
5 月	9～20	月～金	春季健康診断、ストレスチェック
	中旬～下旬	火～金	新入職員面談
	25	水	衛生委員会
6 月	上旬	月～金	新入職員面談
	6～24	月～金	胃検診(胃透視検査)
	22	水	衛生委員会
7 月	22～25	金～月	B 型肝炎ワクチン接種
	27	水	衛生委員会
8 月	22～24	月～水	B 型肝炎ワクチン接種
	24	水	衛生委員会
9 月	26～28	月～水	B 型肝炎ワクチン接種
	28	水	衛生委員会
10 月	12	水	衛生委員会
	26～28	水～金	B 型肝炎ワクチン接種後抗体検査
11 月	8～11	火～金	秋季健康診断
	21～25	月～金	インフルエンザ予防接種
	30	水	衛生委員会
12 月	7	水	校医会
	21	水	衛生委員会
29 年 1 月	23～25	月～水	B 型肝炎ワクチン接種
	25	水	衛生委員会

2月	22 23～27	水 木～月	衛生委員会 B型肝炎ワクチン接種後抗体価検査
3月	3 21～23 22 28～29	金 火～木 水 火～水	健康管理室担当者協議会 B型肝炎ワクチン接種 衛生委員会 雇い入れ時健康診断

【月毎定例行事】 飲食物取扱従事者検便《毎月第2火曜日》 ※6月～9月は、第2・4火曜日実施
託児所業務従事者検便《毎月第2火曜日》

【随 時】 雇い入れ時健康診断

次年度目標

平成29年度は、健康診断の結果が要受診・要精密検査の教職員に対して受診勧奨し、疾病の早期発見・早期治療につながるよう受診状況の把握に努める。

また、メンタルヘルス不調者に対しては産業医・産業カウンセラーによる面接を実施しメンタルヘルス不調の悪化を未然に防止する。

業務実績

定期健康診断受診率

	春 季			秋 季		
実施期日	平成28年5月9日～13日、16日～20日			平成28年11月8日～11日		
実施項目	身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、心電図検査、胸部X線、胃透視検査(40歳以上希望者)			身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査		
受 診 率	全 体	1,212/1,212	(100.0%)	全 体	820/820	(100.0%)
	医 師	220/220	(100.0%)	医 師	178/178	(100.0%)
	コメディカル	165/165	(100.0%)	コメディカル	48/48	(100.0%)
	看護部	734/734	(100.0%)	看護部	593/593	(100.0%)
	事務部	86/86	(100.0%)	研究センター	1/1	(100.0%)
	研究センター	7/7	(100.0%)			

4. 統計

4-1 病床利用率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
病 床 数	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577
病 床 利 用 率	97.1%	97.1%	100.6%	95.9%	96.9%	95.3%	98.4%	99.3%	97.8%	96.0%	99.5%	98.3%	97.1%

4-2 在院日数

(単位:日)

診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
内 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	—	—	—	—	0.0
膠 原 病 内 科 ・ リウマチ科	32.5	27.6	22.8	25.0	33.0	38.4	25.0	28.3	22.5	41.1	27.7	26.8	28.2
血 液 内 科	46.2	27.9	24.6	36.7	35.0	30.5	29.8	31.2	45.2	28.2	43.0	30.3	32.7
消 化 器 内 科	14.4	14.1	12.6	15.2	13.2	13.5	11.9	15.0	14.8	15.1	16.1	15.9	14.2
呼 吸 器 内 科	22.0	33.3	17.3	22.5	36.0	23.7	32.2	25.2	22.0	32.6	30.3	18.9	25.2
腎 臓 内 科	22.4	22.9	19.3	18.4	21.4	23.2	23.5	15.0	23.1	16.2	18.1	22.1	20.1
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	14.0	11.2	13.6	13.0	10.0	12.8	12.9	13.0	12.4	10.6	13.0	13.3	12.3
循 環 器 科	7.6	7.1	6.6	7.0	7.8	7.7	9.0	8.4	8.8	10.1	7.7	7.7	7.9
小 児 科	6.5	7.6	6.4	6.2	5.4	5.2	5.6	5.7	7.0	5.4	5.7	5.7	6.0
新 生 児 科	24.2	16.8	21.7	26.0	24.0	17.8	19.2	18.9	22.8	25.1	24.1	27.7	22.1
外 科	11.5	13.1	13.0	12.5	13.0	13.7	12.8	12.9	11.3	10.6	11.4	11.8	12.3
脳 神 経 外 科	17.6	21.6	21.5	18.6	19.1	23.2	22.1	23.1	19.1	22.1	15.3	21.2	20.2
整 形 外 科	20.0	24.6	21.8	23.5	20.8	22.4	20.8	24.8	22.8	24.3	21.9	22.6	22.5
脳 神 経 内 科	20.5	23.1	16.6	17.9	16.5	14.9	18.8	20.1	22.1	29.0	18.7	23.7	19.6
心 臓 血 管 外 科	32.1	32.9	19.9	20.5	20.9	26.7	23.0	20.8	16.1	15.6	13.6	24.0	21.8
呼 吸 器 外 科	21.8	16.4	16.5	20.2	23.0	15.5	18.6	13.7	13.9	18.7	14.6	17.9	17.2
形 成 外 科	17.4	14.2	19.6	12.2	12.5	14.0	17.6	11.0	15.1	16.3	18.0	17.4	15.1
眼 科	7.5	7.5	6.3	6.8	7.5	6.9	7.3	7.7	7.2	6.7	8.0	9.5	7.3
耳 鼻 咽 喉 科	10.0	10.5	11.2	9.1	7.8	9.2	12.9	12.8	8.7	7.8	9.3	9.2	9.7
麻 酔 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放 射 線 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メ ン タ ル ク レ ニ ッ ク	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
皮 膚 科 ・ アレルギ科	13.1	12.3	9.6	14.5	16.7	17.2	12.7	15.0	11.0	10.0	18.1	14.0	13.3
泌 尿 器 科	9.7	10.7	11.1	9.1	10.9	13.3	10.7	11.7	9.5	11.5	8.3	11.6	10.6
産 婦 人 科	7.9	7.7	8.0	8.6	7.9	8.9	9.2	8.0	8.5	9.0	8.8	8.1	8.4
救 急 診 療 科	11.8	15.7	7.9	9.7	7.7	8.3	11.5	10.9	12.0	10.3	10.4	6.8	10.0
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	13.0	13.7	12.4	13.0	12.9	13.2	13.6	13.5	13.2	14.0	12.8	13.5	13.2

4-3 診療科別延患者数(外来)

(単位:人)

診療科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科		361	382	272	312	291	268	—	—	—	—	—	—	314	1,886	4,987	37.8%
膠原病・リウマチ内科		1,223	1,118	1,186	1,166	1,221	1,107	1,189	1,179	1,233	1,160	1,183	1,255	1,185	14,220	15,340	92.7%
血液内科		928	929	908	812	885	896	911	942	952	937	1,015	1,178	941	11,293	11,308	99.9%
消化器内科		1,971	1,679	1,993	1,922	1,865	1,946	2,005	1,895	2,065	1,819	1,767	1,982	1,909	22,909	24,096	95.1%
呼吸器内科		1,707	1,734	1,779	1,735	1,706	1,673	1,796	1,900	1,836	1,755	1,771	1,885	1,773	21,277	20,426	104.2%
腎臓内科		1,016	918	961	983	1,016	982	1,062	1,064	1,080	1,029	989	1,154	1,021	12,254	11,221	109.2%
糖尿病・内分泌内科		1,635	1,498	1,680	1,614	1,664	1,553	1,770	1,697	1,839	1,789	1,703	1,974	1,701	20,416	17,676	115.5%
循環器科		4,110	3,765	4,144	3,885	3,812	3,935	3,841	3,768	3,912	3,770	3,699	4,205	3,904	46,846	47,375	98.9%
小児科		1,530	1,468	1,652	1,793	1,630	1,644	1,605	1,583	1,605	1,554	1,441	1,608	1,593	19,113	18,118	105.5%
新生児科		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	9	22.2%
外科		2,139	2,037	2,205	2,217	2,161	2,218	2,323	2,124	2,012	2,022	1,963	2,224	2,137	25,645	26,318	97.4%
脳神経外科		2,127	2,024	2,185	2,102	2,131	2,049	2,229	2,124	2,106	2,010	2,009	2,265	2,113	25,361	25,094	101.1%
整形外科		2,749	2,702	2,921	2,530	2,843	2,662	2,654	2,707	2,637	2,630	2,652	2,980	2,722	32,667	33,761	96.8%
脳神経内科		1,978	1,833	1,921	1,930	1,864	1,941	1,860	1,836	1,857	1,804	1,722	1,986	1,878	22,532	23,811	94.6%
心臓血管外科		335	285	296	304	305	282	317	336	302	313	300	362	311	3,737	3,379	110.6%
呼吸器外科		182	172	185	184	192	199	178	202	211	218	232	228	199	2,383	2,203	108.2%
形成外科		422	428	401	422	434	389	479	399	412	368	403	395	413	4,952	5,496	90.1%
眼科		2,877	2,565	2,931	2,771	2,899	2,696	2,808	2,589	2,580	2,525	2,496	2,807	2,712	32,544	32,052	101.5%
耳鼻咽喉科		1,452	1,329	1,488	1,350	1,333	1,286	1,326	1,184	1,296	1,250	1,322	1,520	1,345	16,136	16,147	99.9%
麻酔科		142	100	139	122	125	125	162	165	139	131	139	154	137	1,643	1,567	104.9%
放射線科		340	499	427	311	270	342	364	311	273	213	266	457	339	4,073	1,944	209.5%
メンタルクリニック		1,962	1,935	2,076	2,037	2,135	2,087	2,076	2,081	2,027	2,018	2,013	2,293	2,062	24,740	22,410	110.4%
皮膚科・アレルギー科		2,148	2,039	2,185	2,162	2,265	2,233	2,223	2,255	2,201	2,132	2,078	2,409	2,194	26,330	27,175	96.9%
泌尿器科		1,279	1,203	1,303	1,263	1,330	1,335	1,254	1,272	1,274	1,294	1,197	1,345	1,279	15,349	17,330	88.6%
産婦人科		2,689	2,493	2,887	2,676	2,536	2,800	2,700	2,774	2,744	2,494	2,400	2,782	2,665	31,975	30,625	104.4%
救急診療科		85	88	77	114	151	93	142	112	111	112	121	114	110	1,320	1,256	105.1%
リハビリテーション科		—	—	—	74	65	58	40	39	36	33	51	60	51	456	1,256	36.3%
合計		37,387	35,223	38,202	36,791	37,129	36,799	37,314	36,538	36,741	35,380	34,932	39,623	36,838	442,059	441,124	100.2%

※7月より、リハビリテーション科の開設、10月より総合内科の廃止

4-4 診療科別延患者数(入院)

(単位:人)

診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
膠原病・リウマチ内科	218	200	190	209	204	199	182	205	224	190	172	209	200	2,402	2,200	109.2%
血液内科	475	447	512	529	523	455	510	514	487	512	441	534	495	5,939	5,687	104.4%
消化器内科	907	915	885	896	887	850	955	924	906	958	921	1,003	917	11,007	11,559	95.2%
呼吸器内科	839	892	741	762	813	785	827	905	837	958	843	847	837	10,049	9,733	103.2%
腎臓内科	362	359	324	387	360	350	369	352	376	379	315	382	360	4,315	3,758	114.8%
糖尿病・内分泌内科	150	153	146	161	165	151	168	146	141	167	140	172	155	1,860	1,870	99.5%
循環器科	1,522	1,387	1,541	1,434	1,387	1,148	1,690	1,549	1,579	1,620	1,578	1,646	1,507	18,081	17,116	105.6%
小児科	397	452	445	424	392	425	451	426	423	333	312	343	402	4,823	3,771	127.9%
新生児科	775	678	825	902	877	654	752	771	878	861	679	817	789	9,469	9,807	96.6%
外科	2,025	2,040	1,920	1,879	2,028	2,014	2,120	1,940	1,879	1,773	1,725	1,864	1,934	23,207	22,811	101.7%
脳神経外科	1,476	1,870	1,897	1,686	1,652	1,653	1,672	1,660	1,807	1,960	1,695	1,877	1,742	20,905	19,530	107.0%
整形外科	1,829	1,972	1,957	2,007	1,986	1,760	1,936	1,928	1,940	1,921	1,751	1,953	1,912	22,940	22,166	103.5%
脳神経内科	743	710	721	739	788	757	741	729	830	749	752	865	760	9,124	9,067	100.6%
心臓血管外科	648	694	600	481	471	515	479	535	409	379	328	570	509	6,109	6,164	99.1%
呼吸器外科	204	243	228	298	252	216	264	249	253	297	266	283	254	3,053	2,863	106.6%
形成外科	277	259	258	232	310	309	253	204	290	257	278	268	266	3,195	3,014	106.0%
眼科	724	798	782	722	771	733	738	758	779	673	676	678	736	8,832	8,194	107.8%
耳鼻咽喉科	436	400	508	372	424	451	461	451	366	357	415	415	421	5,056	4,876	103.7%
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
メンタルクリニック	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	16	25.0%
皮膚科・アレルギー科	246	274	233	217	256	244	261	248	230	201	229	240	240	2,879	2,853	100.9%
泌尿器科	461	476	452	444	551	513	508	450	410	439	442	513	472	5,659	5,562	101.7%
産婦人科	1,798	1,703	1,996	1,993	1,883	1,940	1,921	1,816	1,951	1,836	1,798	1,818	1,871	22,453	21,625	103.8%
救急診療科	302	444	246	372	359	375	344	430	507	356	317	292	362	4,344	3,806	114.1%
リハビリテーション科	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合計	16,814	17,366	17,411	17,146	17,339	16,497	17,602	17,190	17,502	17,176	16,073	17,589	17,142	205,705	198,048	103.9%

※7月より、リハビリテーション科の開設、10月より総合内科の廃止

4-5 新患者数(外来)

(単位:人)

診療科	月													月平均	当年度計	前年度計	前年比
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
内 科	129	141	88	111	111	97	—	—	—	—	—	—	113	677	1,746	38.8%	
膠原病内科 ・リウマチ科	19	28	35	26	27	22	43	40	34	57	46	41	35	418	363	115.2%	
血液内科	27	27	31	17	30	32	40	45	57	58	64	63	41	491	352	139.5%	
消化器内科	81	85	118	103	99	93	146	132	135	116	126	99	111	1,333	1,377	96.8%	
呼吸器内科	72	61	75	88	51	76	79	86	77	122	93	78	80	958	824	116.3%	
腎臓内科	27	25	34	37	36	33	47	46	54	54	46	49	41	488	289	168.9%	
糖尿病・ 内分泌内科	21	23	36	23	32	20	30	34	46	40	42	38	32	385	288	133.7%	
循環器科	101	123	100	91	78	80	95	79	64	93	96	113	93	1,113	1,153	96.5%	
小 児 科	281	258	294	361	256	220	221	194	215	223	149	197	239	2,869	3,181	90.2%	
新生児科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	4	0.0%	
外 科	133	108	113	137	123	124	135	135	107	95	93	97	117	1,400	1,633	85.7%	
脳神経外科	163	157	127	121	126	127	136	126	140	113	127	138	133	1,601	1,883	85.0%	
整形外科	292	322	307	252	277	250	247	244	224	241	226	255	261	3,137	3,741	83.9%	
脳神経内科	102	85	98	93	67	76	71	77	69	80	79	79	81	976	1,052	92.8%	
心臓血管外科	19	17	14	17	11	7	12	14	12	12	15	16	14	166	173	96.0%	
呼吸器外科	13	5	3	6	3	5	4	4	1	5	8	5	5	62	66	93.9%	
形成外科	54	64	62	58	65	60	69	56	48	56	55	44	58	691	740	93.4%	
眼 科	172	155	171	197	190	154	160	145	118	113	129	130	153	1,834	2,195	83.6%	
耳鼻咽喉科	157	156	191	160	170	140	159	131	157	134	160	165	157	1,880	2,121	88.6%	
麻 酔 科	4	1	12	5	5	5	12	6	8	1	6	3	6	68	58	117.2%	
放射線科	11	24	19	19	27	26	24	26	18	11	18	18	20	241	263	91.6%	
メンタル クリニック	67	69	82	57	61	56	57	58	56	46	56	66	61	731	779	93.8%	
皮膚科 ・アレルギー科	157	199	196	181	206	175	165	123	140	121	141	139	162	1,943	2,271	85.6%	
泌尿器科	59	63	60	72	74	94	84	75	59	62	59	54	68	815	818	99.6%	
産婦人科	216	222	245	227	227	253	246	279	202	203	181	222	227	2,723	2,846	95.7%	
救急診療科	42	43	33	82	93	48	82	62	70	69	79	76	65	779	610	127.7%	
リハビリ テーション科	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	
合 計	2,419	2,461	2,544	2,541	2,445	2,273	2,364	2,217	2,111	2,125	2,094	2,185	2,315	27,779	30,826	90.1%	

※7月より、リハビリテーション科の開設、10月より総合内科の廃止

4-6 新患者数(入院)

(単位:人)

診療科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内 科		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
膠原病内科 ・リウマチ科		6	7	8	7	6	3	7	7	9	4	6	7	6	77	69	111.6%
血液内科		7	17	20	13	13	16	15	17	9	17	9	15	14	168	185	90.8%
消化器内科		65	55	69	58	65	72	78	65	53	69	61	65	65	775	786	98.6%
呼吸器内科		38	26	39	35	24	26	27	32	39	29	29	41	32	385	439	87.7%
腎臓内科		16	15	16	20	14	15	14	22	13	22	16	16	17	199	180	110.6%
糖尿病・ 内分泌内科		10	12	10	12	15	12	11	11	10	15	10	12	12	140	148	94.6%
循環器科		172	178	205	173	160	137	175	170	152	159	177	188	171	2,046	1,990	102.8%
小 児 科		58	57	67	60	69	73	69	71	54	58	50	60	62	746	551	135.4%
新生児科		25	37	40	35	34	29	43	33	41	33	25	30	34	405	392	103.3%
外 科		165	157	146	148	153	156	166	146	154	166	159	153	156	1,869	1,811	103.2%
脳神経外科		86	87	86	89	80	63	77	70	94	87	104	87	84	1,010	951	106.2%
整形外科		86	75	82	80	86	73	95	66	79	79	75	79	80	955	1,026	93.1%
脳神経内科		34	31	40	37	46	46	39	35	36	26	36	35	37	441	453	97.4%
心臓血管外科		17	22	25	20	21	16	20	24	17	25	22	27	21	256	251	102.0%
呼吸器外科		10	15	12	13	11	11	14	17	18	14	16	16	14	167	155	107.7%
形成外科		14	17	12	17	23	20	11	17	17	17	12	13	16	190	195	97.4%
眼 科		101	118	126	109	112	110	115	104	107	108	98	85	108	1,293	1,126	114.8%
耳鼻咽喉科		38	36	40	38	51	46	32	31	34	43	42	39	39	470	484	97.1%
麻 酔 科		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
放射線科		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メンタル クリニック		—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—
皮膚科 ・アレルギー科		18	20	23	14	15	15	19	15	17	21	12	16	17	205	213	96.2%
泌尿器科		52	47	42	51	52	38	45	45	37	46	51	49	46	555	529	104.9%
産婦人科		201	194	229	203	214	201	182	208	198	192	190	191	200	2,403	2,473	97.2%
救急診療科		28	35	26	43	48	42	33	40	44	32	30	41	37	442	376	117.6%
リハビリ テーション科		—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—
合 計		1,247	1,258	1,364	1,275	1,312	1,220	1,287	1,246	1,232	1,262	1,230	1,265	1,267	15,198	14,786	102.8%

※7月より、リハビリテーション科の開設、10月より総合内科の廃止

4-7 退院患者数

(単位:人)

診療科	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
内 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
膠原病内科 ・リウマチ科	7	7	8	9	6	7	7	7	10	5	6	8	7	87	77	113.0%	
血液内科	13	14	20	15	16	13	18	15	12	18	11	19	15	184	199	92.5%	
消化器内科	55	67	69	59	67	60	79	58	58	65	57	62	63	756	801	94.4%	
呼吸器内科	35	26	42	30	20	37	23	37	34	28	25	44	32	381	431	88.4%	
腎臓内科	15	15	16	20	18	14	16	22	18	22	17	17	18	210	187	112.3%	
糖尿病・ 内分泌内科	10	13	10	11	15	10	13	10	11	14	10	12	12	139	147	94.6%	
循環器科	181	165	202	186	156	128	164	160	170	134	185	192	169	2,023	1,945	104.0%	
小 児 科	55	56	66	67	68	71	74	66	57	57	53	53	62	743	559	132.9%	
新生児科	36	39	33	32	36	40	32	44	33	33	29	27	35	414	380	108.9%	
外 科	176	159	142	151	154	154	172	155	173	163	137	161	158	1,897	1,804	105.2%	
脳神経外科	73	79	83	83	84	73	68	68	86	83	104	82	81	966	961	100.5%	
整形外科	88	79	89	84	96	77	83	83	84	73	78	86	83	1,000	1,069	93.5%	
脳神経内科	35	28	42	41	44	49	36	34	36	24	40	35	37	444	454	97.8%	
心臓血管外科	22	19	32	26	22	21	20	25	30	21	23	19	23	280	270	103.7%	
呼吸器外科	8	13	14	15	10	15	13	17	16	16	18	14	14	169	175	96.6%	
形成外科	16	17	13	18	23	21	16	17	19	13	17	16	17	206	208	99.0%	
眼 科	102	111	125	122	103	107	115	102	118	101	96	88	108	1,290	1,132	114.0%	
耳鼻咽喉科	41	34	43	36	46	43	34	34	41	39	39	42	39	472	474	99.6%	
麻 酔 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
放射線科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
メンタル クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
皮膚科 ・アレルギー科	17	21	21	14	14	12	19	16	21	16	12	16	17	199	211	94.3%	
泌尿器科	47	49	41	49	50	40	46	41	51	36	54	43	46	547	536	102.1%	
産婦人科	209	197	217	216	212	195	193	200	212	177	180	208	201	2,416	2,468	97.9%	
救急診療科	20	19	29	28	36	39	23	33	35	31	26	35	30	354	298	118.8%	
リハビリ テーション科	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	
合 計	1,261	1,227	1,357	1,312	1,296	1,226	1,264	1,244	1,325	1,169	1,217	1,279	1,265	15,177	14,786	102.6%	

※7月より、リハビリテーション科の開設、10月より総合内科の廃止

4-8 年齢別延患者数(外来)

(単位:人)

年齢	月	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
0	歳	536	491	582	570	589	657	623	654	656	599	590	566	593	7,113	5,790	122.8%
1-6	歳	869	799	895	925	881	820	862	824	879	815	796	851	851	10,216	10,505	97.2%
0-9	歳	1,675	1,573	1,818	1,826	1,819	1,728	1,747	1,742	1,807	1,674	1,621	1,717	1,729	20,747	19,641	105.6%
10-19	歳	896	908	986	1,139	1,277	1,037	1,083	1,016	1,107	990	951	1,252	1,054	12,642	12,068	104.8%
20-29	歳	1,569	1,442	1,549	1,544	1,684	1,606	1,544	1,476	1,620	1,526	1,545	1,745	1,571	18,850	18,857	100.0%
30-39	歳	2,622	2,494	2,730	2,578	2,381	2,518	2,512	2,537	2,512	2,397	2,353	2,653	2,524	30,287	30,939	97.9%
40-49	歳	3,614	3,354	3,857	3,704	3,727	3,665	3,851	3,661	3,728	3,493	3,425	3,717	3,650	43,796	42,446	103.2%
50-59	歳	3,953	3,595	3,935	3,778	3,734	3,726	3,752	3,824	3,718	3,617	3,703	4,195	3,794	45,530	46,478	98.0%
60-64	歳	2,932	2,673	3,031	2,824	2,755	2,823	2,811	2,797	2,797	2,748	2,677	3,059	2,827	33,927	35,922	94.4%
65-74	歳	9,998	9,491	10,126	9,521	9,705	9,552	9,963	9,618	9,604	9,181	9,152	10,263	9,681	116,174	116,846	99.4%
75歳以上		10,128	9,693	10,170	9,877	10,047	10,144	10,051	9,867	9,848	9,754	9,505	11,022	10,009	120,106	117,927	101.8%
合計		37,387	35,223	38,202	36,791	37,129	36,799	37,314	36,538	36,741	35,380	34,932	39,623	36,838	442,059	441,124	100.2%

4-9 年齢別延患者数(入院)

(単位:人)

年齢	月	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
0	歳	979	866	1,111	1,131	1,056	830	943	895	1,062	993	785	1,026	973	11,677	11,708	99.7%
1-6	歳	222	268	207	230	241	247	274	271	301	204	232	210	242	2,907	2,151	135.1%
0-9	歳	1,241	1,168	1,346	1,414	1,337	1,108	1,255	1,220	1,402	1,237	1,041	1,282	1,254	15,051	14,368	104.8%
10-19	歳	175	209	240	175	284	251	196	219	205	162	171	156	204	2,443	1,911	127.8%
20-29	歳	551	604	448	600	582	685	592	704	675	724	690	743	633	7,598	7,730	98.3%
30-39	歳	959	1,152	1,244	1,355	1,035	1,078	1,191	972	1,164	1,062	1,004	1,008	1,102	13,224	12,650	104.5%
40-49	歳	1,019	844	1,053	1,127	1,230	1,090	1,085	857	980	1,144	958	1,073	1,038	12,460	12,827	97.1%
50-59	歳	1,402	1,467	1,544	1,407	1,436	1,193	1,480	1,433	1,357	1,386	1,390	1,471	1,414	16,966	17,032	99.6%
60-64	歳	1,300	1,321	1,018	1,094	1,267	1,230	1,200	1,040	1,042	1,186	1,172	1,323	1,183	14,193	15,674	90.6%
65-74	歳	4,415	4,531	4,727	4,547	4,313	4,374	4,600	5,084	4,704	4,387	4,295	4,694	4,556	54,671	52,665	103.8%
75歳以上		5,752	6,070	5,791	5,427	5,855	5,488	6,003	5,661	5,973	5,888	5,352	5,839	5,758	69,099	63,191	109.3%
合計		16,814	17,366	17,411	17,146	17,339	16,497	17,602	17,190	17,502	17,176	16,073	17,589	17,142	205,705	198,048	103.9%

4-10 地区別延患者数(外来)

(単位:人)

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市		1,080	1,013	1,094	996	1,021	1,050	973	1,012	1,006	958	886	1,178	1,022	12,267	12,384	99.1%
東伊豆町		611	535	679	635	594	655	677	626	668	607	586	655	627	7,528	7,897	95.3%
河津町		480	445	489	483	466	537	455	456	492	498	406	515	477	5,722	6,133	93.3%
南伊豆町		422	386	432	390	332	399	406	383	387	359	325	424	387	4,645	4,722	98.4%
松崎町		367	387	432	455	393	374	385	377	389	363	353	420	391	4,695	4,855	96.7%
西伊豆町		694	674	808	744	739	745	743	687	758	697	633	767	724	8,689	8,820	98.5%
熱海市		1,031	991	1,046	981	1,065	972	1,033	980	887	922	947	1,078	994	11,933	12,388	96.3%
伊東市		3,432	3,274	3,492	3,292	3,200	3,424	3,291	3,269	3,255	2,997	3,047	3,621	3,300	39,594	39,410	100.5%
沼津市		3,775	3,596	3,862	3,787	3,888	3,799	3,840	3,813	3,847	3,671	3,714	4,152	3,812	45,744	43,761	104.5%
三島市		3,711	3,509	3,889	3,759	3,894	3,793	3,988	3,887	3,835	3,762	3,718	4,079	3,819	45,824	44,649	102.6%
御殿場市		952	909	999	883	886	986	881	886	876	837	850	955	908	10,900	10,129	107.6%
裾野市		682	651	722	715	732	747	781	817	782	731	732	776	739	8,868	8,050	110.2%
伊豆市		4,387	4,176	4,486	4,356	4,152	4,263	4,417	4,244	4,255	4,177	4,144	4,587	4,304	51,644	51,830	99.6%
伊豆の国市		9,350	8,673	9,130	8,935	9,163	8,757	8,931	8,827	8,990	8,612	8,457	9,370	8,933	107,195	109,386	98.0%
函南町		3,144	2,900	3,228	3,010	3,082	3,091	3,268	2,991	2,998	2,965	2,922	3,311	3,076	36,910	37,071	99.6%
清水町		689	651	745	658	656	643	641	687	624	616	645	702	663	7,957	7,785	102.2%
長泉町		589	563	697	643	645	620	619	611	616	598	603	691	625	7,495	7,410	101.1%
小山町		158	132	145	159	172	158	149	126	145	117	137	157	146	1,755	1,632	107.5%
富士宮市		184	162	171	538	170	169	193	175	188	184	172	187	208	2,493	2,147	116.1%
富士市		494	466	501	182	525	513	495	519	426	461	456	555	466	5,593	6,181	90.5%
県内その他		183	188	187	176	207	192	171	192	246	252	179	249	202	2,422	2,448	98.9%
県外		972	942	968	1,014	1,147	912	977	973	1,071	996	1,020	1,194	1,016	12,186	12,036	101.2%
合計		37,387	35,223	38,202	36,791	37,129	36,799	37,314	36,538	36,741	35,380	34,932	39,623	36,838	442,059	441,124	100.2%

4-11 地区別延患者数(入院)

(単位:人)

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市		623	641	911	770	637	678	681	592	657	795	531	632	679	8,148	9,000	90.5%
東伊豆町		391	446	415	467	429	514	423	459	336	446	451	320	425	5,097	4,618	110.4%
河津町		265	326	424	325	210	251	300	170	218	365	279	325	288	3,458	3,294	105.0%
南伊豆町		484	382	378	381	283	203	208	499	325	189	274	229	320	3,835	3,529	108.7%
松崎町		223	229	197	137	272	156	141	122	139	132	127	160	170	2,035	2,238	90.9%
西伊豆町		344	289	403	348	256	221	211	214	325	244	238	417	293	3,510	3,849	91.2%
熱海市		498	532	394	502	494	548	404	391	483	430	415	401	458	5,492	6,236	88.1%
伊東市		1,644	1,812	1,642	1,572	1,758	1,646	1,705	1,757	1,616	1,369	1,333	1,685	1,628	19,539	19,182	101.9%
沼津市		1,667	1,774	1,583	1,769	1,626	1,674	1,862	1,621	1,961	1,823	1,835	1,832	1,752	21,027	19,779	106.3%
三島市		1,627	1,554	1,910	1,795	1,780	1,622	1,817	2,039	1,737	1,862	1,755	1,753	1,771	21,251	19,638	108.2%
御殿場市		700	802	757	582	550	631	594	554	593	759	777	655	663	7,954	6,979	114.0%
裾野市		410	291	406	366	440	342	435	485	521	517	487	615	443	5,315	4,456	119.3%
伊豆市		1,736	1,768	1,873	1,576	1,496	1,723	2,040	1,799	1,748	1,918	1,583	1,778	1,753	21,038	20,056	104.9%
伊豆の国市		2,833	2,956	2,805	3,065	3,513	3,070	2,960	3,020	3,276	2,932	2,796	3,018	3,020	36,244	36,077	100.5%
函南町		1,277	1,445	1,255	1,548	1,404	1,425	1,693	1,585	1,489	1,440	1,250	1,354	1,430	17,165	15,569	110.3%
清水町		440	328	258	336	358	290	365	353	284	234	287	362	325	3,895	3,979	97.9%
長泉町		327	327	387	355	358	297	267	230	377	289	368	309	324	3,891	4,061	95.8%
小山市		165	148	165	102	135	88	122	154	73	115	172	290	144	1,729	1,454	118.9%
富士宮市		226	155	164	245	249	104	196	292	231	201	250	217	211	2,530	1,691	149.6%
富士市		181	399	356	178	268	283	382	224	333	346	198	334	290	3,482	3,196	108.9%
県内その他		155	177	121	117	148	121	141	128	200	241	101	162	151	1,812	1,669	108.6%
県外		598	585	607	610	675	610	655	502	580	529	566	741	605	7,258	7,498	96.8%
合計		16,814	17,366	17,411	17,146	17,339	16,497	17,602	17,190	17,502	17,176	16,073	17,589	17,142	205,705	198,048	103.9%

年報作成検討委員会

委員長	前川 博	(外科先任准教授)
委員	荻田 学	(循環器科准教授)
委員	勝又 俊郎	(検査室係長)
委員	菅尾 高裕	(薬剤科課長補佐)
委員	阿瀬川 敏	(放射線室技師長)
委員	廣瀬 典子	(看護総務課師長)
委員	田中 成和	(運営企画室主任)
委員	高田 愛	(運営企画室係員)

編集後記

これまで冊子の形で発刊していました病院年報が今年から病院のホームページで掲載されることになりました。ペーパーレスの流れがここでも実感されます。さて、病院も電子カルテを導入して 1 年が経過し、我々もその流れに慣れてきたところです。

月並みかもしれませんが、私が時代の流れと最近感じるのは入院患者さんの高齢化です。中でも一人暮らしで過ごされた方が増えてきたことそして手術を受けられる患者さんも高齢化してきたと感じています。今後この傾向はますます鮮明化することでしょう。われわれ医療機関もこの流れに対応していく必要があります。医療機関、院内の診療連携など連携の充実で高齢の患者さんに寄り添う医療が求められるのではないかと思います。今後ともよろしく願いいたします。

静岡病院年報作成検討委員長 前川 博